

# 徳島の剣道

第19号



徳島県剣道連盟



全日本剣道連盟より徳島県社会人剣道大会へ寄贈された杯と盾



## 第31回 徳島県社会人剣道大会

優勝 小松島支部

|    |   |   |   |    |
|----|---|---|---|----|
| 大将 | 藤 | 川 | 和 | 秋  |
| 副将 | 青 | 木 | 博 | 志  |
| 中堅 | 高 | 木 | 壽 | 史  |
| 次鋒 | 佐 | 藤 | 光 | 太郎 |
| 先鋒 | 笹 | 尾 | 幸 | 司  |

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 題  | 字 |   |   |
| 堀  | 江 | 幸 | 夫 |
| さし | 絵 |   |   |
| 村  | 嶋 | 恒 | 徳 |

## 巻頭言

# ねんりんピック二〇〇三

# 徳島大会の成功を!!

徳島県剣道連盟会長

遠藤 一美

全日本剣道連盟創設五十周年を終え、ねんりんピック二〇〇三徳島大会剣道競技が、いよいよ十月十八日から二十日まで、阿南スポーツ総合センターで行われます。徳島県剣道連盟としては、平成五年の東四国国体以来の全国大会の開催となります。本県より、三チームが出場予定であり、ほぼメンバーも確定し、高下正義監督以下、強化に努めております。開催県にふさわしい戦いを期待したいと思います。

この『徳島の剣道 第十九号』に全剣連常任理事（社会体育担当）の岡村忠典先生より、特別寄稿をいただいております。その中で、「剣道は、競技年齢が高まっても楽しく続けることができる。また、楽しく続けられるだけでなく、向上し続けられる可能性を持っている」ことをご自身の体験を交えて語っておられます。まさしく、生涯剣道としての指標であります。その意味からも、目前に迫りましたこのねんりんピック徳島大会を徳島県剣道連盟の総力をあげて成功させ、生涯剣道の波動を全国へ発信しなければなりません。

「剣道を楽しむ、自己を向上させていく」何とすばらしい自己修養のあり方でありましょうか。私たちの尊敬する先輩や同輩には、この自己修養の道に励まれ、年齢とともに輝きを持っていく人が多くおられます。私たちも自信をもって、剣道の修行に邁進して行きましょう!

今後とも、会員の皆様の熱い思いとご支援を徳島県剣道連盟に頂けますよう心よりお願い申し上げます。挨拶といたします。



# 『徳島の剣道 第十九号』目次(案)

|                     |          |    |
|---------------------|----------|----|
| 巻頭言                 | 遠藤 一美    | 1  |
| 顕彰一覽                |          |    |
| 中学校剣道優秀選手           |          | 6  |
| 高等学校剣道優秀選手          |          | 7  |
| 剣道有功賞               | 御禮言上     | 8  |
| 吉田 租                |          |    |
| 剣道有功賞               | 翁の「遠めがね」 | 9  |
| 重井 好高               |          |    |
| 特別寄稿                |          |    |
| 向上しつゝ生涯剣道           | 岡村 忠典    | 12 |
| 先生を偲ぶ               |          |    |
| 三木只雄先生を偲ぶ           |          |    |
| 弔 辞                 | 山田 昌弘    | 14 |
| 弔 辞                 | 遠藤 一美    | 16 |
| 三木只雄先生を偲ぶ           | 加藤源次郎    | 17 |
| 私の心に残る故三木只雄先生       | 大野 義則    | 19 |
| 御 礼                 | 三木 清文    | 21 |
| 堀金實先生を偲ぶ            | 藤川 和秋    | 23 |
| 新理事長抱負              |          |    |
| 徳島県剣道連盟理事長就任挨拶      | 三木 毅     | 26 |
| 思い出の一枚              |          |    |
| 一粒の種を播き育てること        | 高島 稔之    | 28 |
| 私はだれでしょう            | 森川 澄     | 29 |
| 全国講習会報告             |          |    |
| 第三十七回剣道中央講習会報告(西日本) | 青木 茂生    | 31 |
| 居合道中央講習会            | 坂本 憲一    | 40 |

|                  |       |    |
|------------------|-------|----|
| 第四十回中堅剣士講習会      | 藤本 辰夫 | 42 |
| 社会体育指導員養成講習会     | 久保 隆司 | 44 |
| 喜浦理砂子            |       | 46 |
| 磯部 洋一            |       | 47 |
| 半井 大輔            |       | 50 |
| 手塚十三子            |       | 56 |
| 徳島の剣道史           |       |    |
| 徳島藩の伯耆流居合の系譜     | 坂本 裕二 | 60 |
| 各種大会に参加して        |       |    |
| 全国スポーツ少年団剣道交流大会  | 山田 耕司 | 68 |
| 星野 知世            |       | 71 |
| 中野 由貴            |       | 72 |
| 原 祐輔             |       | 73 |
| 小西 美穂            |       | 75 |
| 岸 香織             |       | 78 |
| 高島 稔之            |       | 81 |
| 鎌田 崇佐            |       | 82 |
| 近藤 愛             |       | 83 |
| 賀上 晴香            |       | 85 |
| 坪井さくら            |       | 86 |
| 芝 佳央理            |       | 87 |
| 鹿島神宮七段選抜大会       | 平野 誠司 | 91 |
| 丸目蔵人七段選抜大会       | 平野 誠司 | 91 |
| 第四十八回全日本東西対抗剣道大会 | 平野 誠司 | 92 |
| 国民体育大会           | 中尾 正輝 | 94 |
| 第三十七回全日本居合道大会    | 一村 昌和 | 95 |

|                          |            |     |
|--------------------------|------------|-----|
| 全日本剣道選手権大会……………          | 富田 圭介…………… | 96  |
| 第四十九回全日本実業団剣道大会……………     | 山本 泰史…………… | 97  |
| 第二十四回全日本高齢者武道大会……………     | 中山 啓男…………… | 98  |
| 第十七回徳島県高齢者武道交流大会……………    | 南 充美……………  | 101 |
| ネンリンピック・第十五回全国健康福祉祭…………… | 高田 豊……………  | 103 |
| 第九回徳島県健康福祉祭剣道大会……………     | 南 充美……………  | 106 |
| 昇龍旗争奪全国選抜剣道大会……………       | 鈴木 達也…………… | 109 |
| 第十九回全国家庭婦人剣道大会……………      | 手塚十三子…………… | 111 |
| <b>随 想</b>               |            |     |
| 老剣士のつぶや記……………            | 堀江 幸夫…………… | 113 |
| 総合武道を目指して……………           | 沢井 勝之…………… | 114 |
| うるわしく健やかに剣の道を歩もう……………    | 高橋 静夫…………… | 117 |
| ドイツ剣道交流日記……………           | 河村 知志…………… | 119 |
| 剣道と私……………                | 須藤 恭宏…………… | 121 |
| 私の剣道人生回想録……………           | 高田 雅隆…………… | 122 |
| 高校剣道に携わって……………           | 本田 敦彦…………… | 124 |
| 私が剣道に感じている二律背反……………      | 富浦 廣志…………… | 128 |
| <b>称号・段位合格者</b>          |            |     |
| 称号「教士」の試験について……………       | 磯部 洋一…………… | 131 |
| 剣道七段に合格して……………           | 美馬 和義…………… | 133 |
| 剣道七段に合格して……………           | 竹村 英信…………… | 134 |
| <b>誠 道</b>               |            |     |
| 立派な先生方と剣友に恵まれて……………      | 近藤 康次…………… | 135 |
| 剣道七段に思う……………             | 中西 敏治…………… | 137 |
| 剣道七段に合格して……………           | 影山 美雄…………… | 138 |
|                          | 佐藤 佳宏…………… | 140 |

|                         |             |     |
|-------------------------|-------------|-----|
| 剣道七段に合格して……………          | 出葉 成一……………  | 141 |
| 六段に合格して……………            | 西山 伸二……………  | 143 |
| 攻めながら耐え機会を待つ……………       | 寒川 博文……………  | 145 |
| 剣道六段に合格して……………          | 板東 伸光……………  | 146 |
| 六段に合格して……………            | 二反田和則……………  | 147 |
| 合格発表で自分の番号を見つけて感激！…………… | 近藤 敏晴……………  | 149 |
| 剣道六段に合格して……………          | 松本日出夫……………  | 150 |
| 剣道六段に合格して……………          | 河野 寿仁……………  | 152 |
| 称号・段位合格者一覧……………         |             | 153 |
| <b>がんばろう徳島</b>          |             |     |
| 道場・教室だより……………           | 相生竜虎館……………  | 158 |
|                         | 那賀川B&G…………… | 160 |
| 少年強化遠征……………             |             | 161 |
| 事務局だより……………             | 長谷川陽子……………  | 171 |
| 平成十四年度大会記録……………         |             | 172 |
| 徳島新聞に見る戦いの跡……………        |             | 209 |
| 昇段審査学科問題・解答例……………       |             | 233 |
| 徳島県剣道連盟役員名簿……………        |             | 252 |
| 徳島県剣道連盟規約（抜粋）……………      |             | 256 |
| 平成十五年度徳島県剣道連盟行事予定表…………… |             | 259 |
| 徳島県剣道連盟事務分掌……………        |             | 261 |
| 平成十五年度審査実施計画表……………      |             | 262 |
| 徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………   |             | 263 |
| <b>編集後記</b> ……………       |             | 264 |

平成十四年度 顕彰一覽

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○吉田 租 (大正十一年四月二日生れ)

徳島県剣道連盟の監事として二十四年間の長きにわたって連盟の充実発展に尽くされた。また、徳島県高齢者剣友会監事、丹生谷支部顧問として、高齢者剣道および地域の剣道発展に努力されている。その功績は顕著であり、会員の範たりうる。

○重井 好高 (大正十年十二月一日生れ)

徳島県剣道連盟副会長、審議員として長年にわたって連盟の充実発展に尽くされた。また、徳島県高齢者剣友会理事、名西支部長として、高齢者剣道および地域の剣道発展に努力されている。その功績は多大であり、会員の範たりうる。

全日本剣道連盟五十周年記念感謝状 (全日本剣道連盟)

○山田 仁 (徳島支部)

○寺西 慶裕 (鳴門支部)

○高田 亮 (板野西支部)

○坂本 裕二 (阿波支部)

○香西 虎夫 (美馬西支部)

○橋本 清匡 (三好支部)

○廣瀬 清 (名西支部)

○山海 公雄 (勝浦支部)

○濱田 逸郎 (阿南支部)

○松本 英夫 (丹生谷支部)

○西山 明廣 (小松島支部)

○西山 勝喜 (海部支部)

○佃 久美 (徳島県剣道連盟初代事務局員)

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○濱田 逸郎 (大正十四年十二月十七日生れ)

徳島県剣道連盟の理事、審議員を歴任し、連盟の充実発展に尽くされた。また、徳島県高齢者剣友会会長および顧問として、高齢者剣道指導にあたる等、本県体育発展に寄与した功績は顕著である。

徳島県功績者表彰 (徳島県)

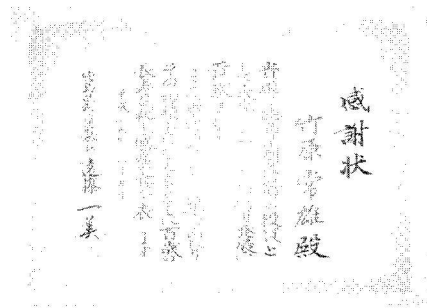
○坂本 裕二

防犯協会表彰 (徳島県防犯協会)

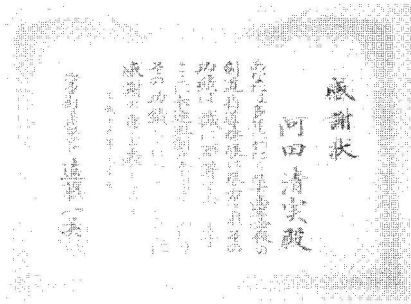
○青木 茂生

徳島県剣道連盟創立五十周年記念特別表彰

○竹原常雄



○河田清実



徳島県剣道連盟創立五十周年記念感謝状

- 南 充美 (徳島支部)
- 佐藤 勇 (鳴門支部)
- 大野 義則 (板野東支部)
- 糸谷 文夫 (板野西支部)
- 塩田 善治 (阿波支部)
- 中川 富男 (美馬東支部)
- 久保 和雄 (三好支部)
- 高橋 静夫 (名西支部)
- 吉岡 修一 (麻植支部)
- 大久保 博市 (勝浦支部)
- 西岡 侃 (阿南支部)
- 橋本 一幸 (丹生谷支部)
- 飯沼 一日 (小松島支部)
- 張野 久晴 (海部支部)
- 鎌田 恵 (高体連)
- 高島 稔之 (中体連)

第十一回全国高等学校剣道選抜大会優秀選手

- 岸 香織 (富岡東)

## 平成14年度 徳島県中学校剣道優秀選手

| 男 | 子       | 学 校 名   | 女 | 子       | 学 校 名   |
|---|---------|---------|---|---------|---------|
| 鎌 | 田 崇 佐   | 文 理     | 賀 | 上 晴 香   | 阿 南 第 一 |
| 津 | 川 慎 一 郎 | 文 理     | 近 | 藤 愛     | 阿 南 第 一 |
| 佐 | 藤 崇 景   | 文 理     | 島 | 田 和 佳   | 阿 南 第 一 |
| 岩 | 佐 佑 樹   | 相 生     | 茂 | 崎 祐 子   | 阿 南 第 一 |
| 森 | 友 志     | 相 生     | 山 | 田 愛     | 那 賀 川   |
| 新 | 田 裕     | 相 生     | 横 | 山 佳 那   | 那 賀 川   |
| 山 | ノ 井 陽 介 | 阿 南 第 一 | 村 | 瀬 聡 美   | 坂 野     |
| 津 | 山 孝 宏   | 阿 南 第 一 | 原 | 田 彩 子   | 大 麻     |
| 本 | 田 万 里   | 阿 南     | 田 | 尾 望     | 鴨 島 第 一 |
| 石 | 田 良 太   | 阿 南     | 山 | 田 佳 奈   | 穴 吹     |
| 久 | 保 智 司   | 石 井     | 井 | 口 あ す か | 入 田     |
| 米 | 澤 弘 朗   | 鳴 門 第 一 | 岡 | 本 知 子   | 土 成     |
| 峰 | 本 博 彰   | 池 田 第 一 | 竹 | 部 真 知   | 新 野     |
| 下 | 村 祐 介   | 羽 ノ 浦   | 櫻 | 木 愛     | 坂 野     |
| 米 | 田 正 人   | 鳴 門 第 一 | 檜 | 木 彩 里   | 相 生     |
| 三 | 木 翔 太   | 阿 波     | 井 | 東 萌     | 相 生     |
| 湯 | 浅 貴 浩   | 市 場     | 乘 | 原 遙     | 石 井     |
| 小 | 西 朝 陽   | 石 井     | 山 | 下 純 子   | 鳴 門 第 一 |
| 岩 | 本 達 也   | 坂 野     | 福 | 田 沙 也 加 | 牟 岐     |
| 坂 | 東 潤     | 入 田     |   |         |         |
| 林 | 勇 作     | 鳴 門 第 二 |   |         |         |
|   |         |         |   |         |         |
|   |         |         |   |         |         |
|   |         |         |   |         |         |
|   |         |         |   |         |         |
|   |         |         |   |         |         |
|   |         |         |   |         |         |

## 平成14年度 徳島県剣道連盟高校優秀選手

| 男   | 子   | 学 校 名 | 女     | 子     | 学 校 名 |
|-----|-----|-------|-------|-------|-------|
| 小 川 | 泰 弘 | 阿 南 工 | 岸     | 香 織   | 富 岡 東 |
| 神 元 | 駿 一 | 阿 南 工 | 瀬 口   | 裕 子   | 富 岡 東 |
| 田 村 | 守 通 | 阿 南 工 | 橋 本   | 佳 奈   | 富 岡 東 |
| 裏 口 | 勝 久 | 那 賀   | 小 西   | 美 穂   | 富 岡 東 |
| 曾 根 | 寛 文 | 那 賀   | 佐 藤   | 甲 子   | 富 岡 東 |
| 前 田 | 悠 貴 | 那 賀   | 福 田   | ま り 子 | 城 西   |
| 國 吉 | 将 幸 | 城 ノ 内 | 喜 多   | 由 美 子 | 池 田   |
| 株 田 | 幸 輝 | 東 工 業 | 三 井   | 美 穂   | 池 田   |
| 切 中 | 諭   | 東 工 業 | 島 尾   | 美 智 子 | 池 田   |
| 原   | 祐 輔 | 富 岡 西 | 山 下   | 真 理 香 | 池 田   |
| 的 場 | 健 祐 | 富 岡 西 | 森 崎   | 舞     | 富 岡 西 |
| 佐 川 | 恭 平 | 富 岡 西 | 佐 藤   | 麻 衣 美 | 富 岡 西 |
| 林   | 美 文 | 川 島   | 後 藤 田 | 和 美   | 川 島   |
| 田 中 | 孝 弘 | 川 島   | 奥 森   | 悦 子   | 川 島   |
| 宮 本 | 靖 之 | 川 島   | 佐 藤   | 友 子   | 城 東   |
| 尾 田 | 正 和 | 川 島   | 朝 田   | 百 合 奈 | 城 東   |
| 住 友 | 荘 司 | 川 島   |       |       |       |
| 笠 井 | 雅 樹 | 川 島   |       |       |       |
| 戸 川 | 和 樹 | 川 島   |       |       |       |
| 佐 藤 | 友 紀 | 富 岡 東 |       |       |       |
| 近 藤 | 真 也 | 城 ノ 内 |       |       |       |
|     |     |       |       |       |       |
|     |     |       |       |       |       |
|     |     |       |       |       |       |

# 御禮言上

丹生谷支部

吉田

租



何よりも大好きな剣道

いつ迄も私を鍛へてくれる剣道

仰げば峨々として高き剣道

そして、友愛厚く、温かい剣士の集団

その全日本剣道連盟から「有功賞」を授与されました。

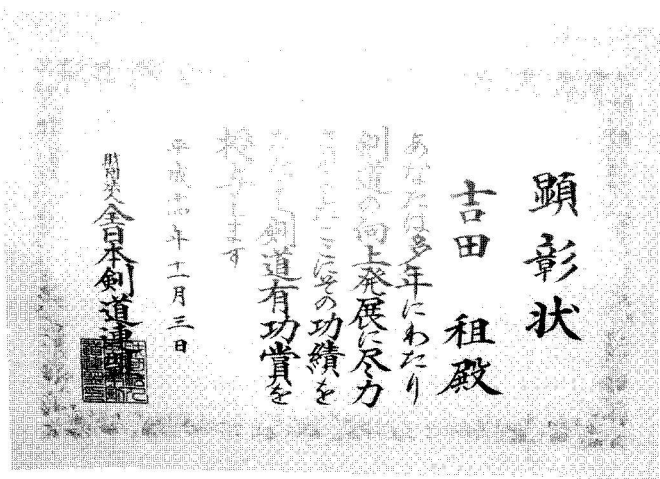
身に余る光栄と心底より有難く拝受。

ここに、徳島県剣道連盟に対し、家族ともども衷心より厚く御礼申し上げます。

初心忘れず、年齢は忘れて、若き剣友に交り、皆様の後を追いかけて精進を続けたいと思っております。

どうか今後とも変わらぬ御指導、御厚誼の程よろしく御願ひ致します。

ほんとうに、有難うございました。



## 翁の「遠めがね」

名西支部 重井好高



満八十一歳の誕生日の翌日、即ち平成十四年十二月二日付で、剣道有功賞を頂戴致しまして大変感激に堪えない所でございます。

これは偏に会長先生始め役員の方々及び諸先生(輩)の特段の御指導御鞭撻の賜でありまして更めて心から厚く御礼申し上げます。

この賞を頂戴してから、私が七十年に亘る剣道の修行の一端を「翁の遠めがね」と題して記して置きます。

※ 少年時代(昭和十年四月～昭和十五年三月)

旧制麻植中学(現川島高校)一年生～三年生の時は石井隆介先生に、四年生の時は矢野修先生(武専)に御指導いただきました。矢

野先生は学年途中で応召され、富岡中学から兼転で小浜重徳先生がいらしてくれました。五年生の時は横田武文先生でありまして、夫々特徴の有る立派な先生方でした。

石井先生からは所謂竹刀の持ち方から始まる基本を三年間御指導頂き、現在に至る私の身上そのものでございました。

ところで二年生の時、寒稽古の納会の剣道紅白試合で、私が十八人抜き(二、四年生総舐め、五年生残すのみ)の放れ業を行なうことができ、三木政治校長(鹿児島出身)から、成績抜群なり、との直筆の色紙章を受けました。

また、土用稽古であったと思いますが、校長先生以下全職員が見守るなかを部員に対し、川島駅勤務の大先輩である美馬清氏が掛り稽古を指導されましたが、当時、初段を取得したばかりの私は、何とかして一本でも打ち込みたいと必死に掛つて行ったが、仲々有効打突にならず、却ってほんろうされる始末。そこで窮余の一策、先輩が左足首を痛めて包帯を巻いているのに眼を付けて足捌みを掛けると同時に全力で体当りをした所、ドウツと倒れたので、すかさず面を打ち込むと「ヨシッ」と宣せられ、掛り稽古は終了しました。

翌日になって藤原栄久先生(五年生になった時のクラスの直接担任)にられた恩師、高知県出身・神宮皇学館卒国漢から授業を中断して、前日の掛り稽古について次の様に厳しく訓戒されました。即ち「先輩が痛む足を我慢して迄、部員のお前達に稽古を付けて下さるのに、足捌みを掛けて倒すとは何事ぞ、校訓の『至誠無息』はそんなものでは有りませんが、お前は未だ二年生だ、これからだぞ、

よく考えて憶えて置け」とのお叱言。(足捌み、体当りは戦前では当たり前、かえって奨励した)。しかし、藤原先生のお叱責は、何か言外に人間形成の一段階の指針を示されたのでは無かるうかと今でも追慕しております。

◎閑話休題

三年生(昭和十二年七月)の時に支那事変が勃発、先輩の美馬清陸軍少尉は浅間部隊に応召。美馬隊を編成するや士気昂揚の為、隊歌を作詞、部下隊員に歌わせながら訓練に励み、程なく上海に敵前上陸。師子林砲台附近の敵陣地攻撃に愛刀(関ノ孫六)を振りかざし突入、堅固なトーチカ陣地の銃眼を己が肉弾で塞ぎ名譽の戦死を遂げられた。(新聞記事より)

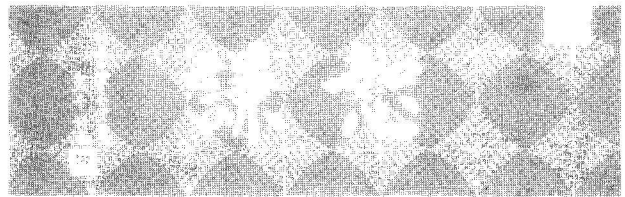
四年生の時、家計乏しく汽車通学出来ず、中古自転車で砂利道路をペダル踏んで頑張った五年間の皆勤出席賞も昔の物語りです。

※ 軍隊時代(昭和十六年十二月〜昭和二十一年六月復員)  
(省略)

※ 壮年時代(昭和三十二年三月〜昭和三十七年三月)

陸上自衛隊福知山駐屯部隊在勤時代です。文字通り三十五歳〜四十歳の血気盛んな時でした。

第七普通科連隊の幕僚(人事兼副官)と併せて駐屯地部隊の剣道部長を命ぜられ課外訓練、所謂部活動として稽古を行っております。昭和三十三年初頭、鳥取県出身で陸士四十四期、剣居共に教士六段の剣狂と云われる程の精悍な熱血連隊長(兼駐屯司令)が着任、部隊の雰囲気が一変し、「剣道の部活動なんて生ぬるい」「貴官



顕彰状  
重井 仁 尚 段

あなただけの  
剣道部活動の  
さかんたる活動と  
たすく剣道部活動を  
授与します

平成十七年十二月三日

顧問 倉本 剣道連 謹



は剣道は課内時間でやれ」との御託宣。そういう訳にもゆかず、兎にも角にも喜んだのは隊員達（私もニンマリとしたのかも知れませんが……）。このような良況の折りに、天の恵みか、凶らずも連隊長着任と殆ど相前後して京都府警警視長の岳田政雄範士八段先生が福知山署次長として着任され、先生との出会いとなったのでございます。剣との繋がりというか、警察と自衛隊の両首脳連のチームワークは更に深まり、市内外から称賛を浴び、好評でございました。私も精一杯頑張りました。

ところで、岳田先生は北辰一刀流の使い手で稽古は京都武講生の随一、庭木に吊した五円玉をめぐけて突きを繰り返し、「やってもやってもこの道の奥行きを感ずるばかり」「人に見せない稽古の中にこそ精進がある。これをしないと力が持続出来ない」と謂われ、部隊道場の床ごと、羽目板越しに突き飛ばされ、雑巾掃除？をさせられた五年間の苦行の中にも楽しい日々でした。眼鏡越しに目を細めて剣談に興じられる先生は私と同じ下支は酉年の一回り上ですが、本当に師弟の間柄を越えての公私に亘りお付き合いを願った先生でございました。

※ 徳島右武館道場設立と実績及び現況等

私が陸上自衛官として二十一年有余勤務し、定年退職後、農業に従事しておりましたが、還暦を迎えるに当り、将来の日本を担う青少年の健全育成に微力を捧げたく農業舎屋兼剣道場を建設し、徳島右武館（京都右武館岳田先生の弟子）を創立致しました。文武不岐、左文右武を旗印に掲げ、明るく、正しく、強く根性ある人作りを目

標に日本伝統の剣道を指導し、たくましい人間の育成に情熱を傾けてまいりました。

昭和五十六年七月十五日設立開館以来、満二十二年を閲し、館生三六四名を輩出しており、週三回火、木、土の各二時間の稽古を行っております。

現館生は十五名。往時（昭和六十二年度は六十七名）を擁し盛会でありまして、試合大会等に於ても上位を占め好成績を収めたことも有りました。

それにつけても設立開館当初から、手となり足となり或は私に代って運営万般に亘り、お骨折り願っていた盟友の阿部全司君（教士六段）、遠藤英雄君（教士五段）が病魔に冒され、平成十四年三月、四月に相次いで黄泉の客となられた事は誠に一大痛恨事の極みでございます。合掌。

※ 翁の「遠めがね」おわりに

「少年時代」の藤原先生の訓戒、「壮年時代」の部隊内の勤務状況、延いては社会生活に於ける人間関係の絆の中で採り入れられる人間形成の為の必須の要素の何かが有るのでは無かるうかと愚考する次第でございます。即ち「謙・怨」の二字。翁の手拭を剣道有功賞の証とし精々ご利用を戴ければ幸甚の至りで、冥利に尽きる次第でございます。又この受賞を機に私も米寿、卒寿の夢をのせて大いに頑張り度いと思えます。

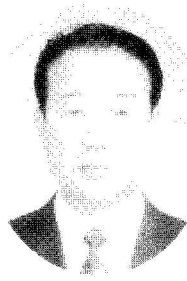
秃筆で相済みません。どうも有難うございました。

# 特別寄稿

## 向上しつゝ生涯剣道

全日本剣道連盟常任理事

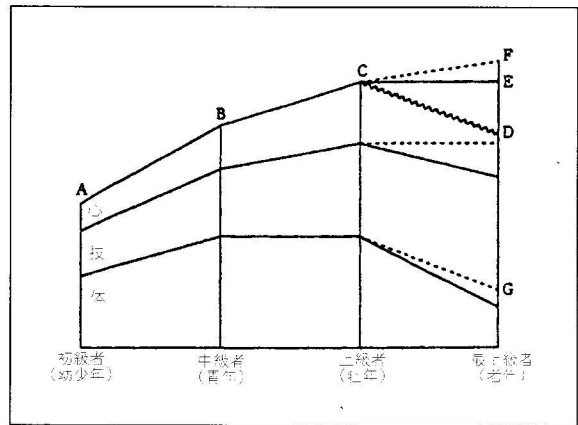
岡村忠典



私は、全剣連の『社会体育教本』に、「剣道は、競技年齢が高まっても楽しく続けることができる。また、楽しく続けられるだけでなく向上しつづける可能性を持つている」と書いた。可能性と書いたのは、剣道を続けていけばすべての人が上達するとは限らない、と思うからである。

図を見て下さい。C点まで上達しつづけてきた人が、体力の急激な低下の時期を迎えて現実としてはD、E、Fと別れている。人によって相当差があるから、年齢では一概には言えないと思う。

私は六十歳で定年退職を迎えたとき、今まで受け続けてきた八段に本格的に取り組む決意をした。再就職を止め、剣道三昧の生活をした。図のC点からF点への可能性への挑戦である。六十三歳で念願の八段に合格した。決心し行動開始して二年七ヶ月かかった。その間「年齢が進んでも向上し続けるための大事なことは何なのか」



心・技・体の変化の図

●師として仲間をもとう  
を考えて実行してきた。今回はその一部をここに書いてみる。

自分のことは自分にはなかなか見えない。それを見てくれる人、できれば師を持ちたい。私の師、湯野正憲先生は、「師のない剣道は外道である」といつておられた。そうは言っても、誰もが良き師を持つとは限らない。また、幸いにも師弟関係が出来ても、共に相当な努力をしなければその関係を維持することが出来ない。そのような時は、いい仲間を持つとう。そしてお互いに見合いながら良いものを共に求めて努力していくのが良い。一人では向上していけない。

## ●稽古数を増やそう

現職の人にはなかなか難しいと思うのだが稽古の数を増やしたい。私は、退職一年目は一年間で二二八回、週でいえば四、三七回、二年目と三年目は二八五回（週五、四六回）稽古した。その中で間違いないことと思っただが、一回の稽古時間は長くなくても回数を多くする方が大事だということである。体調の持続といえるかもしれない。何年か前、亡くなられた中倉清先生と大称一郎（現在九十歳）先生にこのことについてお聞きしたことがある。お二人とも「毎日稽古するのが良い」と答えられた。この頃その意味が体でわかった。

## ●基本技能の復習を心懸けよう

年齢が進むにつれて基本技能のレベルが落ちてくる。例えば、踏み込んで正しく正面が打てなくなる。打ち込み稽古などで基本技能を常に練習することが大切である。「どうぞ」と打たせてくれる打ち込み稽古で正しく面が打てなくては、「打たせない」といっている相手を打つことなど出来るはずがない。

## ●障害予防のトレーニングをしよう

私は、多くの稽古をしても体をこわさないよう障害予防のためのトレーニングを行った。六十過ぎていたのに、筋力は二十%以上も高まった。サージャントジャンプなどは七センチも伸びた。驚いた。つまり、トレーニングをすれば六十歳ぐらいなら筋力は復活するとうことである。結果論ではあるが、剣道が強くなる一つの要素にもなったと確信している。今も軽く続けている。

## ●すばらしい一本を求め続けよう

すばらしい一本を求め続けて稽古をすることが良い剣道を創造していくための秘訣である。子供は子供なりに、壮年はそれなりに、高齢者は高齢者としての理想的な一本を求めていきたい。柔道のように「一本、技あり、有効、効果」というようなことで勝敗を決めてはならない。「一本」、それ以外は無効として、夢のような一本を稽古でも試合でも求め続けていきたい。

紙面の都合もあるので、そのほかに私が大事なことと思っっていることを箇条書きにまとめておくので考えてみてほしい。

- ・ 技の選択とその洗練
- ・ 見取り稽古
- ・ 読書
- ・ 打ち間の研究
- ・ 自分の目標を追う稽古（勝利至上主義からの脱却）
- ・ 呼吸法

徳島のみなさん、剣道はすばらしい。みんなで仲良く楽しく剣道をしよう。



# 先生を偲ぶ

## 弔 辞

北島町長 山田昌弘

本日、ここに、元北島町議会議長故三木只雄氏の告別式がとり行われるに当たり、北島町を代表して謹んでご霊前にお別れの言葉を申し上げます。

生者必滅は世の習いとは申し乍ら、昨日突如悲しい訃報に接し、こうしてご霊前に立ち生前のお元氣なお姿を思い浮かべます時、今尚急逝を信ずることができません。

故三木只雄氏は、多くの分野の公職にて町のため、県のため、活躍いただきました。昭和三十年に北島町議會議員に当選された後、北島町議會第二代目の議長に就任し、四年間名調整役として、議会の運営に、そして、本町の発展に寄与されたのであります。

その後、昭和三十五年から四十三年までの八年間、北島町監査委員をお勤めいただき、先般、北島町監査功労者として、全国町村監査功労者表彰を受けられました。

一方、昭和六十一年には多年にわたる家事民事調停委員として貢献した功勞により、徳島地方家庭裁判所長感謝状を、そして、徳島県家庭裁判所家事審判参与員としての功績により、勲五等双光旭日

章を受章されました。

また、故三木只雄氏は半生を徳島県の剣道の発展にささげられたと申しても過言ではありません。昭和二十二年には徳島県剣道クラブ創設委員を勤められ、そして昭和二十八年には徳島県剣道連盟が創設されるや連盟理事に就任され、昭和三十八年には常任理事に、昭和四十二年には徳島県剣道連盟理事長、全日本剣道連盟理事、昭和五十年には徳島県剣道連盟会長の要職を歴任されました。この間、第四十八回国体では準備委員、常任委員、競技力向上委員として、昭和六十一年には技術力向上副委員長として、後輩の指導にあたられました。まさに、剣道一筋、「わが人生は剣道なり」の如く、徳島県の剣道連盟の発展のため、多大の貢献をされました。その後も、徳島県剣道連盟名誉会長として、高所から剣道の発展を見守っておられましたことは申しあげるまでもありません。

ボランティア活動にも熱心に取り組まれました。一九九〇年には北島町ライオンズクラブの創設委員として尽力され、初代会長に就任し活躍されました。その後は元会長として、今日の北島ライオンズクラブの隆盛を指導されたのであります。

私は故三木只雄氏を小学校時代の昔から存じ上げておりました。皆さんから「三木の只雄さん、三木の只雄さん」と親しまれ、そのお人柄から、老若男女を問わず、多くの方から慕われておりました。そして、その柔軟な思考を基に、今日まで、長い間、公私にわたり、高所からご指導をいただきました。私は生前、「只雄さん」からいただいた数々のご教示を肝に銘じ、今後とも町の発展に努力する所

存であります。

どうか天にありましても、いつまでも北島町を見守ってください。

ここに謹んで生前の多方面にわたる数々のご功績を称え、哀悼の意を表し、お別れの言葉と致します。



# 弔 辞

徳島県剣道連盟会長

遠 藤 一 美

本日ここに剣道範士七段、元徳島県剣道連盟会長、三木只雄先生の御霊前に、謹んで告別の言葉を申し上げます。

先生は明治四十五年四月一日、板野郡北島町中村にて生を受けました。昭和五年三月、県立撫養中学校、現在の鳴門高等学校を卒業され、昭和十四年より北島青年学校指導員、また若き頃は北島青年団長や北島警防班長を務められました。昭和十七年より応召を受け入隊、昭和二十一年十一月除隊復員、昭和二十二年徳島県社会体育剣道クラブ創設、昭和二十四年徳島県剣道クラブ発足、昭和二十六年北島東部地区土地改良組合組合長、昭和二十九年北島町農業委員、昭和三十年より四年間北島町議会議長に就任されました。昭和三十二年四月徳島県剣道連盟板野東支部長に、昭和三十五年北島町監査委員、昭和三十八年板野郡監査員連終協議会会長、昭和四十二年四月徳島県剣道連盟理事長、昭和四十六年五月全日本剣道連盟理事、昭和五十年四月より昭和六十二年三月迄徳島県剣道連盟会長として御活躍を頂き、県内外の剣道、並びにスポーツの発展に、大きく貢献されました。

また、昭和五十九年五月八日には全日本剣道連盟会長より剣道界最高の称号である範士号を授与されました。三木只雄先生の幾多の

ご功績により平成三年春に勲五等双光旭日章を受章され、御一門のお喜びにとどまらず、地域や剣道界にも栄光を与えて頂きました。さらに、第四十八回国民体育大会の準備委員、競技力向上委員などに努力されました。先生のご尽力による強化によって本県を剣道競技の総合優勝に導いていただきました。このことは徳島県剣道連盟の歴史に深く刻み込まれています。

以上申し上げました通り三木只雄先生のご功績は枚挙に暇がありません。先生は剣道の道には厳しく、それでいてユーモアを交え温かみのあるご指導をなされ、周りの者に親しみを感じさせるお人柄でありました。徳島県剣道連盟の会長を退かれても、剣道大会には必ずご出席を頂き、後進のご指導を頂いておりました。それだけに、このたびの訃報は信じられません。先生がご病气から一日も早く全快されることを祈っていましたが、我々の祈りもむなしく、平成十三年七月から高田整形外科へ入院され、平成十四年十二月二十七日松茂町浦田病院へ入院、十二月二十九日午前九時急性心臓不整脈にて急逝されました。享年九十歳でございました。

ご親族の皆様並に関係者ご一同様の痛惜の情をお察しするにあたりあります。嗚呼悲しい哉、再び先生のご英姿を拝することは出来ませんが、先生の温容と剣道のお姿は我々剣道人の眼底に焼き付いております。偉大なご功績は永く剣道史に輝き、伝えられる事と信じます。私達剣道人は、先生の尊い教えを胸に修練に励み剣道の発展に邁進して参ります。

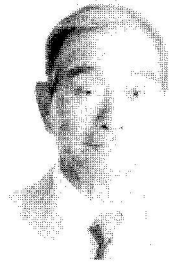
先生どうか安らかにお休み下さい。

合 掌

## 三木只雄先生を偲ぶ

板野東支部北島少年剣道教室

加藤 源次郎



三木只雄先生がご逝去されて早六カ月の日が過ぎました。

私と先生の出会いは今を過ぎる二十五年前、北島少年剣道教室が設立された時であります。それから以後は顧問として毎週二回、約二キロ離れた御自宅より自転車車で北島北小学校の講堂までお出で下さり、午後七時より八時三十分まで基本練習、掛り稽古、地稽古、等々を厳しい目で見られ、実技を指導して頂きました。

また二週間に一度は練習後、先生得意の口調と身振を交えて、こっと細かく指導されているのにはいつも頭が下がる思いでした。さらに、月に一度ある板野東支部での先生方との稽古には自分自身の疲れも見せず、元立としてご指導下さった姿は今も脳裡に焼きついて居り、私達が見習うべき姿でありました。

毎年実施される忘年会には必ず出席され、そこで私達に「酒はほどほどに宴会は二時間が限度だ」「自分の体は自分で守り暴飲、暴食は身を滅ぼす」との指導をいただきました。

次に先生の剣道指導で常に出る言葉を抜粋しますと「一、剣道は

礼に始まり礼に終わる」「一、剣道は常に基本を守り腕で打つより足で打て」「二、當る剣より切る剣」「一、一刀必殺」「二、気剣体の一致」「一、稽古は厳しく対話はやさしく」でありました。三木先生が口頃、私達に指導をなされる時に用いられていた資料に次のものがあります。

### つもりちがい十カ条

- 一、高いつもりで低いのが教養
- 一、低いつもりで高いのが気位
- 一、深いつもりで浅いのが知識
- 一、浅いつもりで深いのが欲望
- 一、厚いつもりで薄いのが人情
- 一、薄いつもりで厚いのが面皮
- 一、強いつもりで弱いのが根性
- 一、弱いつもりで強いのが自我
- 一、多いつもりで少ないのが分別
- 一、少ないつもりで多いのが無駄

## 日常の心がけ考

- 心だに 誠の道に叶いなば 祈らずとも神や護らむ
- 一、 礼儀 (挨拶が出来てお互いに尊敬の心)
- 一、 はい (素直な心)
- 一、 いいえ (勇気ある心)
- 一、 すみません (反省の心)
- 一、 お願いしますありがとう (感謝の心)
- 一、 私がいします (奉仕の心)
- 一、 どうぞ (互譲の心)
- 一、 おかげさまで (謙虚な心)
- 一、 勿体ない (物を大切にすること)
- 一源三流 家族の為に汗を流す  
友の為に涙を流す  
国家社会の為に血を流す
- 実るほど頭を垂れる稲穂かな
- 手や足の汚れは常に洗えども心の垢を洗う人なし
- 信用は黄金に勝る

終わりにりましたが、永い人生を剣道一筋に打込まれました先生のご功績に対しまして心からお礼を申し上げますと共に安らかに眠って頂きます事を御祈り申し上げまして乱筆を止めます。誠に有難うございました。

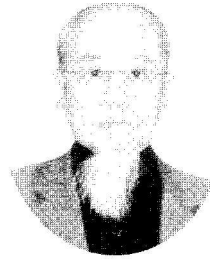
合 掌



恩師 三木只雄先生

## 私の心に残る故三木只雄先生

誠武館道場 大野 義 則



平成十四年十二月二十九日に、三木只雄先生のご逝去の報を加藤先生から、お電話を頂き驚きました。高齢で二年程前からお身体がおもわしくなく、ご家族の方から支部行事等のことは知らせないようになられていたようですが、退院をもなさず、お通夜の折、お顔を拝見し安らかな表情、九十歳の天寿を眠るが如く終えられた大往生。さすがご人徳厚ければこそと思えました。

私が三木先生にお会いしたのは、昭和四十八年八月十九日第一回板野東部少年剣道錬成大会の会場、松茂町福祉センターで、出場する誠武館道場の子供と共に故中谷智好館長につれられて大会場に行つた時でした。「あの方が三木先生、北島出身で徳島県剣道連盟理事長をなされている」と教えられました。私が誠武館に入門して三年位でした。徳島剣道界の立派な先生が北島町におられることにびっくりし、誇りに思いました。その後暫くは大会場でお会いしても、子供と同じように固くなり「おはようございます」と挨拶するだけでした。

そして、子供の審査、自分の審査の折、「姿勢は真すく基本通り、

竹刀は上下に振り、試合の時に出る身体をくずした打ち方は絶対にしないように」とアドバイスを頂いた記憶があります。

昭和六十三年当時、支部長を務められていた中谷智好先生が、その年の七月八日に亡くなられました。

中谷先生の使い走りのつもりで引き受けていた副支部長でしたが、「後継して支部長になるべきだ」と支部の諸先生方から勧められ、断り切れず支部長になった次第です。ところが連盟の支部長会、総会に出席した時に、徳島県社会人大会に連盟会長となられていた三木先生の地元支部からの参加がないと言われていることを、雑談の中で耳にしたように思います。支部内の子供達の練習、そして大会が盛んになっていく時に、先生方の研修にも力を入れて指導に当たり、社会人大会に参加出来るようにならなくてはいけないと気付きました。支部総会に話をして了解を得、三木先生が顧問をなされている北島少年剣道教室の練習場である北島北小学校体育館を会場と決め、毎月第一月曜日を指導者錬成日としました。ここで初めて三木先生に教えて頂くことができました。

当日八十歳近いご高齢にもかかわらず支部の先生方の掛り稽古を次々と受け、前後に、左右にと、体捌きが軽く息も乱れず、さすが長年続けられ、熟練の域に達せられた先生と尊敬していました。

私は入門した時から中谷先生には、初心者先輩、高段者には身体が続く限り打ち込めと指導されていますので、誠心誠意打ち込みました。すると三木先生から「右手が強いぞー！もつと左を使え、竹刀が右に傾いている」「前に身体が曲がっている。腰をぐつと出し



在りし日の三木先生の講話

て体を起こせ」「疲れても打った手元を下るす前に打ち出せ」とその折々に注意を受けました。私も還曆の歳、掛り稽古が長く感じ（一分余り）「ありがとうございました」と声を出すと「もう二・三本打てんか。頑張つてこい」と気持を奮い起たせて頂いたのにもうそのお声も聞けず、お姿にも会えませんが、感慨無量です。

徳島県剣道連盟の『二十年の歩み』に書かれています尾形郷一先生を始め高段者の先生方と共に努力なされた、戦後の剣道復活の話も聞かせて頂きました。またよく先生のお話の中に出てくる言葉に「暇は出来るものではない、作るもの。意識してこしらえるものがある。稽古をしたいけどいそがしくて稽古する暇がない等、若い者から聞くがひまは向こうから来るのではなく、自分が作る努力をすることである」と良く聞かされました。事実その通りでございます。最後になりましたが、支部で主催させていただきました平成三年八月二十四日阿波観光ホテルにて、春の叙勲、勲五等双光旭日章を受章されました記念祝賀会です。私にとっては最大の行事でした。但し、審議員の坂下彦之先生（鳴門高等学校剣友会）の多大なご指導のもと、堀江幸夫先生（当時剣道連盟会長）を始め連盟の諸先生方のご理解とご賛同と支部の先生方のご協力で出来たことです。三木只雄先生、ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

## 御 礼

三 木 清 文

年の瀬も押し迫った、大変ご多忙の中大勢の皆様方のお見送りを頂き誠にありがとうございました。

「人生は剣の道なり」と生涯を貫き通した故人も平成十四年十二月二十九日「竹刀」を一本ひっさげて新たな幽界へ旅立ちました。

生前中は九十年の長きにわたって多くの方々のご指導、ご交誼を頂き、充実した人生であったかと思えます。

姿勢を正し、食生活にも毎朝コップ一杯の清水を飲み、好き嫌いなく、神・仏を大切に健康には特に気を配っていました。

「日常の心がけ考」を胸に毎日を元気に送っていたかと思えます。多くの関わりのあった方々にはご支援、ご協力を頂きながら、ご

迷惑など多々あったかと思えますが、よき「思い出」を残して頂き、今後の剣道界の発展に生かしていただければ故人も満足すると思えます。

同志の皆様方の今後の益々のご活躍とご多幸をお祈りして、ごあいさつと致します。

誠にありがとうございました。

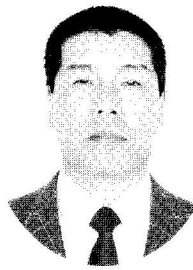


ありし日の三木只雄先生



## 『堀金實先生を偲ぶ』

警察支部 藤川和秋



「何をボサーとしとるんな。早う縄張りして現場保存せんか」と厳しい声が飛んできました。昭和四十六年の私がまだ新米警察官で交番勤務一年目のことです。吉野川河川敷で焼死体を発見し、私は急いで本署に連絡を取り現場で待機していたところ、当時徳島東警察署刑事課強行犯係長であった堀金實先生が現場に駆けつけ、私はいきなり怒鳴りつけられたのです。これが私と堀金實先生との最初の出会いでした。事件は自殺と判明し一件落着となりましたが、「何と声のでかい徹しい人」との印象でした。しかし先生から、現場保存は初動捜査の最も大事な基本であることを教えられたのです。

その後、堀金實先生とは警察剣道部会の会合等で顔を合わせ剣道の先輩としてご指導頂き、その人間性に惹かれるようになりました。

昭和六十二年、私が警察学校教官で赴任した時、堀金實先生はすでに退職され、警察学校の剣道特別講師として活躍されていました。先生は職場だけでなく、夜は小松島少剣クラブでも指導され、先生のお誘いで私の娘も少剣クラブでお世話になることとなり、堀金實

先生のもとで子供達の指導をさせて頂くことになったのです。先生の基本に忠実な指導法は私にとって大いに勉強になりました。今日の私の剣道指導法は、堀金實先生の大きな影響を受け、築き上げられたものと思っています。

その後私も数々の転勤がありました。機会あるごとに小松島少剣クラブに稽古に駆け、堀金實先生のご指導を受けてまいりました。そんな中、私が池田警察署に赴任した時、堀金實先生が病に倒れ入院されました。先生が亡くなられる二週間位前の平成十四年三月初め先生のお見舞に伺いました。先生はその時、静かにベッドで横になっておられ、私が「先生、今年こそ池田から帰ってきます。また少剣に稽古に行きます」と声をかけると、ゆっくりとうなずき、私の手を握り返してくれました。そしてうつすらと目に涙を浮かべ、私の顔を見て手を合わせ合掌されたのです。先生は言葉にはなりませんが、私には、はつきりと先生の声の中で聞こえました。「少剣を頼むぞ」と先生はそう言っておられたのです。その後、平成十四年三月十六日、堀金實先生は他界されました。

早いもので、堀金實先生の遺志を受け継ぎ、私が小松島少剣クラブの指導者代表として、子供達の剣道指導を始め、まもなく一年が来ようとしています。この間未熟な私を、子供達や指導者、保護者等みんなが支えてくれ本当に幸せだと思っています。生前の堀金實先生の剣道の指導方針は、単に勝敗にこだわらず生涯剣道を目指し、あくまでも基本技術を中心とした稽古に徹することでありました。そしてこの小松島少剣クラブを築立った剣士が、将来ホームグラウ

ンドたるこの少剣クラブに帰って来て、子供達の指導に当たってくださることを切望していました。

まもなく堀金實先生が亡くなられて一周忌がまいります。あらためて堀金實先生の偉業を偲ぶとともに、この一年間を反省し、堀金實先生の生前の指導方針や考え方をもう一度しっかりと受け止め、さらに情熱を持って子供達の剣道指導に当たっていきたいと思います。



小松島少剣クラブ創立21周年剣道大会 平成7年6月4日



子どもたちとくつろぐ堀金先生



教え子たちと大会にて



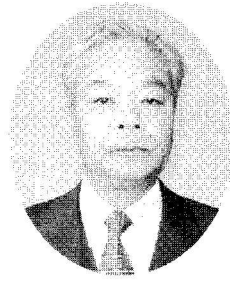
ありし日の堀金先生

# 新理事長抱負

## 徳島県剣道連盟理事長就任ご挨拶

剣道連盟理事長

三木 毅



徳島県剣道連盟理事長の就任にあたりましてご挨拶を申し上げます。

去る、平成十五年三月九日の剣道連盟総会におきまして、理事長に推挙されまして、この上ない名誉のことと感謝をいたしております。

昭和三十一年春のこと、私は中学二年生に進級したとき、父が言うには「平尾先生が、小学校の講堂で剣道を始めている。おまえも剣道の教えを乞え」と剣道を勧められ、平尾勝美先生のもとにご挨拶に参りました。そして、学校の剣道部に入部いたしました。乾壽夫先生指導の許で「しない競技」という呼び名の剣道を始めました。防具は今でいう「フェンシング防具とよく似たもの」を身につけ、八ツ割竹を布袋に入れた「しない」で剣道の所作をしておりました。いつしか父が、刺し子の間がほつれている、いかにもお粗末な剣道防具を探し当ててくれ、夜になると小学校の講堂で大人の剣道稽古

に通いはじめたのが私の剣道の出発点でありました。今顧みますと早くも四十七年の時が流れました。この間剣道に関するいろんな思い出がよみがえって参りますが、とにかく剣道をやっていたことが警察官への道となり、堀江幸夫先生のご指導を仰ぎ剣道稽古の時を練りました。

剣道を学ぶことで、とにかく自分が頑張るしかないことや、果敢さ、機敏さなどが警察官としての職務姿勢に大きな支えになったと確信的な気持ちで今日までやってきた次第であります。

そして、この間多くの剣道の諸先生方に大変お世話になり、この度無事に警察を退職する運びとなりました。

これまで警察職務に関して、また剣道稽古の場面で多くの方々に限らないご支援を戴きましたので、退職後は何かお人様のお役に立ちたいことをしなくてはという考えを固めていたところ、理事長というお世話役に推挙していただき、非常な光栄・名誉なことであると感じているところであります。

理事長の職務は、剣道連盟設立目的に明快に記されているとおり、

○ 剣道の奨励発展をはかる

○ 剣道理念を広く普及させる

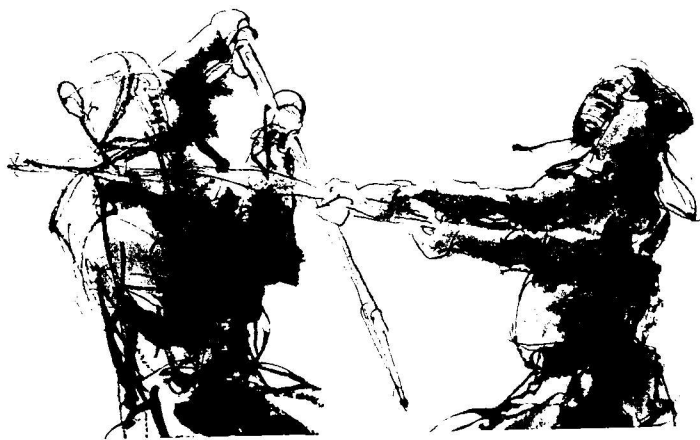
○ 会員相互の親睦・融和をはかる

という、三つの柱について誠心誠意、具現化することに努めることであると認識いたしております。

このような立派な設立目的を具現化するためには、これまた多くの剣道愛好諸氏のご協力とご支援が必要でございます。そこでより

よき具現化のために、二点についてお願いいたします。それは、会員諸氏がそれぞれの立場で、色々な発想・配意をしていただき、それを剣連という組織に対しまして意思表示をしていただくことではないかと思っております。

この二点について具体的なご協力とご支援をお願いいたしますとともに、会員諸氏が所属しております剣連各支部の活発化とご発展を祈念致しまして、先ずはご挨拶いたします。



# 思い出の一枚

## 一粒の種を播き育てること

徳島県学校剣道連盟副会長

城西中学校長 高島 稔之

私は教職三十八年を勤め終え、この三月末で退職を迎えようとしています。この写真は、私が新任教員として、那賀郡木沢村沢谷小・中学校川成分校に赴任し、当時、六年生だった三名の男子児童と一緒に撮った写真です。

三人の児童の真ん中にいるのが、現在、相生中学校で教鞭を執っている富田正教諭（旧姓紙本）で、その後ろにいるのが私です。

私は昭和四十年の四月から分校、（三級避地で今は廃校）に赴任しましたが、その年から中学生は車で三十分ほど下ったところにある木沢中学校の寮に入り勉強することになり、分校は、小学生だけとなりました。そのうちの六年生は八名（男子三名、女子五名）で、六年生の男子全員（三名）と撮った写真です。

当時、那賀奥の木頭村は剣道が大変盛んでしたが、木沢村の方は、剣道が全然行われていませんでした。

分校の五・六年の男子児童に、山で切ってきた青竹を与えて、来る日も来る日も、素振りと面打ちを指導していました。それを見か

ねた分校主任が防具を調達してくれました。二年後、木沢中学校へ転勤し、校長・教頭に無理をいって剣道部をつくってもらって活動を続けました。短期間でしたが、郡や県の大会で、それなりの実績をあげることができました。

その後、富田君は、高校・大学と剣道を続け、教職に就き、県身体連剣道専門部長、学校剣道連盟事務局長などを務め、自校だけでなく県下の生徒の教育と剣道発展のために頑張っています。教職の幕を降ろそうとしている今、「一粒の種を播き育てること

の大切さ」を

しみじみと感

じています。

この写真は、

一粒の種が実

を結び、より

多くの種の基

となることを

思い出させて

くれる、わた

しにとつて貴

重な「思い出

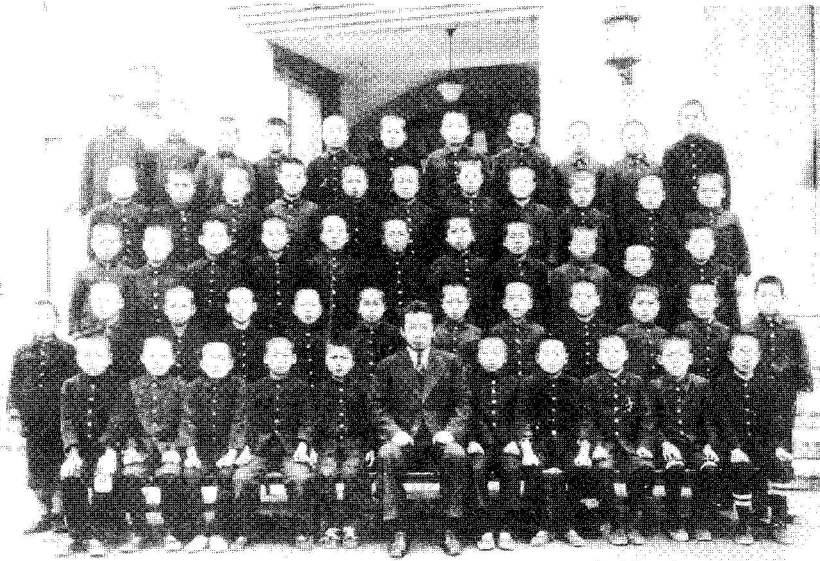
の一枚」です。



川成分校の玄関前にて（昭和40年）

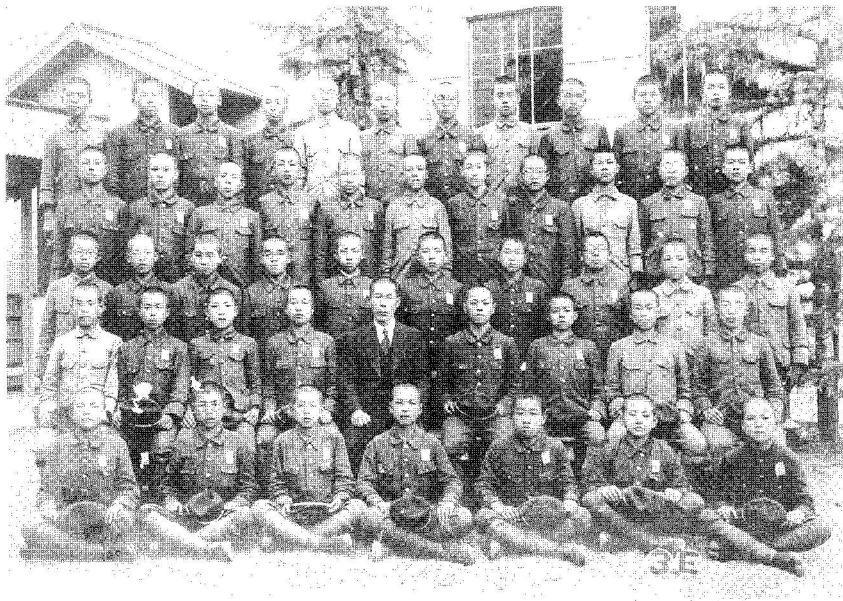
写真中央（小6当時の富田正教諭）

写真後方（22歳の青年教師・高島）



私はだれでしょう

富田尋常小学校 5年（11歳、昭和14年）  
二列目 右から5人目



旧制徳島中学校 3年（15歳、昭和18年）  
二列目 最左端



現在の私  
森川

澄  
(七十四歳)



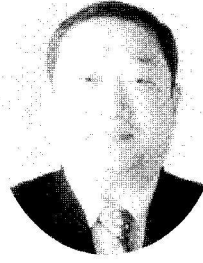
# 全国講習会報告

## 第三十七回剣道中央講習会（西日本）報告

美馬東支部

青木茂生

期日 平成十四年四月四日(木)～六日(土)  
場所 神戸市立中央体育館



はじめに

徳島県剣道連盟より吉永明彦先生と私に非常に重大な任務を受け持つ剣道中央講習会に参加のご案内を賜りましたことに、対し厚くお礼申し上げます。

講師の先生方も全剣道を代表される有名な立派な先生方で大変すばらしい講話、剣道に対する考え、姿勢や諸動作についても本当に真剣に熱心に講話され、私達に大きな感動を与えて頂きましたこと誠に光栄の至りであります。

講師の先生方は、本当に剣の理法の修練を積み重ね、剣道知識はもろろん人生哲学においても大変すばらしい持ち主の方々でありました。

剣道は即実社会であり、それが生かされなければ何も成り立たない

ことを身をもって学習することができたと思います。

以下講習会でご指導いただいた内容を概略報告いたします。

日程は、去る四月四日から六日の日程で神戸市立中央体育館で開催され、西日本各地から五十二名が受講いたしました。先ず最初に開講式が終了後、岡村忠典先生より「生涯剣道の推進」と題して一時間の講話がありました。

### 講話

絶対は「死」以外にはない。絶対ではないが、自分の経験と考えを確信をもって三回分の講話量を一回で講演された。

生涯剣道の考え方として、高年齢であっても向上充実する可能性を説かれた。(資料No.1)

### 生涯剣道の推進

#### 1 これからの剣道人

##### (1) 正しい時代認識

・ 学校教育・家庭教育・社会教育の現状……有史以来最悪

・ これからの社会……不透明な時代 変化の多い世界 多様化

情報化 国際化 高齢化 少子化 生涯学習化

・ これからの人間……豊かな心 個性尊重 変化への対応力

自己教育力 文化・伝統の尊重

##### (2) 指導者であり学習者であること。――「師弟同行」

①すばらしい剣道を求め創造し伝承する。「これからの剣道」

○剣道のすばらしさ……高齢者になっても上達する可能性を持って継続できる。

- ・ 生涯学習の基礎が作られ、健康な心身が育成される。
- ・ 自ら変化に対応できる心豊かな人間が育成される。
- ・ 自己の人生を創造し「生き生きと生きる力」が育成される。

② 剣道を通して自ら学習、指導に当たる。

○人間としてのあるべき姿―「指導者のあるべき姿」

- ・ 文武両道……知のなき剣道は暴力である。
- ・ 生涯学習の基礎……自己教育力

・ 社会性……忍耐力 自他共栄

・ 真の礼儀……師弟同行

・ 文化・伝統の尊重……国際人としての基礎

③ 共に健康を求め合う姿勢を持ち続けること。

- ・ 身体的……総合的にバランスがとれた身体・体力
- ・ 精神的……個性的で想像力に富む精神力
- ・ 社会的……他を大事にし、協力しあう心(※特に努力したい)

(3) 生涯剣道の実践者であること。

・ 剣道を高める人 共に剣道を支え

・ 剣道を広める人 共に剣道で人生を充実したものにす。

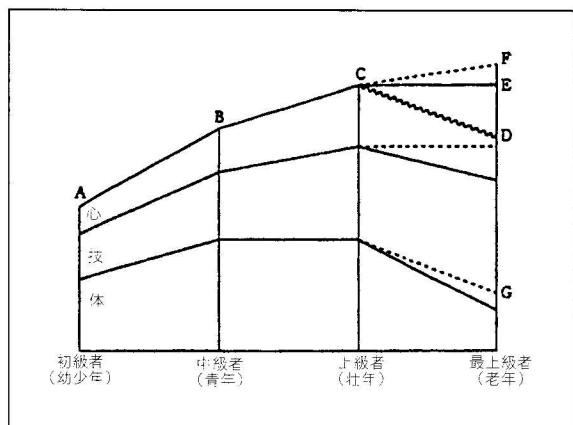
・ 剣道を楽しむ人

## 2 上達しつつ生涯剣道

剣道は、競技年齢が高まっても楽しく続けることができる。また、向上しつづける可能性を持っている。

(1) 上達しつづけるために

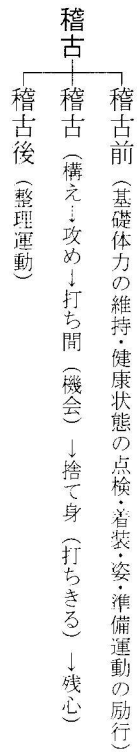
- ① 師そして仲間を尊重
- ② 稽古数(時間より回数)
- ③ 技の選択とその洗練
- ④ 健康の維持―運動・休養・栄養
- ⑤ トレーニング(障害予防と補強)重視
- ⑥ 見取り稽古重視
- ⑦ 読書と他文化の理解
- ⑧ ストレスに勝つ剣道



資料No. 1 心・技・体の変化の図

※ この図の説明はP12よりの岡村先生の特別寄稿に詳しく書かれています。

(2) 上達するための稽古法



- ① 素晴らしい一本を求め続ける。
- ② 常に基本を復習し続ける。
- ③ 「打ち間」の研究―「懸待一致」を理想として

間合・攻め・機会

- ④ 「退かないこと」の妙味
  - ⑤ 互格稽古の心得―まず初太刀を大切に、対々の稽古、先の技での稽古 (掛りの稽古)
  - ⑥ 自分の目標を追う稽古 (勝利至上主義からの脱却)
  - ⑦ 呼吸法
- 3 剣道は素晴らしい―みんな仲良く楽しく剣道をしよう。

指導法 吉田 坦 講師・角 正武 講師「理論・実技」

指導法講習における

〔重点事項〕

わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承し、その発展を図り、「剣道の理念」に基づき、心身の錬磨による人間形成を通じ、社会の健全な発展に寄与することを目指し、正しく強く高い水準の

剣道を育成するため、次のことを指導法の重点事項とする。

- 1 技術以前の所作、礼法、着装について徹底指導させる。
- 2 竹刀の操作について、刃筋・手の内・冴え・鎬を意識した使い方徹底指導させる。

3 一足一刀の間合から、一拍子で正しく打ち切る技能を中心課題とするとともに、それぞれの技量に応じて理に適った応用技の習得を図る。

4 正しい攻防の指導を徹底させる。

- (1) 氣勢の充実しないままの打ち合いを是正させ、気構えを強くして中心を外さない攻め合いを重視させる。

(2) 安易に左拳を中心線から外す防御態勢を厳しく是正する。

5 正しい鏢せり合いからの技の理解・実践を徹底させる。

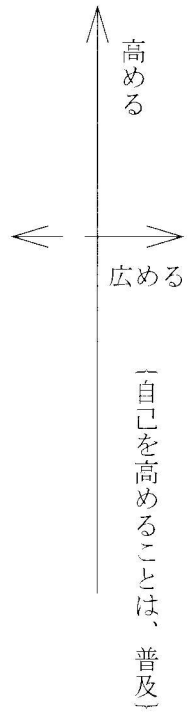
- (1) 鏢と鏢が接する構えをとらせる。

(2) 分かれる際、相手の身体に竹刀をかけたたり、当てたりさせない。

(分かれる方法としては、技を出すか、瞬間に間を切るかの二通りがある)

6 剣道の理解を深めさせるため、講話を積極的に取り入れ、心の問題について認識を深め、修練を通して道徳的価値観の育成をはかる。

※以上の重点事項について、対象者の特性に応じ指導内容を精選して取り扱うこと。



※特に、1、2、3、4、5は、身法・刀法、6は心法である。

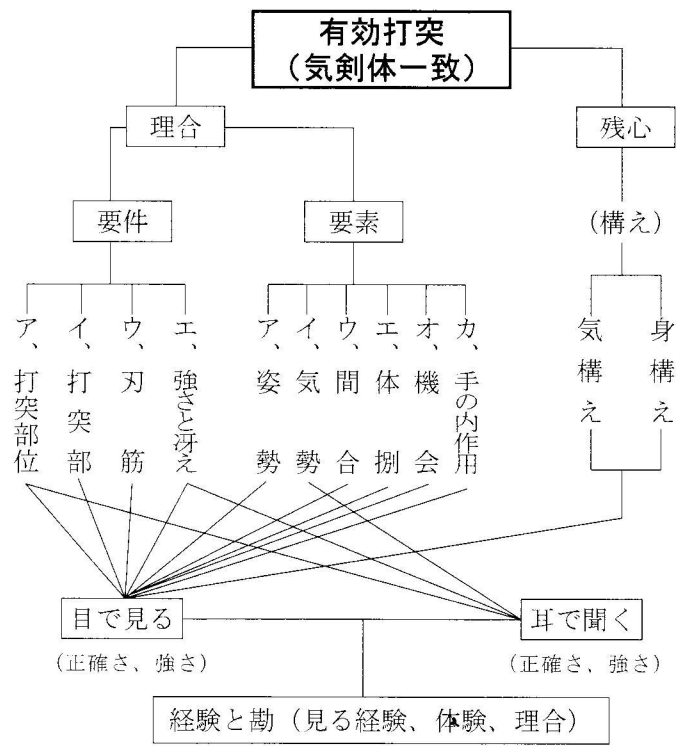
審判法 後藤 清光 講師 「含む審判実技」

### 審判法講習における

〔重点事項〕※審判法の重点事項（従前とは違っている）

審判員は、剣道試合・審判規則の理解のもとに、次の事項に留意して、適正な試合運営に努め、試合の活性化を図る。

- 1 試合内容を正しく判定する。
  - 2 有効打突を正しく見極める能力を養う。
  - (1) 有効打突の条件と諸要素の理解
  - (2) 技の違いと錬度に応じた打突の見極め
  - 3 禁止行為の厳正な判断と処置をする。
  - (1) 行為の原因と結果の正しい見極め
  - (2) 禁止行為に対する適確な処置
- ※1 試合内容を正しく判定する。↓審判員の協調・連携・調和をと  
り、規則の正しい理解・経験則の客観的視点にたつ。
- (1) 有効打突の条件と諸要素の理解 ↓ 心法・身法・刀法と要件・



資料No.2 有効打突の条件と諸要素

要素（資料No.2）で有効打突を理解する。  
仕掛け・応じの技の違いや軽い場合でも切れ味で一本になり、強い打ちでも一本にならないことがある。また、年齢的なレベル・大会のレベルによって錬度を掌握。これらの能力は稽古によって養い、高めていくものである。

### 審判員の資格

(精神面)

- 1 公正無私な人であること。
- 2 冷静、果斷、信念の人であること。
- 3 中正なる一貫性を持續しうる人であること。

(技術面)

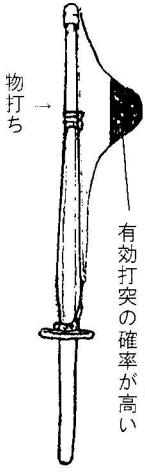
- 1 剣理に精通していること。
- 2 規則を完全に熟知していること。
- 3 十分な修練を積み、豊かな経験を有していること。

(健康面)

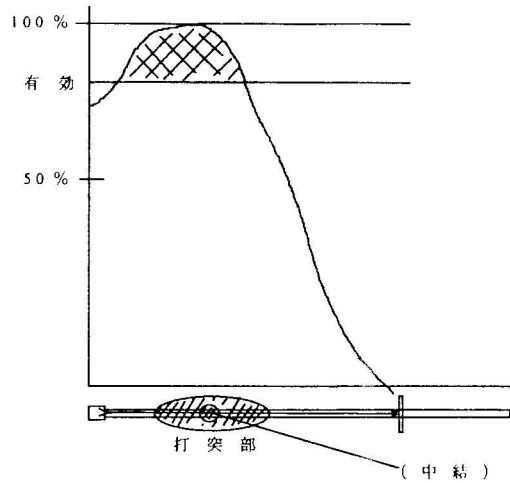
- 1 肢体健全にて体力があること。
- 2 正視、正聴の人であること。
- 3 言語が明確であること。

### 条文の解釈

- (1) 6、9、10条 試合時間 主審の宣告。  
誤差は主審の裁量、裁量の範囲を逸脱している場合は18条。
- (2) 11条 中止要請の処置
- (3) 13条 物打ちを中心とする刃部。  
有効打突の確率が高い



(4) 14条 (細則第三図参照)



- (5) 24条 副審から「止め」↓余りないが発声する。
- (6) 27条 取り消し。
- (7) 28条 錯誤。
- (8) 30条 負傷・事故。
- (9) 35条・36条 異義の申し立て。
- (10) その他(細則) 先細の竹刀(測定の方法)。  
竹刀を落とした場合(細則11条)・剣先が相手の上体前面についている場合
- (11) 「全うしつっ」……完全であるという願望を込める。  
適性(適法・厳止・妥当)。

## 一部改正

○規則・細則16ページ

〔細則第24条〕

規則第27条(有効打突の取り消し)は、打突後、必要以上の余勢や有効などを誇示した場合とする。

○規則・細則18ページ

〔細則第27条〕

主審は、試合者の竹刀の弦が上になっていない場合、一回のみ明確に指導する。

○規則・細則24ページ

〔別表〕審判員の宣告と旗の表示方法

分かれ

1 つば(鏝) ぜり合いがこうちやく(膠着)したとき

○剣道試合・審判運営要領6ページ

『中止』

1 審判員の中止宣告は、次の場合に行なう。

① 反則の事実 ② 負傷や事故 ③ 危険防止

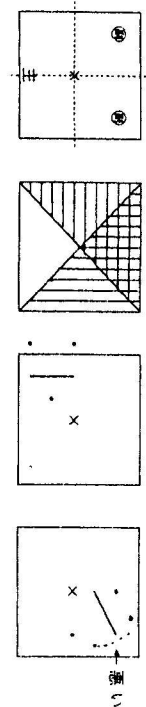
④ 竹刀操作不能の状態 ⑤ 異議の申し立て ⑥ 合議

○剣道試合・審判規則の改正と運用上の要点6ページ

〔第27条〕(有効打突の取り消し)

全文削除する。

## 審判員の移動・旗の表示方法



(1) 試合開始時、礼が終わって副審が移動する際、開始線を目指して内回り。正面への礼も内回り。複数の試合場の場合は正面に近い方向で回る。

(2) 「分かれ」「始め」旗の動作の後に発声はしない。

(3) 次の審判員の入場のタイミング。

(4) 後ろ向き歩行は(数歩の場合は良いが)良くない。

(5) むやみに場外で審判しない。

(6) 発声はわかるように活性化をはかる。

日本剣道形 青木 彦人 講師・田口 榮治 講師

## 日本剣道形講習における

〔重点事項〕

わが国の伝統文化である日本剣道形を正しく継承し、次代に伝えることは大きな意義がある。

正しい刀法に基づいた剣道を学ぶためには、平素の稽古の中に日

本剣道形を組み入れる必要がある。

正しい日本剣道形の修得を図るため、次のことに留意して指導するよう重点事項を定めた。

- 1 立会前後の作法、立会に所作、刀の取り扱い。
- 2 正しい刃（木刀）の操作（刀筋、手の内、鎗の使い方など）や体さばき。

- 3 打太刀、仕太刀の関係を理解し、呼吸を合わせ、原則として仕太刀が打太刀より先に動作を起こさないこと。

- 4 打太刀は間合に接したとき、機を捉えて打突部位を正しく打突し、仕太刀は勝機を逃すことなく打突部で打突部位を正確に打突すること。

- 5 形の実施中は、目付け、呼吸法、残心などを心得て、気分を緩めることなく終始充実した気迫で行なうこと。

☆重点事項 3・4 は身法、5 は心法で日本刀を中心に修練する。緩急自在により、勝機を逸しない。

《今回、特に前回よりも解説書の文言を改正した主な箇所（解説書の文言を二十六箇所、改正した）》

☆一本目では、従来の「仕太刀の柄もろともに打下ろす気構えが大切で打ち下ろした剣先は、下段の構えからやや低くなる」を、「仕太刀の柄もろともに打ち下ろす気構えが大切である」と文章を訂正しました。

☆二本目で説明文を変えたところは、打太刀が仕太刀の右小手を打ち込んでいくのを抜いて、仕太刀が打太刀の右小手を打つときの

抜く方の部分です。

☆三本目の解説文を変えたところは次の二点です。

「下段の剣先の高さは、相手の左膝頭より……」となっていましたのを、これは高さの説明だから「左膝頭」の「左」は必要なしとして左を削除しました。

もう一点は、仕太刀の位詰の運足と剣先のつけ方が別々にならないよう「右、左、右と小足で三歩進みながら行う」とし、運足と剣先のつけ方が一致するように表現を簡明にしました。

☆四本目

原本

「打太刀八相仕太刀脇構ニテ互ニ左足ヨリ進ミ間合ニ接スルヤ……」とあり、歩数・歩幅についての記載はありませんが、昭和五十六年の現代文、注(1)に、「歩幅は、やや小さく三歩進む」と説明し、十三年度版講習会資料（以下⑬と略）もそのとおりに記しています。

更に、やや小さく三歩進む理由を、⑬では「互いに諸手左上段に変化し、十分に右足を踏み出して大業で切り結ぶ遠間の面の相打ちを理解させるためである」と言わずもがなの説明をしてしまっている。

☆五本目

打太刀は諸手左上段、仕太刀は中段で……。この仕太刀の中段は次のように表記されていました。

「イ、仕太刀の左拳（手元）は、やや前に移行して構え、剣先

は打太刀の上段の左拳につける。口、刃先は、下を向く」。今年度、「刃先は、下を向く」という説明を削除しました。

#### ☆六本目

説明文を削除したり変更したところはありますが、老婆心ながら申し上げますと「打太刀は中段、仕太刀は下段で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て…」というところでは、太刀七本の形のうち六本目のこのところだけ「仕太刀が機を見て」となっていますから、他とは理合がやや異なるという点に注意して修練する必要があります。

#### ☆七本目

仕太刀が打太刀の右腕を打った後の諸手の伸ばし方、「諸手は十分に伸ばし、刀は手とほぼ平行に右斜め前にとり…」という部分の説明を、「刀はほぼ右腕の延長上とする」に改めました。

以上が日本剣道太刀七本目までの主な所作説明を訂正した箇所です。

「剣道理念」に基づいた形。形は理念を体現化していく。竹刀打ちの原点が形であるので、人間形成につなげていく修練が必要である。特に所作を覚えることは大切であるが、内面的なことを修練することによって剣道を良くする。

### ◎注意

- 1 横手あたりを交差させる。
- 2 技は一足一刀の間合で良い。

3 四本目 三步進み(特に小幅でない)、相打ちになったとき間合いが近すぎる場合は、双方同じ気位で互いの刀身が鏑を削るようにして、打太刀が間合いをとる。

### おわりに

剣道の指導者は、本当に剣道の指導者であると共に自分が剣道を学び続けている人である。

こういう自覚がなければならぬ。剣道そのものをしっかりと学び、剣道そのものを文化としてしっかりと伝えていくという役割が私たちにある。

生涯剣道を学び続け、このすばらしい剣道をさらに広め、自ら剣道を高めて向上し続けていきたいものである。

この講習会を通して西日本各地で剣道に精進されている立派な先生方と親交を深めることができたことは、吉永先生、私にとりましては、大きな収穫でありました。

講習会でお世話になった講師の先生方、派遣していただいた徳島県剣道連盟様には厚く厚く心から感謝を致します。

以上で、剣道中央講習会の報告とさせていただきます。



## 居合道中央講習会に参加して

居合道七段教士

### 坂本 憲 一



居合道中央講習会は、全日本居合道大会を前にして毎年九月に行われるが、私

にとつては、二回目の参加である。第一回目は、確か六段を拝受した平成八年であった。その時は、初めての経験という事も手伝って、どのような講習内容なの

か、他の参加者に出遅れまいか等、いささか不安な気持ちを抱いての参加であった。

今回は、初参加より八年が経過し、七段位をいただいての参加である。参加にさいしては、不思議にも前回のような心配はおこらず、むしろ、おぼろげな記憶を思い起こして、講師陣や講習内容がどのような変化しているのか等々、ただぼんやりと考えただけで、これも二度目故の惰性かと若干反省をもしてみた。

講習会は、七名の講師陣と全国各都道府県の連盟より派遣された者の他に、全日本居合道大会の審判員として選ばれた八段の先生を併せて一〇二名で行われた。

第一日目は、「東西二ブロックの講習会では指導法等に若干のバツキがあった。四年前からは一堂に会して行い、全国的な意思統

一が図られるようになり、大きな成果となっている」という安武会長挨拶から始まった。

最初の講習は、全剣連盟居合である。河村講師の解説のもと藤村講師が演武をするという形で、礼式に続いて全剣連居合十二本の解説と実技指導が併行して行われた。解説では陥り易い盲点と押さえるべき要所が実に詳細に指摘され、今までに見過している点が多々あり反省するところ大であった。

次に、指導者として留意すべき事項について説明・確認がなされたことも特筆すべきで、これらは、七段に続き教士称号をいただいた自分にとつて、実に有意義なものであった。

紙面の関係で内容は省くが、河村講師の「道元」の言葉を引用しての話は実に興味深く聞くことができた。

午後は、六班編成となり、各班に担当講師が付き、より正しい居合道の普及を前提とした指導が行われた。八段を筆頭に七段・六段・五段入り交じつての講習となったが、特に八段の先生方の真摯な受講態度には、実に頭がさがり、県連より派遣された者としての自覚を大いに喚起させられた。

二日目の午前中は、審判実技の講習で、河村講師により冒頭に次のような留意点が挙げられた。「大会の成否は審判員に負うところが多い。特に勝敗の決定・禁止行為・審判方法・態度等について留意し、格調ある立派な大会に導いてもらいたい」。続いて池田講師の講話のあと審判実技に移った。

全日本居合道大会審判員として選ばれた八段の先生方が交代で主

審・副審を務め、七・六・五段がそれぞれ一組となり演武する。試合中におこりうるあらゆる場面(技間違い・時間オーバー等々)を想定して行いそれに判定を下す、いわゆる模擬試合である。いくら模擬とはいえ演武する者、審判をする者が、実に熱心に取り組み、私も五回ほど試合に臨んだが、何れも周囲の雰囲気から緊張の連続で、正に実戦さながらの講習となった。

この講習は、審判経験の浅い自分にとつては実に有益なもので、豊かな審判知識の習得と、審判員としての経験を出来るだけ積むこと等々、今後の取り組みに多くの示唆を与えられたものである。

二日目の午後は古流の研究である。夢想神伝流・無双直伝英信流・伯耆流等六流の三班編成とし、各班に複数の講師が付き終始熱心に指導がなされた。同じ流派でも指導者によつては理合にそれぞれ個性がある。さまざまな理合を知るのも自己の技を練磨するのに多いに役立つ、この会は多分にその機会を与えてくれた。

また、当講習会は他流を知るためにもいい機会である。本講習では、他流の講習を受けるわけにはいかなかったも、異なる流派の先生方と接する機会には恵まれる。あくまで私見ではあるが、このような講習会には、他流派の要点だけでも学べる機会があつてもよいように思う。審判にさいして他流派の立ち会いをより正確に判定する為にも。

ともあれ二日間の講習会はあつという間に過ぎた。七段の昇格時に師より頂いた言葉がある。「七段教士からが本当の修練である。安心は禁物、初心に帰れ」。この言葉を念頭に今後、ますます精進

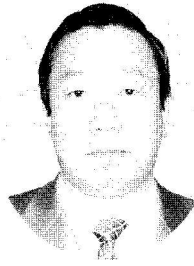
を続けてゆく積もりである。

最後になつたが、講習会参加の機会を与えてくださった県連はじめ居合道部の諸先生方に心より感謝を申し上げて筆を擱きたい。



## 第四十回中堅剣士講習会に参加して

藤 本 辰 夫



第四十回剣道中堅剣士講習会は、平成十四年六月十二日から十六日までの四泊五日の日程で奈良市中央武道館において行われた。全国からの講習生を一所に集めるようになって二年目であった。

宿泊所に到着すると、役員四名、講師十一名、講習生五十九名のそうそうたるメンバーのなかにあって一抹の不安を感じざるをえなかったが、何とか五日間無事で頑張り抜かなければと決意を新たにしました。

宿舎での部屋割りでは私は二十畳ほどの畳部屋で九州の講習生九名と一緒に、親交を深めることができたのはたいへん嬉しかった。

さて、講習内容であるが、まず講師の先生方の勤勉博識ぶりに驚かされた。私がこれまで耳にしたことのないような書物の名前や言葉が次々と出てきて、剣道の精神面を理解するのに大いに役立った。

日本剣道形については有満政明講師が中心となり、主に日本剣道形に対する解釈の仕方を改めた点について指導された。

指導法は島野大洋講師が中心となり、切り返しと正面打ちについて重点的に指導された。振り返ってみると切り返しに始まり、切り返しに終わった気がするくらいである。



第40回剣道中堅剣士講習会 平成14年6月12日～16日 奈良市中央武道場

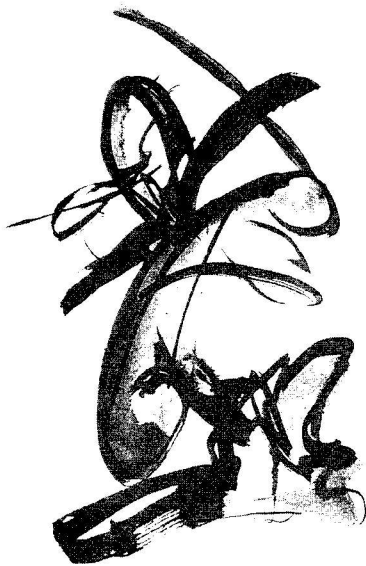
審判法は加藤浩二講師が中心となり、特に審判の姿勢と立つ位置、移動のしかたが大切であり、これらが有効打突の見極めに大きく影響することを学んだ。

特別に林邦夫講師がご専門の剣道と高齢化についての研究成果をご紹介下さり、これからの高齢化社会に向かつての剣道の鍛錬の方法や指導法についてたいへん参考になった。

最後にスポーツ医学について大阪大学教授の宮坂昌之講師が「疫をまぬがれるとは？」というテーマで講義があった。その中で貝原益軒の養生訓についての説明があり、現代にも通じるその内容のすばらしさにただ感動するばかりであった。少し抜き書きすると「養生の術は先ず心気を養うべし、心を和にし、気を平らかにし、怒りと欲をおさへ、うれひ、思ひをすくなくし、心をくるしめず、気をそこなはず、是心気を養ふ要道なり。……酒は微酔にのみ、半酣をかぎりとするべし。食は半飽に食ひて、十分に満つべからず。又、わかき時より色慾をつつしみ、精気を惜むべし……」

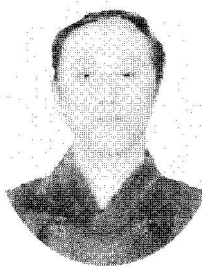
幸いにも我々五十九名の受講生は怪我人や落後者もなく全員無事閉講式を迎えることができた。

ただ一つの心残りは柳生正木坂道場を拝見することができなかったことである。また、いつの日か折を見て行ってみたいと思う。



## 社会体育指導員養成講習会 (初級コース)に参加して

名西支部 久保隆司



平成十四年九月二十一日～二十三日の三日間、鷺敷の野外活動センター及びB&G海洋センター体育館で行われた、全日本剣道連盟主催の社会体育指導員養成講習会(初級コース)に参加させていただきました。いただきました。

今まで香川県、岡山県、和歌山県等で開催された折参加したいと思っておりましたが、仕事上平日に開催されていたためなかなか参加することができませんでした。

今回は初秋の気候もよく仕事も連休であり、参加することができました。おそらく徳島県剣道連盟執行部の先生方のご努力と、強い働きかけがあったものと思います。ご配慮頂いた先生方に深く感謝いたします。本当にありがとうございます。

今回の講習会は、まず講習会の前に課題論文の提出を求められておりまして、剣道社会体育教本を二、三年前から持っていて少々は読んでいましたが、今回は力を入れて読み予習をすることができ、講義内容も理解し易かったように思います。

また三日間の間に七回のテストが実施され、緊張感の切れる間も

なく受講することができたのも非常に良い経験ができたと思います。そして早朝の朝稽古から、昼の講習会また夜の剣道談義、裏話等全日本剣道連盟をリードする夢のような憧れの先生方の、熱血指導により心身共に、実になる体験をすることができました。

しかしながら、今回受講生の少ないのに講師の先生も受講生の私たちも驚きました。指導者十数名に対し、受講生二十八名県内の先生は十数名でした。しかも県内の参加された先生のほとんどは、県内外の講習会、稽古会等にも参加されている方々ばかりでした。徳島県下に剣道道場、剣道教室、サークル等多数ある中で初級(三段以下)の指導を日頃されておられる、先生方の参加が非常に少なく大変寂しい思いがしました。

過去の経験だけで指導されておられる先生が多いのではないのでしょうか。試合審判法及び試合規則、細則、幼少年指導法、剣道形等勉強、研究されているのだろうか？

各地へ審判、審査、稽古会に参加していますが、疑問を感じる点が非常に多いのですが、そう感じるのは私だけでしょうか？ この文を読まれた方ご意見ご感想がございましたらメール&お手紙ください。

世の中(全日本剣道連盟等)の流れに気がつかなくなったり、知って目を伏せている先生居ませんか？ 前向きに子供に指導しているように、一緒に研究、勉強やりませんか！

「やって見せ、聞かせて教え、誉めて育てる」

山本五十六元帥 合掌



Eメール ryuuzan @ mb2.tcn.ne.jp  
携帯メール awaryuuzan-55 @ docomo.ne.jp

〒七七〇〇〇四七 徳島市名東町一丁目一四一七  
久保隆司



# 社会体育指導員養成講習会

## (初級)に参加して

喜 浦 理 砂 子



平成十四年九月二十一～二十三日の三日間、自然に囲まれた驚敷で講習会は行なわれました。この講習会は指導者として「指導力を高めること」と、自分が「生涯剣道の実践者としての基礎を学ぶこと」この二つを目的として行なわれており、

講義、実習ともに充実した内容となっていました。

ここで自分はいったい何を学んだのだろうか。何を感じたのだろうか。講習内容はもちろんのことですが、私にとっては講師の先生方や周りの受講生の先生方からも教えられるものがありました。

まず思い出されるのが、受講生の「学ぶ姿勢」です。受講生といっても私にとって先生という方々(二十八名中七段十二名、六段五名、五段七名)がほとんどですが、熱心に講師先生の話聞き、領き、メモをとり、さらに良いものを吸収しようという態度でした。知識や技術は自ら求めなければ与えられないし、そういう努力をしなければ自分のものになりません。やはり先生と慕われる方はそういう姿勢ができていますと刺激を受けました。

続けて稽古している、ただそれだけで満足している方は多いので

はないでしょうか。私もどちらかという人でした。今回この講習会に参加しなければ、社会体育教本や試合審判規則、幼年指導法とこんなに通すこともなかったと思います。子どもたちを指導する前に指導者自身が常に向上しようと努力しなければよい指導はできません。

指導するというのは、自分が教わったものをそのまま教えるのではなく、いいものを究めて伝えていくものであると今回学びました。果たして自分はそんな指導ができているのだろうか。ほとんどが言うだけで終わっている気がします。

究め伝えるためには、こういう講習会に参加し、多くの経験をして、考えないといけないと思います。この講習会で、講師の先生方からお話や御指導して頂いたことは、私から教わったことを究め指導していく上で大切なものになると思います。まだまだ課題の多い私ですが、今回得たものをはやく自分のものにし役立てていきたいです。

最後に、講師先生はじめ周りの先生方には大変お世話になりました。「頑張つて」と優しく声を掛けて頂いた時は、ほっとしたものでした。ありがとうございました。

## 社会体育指導員養成講習会の感想

徳島支部 磯部 洋 一



私は長年、趣味で剣道を続けてまいりました。一昨年より、少年剣道の指導にもたずさわるようになり、またこれからも、出来るだけ長く剣道に親しみたいと思います、一度剣道について、体系的に学んでみたいと考えておりました。こうした

中で、今回の講習会が徳島で開催されることを知り、カレンダーを見ると、ちょうど三連休で職場に迷惑をかけることもないため、早速申し込んだ次第です。

何日かたって、日程表、テキスト、論文課題、事前学習内容などが送られて来ました。日程表を見ると、早朝六時三十分から始まり、夕方七時十五分までびっしり書き込まれ、論文課題、事前学習については、講習会までに準備しておくということで、これは大変な講習会だなと思いました。

講習会では、内容が盛りだくさんで、講義時間の不足についてはテキストを後で読んでおくこと、といった状態でした。社会人を対象に、三日間で実施するとなるとやむを得ないことと思います。また講義、実習を通じて感じたことは「剣道の正しい姿を、正確に講習生に伝え、それを講習生が各地域に持ち帰り、指導する場面にお

いて生かしてもらいたい」という、先生方の熱いお気持ちでした。その思いに少しでもお応えしようと、講習生も真剣に聴講し、実習しました。

また審判法、剣道形、基本実技の指導を受ける中で、これらのことについて、先生方がいかに日頃から研鑽、研究を重ねられているかが、ひしひしと感じられ、頭の下がる思いをしたのは、他の講習生の同様だと思えます。

特に印象に残ったことは、「剣道は競技年齢が高まっても、向上し続ける可能性を持っている。体力の低下を技法、心法で補うことができる。これが剣道がもつ最も優れた特性である」ということでした。このことは、出来るだけ長く剣道を続けようと考えている私にとって、有難いお言葉であり、光明でもあります。

私たちも、剣道競技を審判する上は、また初級者に指導する機会があるなら、自分の経験のみで判断することなく、また古い知識に頼るのではなく、これからも新しい情報に接し、これを取り入れていくことの大切さを痛感した講習会でした。

最後になりましたが、熱心にご指導くださった先生方、お世話いただいた事務局の方々に心より御礼申し上げます。

## 第 43 回全剣連社会体育指導員養成講習会 日程表

〔平成 14 年 9 月 21 日(土)～ 23 日(祝) 於：徳島県・鷲敷青少年野外活動センター〕

| 時限 | 時刻                      | 第 1 日目(9 / 21 土)             | 第 2 日目(9 / 22 日)            | 第 3 日目(9 / 23 祝)       |
|----|-------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 1  | 06 : 30<br>↓<br>07 : 15 |                              | 実技実習 2<br>(大保木輝雄・<br>武藤健一郎) | 実技実習 4<br>(大保木輝雄・山神眞一) |
|    | 07 : 30<br>↓<br>08 : 00 |                              | 朝 食                         | 朝 食                    |
| 2  | 08 : 30<br>↓<br>09 : 15 | 8 : 30 受付け開始<br>9 : 10 ガイダンス | 体力トレーニング実習<br>(林 邦夫)        | 個人・集団指導法<br>(脇本三千雄)    |
|    | 09 : 25<br>↓<br>10 : 10 | 9 : 50 開 講 式                 | 正しい基本技術指導法<br>(福本修二)        | 体力トレーニング理論<br>(山神眞一)   |
| 4  | 10 : 20<br>↓<br>11 : 05 | 剣道の特性(岡村 忠典)                 | 障害疾病の観察と対処<br>(川端正義)        | 剣道用具の衛生と安全<br>(山神眞一)   |
|    | 11 : 15<br>↓<br>12 : 00 | 剣道の歴史(大保木輝雄)                 | 試合審判規則の意義役割<br>(松永政美)       | 理論テスト                  |
|    | 12 : 00<br>↓<br>13 : 00 | 昼食・休憩                        | 昼食・休憩                       | 昼食・休憩                  |
| 6  | 13 : 00<br>↓<br>13 : 45 | 通信教育分テスト<br>論文審査             | 剣道形実習・指導法 3<br>(田口榮治・脇本三千雄) | 基本実技<br>形演技テスト         |
|    | 13 : 55<br>↓<br>14 : 40 | 剣道形実習・指導法 1<br>(田口榮治・脇本三千雄)  | 審判の基本技術実習 1<br>含む模範・指導(全講師) |                        |
| 8  | 14 : 50<br>↓<br>15 : 35 | 剣道形実習・指導法 2<br>(田口榮治・脇本三千雄)  | 審判の基本技術実習 2<br>(全講師)        | 着替え<br>休憩 判定会議         |
|    | 15 : 45<br>↓<br>16 : 30 | 剣道の基本技術指導法 1<br>(角 正武・林 邦夫)  | 審判の基本技術実習 3<br>(全講師)        | 閉講式<br>(結果発表)          |
| 10 | 16 : 40<br>↓<br>17 : 25 | 剣道の基本技術指導法 2<br>(角 正武・村上 済)  | 剣道の基本技術指導法 4<br>(岡村忠典・村上 済) |                        |
|    | 17 : 35<br>↓<br>18 : 20 | 剣道の基本技術指導法 3<br>(村上 済・林 邦夫)  | 剣道の基本技術指導法 5<br>(田口榮治・村上 済) |                        |
| 12 | 18 : 30<br>↓<br>19 : 15 | 実技実習 1<br>(岡村忠典・武藤健一郎)       | 実技実習 3<br>(山神眞一・武藤健一郎)      |                        |
|    | 19 : 15<br>↓<br>22 : 00 | 夕食・入浴<br>自由時間 就寝             | 入浴・自由時間<br>懇親会              | ※ ( ) は講師名             |

## 第43回社会体育指導員（初級）養成講習会 講師名簿

（於・徳島県 鷲敷青少年野外活動センター）

財団法人 全日本剣道連盟

|   |       |
|---|-------|
| 全日本剣道連盟常任理事 社会体育指導員委員会委員長<br>全国高等学校体育連盟専務理事       | 岡村忠典  |
| 全日本剣道連盟常任理事 玉川大学客員教授                              | 松永政美  |
| 全日本剣道連盟常任理事 慶應義塾大学総合政策学部教授                        | 福本修二  |
| 全日本剣道連盟常任理事 福岡教育大学保健体育科教授                         | 角正武   |
| 社会体育指導員委員会委員 衆議院講師<br>警視庁剣道名誉師範                   | 田口榮治  |
| 全日本剣道連盟常任理事 社会体育指導員委員会委員<br>香川県剣道連盟副会長 四国学院大学剣道師範 | 村上濟   |
| 社会体育指導員委員会委員 中京大学体育学部教授                           | 林邦夫   |
| 全日本剣道連盟参与 社会体育指導員委員会委員<br>国土館大学非常勤講師              | 脇本三千雄 |
| 埼玉大学教育学部教授  | 大保木輝雄 |
| 香川大学教育学部教授  | 山神眞一  |
| 社会体育指導員委員会幹事 成蹊大学工学部助教授                           | 武藤健一郎 |
| 医療法人敬愛会理事長 大鳴門内科医院長 徳島県会議員                        | 川端正義  |

# 佐藤博信先生講習記録

警察支部 半井大輔

平成五年の東四国国体以来、本県剣道強化アドバイザーコーチとして、東京から佐藤博信先生（範士八段・元警視庁主席師範）を毎年お招きして国体強化の指導を受けています。以下に今年行われた講習の概要を報告します。

9月7日

|       |  |
|-------|--|
| 14:45 | 準備体操、素振り   |
| 14:55 | 開会式 ・開式の言葉 ・講師先生の紹介<br>・佐藤先生の挨拶<br>「徳島人は、堀江先生を中心にして、いい剣道をする。剣道は打った、打たれただけになりやすいが、徳島の剣道はその人間関係が素晴らしい」 |
| 15:05 | 準備運動<br>平野先生の指導の元、全員で行う。   |
| 15:20 | 試合 ・少年男子・少年女子<br>・成年女子   |
| 16:45 | 稽古   |
| 17:40 | 閉会式  |

| 少年男子 | 先鋒  | 次鋒 | 中堅     | 副将     | 大将  |
|------|-----|----|--------|--------|-----|
| 国体選手 | 神元  | 原  | 林      | 小川     | 田中  |
|      | ×   | ×  | ⊗<br>↓ | ⊗<br>↓ | ×   |
| 徳島選抜 | 大石洋 | 小林 | 折坂     | 西崎     | 大石真 |

（佐藤先生の全体の総評）

立ち上がってから、まず機会を見る。様子を見る。打つときは思い切って打って決める。打たれたくない、負けたくないではない。立ち上がってから、「さーこい」と思う。そして、相手がきたら、竹刀を押さえる、返す、抜く、を行う。

（佐藤先生の個人の総評）

先鋒 神元…すぐつばぜりになる。狙って打っていない。受けたら返す。また、相手打つときの起こりを狙う。

次鋒 原 ……つばぜり合いから決まらないのは、氣迫がない。全

力で打ち切る。

つばぜり合いから打つときは大きく打つ。攻撃技は捨て身で打つ。

て身で打つ。

相手の剣先をいじるだけでなく、払うか、殺すか、

行う。

中堅 林 ……全体的に良かった。引き面、引き胴も良かった。

副将 小川……全体的に良かった。

(佐藤先生の全体の総評)

「負けないぞー」という気持ち、「何くそー」という気持ちを持つ。

自分の気持を100%出す工夫をする。チョンチョンチョンと三つ

打つよりは、ガツーンと一発出す。

例えば、全日本選手権者である宮崎選手のすごい所は、相手が誰

でも同じようにできる所。相手との打つ間合いと距離ができてい

いつ、どの距離で打てばいいのか、考えてそれを体で覚えている。

しかし、試合でそれを出すのは難しいから必死ですることが大切。

(佐藤先生の個人の総評)

先鋒 瀬口……起こりの面がいい、体格は小さいけれど、良かった。

次鋒 小西……受けたらすぐ返す。受けるのはうまい。その次を打

つ。

中堅 橋本……引き面をもう少し大きく打つ。部位を正確に打つ。

声が上がっているの、声を上げる。気合いを後上

がりにする。

副将 佐藤……打ちが甘い。遠慮せずに、強く打つ。

大将 岸 ……攻めと打ちがいい。中間に入ってから止まる。体を

乗せてたたき込む。グンと攻めたら体を乗せる。

| 少年女子 | 先鋒         | 次鋒    | 中堅          | 副将 | 大将 |
|------|------------|-------|-------------|----|----|
| 国体選手 | 瀬口         | 小西    | 橋本          | 佐藤 | 岸  |
|      | ⓧ<br>ⓧ<br> | ⓓ<br> | ⓧ<br>ⓧ<br>ⓧ | ×  | ×  |
| 富岡東  | 吉岡         | 白井    | 昇           | 寺西 | 住友 |

(佐藤先生の全体の総評)

全体がいい試合だった。みんな時間内、いっぱいしていた。気分の切れ目がない。良かった。

(佐藤先生の個人の総評)

先鋒 坪井…全体的に良かった。

中堅 長瀬…全体的に良かった。

大将 竹内…面を打つときは、正中線を狙い、打つ時はまっすぐに打つ。まっすぐに打つと相手に分かりにくい。正中線を攻められると、相手は分かりにくい。また、正中線を攻められると本能的に怖い。真ん中を攻めるというのは、合理的でいい。真ん中を打つのは両手のバランス。しかし、それをするのは難しい。

| 成年女子 | 先鋒          | 中堅 | 大将     |
|------|-------------|----|--------|
| 国体選手 | 坪井          | 長瀬 | 竹内     |
|      | ③<br>④<br>⑤ | ×  | ①<br>② |
| 徳島選抜 | 金野          | 平野 | 森本     |

### 9月8日(日)

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 8:55  | 準備体操、素振り                 |
| 9:05  | 開会式                      |
| 9:10  | 準備運動<br>平野先生の指導の元、全員で行う。 |
| 9:35  | 試合・成年男子・成年女子             |
| 11:20 | 稽古                       |
| 12:05 | 開会式<br>佐藤先生総評            |
| 12:15 | 記念撮影                     |

(佐藤先生の全体の総評)

動きもいい。仕上がってきている。しかし、本番はみんなも同じ。試合中に、自分がハツとしない。相手がハツとしたら合わせる。気と体を相手に合わせる。小手、面、胴、突きも中心を打つ。

(佐藤先生の個人の総評)

先鋒 六條…動きもいい。引き面も振りが大きい方がいい。打つた後も大きく見せる。

中堅 平野…いい面だった。ググッと攻めてドンツときた。打突

は攻めから行う。攻めが効いた時は、相手がハッと動く。ハッと動かすには、のど元に近づけばいい。

副将 西谷…見事な試合だった。切り落としの面。剣先をはずさ

ない。受けようとしなくて、「どうぞ」という気持ちで受ける。そうすれば、剣先が効いてくる。

大将 中尾…国体の大将はあせつちやいけない。勝ちを急がない。

相手をのんでかかるくらいがいい。「勝とう、勝と

| 成年男子 | 先鋒          | 次鋒     | 中堅     | 副将          | 大将          |
|------|-------------|--------|--------|-------------|-------------|
| 国体選手 | 六條          | 富田     | 平野     | 西谷          | 中尾          |
|      | ⊗<br>⊗<br>⊗ | —<br>⊗ | ⊗<br>— | ⊗<br>⊗<br>⊗ | —<br>⊗<br>⊗ |
| 徳島   | 高橋          | 山室     | 富沢     | 鈴木          | 出葉          |

う」と思う方が負ける。「負けまい」とおもうくらいの方が良い。

| 成年女子 | 先鋒          | 中堅 |
|------|-------------|----|
| 国体選手 | 坪井          | 竹内 |
|      | ⊗<br>⊗<br>⊗ | ×  |
| 徳島   | 竈土          | 長瀬 |

(佐藤先生の全体の総評)

昨日に引き続き、いい試合だった。

引き技について

打ち間からつばぜり合いになるのは、未熟な証拠。一足二刀からつばぜりまでに、打つ機会はたくさんある。

つばぜりに入ると、崩し・かわし・引き技といつ打つか、決める。足も使う。

引き技には、さばき・振りかぶり・残心を使う。

(佐藤先生の個人の総評)

先鋒 坪井…引き技もよい。動きもよい。

中堅 竹内…二、三本いい技有り。手首をもっと使えればよい。

体で決めるか、手首で決める。手首を柔らかくして、打ったら決める。打つ機会を見極める。しかし、体を乗せて打っているのはいい。

(佐藤先生の全体の総評)

機会でない所に手を出すのはやられる。そのためには、起こりを狙う、相手が打ってくる所を狙う、相手が打った後を狙う。集中して、その上で足さばきを行う。足は滑らかに静かなに動く。スーツと動く。スーツと動くとは見えにくい。左足は自分の体を前に出すため、右足は踏みつけるのではなく、足全体で行う。足全体で行えば、体を引きつけられる。どこでも動ける足を研究する。

(佐藤先生の個人の総評)

先鋒 六條…さっきの試合よりは意識した感じ。立ち上がり「ヤー」

とただ単に打つのは良くない。我慢する。まず、相手を観察する。相手が簡単に動くほど勝負がしやすい。静かに「ハーッ」と息を吐きながら攻めると、気が散らない、集中できる。そのためには練習で初太刀を決めるようにする。

次鋒 富田…いい胴だった。相手をしっかり見ていたから胴に変

化できた。

中堅 平野…いい勝負だった。

副将 西谷…気が少し落ちた。しかし、技としては文句なし。要は気の張り方。

大将 中尾…少し我慢できた。しかしまだ、国体の大将は先に手を出した方が負け。

| 成年男子 | 先鋒     | 次鋒     | 中堅          | 副将     | 大将 |
|------|--------|--------|-------------|--------|----|
| 国体選手 | 六條     | 富田     | 平野          | 西谷     | 中尾 |
|      | —<br>⊗ | ⑤<br>— | ③<br>×<br>② | △<br>× | ×  |
| 徳島   | 近藤     | 森      | 山室          | 佐藤     | 松村 |

## 佐藤先生の総評

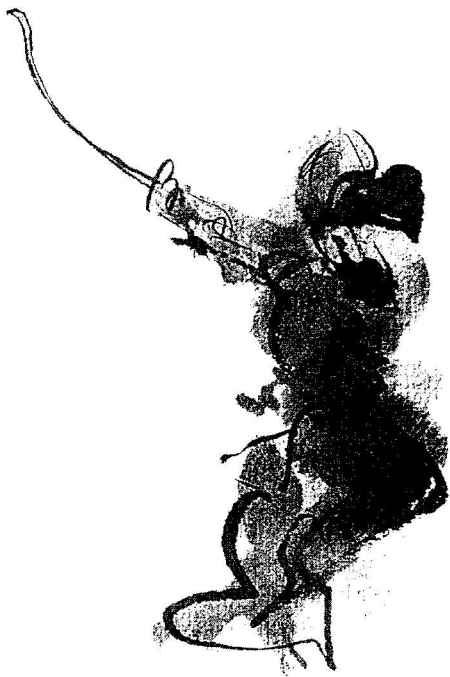
今の打ち込みを見て、去年より稽古が良くできていると思う。しかし、その良くできた基本の技を稽古、試合で出せるのはまた別である。

出すためには、試合のときの初太刀をまず大事にする。その初太刀を大事にするためには、「我慢する・留める・捨て切って打つ」ことが大切である。捨て切って打った後には、次の力がサッと出てくる。

女子で連続技を打つときの一本目を軽く打って、次の技を決めようとするのはよくない。それは通用しない。どの技も同じようにして決めたほうがいい。

胴の切り返しもよいが、胴は左右の足さばきによって打つものだから、左右の足さばきをつけて打ってもよいのではないか？

本番まであと一ヶ月。しっかりとがんばってください。皆さんはまだまだ伸びます。期待しています。



# 平成十四年度徳島県剣道連盟後期講習会

範士熊本正先生をお招きして

(平成十四年十二月二十一日(土) 中央武道館)

事務局次長 手塚 十三子

## 〈立会の前に〉

- 今年十一月、八段の受審者は十三会場にまで及び、一、四〇〇人位だったのではないだろうか。毎回受審者は増える一方である。自身が教えを乞うている先生に本当の意味で師事しているか否か、今一度自問自答してみるべきではないだろうか。最近の剣道は芸事としての師弟関係が薄らいでいる感がある。一時審査、二次審査ともに合格者の数がほぼ決まっている状態の中で、出来れば師事している先生にあらゆる意味において伺いをたててみる事が望ましいのではないだろうか。

- 徳島県下においては、八段の合格者は大沢先生以来二十年近く生まれていない状況が続いている。八段位は個人の資格である。しかし、その県を代表する資格(レベル)でもある。中国五県においても八段位に合格してほしいという願いから、一次合格者を含めて一泊研修会を行った。八段位は県代表でもあるという意味においてその費用を連盟が負担した。しかし、そのことに対して

「それはおかしい」と言った声も上がったが、それは同時に次の世代を育てる役も担っていることを視野に入れて理解すべきだと考える。

その点から本日は皆さんの志に少しでもお手伝いしたいと思っています。

## 〈立会後の講評〉

- まず、第一に剣先を生かすこと。左拳がしっかりと納まっていないと、剣先は効きません。

- 三人ぐらい相手の技に対してつっぱったままの状態の人がいた。突いて相手の技を殺したらすぐに技に変化することが必要です。つっぱったままの状態では逆に相手の方が生きてきます。即ち身体を使った打突を心がけるべきです。手先だけの打突では打突に強さが生まれません。

- ある先生は相手とのやりとり、また、技の中で出小手が出たらよろしいとみられる人もいます。相手の心を読み機をとらえた打突という意味からでしょう。見かけがよいから「面を打て、面を打て」と言いますが、現代の剣道が何故次元が低いのか、それは攻め合いがなくてすぐに打ち合っているためです。

- 審査は四人一組です。四人の中で総合評価します。私はすぐに

結果を出しません。少なくとも三組十人を越える中でレベルを越える者がいるかどうかという見方をします。(十人のうちの内容の善し悪しをみる)そのためにも、最低四人の中で秀ることが大事です。ドングリの背比べ状態では評価しにくい。以上が私の目安です。

○ 着装、礼法等本日のみなさんはよろしい。そういったことは、まず基本です。ある先生は柄頭を余して持つと、それだけで不合格だと判断される方もいらっしゃいます。こういった事を常に気をつけて稽古することが大切です。

○ 蹲踞から立ち上がる時、ここで自分の気持ちが出ること  
が大切です。足の親指だけでもよい。前に出ることが大切です。  
それが習慣づけになることによつて位、また気の流れとつながり  
ます。

○ 今日の立会いでは、返し胴が合計二本ありました。審査ではほとんどの人が面技を打っています。しかし面技は相手に遠い技です。捨て身でないと成功しません。通常審査では「面を打て、面を打て」と言いますが、そうではありません。自分の得意技を出せばよいのです。また、技として返し・すり上げが何本かありました。審査においてそれらの技はみている側からすると評価は低いものです。審査では打突の強さを身体で表現すべきです。その

点から審査と試合の評価は異なります。そこに審査の難しさがあります。

○ 非常に間の接近した状態が何回ありましたが、気の争いをし  
てそれから技へと発展させてください。

○ 相手を攻めるとは、相手の中心を攻めることです。突きは気で  
攻めることが大切です。自分は十分気で圧していると思っても相  
手に通じなかつたら無意味です。やはり平素の心掛けが重要です。

○ 二分の中で互いに一本ずつしか技を出していない立会いがあり  
ました。気争いはあつたように思いますが、それは例えて言えば、  
どれだけお金を持っているかわからない状態と同じです。自他と  
もお金を使ってみるから、お金の有り様がわかるのです。しつ  
かり自分の身につけている技を使ってみるのが大切です。

目は心の窓です

左手は心の柱です

【講話】

平成十四年十二月二十二日(土) 後期講習会

本日の受講の方々は初段から七段まで幅広い。本日は五段の方  
達を主として話を進めます。今年は今剣連創立五十周年の節目の  
年でもある。我々の剣道は戦後の剣道です。有り難いことに指導  
してくださる先生方は戦前の方です。戦後復活した剣道はスポー

ツ、又は競技の意味合いが強い。創立二十周年の時、このままでよいのかという疑問に時の石田和外会長を主として剣道の理念、修行の心構えを論された。何のために剣道をやるのか。その道筋ができた。その後二十年を経て、現在五十周年を迎える。そしてこれからの剣道について考える時期を迎えた。これから剣道修練の心構えについて創立五十周年の節目に、今後の剣道のあり方について私見を述べます。

一、**剣道を修練する人は剣道人である前に立派な社会人、常識人であることが肝要です。**

部外の人に聞くと、剣道人は熱心に努力する人、まっすぐに進むタイプの人が多いという。その反面、頑固な特性がみられる。となると剣道をする人のなかでは通用するが、一般社会においては通用しない。剣道人は剣道人同士を評価している。そして、一般社会の人も剣道人を評価している。剣道は四季の変化が厳しいときに修練することにより克己心が生まれ上達する。しかし、一般社会の剣道に対する評価は低いのです。それは、称号や段位があるからです。称号や段位は剣道界では通用するが、一般社会では全く通用しません。それらが弊害となつていのです。佐藤卯吉先生が師に挨拶に行かれたときのことです。はなむけのこととして「自分は剣道をしているんだ。○段であると言つてはだめです。聞かれた時、剣道の専門家をめざして修行しています」と答えなさい、と言われたそうです。佐藤先生はそのことを生涯忘れず、取り組まれたそうです。

そのことからして剣道専門家でありながら見識が高かったことを現しています。お互いに考えるべきことだと思えます。剣道修練の心構え(徳目)、修練の目的の前に剣道を正しく学ぶことが大切です。持田先生は剣徳正世の精神を説かれ、人間性の追求を目的とされました。矢野一郎氏(第一生命保険相互会社取締役会長)はラジオ講座で四つの徳目を唱えておられます。四つの徳目とは、礼(礼儀)、道(真面目な姿勢)、静(落ち着き、物事を見極める心)、速(敏速、臨機応変)。それらは剣道を学ぶことによつて四つの徳目が身につくのです。低い剣道評価を高めるのは我々の役目であり、各家庭の両親は自分の子供が立派になることを願っています。子供も大人も学校や社会でちよつと違うなあとというよい評価が得られるようになることを願います。

二、**剣道の果たす社会的役割**

我々は剣道をやったら立派な子供、大人になると思い込みがちです。よい子を育てるためには、学校教育・地域教育・そして一番重要な家庭教育、剣道はそれらを支えるものではないでしょうか。その国の文化を知らずしてその国を知ることではできません。技術は伝わっても真実を知ることにはなりません。狩猟文化圏の人は、「イエス・ノー」がはっきりしています。日本人は農耕文化即ち、自然を相手にしている性格上曖昧なのです。現在の指導者は技術の指導から入る傾向が強い。そうでなく、躰(礼)の指導から入るのがよろしい。素直な心で言葉が出ることが望ましい。道場で学ぶことが

家庭や学校で生かされることが大切です。(やっぱり剣道は違うんだ)

三、生涯剣道について考える

戦後、剣道がスポーツ・体育として出発したことに弊害が出てくる。ほとんどが勝ち負けの剣道に終始している。戦前の先生方は試合の勝負は評価されませんでした。「歩合はあるが力がない」といった評価です。歩合だけを見ると競技生命が限られてきます。その顕著な例は柔道や相撲など。そうなると剣道ではなくなってしまう。やはりしつかりとした基礎を培うべきです。技術も要るが生涯剣道につながるものを。全剣連創立百年に誇れるものが生涯剣道ではないでしょうか。

【指導法】

現在の剣道がなぜ底の浅いものになってしまったのか。それは、試合に勝つ―心の練りがなから。本来の切り返しの主体は元立ちであるが、現在の切り返しは準備運動的になっている。打ち込み、切り返しの主体は元立ちです。掛り稽古の主体は掛る者です。切り返しを受けるときは間合を正しくして、相手の物打ちを自分の物打ちで切り落とすのです。竹刀を立てた状態で切り落とすのです。私は青年時代(二十六・七歳頃)小川金之助先生に「自力があるとはどういうことですか」と尋ねたことがあります。「相手の段位と対等にできることです。三段には三段で、七段には七

段で」と、おっしゃいました。

- ① 一番上達が図れるのは上に掛かること
- ② 自分と同格の者とする
- ③ 下手とやって気を抜かないこと

工夫と努力によって腕は上がっていくのです。

一回の稽古をどれだけ真剣にやるかが問題です。大切なのは数よりの質です。そのことが中央の先生方と比べて負を取らないことにつながるのです。中央の先生方は逆に下手に対して、ホイホイ稽古をしていてはだめなのです。高校の指導者は大体において、三年間歩合のみ、勝つことのみを指導して、その後の指導はほとんどしてないのが実状です。しかし本当は、その後の進学・就職においても剣道を修練してくれるものに方向づけをするべきだと思います。即ち、生涯剣道です。

私自身、剣道にご縁をいただいたことに感謝したいと思います。

# 徳島の剣道史

## 徳島藩の伯耆流居合の系譜

剣道史担当

坂本裕二



### 一、はじめに

居合は抜刀術ともいう。機に臨み即時に抜刀して敵を制し、身を守る武術である。居合とは本来立合に対する語で、居座して相手に対する武技で、近世行われた抜刀術の多くが居座の姿勢からの抜刀を重んじ、これを教える基礎としたので、居合とは抜刀術を意味するようになったと思われる。

居合は剣技の一部として、古から行われ、戦国時代の末期林崎甚助が羽州楯岡（現山形県村山市林崎）の林崎明神（熊野、居合両神社）に祈り、太刀打ちの根源である抜刀の妙を得てこれを林崎夢想流と称し居合の開祖とするのが通説である。

以後江戸時代には数多く三十余の流派が続出して、武士階級に広く行われたが、明治以後世相の変移により多くの古武道は衰えたが居合は剣道の補翼として復興し、現在も多くの流派が行われている。

参考文献（国史大辞典）

### 二、伯耆流居合の来歴

伯耆流居合の開祖は片山伯耆守藤原久安である。『尾陽武芸家昔話』によると、久安は竹内流の祖である竹内太夫久盛の弟で、師匠は居合の始祖羽州林崎甚助といわれ、また一説では伯父の松庵に駿州片山の里で居合十八刀を教えられたとも言われる。久安は二十歳の頃、京都愛宕社に参籠して夢に「貫」の一字を見て悟り、一流を興した。その頃より彼の剣名は世に知られるようになり、豊臣秀次の剣の師匠に招かれ、慶長十五（一六一〇）年には後陽成天皇に召され、彼の編み出した居合の極上の位「磯の波」の秘太刀を天覧に供した。帝は彼の技の巧妙に感激して、「従五位下伯耆守」に叙した。これより彼の居合を片山伯耆流と称した。やがて豊臣家が滅亡すると久安は浪人になり、流浪の旅に出た。その途次周防岩国に滞在した。

この時岩国藩主吉川広家は、藩の師家として招聘し、次の藩主広正は、天和三（一六一六）年に客分として、十人扶持百荷を下賜した。これより彼は岩国に定着し、後裔は幕末まで代々師家となり居合を教導し、伯耆流居合は岩国藩の御家流となった。

因みに肥後熊本居合は岩国より派生したものである。

（剣道日本、国史大辞典、厳国沿革武芸一）

### 三、伯耆流居合の特長

鞘を払い腰を回転し、刃を上に向け、殆ど顔面すれすれに抜き付け、身軀全体で斬ることを旨とした。この動作は半身の姿勢から抜き付けて、片腕に全身の力を集中させるよう、編みだしてい

る。敵を倒した後の動作、所謂残心はことさら、重視し、血振りしたのち充分に血流しをおこなう。この時剣先は敵の目に向けたままで行う。完全に納刀が終わるまで、何時までも攻撃の体勢をくずすことがないこと。きりつけた時「イエイ」突いた時「ハッ」と発声することは、圧倒する気魄の必要から行うのである。以上が他の居合と異なった特色である。

『肥後拵え』

伯耆流居合の「肥後拵え」という刀剣の外装がある。これは肥後熊本藩主細川三斎が創作したものである。刀身は六五センチ前後で、柄も二十センチ前後にしている。これは早く抜くことが出来て、片手切りの場合は刀の先が伸びるので一瞬の勝負をするのに有利である。鞘には帯止めを付ける。これらのことは、現在も熊本剣士たちには愛好されている。

(剣道日本、日本剣道史、敵国沿革武芸)

四、徳島藩の伯耆流居合の来歴

(1) 片山伯耆守藤原久安 — 片山大学藤原久明 —

慶安二（一六四九）年没

内山右膳範芳

兼松新左衛門政芳

小出宅右衛門久兼  
文化六（一八〇九）年没

小出半左衛門久延

小出和太三郎芳永

勇次

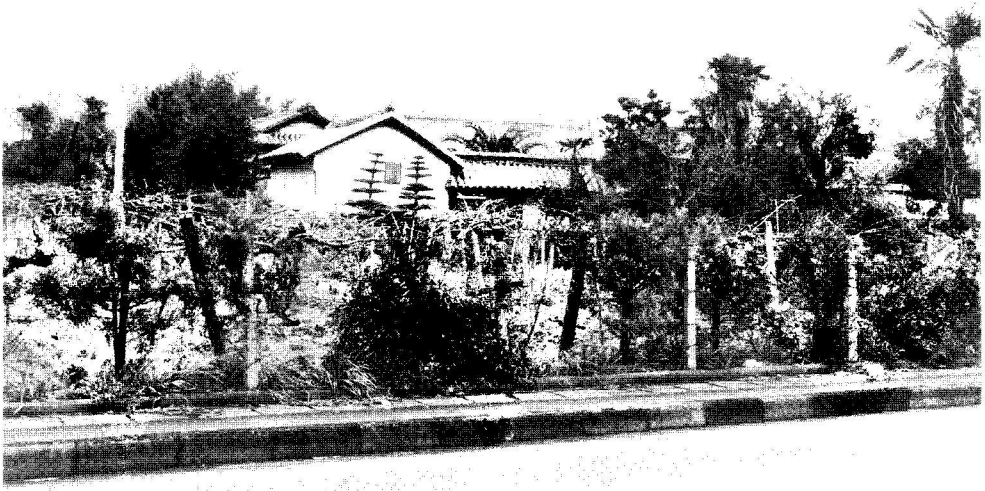
文政五（一八一七）年没

明治十（一八七七）年没

明治二十二（一八九九）年没



図版 1 1 兼松新左衛門政芳屋敷跡現当主 兼松百合子邸 阿波郡阿波町王地 26



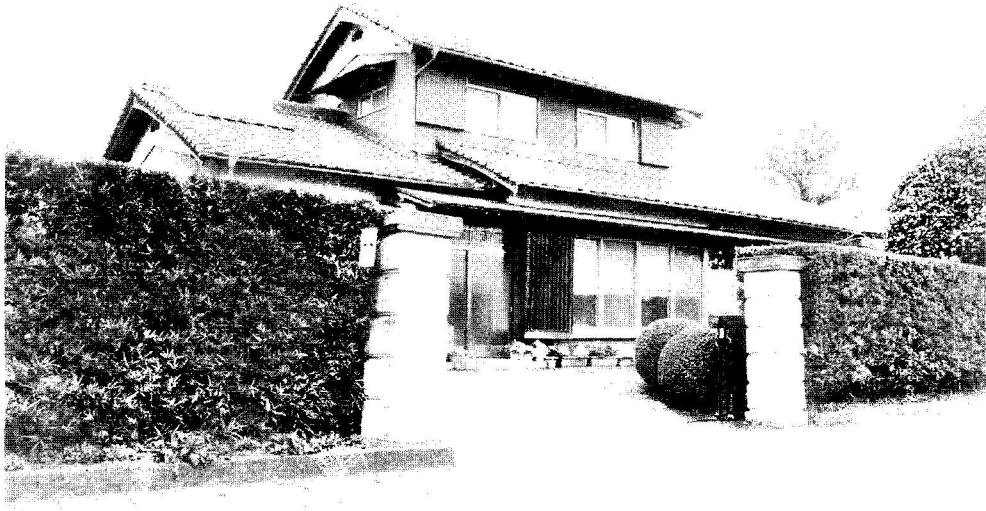
図版 1-2 兼松新左衛門政芳後裔現当主 兼松百合子邸 阿波郡阿波町王地 26

伯耆流居合の元祖伯耆守片山藤原久安は、嫡子久明に伝授した。久明は岩国の浪人内田右膳範芳を教導した。範芳は阿波郡久下山村(勝命村)に住居する先規奉公人(徳島藩士二五五〇石長江浦之助の家来)兼松新左衛門政芳を、政芳は阿波郡興崎村五町拝領の原土小出宅右衛門久兼を教導した。久兼は嫡子半左衛門久延を、久延は和太三郎芳永を教えた。小出家は師匠となり、代々居合を指導した。一方小出家の当主は文にも秀で寺子屋を開き、文武両道を以て文化発展に貢献した。

(2)小出宅右衛門久兼——大窪六左衛門義清——六左衛門武虎——  
文化六(1625)年没 嘉永二(1820)年没 文政元(1818)年没

龍藏興龍——嘉六一——  
明治十(1877)年没 大正十四(1925)年没

小出宅右衛門久兼は同郡興崎村の三町五反を拝領する原土大窪六左衛門義清を教え、義清は嫡子武虎を、武虎は龍藏を教えた。大窪家は居合の師家となったが、医術も行い、一族には御殿医になった名医もあり、大島流槍術も義清・武虎・龍藏と三代師匠をした。



図版 2-1 原士小出宅右衛門久兼屋敷跡 現当主 小出彬文邸 市場町興崎北分 89



図版 2-2 原士小出宅右衛門久延が、  
小出和太三郎に与えた免許状  
(小出彬文蔵)



図版 2-3

門弟たちが建立した、小出和太三郎芳承夫婦の墓。  
小出彬文邸の前にあり、ここに道場があった。

(3)内山右膳範芳

三代

四宮金右衛門 貞清

正信院 積觀 空了 意居士  
宝曆十(一七六〇)年没

四代

叶次立尚

五代

官兵衛 驕尚

清潭院 積義 觀居士  
寛政十二(一八〇〇)年没

正巖院 慈和 洞雲居士  
天保十五(一八四四)年没

六代

力之丞 禎尚

七代

哲之助(哲夫) 利貞

学業院 嵩山 智泉居士  
天保十四(一八四三)年没

大成院 種徳 金谷居士  
明治二十(一九〇七)年没

長男 端一

大正九(一九二〇)年没

次男 桂

昭和二十六(一九五二)年没

三男 憲章

昭和二十二(一九四七)年没

知郎

昭和六十(一九八五)年没

明彦



図版3 原士大窪六左衛門義清の屋敷跡。最近まで旧家屋があったが建て替える。  
市場町大字興崎北分172 現当主 大窪 武



図版4-1 原土四宮金右衛門貞清が創立した流慶塾の跡。文武両道を教導する。

内山右膳は同郡尾開村の五町拝領の原土四宮金右衛門貞清を教

えた。貞清は叶次立尚を、立尚は官兵衛驕尚を、驕尚は哲之助利

貞（哲夫）を教えた。四宮家は武芸のみでなく、貞清は享保十五

年（一七三〇）に漢学の流慶塾を開き、以後当主は文武両道を教

導した。特に七代哲夫は江戸昌平齋に学び、更に長崎に行き清人

傳臺濤に師事した。学成り帰郷したが、仕官せず、専ら流慶塾で

郷党の子弟の育成に専念した。門人は千有余人集ったという。哲

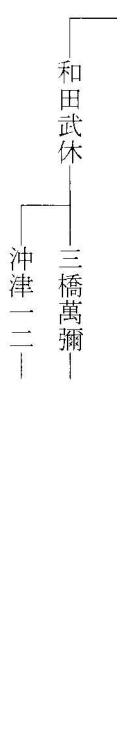
夫の倅、桂は芳川顕正の秘書や各地の郡長を務めた。弟、憲章は

国学院大学教授、桂の嫡子知郎は東京帝国大学卒で理学博士・熊

本大学教授であった。また、知郎の嫡子明彦は現在、理学博士・熊

鹿児島大学教授であり、四宮家は稀に見る学者の系統である。

(4)片山大学藤原久明——内山右膳範芳——松本仲太政芳太



内山右膳は松本政芳を、政芳は和田武休を、武休は三橋萬彌や

沖津一二を教えた。松本、和田、三橋、沖津の身分や住所は不詳

であるが、恐らく阿波郡中の郷土でなからうか。このことにより

居合は士分階級のみでなく、一般にも浸透普及していたことが窺

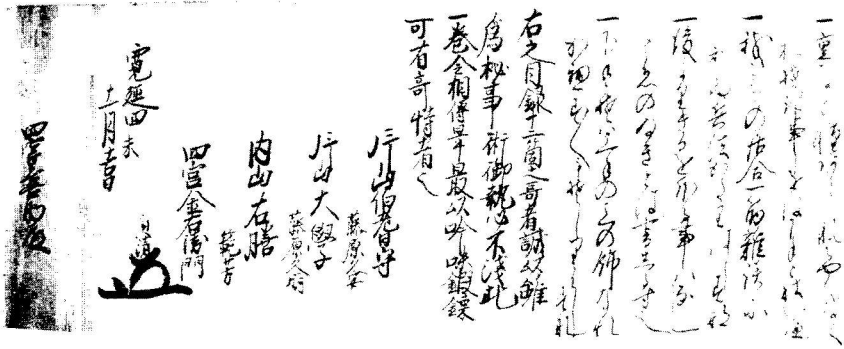
われる。

**おわりに**

岩国の浪人内山右膳は阿波郡に来て、原土四宮、同小出、同大窪に伝授した。原土は自己の任務が一旦ある時は武を以て忠節を

尽すことを旨としたので、日夜武芸を励み、子弟を教育した。一方阿波郡久千田の先規奉公人兼松新左衛門は庶民たちに居合を教え、普及に尽力した。

このように阿波郡は盛んに居合が行われていたが明治初期の廃藩置県、明治四年の脱刀令、明治九年の廃刀令、武士階級の消滅で二百有余年継承された居合は指導者不在、愛好者もおらず、遂に中断してしまった。然し最近若い剣士の中に居合愛好者が現われて、日夜修練していることは、復興の兆しがみえて誠に好ましいことである。



図版 4 2 原士四宮金右衛門貞清が四宮善助に与えた免許状（四宮家蔵）



剣道史資料収集と解説に活動する市場町古文書研究会  
市場町立図書館にて



# 各種大会に参加して

## 第二十四回全国スポーツ

### 少年団剣道交流

#### 大会に出場して

監督 山田耕司



先鋒 山田溪太（わかあゆ会）

変剣ではあるが竹刀がどこから出てくるか判らない。相手にとつてやりにくい剣道をする。

次鋒 星野知世（わかあゆ会）

正攻法の剣道で相手の中心を割つて、打った後すぐに引き技が出せる。

中堅 鎌田憲資（徳島至誠館）

気迫、負けん気は誰にも負けない。気迫で相手を圧倒する。

副将 中野由貴（わかあゆ）

長身から相手の出ばなを捉えるのが、得意である。

大将 元木龍太（竜虎館）

大きい体を十分に使い遠間から出される面は、相手も防ぎにくい。

○個人

本田万里（阿南中学校）

大きな体から伸びる面もあり、器用に小技も出せる。

○個人

村瀬聡美（坂野中学校）

出てよし引いてよし、男子顔負けのパワーを持っている。

以上の七名選手により徳島県代表として、平成十四年三月二十八日～三十日までの三日間岐阜県大垣市総合体育館・武道館で行われた全国スポーツ少年団剣道交流大会に出場してまいりました。

わかあゆ会が発足して五年目にして、念願のスポーツ少年団の全国大会に出場出来

る事は、このうえない喜びでありました。

そして、先鋒で出場する山田溪太と親子で出場できた事は、二重の喜びでした。もう

親子で出場できるなどは、二度とないと思えました。その反面、徳島県の代表監督としての大役、プレッシャーで試合前日にはほとんど寝る事なく試合当日を迎えました。

本大会に向けて、毎週水曜日、那賀川町B & Gの武道館で練習を行いました。最終調整で、愛媛県の味酒剣道会（本年度道場連盟優勝チーム）、徳島至誠館と合同練習を行い、本大会に臨みました。

しかし予選リーグを勝ち上がる事ができず全国レベルの高さを痛感しました。中学生、本田、村瀬も予選リーグを勝ち上がる事ができず悔し涙を流した。

私は本大会を通じて他の道場の人たちとの交流ができて、本当に良い思い出ができました。もう一度挑戦してみたいと思います。

試合結果

| チーム名 | 北海道           | 長崎            | 徳島            | 勝点  | 勝者数 | 取得本数 | 順位 |
|------|---------------|---------------|---------------|-----|-----|------|----|
| 北海道  |               | $\frac{2}{1}$ | $\frac{4}{2}$ | 1.5 | 3   | 6    | 1  |
| 長崎   | $\frac{2}{1}$ |               | $\frac{0}{0}$ | 0.5 | 1   | 2    | 3  |
| 徳島   | $\frac{2}{1}$ | $\frac{8}{4}$ |               | 1   | 5   | 10   | 2  |

| チーム名 | 先鋒 | 次鋒           | 中堅 | 副将 | 大将 |
|------|----|--------------|----|----|----|
| 徳島   | 山田 | 星野           | 鎌田 | 中野 | 元木 |
|      | ㊦メ | <del>メ</del> | ㊦コ | ㊦メ | ㊦コ |
| 長崎   |    | <del>メ</del> |    |    |    |
|      | 草場 | 横尾           | 尾藤 | 草場 | 中村 |

| チーム名 | 先鋒           | 次鋒 | 中堅 | 副将           | 大将 |
|------|--------------|----|----|--------------|----|
| 徳島   | 山田           | 星野 | 鎌田 | 中野           | 元木 |
|      | <del>メ</del> | メ  | ㊦  | <del>メ</del> |    |
| 北海道  | <del>メ</del> | ㊦メ |    | <del>メ</del> | ㊦メ |
|      | 田中           | 山本 | 山本 | 柏木           | 村上 |

| 氏名             | 本田万里   | 石塚淑康 | 及川真吾 | 勝点  | 取得本数 | 順位 |
|----------------|--------|------|------|-----|------|----|
| 本田万里<br>(徳島県)  |        | △    | △    | 0   | 0    | 3  |
| 石塚淑康<br>(和歌山県) | ○<br>コ |      | □    | 1.5 | 2    | 1  |
| 及川真吾<br>(宮城県)  | ○<br>コ | □    |      | 1.5 | 1    | 2  |

| 氏名            | 村瀬聡美        | 諸田千尋   | 山下典子 | 勝点 | 取得本数 | 順位 |
|---------------|-------------|--------|------|----|------|----|
| 村瀬聡美<br>(徳島県) |             | △      | △    | 0  | 0    | 3  |
| 諸田千尋<br>(群馬県) | ○<br>メ<br>コ |        | △    | 1  | 2    | 2  |
| 山下典子<br>(福岡県) | ○<br>メ<br>メ | ○<br>ド |      | 2  | 3    | 1  |



# 全国スポーツ少年団

## 剣道交流大会に出場して

わかあゆ会

星野 知世



とても厳しかった県予選で準優勝ができ、全国大会に出場できる喜びと緊張でいっぱいでした。

出場が決まってからは、山田先生のもとで厳しい練習をしました。毎週、月、金曜はわかあゆ会のみんなと練習をし、水曜日は選手全員が集まって練習をしました。一日一日の練習を大切に、全国大会に向けてがんばることができました。

会場に着いたとき、体育館の広さと立派さにおどろきました。その日には開会式、引き続き指導者による他県の選手との基本錬成があり、交流会ではゲームをしたりと楽しむことができました。

二日目には中学生の個人戦が始まり、午

後に入って私達の試合が始まりました。予選リーグの一試合目は長崎県との試合でした。私は普段、緊張したりしないのにすごく緊張してしまい、引き分けてしまいました。チームは四一〇で勝つことができました。次の北海道との試合で「勝つてやる」と思って試合にのぞきました。しかし、緊張してあせっている所を相手に打たれ、二本負けをしてしまいました。そのまま試合が進み、大将も二本取られ負けてしまいました。北海道は結局三位に入りました。準優勝、決勝と試合を見てみると、決勝に残るチームは足の動き、竹刀の速さが違うなと思いました。

三日目にあつた決勝は、広島県と京都府でした。一本を取るたびに拍手や歓声がおこりました。京都府の優勝が決まると、観客席の人や周りの選手から拍手が聞こえてきました。これを聞いた時は鳥肌が立つぐらい大きな拍手で、自分がコートに立っていないだけでも一生忘れることはないと思います。

この三日間はかけがえのない体験ばかり

で私達にとって一生の宝物となりました。最後になりましたが、これまでご指導してくださった山田先生、谷口先生。そして、わかあゆ会の友達、保護者の皆様、本当にありがとうございました。私はこの体験を生かして、剣道の練習に励み、心も体も鍛えていきたいと思います。



# 私とスポ少

わかあゆ会

中野 由 貴



昨年の三月二十七日から二十九日にかけて、岐阜県大垣市で全国スポーツ少年団剣道交流大会が行われました。この大会に出場するた

めの県予選では、「ぜったいに優勝して全国大会に出場する」という強いおもいで試合をしました。その結果、優勝することができ、夢にまでみた全国大会に出場することができました。

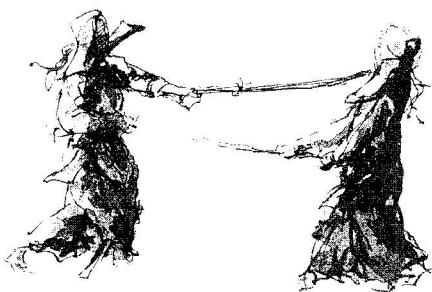
全国大会試合当日、一回戦目の相手は長崎県でした。今まで練習してきた成果を出しきり、B & G 剣道教室で教わった「声だけは相手より大きく」ということを守り、おもいきって試合をしたら、二本取ることができました。

二回戦目は、北海道でした。試合の流れ

は北海道に負けており、私は一本を取らなければならぬのに引き分けをしてしまいました。そして私たちのチームは予選で負けてしまいました。でも私的にこの大会で得たものはたくさんあったから私にとって最高の経験になりました。そして、全国大会の決勝戦を間近で観戦してそのすごさにすごく感動しました。試合が始まった時の歓声と気迫に鳥肌がたちました。レベルの高さをすごく感じました。私もこんなすごい舞台で試合をしたいと心に決めました。

私は、スポーツ少年大会によって私自身が変われたなと思います。それは、剣道の練習に対して前はどちらかといえば自分から積極的にではなかったけどスポ少という大会を目標にしてからは自分から厳しい練習を求められるようになったと思うからです。でも県予選で優勝し、全国大会に出場できたのは一人では無理だとすごく感じました。二年生からお世話になっている山田先生と谷口先生といつもいっしょに厳しい練習をしてくれた仲間たちと、いつも応援してくれている家族に支えられて私はいつ

も頑張ってきました。先生の練習は厳しかったけどそのおかげで私は全国大会という夢を叶えることができ、すごく感謝しています。私を支えてくれてるみなさんに「ありがとうございます」と言いたいです。そしてこれからの剣道生活で迷ったときはB & G 剣道教室で教わったこと「初心」に戻って全国を目指していきたいです。スポ少という大会は私を大きく前進させてくれたものです。



# 全国高等学校選抜

## 剣道大会に参加して

富岡西高校三年

原 祐 輔



平成十四年三月二十七日(土)二月十八日に、愛知県春日井市で全国高等学校選抜剣道大会が行われました。選抜大会は新チームとして初めて挑戦する全国大会でした。

県予選では前年度のように混戦が予想されどこが優勝するのか全く予想できない中、チームワークで激戦をくぐり抜け、全国大会への切符を手に入れることができました。その後の四国大会で思った成績が残せなかったこともあり、全国大会への期待と不安は日増しに大きくなっていきました。

そして迎えた大会当日、試合前のミーティングでは、「やれることをやるだけだ。思いきって

行こう」と全員で気合いを入れ、試合に臨みました。

予選リーグ第一戦は鳥取県代表八頭高校でした。相手のデータは全くない状態での対戦で、皆が緊張しているのが目に見えて伝わりました。そんな中迎えた先鋒戦、なんとか勝ちで勢いをつけたかったが相手の粘りのある剣道に押しきることができず引き分け、その後次鋒、中堅、副将と相手の粘りに苦しめられ、引き分けとなりました。大将戦では、その後の試合やリーグ戦であったことからなんとか自分で勝ちを決めたいと思いました。そんな中、周囲の応援がありがたく、なんとか一本を決め、チームは一勝を収めることができました。

第二戦は大分県代表日田高校との対戦でした。OBの先輩や先生の知り合いの方からの情報で先鋒はかなり荒い剣道をしてることがわかっていました。

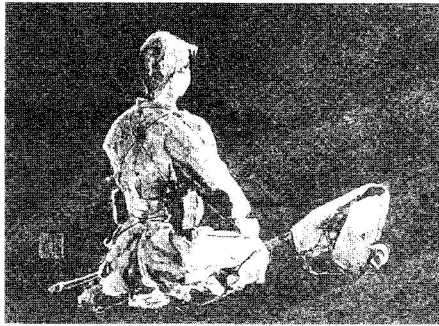
しかし始まってみると相手は実に綺麗な剣道で先鋒の大石は多少驚いたのかも知れません。しかし逆にそのことで大石は思いきって試合をすることができました。惜し

いところもあつたのですが、先鋒戦は落としてしまいました。続いて次鋒の佐川、中堅の場が惜しくも負けとなりチームの一敗が決まりました。そして線が切れたかのよう副将の西崎、大将の原が負けてしまい、終わってみれば三対〇の完敗でした。日田と八頭の試合では日田が勝利を収めていたので富西の決勝トーナメント進出はかないませんでした。

しかしこの大会で我々は全力を出しきることができ、全国での自分達の位置を知ることができました。新しい課題、新しい目標、何もかもが新鮮に感じられました。そしてこれからも頑張ろうと皆で話し合いました。

僕たちがこのような貴重な経験ができたのも、今まで熱心に指導してくださった山田先生を始め、諸先生方や沢山のOBの方々、試合や遠征のたびにいつもお世話をしてくださった保護者の方々、そして普段の生活から全てを分かち合ったチームメイト達のおかげです。多くの人に支えられ、ぼくたちは存分に剣道をすることができました。

心から感謝の気持ちでいっぱいです。この富岡西高校剣道部で学んだ事は、僕の一生の良き思い出です。



〈予選リーグ 第一試合〉

|            | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 |          |
|------------|----|----|----|----|----|----------|
| 富岡西        | 大石 | 佐川 | 的場 | 西崎 | 原  | 1<br>(0) |
|            | X  |    | ☉  | ☉  | ☉  |          |
| 八頭<br>(鳥取) | X  |    | ☉  | ☉  | ▲  | 0<br>(0) |
|            | 寺垣 | 飯田 | 川合 | 年岡 | 松原 |          |

〈予選リーグ 第二試合〉

|            | 先鋒     | 次鋒 | 中堅     | 副将 | 大将 |          |
|------------|--------|----|--------|----|----|----------|
| 富岡西        | 大石     | 佐川 | 的場     | 西崎 | 原  | 0<br>(0) |
|            | X      |    | ▲      | ▲  | X  |          |
| 日田<br>(大分) | ☉<br>☉ | ☉  | ☉<br>☉ | ☉  | ☉  | 5<br>(7) |
|            | 吉野     | 溝江 | 宮本     | 三笥 | 稲葉 |          |

# 全国高等学校

## 選抜剣道大会

福岡東高校 小西 美 穂



平成十四年三月二十七日・二十八日に全国高等学校選抜大会が行われた。

この大会は、インターハイと並び高校生最大のイベントの一つだ。今まで多くの大会に出場してきたが、今回一つ違うのは、河田先生監督のもと試合するのもこれが最後ということだった。今回は、昨年のインターハイ三位の成績を上回るというのがチームみんなの目標で、そのために、それぞれ課題克服やコンディション作りに励みこの大会に臨んだ。

試合直前、いつものようにチーム五人で集まり、声をかけ合う時も、いつも以上に気合いが入っていたし、闘志が漲っていた。勝って、河田先生にいい思い出を残してあ

げたい、という気持ちが一番大きかったように思う。

予選リーグ一回目は、長崎県の西陵高校。

西陵とは、昨年の大野旗大会の決勝戦であったチームであり、初戦から手強い相手だなと思っていたし、接戦が予想されていた、初戦はやはり緊張するし、かたくなっ

てしまうけれど、初戦が一番大事、一発目は何としても勝たなければと、強く思っていた。結果は三対〇で、先鋒、次鋒がメ

ンを奪い、チームに流れを呼び寄せ、大将までつなぐことができた。つづく二回目は、宮城県の仙台高校。宮城と言えば、昨年の

宮城国体で一回戦目にあたったチームだ。その試合は、悔しい負け方をし、腑に落ち

ない点もたくさんあった。悔しい思いをした分、今回は絶対に勝ってやろう、と闘志をむき出して試合に臨んだ。結果は四対一

で快勝することができ、満足のいく試合だった。この勝利と同時に、予選リーグ突破、決勝トーナメント進出が決まった。二十七

日の試合はこれで終りだが、翌日対戦する埼玉の蕨高校の試合を見ることになった。

蕨高校は初めて聞く名前であり、最初は何と読むのかも分からなかった。が、その試合を見て驚いた。とにかく元気で、気迫もあり、よく動く。その迫力に圧倒され、ヤバイ、やりにくそう...と思った。でも少し経つと、そんな気持ちより、絶対に勝つという気持ちに変わっていた。

そして翌日の決勝トーナメント一回戦目。チーム一同気持ちを高め、絶対に勝とうと、声をかけ合った。初めての相手に戸惑っていたが、やってみると昨日の元気はどこに？と思うほど、結構やりやすい相手だった。

やはり、実際試合をやってみないと分からないなと思った。終わってみると、四対〇

と勝つことができて、次へと駒を進めることができた。ベスト4をかけた二回戦目の相手は、宮崎県の日章学園。日章学園とは、

遠征等の練習試合でも、よく剣を交えていて、力の差もよく似ている。ここまで来たのだからと、みんなますます上を目指す気

持ちが高まり、その中で悔いの残らない自分達の試合をしようとして、それぞれが落ち着いて試合に臨んだ。会場内のものすごい熱

気と緊張感の中で試合が始まった。私は今までにない緊張感を味わった。先鋒は惜しいところもあったが引き分け。次鋒は前半コテをとられたがメンを取り返して引き分け。中堅はコテをとられ一本負け。副将、大将は激しい中でお互いゆずらず引き分け。終わってみると〇対一という結果だった。結果的には負けてしまったが、一人一人が持っている力を全て出し切る事ができたと思う。全国で自分達の力を試すことができ、いい経験になり、本当に良かった。

何か目標に向かって必死になるということも剣道を通してが一番多かったと思う。剣道で得たものは数えきれない程ある。共に支え励ましあった仲間、一生の宝物だし、心から感謝している。この富岡東高校で剣道できたことを誇りに思っている。日々熱心にご指導して下さった先生方、温かく応援して下さいました。これからまた新たな道へ進んでいきますが、常に挑戦する気持ちを忘れず、歩んでいきたいと思えます。



第11回大会優勝代表 ●男子の部(私立)群馬県立高等学校 主将 奥住 勇太 ●女子の部(私立)群馬県立女子高等学校 主将 伊藤 斗歌

# 第11回 全国高等学校 剣道選抜大会

2002年3月27日(水)・28日(木) 春日井市総合体育館

## 予 選 リ ー グ 成 績 表

### 女子Oブロック

| 学 校 名   | 仙 台   | 西 陵   | 富 岡 東 | 勝 数 | 勝 者 数 | 勝 本 数 | 順 位 |
|---------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|
| 仙 台 高   |       | 2 / 1 | 1 / 1 | 0   | 2     | 3     | 3   |
| 西 陵 高   | 6 / 3 |       | 0 / 0 | 1   | 3     | 6     | 2   |
| 富 岡 東 高 | 6 / 4 | 4 / 3 |       | 2   | 7     | 10    | 1   |

#### 予選リーグ(1)

| 校名          | 先鋒   | 次鋒     | 中堅   | 副将   | 大将   | 結果  |
|-------------|------|--------|------|------|------|-----|
| 西<br>陵      | 鳥越   | 井手     | 林田   | 高嶋   | 中林   | ×   |
|             | ⊗    | ⊗<br>× |      |      | ⊗    | 4/3 |
| 富<br>岡<br>東 | 瀬口   | 小西     | 佐藤   | 橋本   | 岸    | ○   |
| 試合時間        | 5分00 | 5分32   | 5分00 | 5分00 | 5分00 |     |

#### 予選リーグ(2)

| 校名          | 先鋒   | 次鋒     | 中堅   | 副将   | 大将     | 結果  |
|-------------|------|--------|------|------|--------|-----|
| 仙<br>台      | 中村   | 樋渡     | 渡邊   | 千田   | 目黒     | ×   |
|             | ⊗    | ⊗<br>× | ⊗    | ⊖▲   | ⊗<br>× | 6/4 |
| 富<br>岡<br>東 | 瀬口   | 小西     | 橋本   | 佐藤   | 岸      | ○   |
| 試合時間        | 5分00 | 5分32   | 5分00 | 5分00 | 4分04   |     |

## 女 子 決 勝 ト ー ナ メ ン ト

#### 1 回 戦

| 校名          | 先鋒   | 次鋒     | 中堅   | 副将   | 大将   |
|-------------|------|--------|------|------|------|
| 富<br>岡<br>東 | 瀬口   | 小西     | 橋本   | 佐藤   | 岸    |
|             | 6/4  | ⊗<br>× |      | ⊗    | ⊗    |
| 0/0         |      |        |      |      |      |
| 藤           | 石井   | 香川     | 保永   | 大場   | 角田   |
| 試合時間        | 1分16 | 5分00   | 5分00 | 5分00 | 4分14 |

#### 2 回 戦

| 校名               | 先鋒   | 次鋒   | 中堅   | 副将   | 大将   |
|------------------|------|------|------|------|------|
| 日<br>章<br>学<br>園 | 松崎   | 横山   | 梅野   | 藤田   | 領家   |
|                  | 2/1  | ⊖    | ⊖▲   |      |      |
| 1/0              |      | ×    |      |      |      |
| 富<br>岡<br>東      | 瀬口   | 小西   | 橋本   | 佐藤   | 岸    |
| 試合時間             | 5分00 | 5分00 | 5分00 | 5分00 | 5分00 |

# 第四十九回全国高等学校 剣道大会に出場して

富岡東高等学校三年

岸 香 織



「競え友よ熱き力を茨城で」のスローガンのもと第四十九回高等学校剣道大会

が茨城県下館市総合体育館で行われました。昨年の総体では三位だったので、そのプレッシャーと、それ以上の結果を残すぞという気持ちの中で私たちは日々の練習を頑張ってきました。

予選リーグでは東京代表の東京成徳と兵庫代表の須磨学園との三校リーグでした。

両校とも過去に何度か練習試合で対戦したことがあり、一筋縄では行かないチームばかりだと思い、徳に東京成徳はチームがよくまとまっているなと思いました。しかし私たちも予選リーグでは負けられない、昨

年以上の結果を残したいという気持ちが強くありました。

試合が始まるまで何度もアップをし直し、緊張していた雰囲気少しでもやわらげようとしてきました。しかし私達三年生にとって、富岡東高等学校の生徒として試合できるのはこれが最後だということもあり、いやでも緊張してしまいます。そこで、選手全員が集まって今までやってきたことを全部出しければ絶対勝てるから頑張ろうとお互いをはげまし合いました。

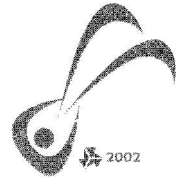
予選リーグはじめの対戦相手の東京成徳に全力でいどみましたが、二対一という僅差で負けてしまいました。みんなの落胆の色が隠しきれないのが分かりましたが、まだ最後まで試合が終わったわけではなく、最後のチャンスにかけて次の東京成徳と須磨学園の試合を見ていましたが、私たちの願いは届かず東京成徳が勝ってしまいました。しかし須磨学園との試合はまだ終わってなく、みんなが力を抜くことをなく四対〇と快勝しました。

予選リーグで敗退してしまったのは精神

的なものだということ、これからは技術だけでなく、精神的にも成長させなければいけないということを勉強させてもらうことができました。

私はもう高校生として試合をすることはできませんが、後輩には一つ一つの試合を大切に、勝っても負けても得るものがあるのだということを頭に入れておいてほしいです。そして、来年こそは全国の頂点に立てるようにがんばってもらいたいです。





平成14年度全国高等学校総合体育大会  
 第49回 全国高等学校剣道大会  
**2002年茨城総体**

報告書  
 剣道競技

8月2日(金)~4日(日)

下館市総合体育館

主催：(財)全日本剣道連盟、茨城県、茨城県教育委員会  
 協賛：(財)日本体育協会、NKK、(社)茨城県体育協会、下館市体育協会  
 協賛：(財)全国高等学校体育連盟専門部、茨城県高等学校体育連盟、茨城県剣道連盟、コーポレートス

## 女子団体予選リーグ

| Gリーグ         | 富岡東  | 東京成徳   | 須磨学園   | 勝点 | 勝数 | 本数 | 順位 |
|--------------|--|--|--|----|----|----|----|
| 富岡東<br>(徳島)  | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div>   | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\frac{1}{1}</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\frac{5}{4}</math> </div> | 1  | 5  | 6  | 2  |
| 東京成徳<br>(東京) | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\frac{2}{2}</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div>   | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\frac{1}{1}</math> </div> | 2  | 3  | 3  | 1  |
| 須磨学園<br>(兵庫) | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\frac{0}{0}</math> </div>                     | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\frac{0}{0}</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div>   | 0  | 0  | 0  | 3  |

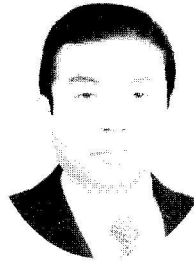
|      | チーム名         | 先鋒   | 次鋒   | 中堅   | 副将   | 大将  | 本数・勝数         | 勝敗 |
|------|--------------|--|--|--|--|---|---------------|----|
| 赤    | 富岡東<br>(徳島)  | 瀬口   | 小西   | 橋本   | 佐藤   | 岸   | $\frac{1}{1}$ | ×  |
|      |              | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\ominus</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\ominus</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\blacktriangle</math> </div> |               |    |
| 白    | 東京成徳<br>(東京) | 河村   | 澤田   | 安本   | 岡田   | 牛之濱   | $\frac{2}{2}$ | ○  |
|      |              | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div>  |               |    |
| 試合時間 |              | 4分00   | 4分18   | 6分00   | 4分00   | 6分00  |               |    |

|      | チーム名         | 先鋒   | 次鋒   | 中堅   | 副将   | 大将   | 本数・勝数         | 勝敗 |
|------|--------------|--|--|--|--|--|---------------|----|
| 赤    | 富岡東<br>(徳島)  | 瀬口   | 小西   | 橋本   | 佐藤   | 岸  | $\frac{5}{4}$ | ○  |
|      |              | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> |               |    |
| 白    | 須磨学園<br>(兵庫) | 楠木   | 前成   | 中田   | 高丸   | 眞開   | $\frac{0}{0}$ | ×  |
|      |              | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; width: 80%; height: 80%;"></div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> | <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; height: 80%; text-align: center;"> <math>\otimes</math> </div> |               |    |
| 試合時間 |              | 2分16   | 4分00   | 6分00   | 5分38   | 5分01   |               |    |

# 剣道大会に参加して

徳島県学校剣道連盟副会長

城西中学校長 高島 稔之



において盛大に開催された。

以前は、私自身、選手として出場したり、監督として同行したりしたことも何回かあるが、管理職になってからは、多忙さも手伝って長らく参加する機会がなかった。

六月の学校剣道連盟総会の席上、突然、監督として行ってほしいという依頼があり、行かせていただくことになった。

正確には、依頼という形をとった関係者による配慮というべきであろう。今年度末をもって退職する私に、全国大会に参加する最後の機会を与えようとの配慮であることと察しは直ぐ付いた。そこで、有難くお

受けすることにした。

兵庫県立武道館は出来たばかりの美しい武道館で、建物内に第一道場・第二道場と大きな道場が二箇所もあり、しかも、エアコンや各種の小ルーム等の設備も完備したもので、夏の暑さを忘れさせてくれる快適な試合場であった。

当日の大会は、第一道場を練習会場に、第二道場を試合会場にして、八面のコートを取り試合が行われた。

団体戦は、一回戦に神奈川県と対戦し、善戦したが〇対三で敗退した。

団体戦メンバーと戦績は次の通りである。  
先鋒 佐藤 浩(阿波中学校教諭) ③④  
次鋒 近藤久善(徳島工業高校教諭) ①③  
中堅 飯田栄一(富岡東高校教諭) ①③④

副将 福多雅英(城北高校教諭) ③④  
大将 西谷肇一(徳島北高校教諭) ③④

個人戦、高校・高専・大学・教委の部は、磯部健治選手(城西高校教諭)が出場した。

一回戦 磯部③④ 上川(島根)  
二回戦 磯部③ 水田(兵庫)  
三回戦 磯部 ①②坂本(静岡)

という対戦結果で、大いに善戦した。

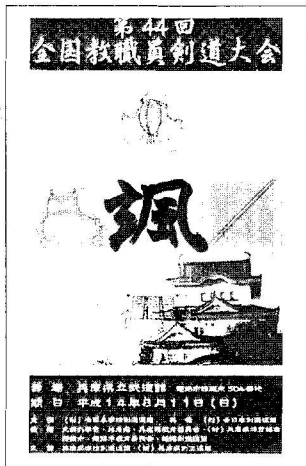
個人戦、幼・義務教育の部は、福多博史選手(阿南第二中学校教諭)が出場した。一回戦で熊本県の米田選手と対戦し、惜しくも一本負けを喫した。

個人戦、女子の部には、坪井さくら選手(新野高校教諭)が出場した。

二回戦 坪井③ 渡辺(茨城)  
三回戦 坪井④ 樋口(福島)  
四回戦 坪井 ③有島(鹿児島)

という試合結果で、ベスト8に入った。四回戦の試合は粘りに粘っての惜敗で、

坪井選手本人はもとより本県選手団としても、彼女の上位入賞を願っていただけに、心残りの試合結果でもあった。



〔挿毫者〕全日本学校剣道連盟 会長 服部 敏 幸

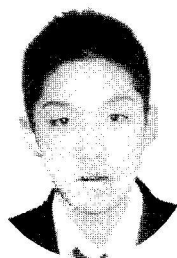
題字「颯」

① 颯がさつと吹く様子  
② 動作がきびきびして気持ちよいこと

# 第三十二回全国中学校 剣道大会に出場して

徳島文理中三年

鎌田 崇 佐



「緑あふるる

紀の国で燃やせ

希望と情熱を」

のスローガンの

もとで第三十二

回全国中学校剣

道大会が、平成十四年八月十九日～二十一

日、和歌山ビックホエールで開催されまし

た。徳島文理中学校は県総体で優勝し、前

年度に続き全国大会に出場することができ、

四国大会でも三位になることができました。

去年の全国大会では、誰も一本も取れず

予選リーグ敗退という結果となり、全国の

厳しさを実感しました。だから、今年はず

チームで一勝することを目標にしました。

予選リーグの対戦校は長崎県の橘中学校

と青森県の大間中学校で、それぞれ初出場



の学校でした。

いよいよ、団体戦が始まります。徳島文

理中の初戦は予選リーグ突破の鍵となる橘

中との対戦でした。

まず、先鋒の僕はかなり緊張していて、

思いどおりにいかなかったけれど、なんと

か前半に引き面で一本勝することができま

した。しかし、次鋒が二本負け、中堅は引

き分け、副将は面をとられ一本負けで後が

なくなりました。ここで大将が二本勝すれ

ばチームは引き分けとなります。しかし、

惜しくも面の一本勝でチームも本数負けと

なりました。

そして続く予選リーグの二試合目は大間

中との対戦でした。さっきの試合のことは

忘れて、おもいきり自分たちの剣道をしよ

うとみんなに言って試合に臨みました。

先鋒の僕は、終盤に面かけて小手が決ま

り一本勝、次鋒は引き小手と出がしら面

見事に二本勝で、チームの勝利を一気に引

き寄せました。そして中堅と副将は共に引

き分け、大将は落ち着いて面返し胴と出小

手の二本勝を収め、チーム初勝利!!しかし、

惜しくも予選リーグ敗退という結果になりました。

目標は達成できましたが、終わってみると、惜しかったなあ、悔しいなあという気持ちで一杯でした。一方、今まで厳しい練習をしてきた成果が自分では出せたと思うので良かったと思います。二年目の全国大会出場は、僕にとっても、チームの皆にとっても、いい経験になりました。これをバネに、高校になっても剣道を続け、もっともっと練習をし自分を鍛え、今よりももっと全国に通用するような剣道を目指して頑張っていきたいです。

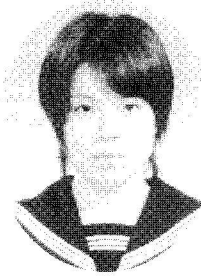
最後になりましたが、毎日僕達をご指導して下さいました中山先生、玉田先生をはじめ、出稽古でお世話になった徳島至誠館の諸先生方、そして、応援して下さいました保護者の方々、本当にありがとうございます。

## 第四十回

### 四国中学校総合 体育大会に出場して

阿南市立阿南第一中学校

三年 近藤 愛



平成十四年八月十一日、愛媛の松山で、第四十回四国中学校総合体育大会が開催されました。

前日は、松山市立北中学校体育館で公式練習が行われました。さすがに、四国の強豪が集まっているだけあって、その迫力と、熱気の違いを知らされました。私達は、昨年の三位に引き続き、その結果を上回るよう、先生と共に上位を目指しました。大会当日、私達はすごく緊張していました。いよいよ始まった予選一試合目は、本大会までに数多くのチームと練習試合を行った中のチーム、鏡野中学校（高知）です。一對一の引き分け。私はこの試合で思いきった

技が出ず、悔いの残る試合となりました。予選リーグ二位までに入らなければ、決勝トーナメントへ進出する事ができません。そして二試合目は丹原東中学校（愛媛）です。この試合では、二(3)対一(3)で勝ちました。だんだんと自分達のペースをとり戻すことができました。しかし、一試合目引き分けとなった私達は、次の協和（香川）との試合で負ける事が許されなくなりました。緊張感が高まります。結果は、〇対〇での引き分けとなりました。しかし幸運にも丹原東中学校は、協和中学校に負けていたので、私達はみごと、丹原東中学校に差をつけ、四校の中、二位となり、決勝トーナメント出場を果たしました。決勝トーナメントの一試合目は、もう一つのリーグを勝ち上がってきた、土庄中学校（香川）です。この試合では、みんなの「勝ちたい」という気持ちが一つとなりました。結果は、二(5)対三(6)でおしくも負けてしまいました。この試合で私は手元を上げてしまい、小手、合小手面で、二本とられてしまいました。強いチームはやはり、気持ちが違う事と、

## 試合結果

強い信念を持っていると思えました。私にとってとても悔しかった試合でしたが、よい経験となりました。次は個人戦です。団体戦の悔しさを引きずってしまい、気持ちをきり変えられず、相手におされて、場外反則で一本とられてしまい、一回戦敗退となりました。しかし、この四国大会でたくさんさんの事を学んでくる事ができました。

四国中学校総合体育大会に出場できるまでに今までご指導、ご支援してくださった村井先生をはじめ、副顧問の高島先生、本当にお世話になりました。そして、いつもあたたかく見守ってくださった保護者の方、いつも支えてくれる剣道部の仲間達、本当にありがとうございました。

### 団体 三位

- 一回戦 阿南一中 一―一 鏡野中
- 二回戦 阿南一中 二―一 丹原東中
- 三回戦 阿南一中 〇―〇 協和中
- 決勝トーナメント
- 準決勝 阿南一中 二―三 土庄中

### 個人戦

- 一回戦 近藤 一(反) 和田(愛媛)

### 個人戦 二位

- 一回戦 賀上メ 延長 永石(高知)
- 二回戦 賀上下 宮武(香川)
- 三回戦 賀上下 木下(愛媛)
- 準決勝 賀上メド 延長 宮武(香川)
- 決勝 賀上 延長 梅里井(愛媛)

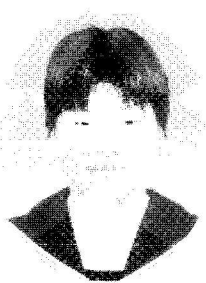


# 第三十二回全国中学校

## 剣道大会を終えて

阿南第一中学校三年

賀 上 晴 香



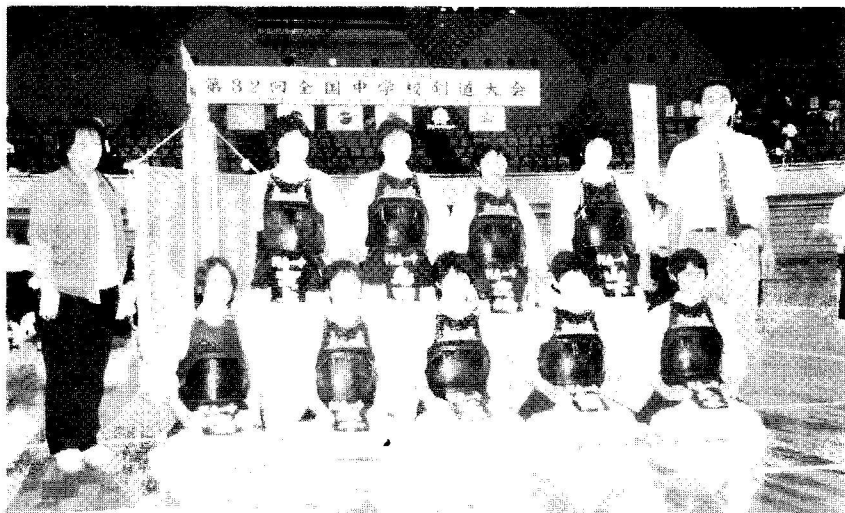
二〇〇二年八月十九日〜二十一日まで、第三十二回全国中学校剣道大会が和歌山県の和歌山

ビッグホールで行われました。会場は各都道府県の代表チームでいっぱいになり、県大会や四国大会ではあじわえない迫力がありました。そんな中、十九日に開会式があり二十日から試合が始まりました。

私たちが対戦したのは、茨城県代表の竹来中学校と長野県代表の屋代中学校でした。まず一回戦日は、竹来中学校でした。私たち三年生は二度目の全国大会出場ですが、二年生は、初出場だということもあって、少し落ちつかない様子でした。そして、いよいよ試合が始まりました。竹来中学校と

は、以前に試合をしたことがありましたが、その時と変わらず、まっすぐで迫力のある剣道をしてきました。私たちもそれに負けないくらいの気迫を持って試合をしました。結果は〇三で一勝もできないまま負けてしまいました。でも、落ちこんでいる時間はありません。次の屋代中学校にそなえて、道場で練習しました。そして、屋代中学校との試合が始まりました。力の差はほとんどなく、危険な場面もありましたが、二一〇でみごと、勝利をおさめることができました。最終結果では、竹来が二勝し、決勝トーナメントに上がっていききました。私はこの時、まっすぐな剣道をしていたから、決勝トーナメントに上がったんだろうなと思いました。この大会は、中学校生活の最高の思い出になりました。

最後に、今まで私たちにいろいろな事をおしえて下さった村井先生、副顧問の高島先生、そして、いつも応援して下さいった保護者の方々、最後の最後まで本当にありがとうございました。



# 団体戦結果

## 全日本女子剣道

### 選手権大会に出場して

#### 一回戦

(阿南一中)

(茨城県  
竹米中)

賀上 × 倉田  
坂本 × 矢野  
細川 | コメ 大久保  
近藤 × 糸賀  
島田 ▲ | メメ 大久保

#### 二回戦

(阿南一中)

(長野県  
辰代中)

賀上 メド 稲玉  
坂本 ▲ | 吉田  
細川 × 倉嶋  
近藤 × 藤倉  
島田 × 島田  
個人戦  
近藤 ▲ | 上原 (山梨)  
近藤 ▲ | メ島 尻 (沖縄)

新野高校教諭

坪井 さくら

今大会の結果は一回戦敗退でした。

坪井 (延保) × × 坪田 (岡山)



開始早々、私は(どう打ったか覚えていませんが)引き小手で一本先取しました。開始線に

果は別として)割と気持ちよく終わった大会でした。

昨年まではいつでも十分稽古できる環境であり、何も不自由なく仕事と剣道の両立ができました。けれども、四月から新しい学校に赴任し、経験したことがないほどの忙しい毎日でした。学校での仕事の間に初任者研修がはいったり、出張であったり…(他の先生方に言えば「あたりまえだ!」

戻りながら、「時間はまだ充分あるし、守りに入ると逆にやられてしまう!」と思い、このまま攻めていくことにしました。しかし、それが良くなかったのか、結局引き面を打たれ、延長も同じように面を打たれて負けました。そして、坪田選手が優勝して今大会は終わりました。「悔しいけど、優勝した人に負けたのなら仕方ない」いつもならそう思うところですが、いつになく自分の精一杯の力が出せた試合だったので、(結

日があつという間に過ぎていき、気が付けば「稽古してないなあ…あかんなあ…けどしんどいなあ…」といった具合でした。十八年間剣道をやってきた中で最も稽古時間が取れない状況に、社会人になっても稽古を続ける大変さを痛感しました。さらにこの大会一週間前の稽古は二日に一回三十分できるかできないかでした。稽古できないからだちからあまりやる気も湧かず、スランプに陥っていました。いらいらしながらも大会は近づいてくるのが苦しかったです。

しかし当日は大会の雰囲気を感じることで、不思議と自分が今持っている力を出せばいいと、ふっ切れることができました。

相手は学生チャンピオンであり、稽古も十分できている選手です。「胸を借りるつもりでやろう。勝ちたいという色気を出さず精一杯やるだけ」と考えることができました。結果は負けでしたが、内容的にはよかったです。守りきってれば、もしかして……と思ったりしましたが、やはり自分らしさを貫いて戦ったことに悔いなしです。

これから、ますます稽古を続けていくには困難になるはず。しかし、今回のことを活かして、少ない時間を有効に利用し、修煉していきたいです。

最後に、稽古をつけていただいた先生方、またいつもこころよく（突然の）稽古の参加を受け入れてくださった顧問の先生方、部員のみなさまにはたいへんお世話になりました。ありがとうございます。

## 第一回 お通杯女子 剣道大会に出場して

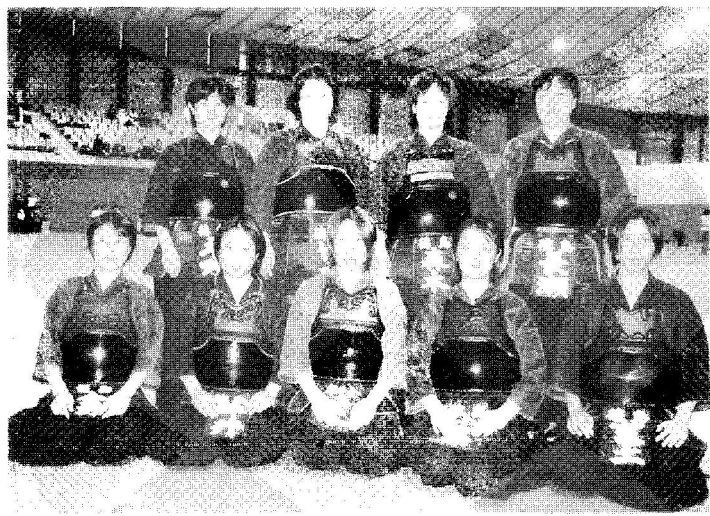
阿南支部 芝 佳央理



今、大河ドラマで話題をよんでいる宮本武蔵。その心の妻お通の名をとって開催された本大会

に参加させていただきました。剣道は私たちにとって知性を磨き、知力を働かせて活動していく源であり、生きる力のきわめて重要になる部分だと思えます。その剣道の達人と言われた武蔵、その武蔵の活動や生き方を支えたお通も強い生きる力を持った人だったのかもしれない。

私はお通杯に向けて、自分自身の今までの剣道を振り返ること、勝ち負けに対して強い意志を持つこと、自分の技に対して、意欲的な追究ができるようになることを参加の心構としたつもりでした。しかし、気



力はあったものの根本となる練習量が少なかったことは反省すべきことだと思います。

大会前日、岡山にて、岡山国体強化選手の方々と練習試合・合同稽古をさせていただきました。さすがに国体強化選手とあって間合いの取り方、技のきれ、スピード、気迫も素晴らしいものを感じました。私達もそれに負けじとより一層強い気持ちを持ち、練習試合に臨みました。お互いに気迫のこもった内容で、翌日の大会に向けて私自身、自信をもつことができました。

大会当日は、外観が兜の形をしており、見ただけで気持ちが引き締まるような武道館で行われました。そのうえ、大会参加者の中には私が大学生の時、全日本女子学生剣道大会でも活躍していた選手が数多く出場しており、非常にレベルの高い大会でした。

午前中は個人戦で午後から団体戦が行われました。私達、徳島チームはA・B・Cの三チームが団体戦のみ出場しました。

私は、Cチームの中堅として出場しました。一回戦は三重県の優心会を破り、二回

戦は不戦勝、三回戦は地元岡山県Bチーム（前日の練習試合の相手）四回戦は東京都東芝情報機器と、順調に勝ちを重ねました。しかし、五回戦で東京都総合警備保障とあたり、僅差で負けてしまいました。その後、同チームは、本大会優勝を収めました。試合中は、試合のことだけを考えていたので余裕もなかったのですが、試合後はこのチームに勝っていればと思うと、自分の力のな

さと、すごく悔しい気持ちとでいっぱいになりました。

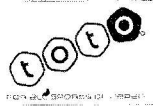
私は、徳島県の代表として、このようなレベルの高い大会に参加させていただき、剣道にゆかりのあるこの地で、各地の選手と剣を交え、多くのことを学ぶことができました。これを糧として、今後の稽古に励

## 第1回 宮本武蔵顕彰女子剣道大会

# お通杯



日時 平成14年10月6日(日)午前8時50分開会  
会場 宮本武蔵顕彰武蔵武道館 電話(0868)78-7634  
主催 大原町・大原町体育協会・宮本武蔵顕彰会  
後援 岡山県剣道連盟・英田郡剣道連盟・英田郡体育協会  
大原町武蔵の里剣道愛好会・山陽新聞社  
NHK岡山放送局



〈2回戦〉

| チーム名         | 先鋒  | 中堅 | 大将 | 代 | 点数   |
|--------------|-----|----|----|---|------|
| 東海大学<br>さつき会 | 二ツ森 | 福永 | 古館 |   | 0(0) |
|              | ✕   |    | ✕  |   |      |
| 徳島 A         | 坪井  | 長瀬 | 竹内 |   | 1(1) |

〈3回戦〉

| チーム名 | 先鋒 | 中堅 | 大将 | 代  | 点数   |
|------|----|----|----|----|------|
| 福岡県  | 松本 | 樋口 | 永沼 | 永沼 | 0(0) |
|      | ✕  |    | ✕  |    |      |
| 徳島 A | 坪井 | 長瀬 | 竹内 | 坪井 | 1(0) |

〈4回戦〉

| チーム名                      | 先鋒 | 中堅 | 大将 | 代  | 点数    |
|---------------------------|----|----|----|----|-------|
| 徳島 A                      | 坪井 | 長瀬 | 竹内 | 坪井 | 1(2)  |
|                           | ⓉⓈ |    | ✕  |    |       |
| 三井住友海上<br>火災保険(株)<br>(東京) | 山下 | 小野 | 永田 | 小野 | 1(2)代 |

〈2回戦〉

| チーム名    | 先鋒 | 中堅 | 大将 | 代  | 点数   |
|---------|----|----|----|----|------|
| 和歌山刑務所B | 馬場 | 大迫 | 平岡 | 平岡 | 1(1) |
|         | ✕  |    | Ⓢ  |    |      |
| 徳島 B    | 金野 | 平野 | 森本 | 平野 | 2(2) |

〈3回戦〉

| チーム名            | 先鋒 | 中堅 | 大将 | 代 | 点数   |
|-----------------|----|----|----|---|------|
| 日通商事(株)<br>(東京) | 高橋 | 遊佐 | 矢野 |   | 2(3) |
|                 | ✕  |    | ⓈⓈ |   |      |
| 徳島 B            | 金野 | 平野 | 森本 |   | 1(1) |

〈1回戦〉

| チーム名        | 先鋒  | 中堅 | 大将 | 代 | 点数   |
|-------------|-----|----|----|---|------|
| 優心会<br>(三重) | 石川  | 水谷 | 川崎 |   | 0(0) |
|             | ⊗⊗  |    |    |   |      |
| 徳島C         | 小宇佐 | 芝  | 竈土 |   | 1(2) |

〈2回戦〉不戦勝

〈3回戦〉

| チーム名  | 先鋒  | 中堅 | 大将 | 代        | 点数    |
|-------|-----|----|----|----------|-------|
| 岡山剣連B | 三戸  | 剣持 | 藤本 | 三戸       | 0(0)  |
|       |     |    |    |          |       |
| 徳島C   | 小宇佐 | 芝  | 竈土 | ⊗<br>小宇佐 | 0(0)代 |

〈4回戦〉

| チーム名           | 先鋒  | 中堅 | 大将 | 代        | 点数    |
|----------------|-----|----|----|----------|-------|
| 東芝情報機器<br>(東京) | 善積  | 岩出 | 清水 | 善積       | 0(0)  |
|                |     |    |    |          |       |
| 徳島C            | 小宇佐 | 芝  | 竈土 | ⊗<br>小宇佐 | 0(0)代 |

〈5回戦〉 ベスト8

| チーム名              | 先鋒  | 中堅       | 大将 | 代 | 点数   |
|-------------------|-----|----------|----|---|------|
| 総合警備保障(株)<br>(東京) | 遊佐  | 秋吉       | 佐藤 |   | 1(1) |
|                   |     | ⊕<br>一本勝 |    |   |      |
| 徳島C               | 小宇佐 | 芝        | 竈土 |   | 0(0) |

# 鹿島神宮式年大祭御船祭記念

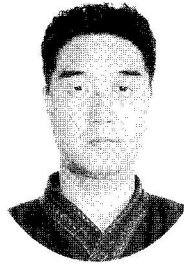
## 「全国選抜剣道七段大会」

### 剣豪丸目藏人顕彰

## 「全国選抜剣道七段大会」 に出場して

警察支部

平野 誠司



平成十四年八

月三十一日、武

道発祥の地とし

て知られるこの

鹿島の地で、十

二年に一度行わ

れる鹿島神宮の式年大祭御船祭を記念して、

この度初めて剣道大会が開催され、全国都

道府県から四十七名の代表選手と九名の特

別招待選手、計五十六名の七段剣士が御祭

神「武甕槌大神」（たけみかづちのおおかみ）

への奉納試合として熱戦を繰り広げました。

私は徳島県代表選手として、一回戦・富

山県の高瀬利夫選手（教員）を判定で破り、

二回戦を、招待選手でもある東京代表・上段の宇野明彦選手（警視庁）と対戦しました。

試合は時間内に決まらず、延長となりました。じりじりと上段をコート角に追い込み、放った右小手に会心の手応えを感じとったのですが、旗は拳がらず、瞬間ここまですべて続いてきた集中力が、一気に途切れてしまった感じがしました。構え直して、何でもない片手面を二本連取されてしまいます。

また、この二ヵ月後の十月二十日、熊本県錦町において剣豪丸目藏人を顕彰して、第十三回全国選抜剣道七段大会が全国から選抜された三十二名の選手によって行われました。

私は今回三回目となる出場ではありますが、前々回ベスト八、前回ベスト十六という成績であったため、もう一度奮起して頑張ろうと試合に臨みました。

一回戦の相手は、地元中学校教員の今村教士でありました。私とは初めて対戦する先生であり、周りから背の低い先生だよと言うことは聞いておりましたが、（失礼では

ありますが）お会いしてこれはやりにくいなどと思わざるをえない背の低さでありました。一般に背の低い選手は、打突機会が頻繁で連続技を多用し相手を翻弄するタイプが多いと思われませんが、まさにそのとおり展開となり、「構えの懸待」でなく、「技の懸待」での勝負となりました。結局延長の末、相手が間に入ろうとしたところに竹刀が引っかかり、続いて打った面を取られてしまいます。試合中、これは如何にしてと何度も思案しますがそのうちに相手に合わせていたようです。

自己で創造する一本の価値観には、より高いものに拘って打ちを出すように稽古しておりますが、特に試合時、自己の判断と審判員の判断の相違があったとき、また苦手な剣風と対峙したときなどに微妙な心の動きがあります。淡々と相手と対峙していなければいけないのですが、今回はこれができるなかったということが負けに繋がる結果となっていました。試合中の所々に自分が湧き出てきて心身を拘束するのは、最初から若しくは何かの拍子に集中の糸が

ブツリと切れてしまう、心のスイッチがオフになることであり、囚われというものが心が偏向していきます。すなわちここが先が消えている瞬間です。

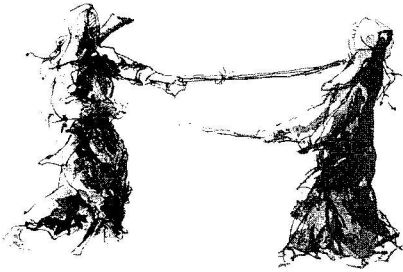
試合に臨み、心身共に捨てきった自分を創造することが大切であり、試合に勝ちたい、打ちたいという心を先行させず、自己の力を出し切って勝負するんだという気持ち、すなわち「くるならこい・さあいくぞ」といった気（捨てる）を全面にさらけ出すことが、逆に良い結果を生み出すことができるのだと私は思います。

前者大会の優勝は、やはり神奈川県宮崎正裕選手でした。勝負所というかここぞというときの打ちの出しかたや防御には徹したものがあり、やはり常人ではありませぬ。後者大会の優勝は、初出場である大阪府警の江藤選手でした。この日の江藤選手は構えた姿と打ちにまさしく捨て身が感じられた内容でありました。

これら大会を通して、試合においていかに相手を方便として自分を体現することができるか、その難しさを痛感いたしました。

試合だから、稽古だからじゃなく、自分の表現するものは同じでありたいと常々考えておりますから、然るべく剣道で然るべくして勝つてというのはまだまだ、まだまだです。

しかし、決して近道でなく、また到達点を変更することなく、日々葛藤の中で『只是の不染汚』を大切にしていきたいと思っています。



## 全剣連設立五十周年記念

### 「第四十八回全日本

### 東西対抗剣道大会」

に出場して

警察支部

平野 誠 司

昭和十五年、第一回大会が宮崎市で開催されたのを発祥として、以来、全国各地を巡り行われてきた伝統あるこの大会が九月二十九日、静岡県藤枝市で行われました。特に今年は今全剣連設立五十周年としての冠大会であり、この記念すべき大会に西軍代表として出場させていただいたことに深い感銘を受けました。

現在この大会は、先鋒から三十一将までの五名を六段、三十将から十三将までの十八名を七段、十二将から三将までの十名を八段、そして副将、大将を範士がつとめ、東西それぞれ三十五名の選手が選考されて試合が行われています。

私は西軍二十六将として、神奈川県宮崎正裕選手と対戦しました。相手が宮崎選

手だからといって特に拘りはありませんでしたし、自分の剣道を精一杯やりきろうと試合に臨みました。

立ち上がり初太刀勝負と思っていたところ、例の如く「すーうっ、すっすっ」と打ち間に入ってきました。横から見ている分では、なぜあそこで見るのか、そこを乗らないとだめといつも思っているのに、いざ対峙してみると絶妙な拍子によって入ってくるのに気づき、思わず見てしまい受けに回っているそんな感じです。そして、担ぎ気味で放った小手に手元が浮いたため旗が三本とも拳がりました。相手はその後の面で決めようとしていたため、少し決め損ねた感じでしたが、手元を浮かされたので仕方ないかと気持ちを交えることに努めました。二本目となり、普段どうり（勝って打つ）

しまい、後には何もいえない焦燥感だけが残っていました。

自分としては東西対抗の大一番、名選手とじっくり合気になり勝負をしたかったのですが、自分の剣道を崩した時点で勝はなかった。「勝負は打って勝つんだよ」といった感じがしなくてもない試合でありました。

私の場合、常に自分の剣道をいかに出し切って表現（勝負）するかに意識を集中させます。だから相手の試合もあまり見ませんし、研究もしません。相手の弱点が云々といったことは余り考えない方です。欲がないと良く言われますが、勝利への渴望は自分の場合は焦りや迷いを生みます。したがって、大事な試合になればなるほど競技者である自分と求道者である自分が衝突してしまうのです。

自分は「初めに勝負ありき」ではなく、「武道の神髄としての勝敗」があるという考えを理想としています。敵は相手でなく自分であり、相手を方便として今の自分に不足するものを求めて現在の修行が続いています。

「剣は人なり」。太刀の一振り一振りがまさしく自己表現であり、その振る人間そのもの、すなわち生き方までが凝縮されます。いつまでも自己を見続け耕していく、そんな剣道人でありたいと、大会を終了して四十の初心を感じずにはいられない、そんな心境でありました。



# 国民体育大会に参加して

徳島県警察本部教養課

教士七段 中尾正輝



第五十七回国

民体育大会秋季大会は、平成十四年十月二十七日(日)から十月三十日(水)

までの四日間、高知県立土佐西南大規模公園(大方地区)体育館において「よさこい高知国体」が開催されました。

本県からは、平成五年に開催されました、「東四国国体」以来、少年男女、成年男女の全種目に出場を果たし、開会式における入場行進で「徳島剣道」の存在を全国に示しました。

少年男子(県選抜)は、第一回戦、富山県に三―一で勝利し、第二回戦に進出しましたが、茨城県に一―四で敗れました。

一方、少年女子(富岡東高校)は、実績から、上位進出を期待していましたが、一

回戦で神奈川県に一―四で敗れました。また、成年女子も、第一回戦で、東京都に〇―二で敗れました。

いずれのチームも、持てる力を最大限發揮して戦いました。

県単独で出場した成年男子は、先鋒、敦賀晋平四段・次鋒、富田圭介五段・中堅、平野誠司七段・副将、西谷馨一七段・大将(監督兼務)、中尾正輝七段が出場いたしました。

本年は、出場選手の選考方法が変わり、第一次予選から第三次予選まで実施し、最終決定するという方法でした。

選手決定以後、警察学校体育館等での合同稽古により、技術、体力、そして何事にも動じない「精神力、集中力」の強化に努めてまいりました。一つ残念であったことは、諸般の事情により、県外遠征が実施出来なかった事でした。

試合は、第一回戦、岩手県と対戦しました。「試合速報」を添付し、試合結果報告といたします。

諸先生、剣友の皆様方のご支援を頂きま

したことに對して、心から感謝申し上げます

第57回 国民体育大会 剣道競技 (成年男子)

| 第57回 国民体育大会 剣道競技 (成年男子) |    | 第2試合 |    | 第3試合  |       | 第4試合 |    |
|-------------------------|----|------|----|-------|-------|------|----|
| 審判                      | 記録 | 審判   | 記録 | 審判    | 記録    | 審判   | 記録 |
| 梅宮 勇治                   | 徳島 | 村上 済 | 岩手 | 山口 盛合 | 佐藤 菊池 | 小島   |    |
| 徳島                      | 岩手 | 徳島   | 岩手 | 徳島    | 岩手    | 徳島   | 岩手 |
| 1                       | 反相 | 1    | 反相 | 1     | 反相    | 1    | 反相 |
| 2                       | 副将 | 2    | 副将 | 2     | 副将    | 2    | 副将 |
| 3                       | 副将 | 3    | 副将 | 3     | 副将    | 3    | 副将 |
| 4                       | 副将 | 4    | 副将 | 4     | 副将    | 4    | 副将 |
| 5                       | 副将 | 5    | 副将 | 5     | 副将    | 5    | 副将 |
| 6                       | 副将 | 6    | 副将 | 6     | 副将    | 6    | 副将 |
| 7                       | 副将 | 7    | 副将 | 7     | 副将    | 7    | 副将 |
| 8                       | 副将 | 8    | 副将 | 8     | 副将    | 8    | 副将 |
| 9                       | 副将 | 9    | 副将 | 9     | 副将    | 9    | 副将 |
| 10                      | 副将 | 10   | 副将 | 10    | 副将    | 10   | 副将 |
| 11                      | 副将 | 11   | 副将 | 11    | 副将    | 11   | 副将 |
| 12                      | 副将 | 12   | 副将 | 12    | 副将    | 12   | 副将 |
| 13                      | 副将 | 13   | 副将 | 13    | 副将    | 13   | 副将 |
| 14                      | 副将 | 14   | 副将 | 14    | 副将    | 14   | 副将 |
| 15                      | 副将 | 15   | 副将 | 15    | 副将    | 15   | 副将 |
| 16                      | 副将 | 16   | 副将 | 16    | 副将    | 16   | 副将 |
| 17                      | 副将 | 17   | 副将 | 17    | 副将    | 17   | 副将 |
| 18                      | 副将 | 18   | 副将 | 18    | 副将    | 18   | 副将 |
| 19                      | 副将 | 19   | 副将 | 19    | 副将    | 19   | 副将 |
| 20                      | 副将 | 20   | 副将 | 20    | 副将    | 20   | 副将 |
| 21                      | 副将 | 21   | 副将 | 21    | 副将    | 21   | 副将 |
| 22                      | 副将 | 22   | 副将 | 22    | 副将    | 22   | 副将 |
| 23                      | 副将 | 23   | 副将 | 23    | 副将    | 23   | 副将 |
| 24                      | 副将 | 24   | 副将 | 24    | 副将    | 24   | 副将 |
| 25                      | 副将 | 25   | 副将 | 25    | 副将    | 25   | 副将 |
| 26                      | 副将 | 26   | 副将 | 26    | 副将    | 26   | 副将 |
| 27                      | 副将 | 27   | 副将 | 27    | 副将    | 27   | 副将 |
| 28                      | 副将 | 28   | 副将 | 28    | 副将    | 28   | 副将 |
| 29                      | 副将 | 29   | 副将 | 29    | 副将    | 29   | 副将 |
| 30                      | 副将 | 30   | 副将 | 30    | 副将    | 30   | 副将 |
| 31                      | 副将 | 31   | 副将 | 31    | 副将    | 31   | 副将 |
| 32                      | 副将 | 32   | 副将 | 32    | 副将    | 32   | 副将 |
| 33                      | 副将 | 33   | 副将 | 33    | 副将    | 33   | 副将 |
| 34                      | 副将 | 34   | 副将 | 34    | 副将    | 34   | 副将 |
| 35                      | 副将 | 35   | 副将 | 35    | 副将    | 35   | 副将 |
| 36                      | 副将 | 36   | 副将 | 36    | 副将    | 36   | 副将 |
| 37                      | 副将 | 37   | 副将 | 37    | 副将    | 37   | 副将 |
| 38                      | 副将 | 38   | 副将 | 38    | 副将    | 38   | 副将 |
| 39                      | 副将 | 39   | 副将 | 39    | 副将    | 39   | 副将 |
| 40                      | 副将 | 40   | 副将 | 40    | 副将    | 40   | 副将 |
| 41                      | 副将 | 41   | 副将 | 41    | 副将    | 41   | 副将 |
| 42                      | 副将 | 42   | 副将 | 42    | 副将    | 42   | 副将 |
| 43                      | 副将 | 43   | 副将 | 43    | 副将    | 43   | 副将 |
| 44                      | 副将 | 44   | 副将 | 44    | 副将    | 44   | 副将 |
| 45                      | 副将 | 45   | 副将 | 45    | 副将    | 45   | 副将 |
| 46                      | 副将 | 46   | 副将 | 46    | 副将    | 46   | 副将 |
| 47                      | 副将 | 47   | 副将 | 47    | 副将    | 47   | 副将 |
| 48                      | 副将 | 48   | 副将 | 48    | 副将    | 48   | 副将 |
| 49                      | 副将 | 49   | 副将 | 49    | 副将    | 49   | 副将 |
| 50                      | 副将 | 50   | 副将 | 50    | 副将    | 50   | 副将 |
| 51                      | 副将 | 51   | 副将 | 51    | 副将    | 51   | 副将 |
| 52                      | 副将 | 52   | 副将 | 52    | 副将    | 52   | 副将 |
| 53                      | 副将 | 53   | 副将 | 53    | 副将    | 53   | 副将 |
| 54                      | 副将 | 54   | 副将 | 54    | 副将    | 54   | 副将 |
| 55                      | 副将 | 55   | 副将 | 55    | 副将    | 55   | 副将 |
| 56                      | 副将 | 56   | 副将 | 56    | 副将    | 56   | 副将 |
| 57                      | 副将 | 57   | 副将 | 57    | 副将    | 57   | 副将 |
| 58                      | 副将 | 58   | 副将 | 58    | 副将    | 58   | 副将 |
| 59                      | 副将 | 59   | 副将 | 59    | 副将    | 59   | 副将 |
| 60                      | 副将 | 60   | 副将 | 60    | 副将    | 60   | 副将 |
| 61                      | 副将 | 61   | 副将 | 61    | 副将    | 61   | 副将 |
| 62                      | 副将 | 62   | 副将 | 62    | 副将    | 62   | 副将 |
| 63                      | 副将 | 63   | 副将 | 63    | 副将    | 63   | 副将 |
| 64                      | 副将 | 64   | 副将 | 64    | 副将    | 64   | 副将 |
| 65                      | 副将 | 65   | 副将 | 65    | 副将    | 65   | 副将 |
| 66                      | 副将 | 66   | 副将 | 66    | 副将    | 66   | 副将 |
| 67                      | 副将 | 67   | 副将 | 67    | 副将    | 67   | 副将 |
| 68                      | 副将 | 68   | 副将 | 68    | 副将    | 68   | 副将 |
| 69                      | 副将 | 69   | 副将 | 69    | 副将    | 69   | 副将 |
| 70                      | 副将 | 70   | 副将 | 70    | 副将    | 70   | 副将 |
| 71                      | 副将 | 71   | 副将 | 71    | 副将    | 71   | 副将 |
| 72                      | 副将 | 72   | 副将 | 72    | 副将    | 72   | 副将 |
| 73                      | 副将 | 73   | 副将 | 73    | 副将    | 73   | 副将 |
| 74                      | 副将 | 74   | 副将 | 74    | 副将    | 74   | 副将 |
| 75                      | 副将 | 75   | 副将 | 75    | 副将    | 75   | 副将 |
| 76                      | 副将 | 76   | 副将 | 76    | 副将    | 76   | 副将 |
| 77                      | 副将 | 77   | 副将 | 77    | 副将    | 77   | 副将 |
| 78                      | 副将 | 78   | 副将 | 78    | 副将    | 78   | 副将 |
| 79                      | 副将 | 79   | 副将 | 79    | 副将    | 79   | 副将 |
| 80                      | 副将 | 80   | 副将 | 80    | 副将    | 80   | 副将 |
| 81                      | 副将 | 81   | 副将 | 81    | 副将    | 81   | 副将 |
| 82                      | 副将 | 82   | 副将 | 82    | 副将    | 82   | 副将 |
| 83                      | 副将 | 83   | 副将 | 83    | 副将    | 83   | 副将 |
| 84                      | 副将 | 84   | 副将 | 84    | 副将    | 84   | 副将 |
| 85                      | 副将 | 85   | 副将 | 85    | 副将    | 85   | 副将 |
| 86                      | 副将 | 86   | 副将 | 86    | 副将    | 86   | 副将 |
| 87                      | 副将 | 87   | 副将 | 87    | 副将    | 87   | 副将 |
| 88                      | 副将 | 88   | 副将 | 88    | 副将    | 88   | 副将 |
| 89                      | 副将 | 89   | 副将 | 89    | 副将    | 89   | 副将 |
| 90                      | 副将 | 90   | 副将 | 90    | 副将    | 90   | 副将 |
| 91                      | 副将 | 91   | 副将 | 91    | 副将    | 91   | 副将 |
| 92                      | 副将 | 92   | 副将 | 92    | 副将    | 92   | 副将 |
| 93                      | 副将 | 93   | 副将 | 93    | 副将    | 93   | 副将 |
| 94                      | 副将 | 94   | 副将 | 94    | 副将    | 94   | 副将 |
| 95                      | 副将 | 95   | 副将 | 95    | 副将    | 95   | 副将 |
| 96                      | 副将 | 96   | 副将 | 96    | 副将    | 96   | 副将 |
| 97                      | 副将 | 97   | 副将 | 97    | 副将    | 97   | 副将 |
| 98                      | 副将 | 98   | 副将 | 98    | 副将    | 98   | 副将 |
| 99                      | 副将 | 99   | 副将 | 99    | 副将    | 99   | 副将 |
| 100                     | 副将 | 100  | 副将 | 100   | 副将    | 100  | 副将 |

## 第三十七回全日本

### 居合道大会に参加して

居合道部 一村昌和

平成十四年十月十九日(土)、大阪市中央体育館で行なわれた全日本剣道連盟創立五十周年記念を冠した第三十七回全日本居合道大会・都道府県対抗優勝試合に五段の部で本県代表として参加した。

修練を積み、各都道府県の厳しい予選を勝ち抜いて出場してくる新進気鋭の選手のなかで、私の場合は、五段で留まったまま十余年が過ぎての初出場であった。

試合は、全剣連居合の礼法、古流二本、指定技の全剣連居合三本、計五本で行なわれた。古流二本は、無双直伝英信流の「前」と「月影」、指定技は三本目「受け流し」、六本目「諸手突き」、十本目「四方切り」を抜いた。一回戦は、三重県の菊本和夫選手(五十四歳)に二対一の僅差で勝つことができた。しかし、二回戦は埼玉県の柳川淳選手(三十二歳)に三対〇で完敗した。そ

の柳川選手も四回戦で優勝した大阪府の野田克哉選手に三対〇で敗れている。

期待に十分応えれず自責の念に駆られたが、念願の一回戦突破が果たせたことで納得せざるを得ないぐらい全国大会の壁は厚く、レベルの高さを感じた。日頃の修練の深さが試合や審査に現れるといわれるが、まさにその通りの結果となった。試合後、緊張感から解放された私に練習不足を指摘するとともに、もっと真剣に居合に取り組むよう意見をしてくれた他県の先生もおおり、大いに取りかかった。

私自身、無心で演武できたときと欲を出して勝ちを意識したときの居合の違いを自覚してはいるのだが、修練の度合いが鮮明にでてしまうのである。平常心を失うと、より速く抜き、より鋭く刀を振ろうとする気持が強くなり、肩に力が入ってしまう。あらゆる所作が粗雑になり、「味」のない居合となってしまうのである。一見、豪快で気迫がこもっているように見えるのだが、全体的に余裕がなく、細部には理に適った的確な斬りや身体の運用が十分なされてい

ないのである。なにものにも囚われずに、無理・無駄のない柔らかな居合ができたらと思うのであるが、今も日暮れて道遠しの状態である。

それより、なにより刀を抜く練習時間の少なさだろう。勤務の都合もあるのだが、安易な生活に流れ、十分な練習をすることができなかった。強化練習も開催してもらい、先生方の指導により多くの改善すべき点を指摘されながらも、それができるまで繰り返す日々の継続した練習に欠けていたのが、最大の敗因であるのは明かである。

今回の貴重な体験を今後活かして、「平常心」を失うことなく、「豪快」と「精妙」を兼備した武道としての居合をめざして精進したい。

# 全日本剣道選手権

## 大会に出場して

警察支部 富田圭介

全日本剣道連盟設立五十周年を迎えた今年、本大会も第五十回の記念大会として十一月二日、三日と二日間に亘って開催された。私自身二回目の出場となる今大会、昨年の一戦敗退という雪辱すべく、是が非でも一回戦突破を目標にこれまで稽古に励んできた。

一回戦の相手は、和歌山県代表の田中選手（教員）である。田中選手とは、一年前に国体の強化練習で試合をしたこともあり、自分とよく似たタイプの選手であるというイメージは持っていたが、だからといって作戦的な事を考えるのではなく、今まで稽古してきたことを一つ一つ思い出し、自分の力が出し切れるよう集中することに力を注いだ。

いよいよ試合が始まり前半戦、相手の動きに過剰に反応し、受けの体勢が多くなっ

ている自分に気が付いた。結局びびって集中し切れないのである。（このままではいけない。なんとかしなければ）と思った時、いつも先生方に言われている（左の拳を挙げるな左の拳は気持ちの表れじゃ）という言葉が思い出され、そこからは不思議なくらい落ち着いて試合することが出来た。延長に入っても間もなく出小手が決まり念願の一回戦突破を果たす事が出来た。

二回戦の相手は、千葉県代表の染谷選手（県警）である。有名選手相手に自分の今の實力はどれ位通用するのかと、プレッシャーではなく、むしろ楽しみな気持ちで試合に臨んだ。試合開始、（自分から攻めていこう）と決めていた私は、一回戦同様構えを崩さないことに注意しながら攻めていった。しかし相手の構えは全然崩れない。なかなか突破口がみつからないまま試合は延長戦に入った。（何とか粘って、相手に隙ができれば）と思っていた矢先に相手の放った面が見事に決まった。この時、私自身構えを崩したつもりはなかったのであるが、打たれた面の感触は間違いない一本となる強烈な

打突であった。残念ながら二回戦敗退。翌日から行なわれることになっていた三回戦への道はここで絶たれた。この時点で私は自分の試合を振り返り自分なりに今の力は出せたのではないかと納得していた。

大会が終わり徳島へ帰った私は自分の試合のビデオを見て愕然とした。技が出ていない。というより相手の威圧感に負けて技が出させてもらえないという感じである。本来技を出すための攻めが、ただ前へ前進するという動作で終わらされている。今大会準決勝以降の試合を見て感じた事は、技

自体のスピード、正確性の他に技を出すための過程における攻めの工夫ということである。相手の隙を打てる技と相手の隙を作る攻めの工夫が必要であると感じた。剣道に限らず一つのことを追求していくと、次から次へと新しい課題が生まれてくる。その課題を克服していくためには何らかの目標を立て、自分の課題に対する意識をしっかりと持ち日々努力実践していく他ないと思う。そしてそれが出来て初めて一つの壁を乗り越え、それまでと違った新し

い世界が見えてくるような気がする。少しでも上の世界を目指して努力していきたいと思う。

### 第四十九回

### 全日本実業団

### 剣道大会に参加して

(株)日亜化学工業

山本 泰史

創部して二度目の出場となる全日本実業団剣道大会の結果報告をいたします。

今年も、『大きなたまねぎ』の下に全国各地から三〇〇余りのチームが出場。結果は、下記のように無惨すぎる結果で私たちの一大イベントが幕を閉じる。

#### 〈出場選手〉

|    |       |
|----|-------|
| 監督 | 小川 智滋 |
| 先鋒 | 呉羽 貴志 |
| 中堅 | 山本 泰史 |
| 大将 | 中尾 幸雄 |
| 次鋒 | 谷口 智映 |
| 副将 | 園田 慎吾 |
| 補欠 | 仁木 隆夫 |

#### 〈試合結果〉

一回戦 シード

二回戦 日亜化学 〇―五 JR東日本

呉羽 メーメメ 佐々木

谷口 ツーメメ 小林

|    |   |       |
|----|---|-------|
| 山本 | メ | 日下部   |
| 園田 | ― | コ日向   |
| 中尾 | ― | メメ 大津 |

二〇〇二年剣道部目標を、『全日本実業団大会三回戦突破』（根拠：前回が三回戦敗退のため）と設定し、活動していたにも関わらず、目標を達成できなかったのは、各人の達成意識の低さ、強靱な精神力不足等、要因は多々考えられた。その最大要因は何か？全員で解析した結果、『一回の練習に対する集中力不足』、『練習+αの工夫不足』と決定。↓Act：横の動き、足捌き、体捌き、地稽古は一本勝負等の取り入れ。  
↓↓結論：出稽古等で幅広い剣道観を養い、練習+α↓↓来年の実業団大会で雪辱↓↓全員のスパイラルアップ!!  
また、厳しい企業競争時代ゆえ、会社経費で活動している以上、勝つことで会社名をアピールしていくことも私たちの大きな使命である。

《二〇〇三年 活動メンバー 11名 紹介》

監督：小川 智滋

【男子】

主将…中尾 幸雄

副主将…園 田 慎 吾

副主将…呉 羽 貴 志

主 務…谷 口 智 映

総括マネージャー…山 本 泰 史

携帯〇九〇―三七八〇―九八一三

仁 木 隆 夫

木 里 健 一

倉 橋 孝 輔

【女子】

主 将…竈 土 恵 子

副主将…元 浦 さおり

\* 是非、木曜日、阿南市大潟武道館に、

防具持参でお気軽にお立ち寄り下さい。

また、一緒に剣道を楽しみながら、目標に向って戦える同士を剣道部は募集しています。連絡をお待ちしております。

今回の経験を生かして、まだまだ微力ではありますが、県内の実業団チームとして徳島県剣道連盟発展のために精一杯尽力してゆく所存です。今後とも、ご指



導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。以上で、日亜化学剣道部の紹介を兼ね、全日本実業団大会の結果報告とさせていただきます。

第二十四回全日本高齢者

武道大会に参加して

徳島県高齢剣友会

中山 啓 男



平成十四年六月三日高齢者待望の武道大会が日本武道館において華やかに開催された。本県

からは寿組の早川先生を筆頭に、遠藤剣連会長さん、糸田川先生、南先生、近藤先生、そして私の六名で参加した。今回も出場を楽しみにしておられた一村喜佐男先生が発直前に膝痛を起こされて無念の辞退となった。連続出場の先生にとつてさぞかし無念であったにちがいない。一日も早い快復をお祈りします。

先発隊の遠藤・南・近藤の各先生は五月三十日に東京入りし、武道館下の九段会館に宿泊、残る三名は六月一日に先発隊と合流した。大会までの三日間、先輩の諸先生

が後輩のために開拓して下さった、野間・三菱・西山の三道場を訪ね、稽古を付けて頂く機会に恵まれた。どの道場でも本県諸先輩たちとの親交の深さを物語るように、私たちは客人として温かい歓迎を受けた。先輩を持つ有難さ、心強さを実感したのである。この誌面をお借りして改めて感謝を申し上げます。

六月三日、いよいよ大会当日を迎えた。「腕に覚えあり」と全国各地から参加された武道家たちの熱気が、あの広い日本武道館に充滿しており、いつしか私もその熱気を共有し、心も体も熱く燃えていた。

大隅大会長をはじめ、有志多数の歓迎のご挨拶を頂いた後、なぎなた・居合道・銃剣道・剣道による演武が披露された。修行を重ねること半世紀に及ぶ先生方の演武の身のこなし、美しさに加えてその迫力は、まるで戦国の世にタイムスリップしたような錯覚さえ覚えたのであった。

中でも、なぎなたの演武は優雅さのなかにも、かつては家を守り、城を守った武家社会の女性の歴史を思い起こさせるに足る

ものがあつた。素晴らしい演武による興奮もさめやらぬうちに、試合開始の陣太鼓が鳴り響き、各コートで年齢別の試合が始まった。徳島の先生方も終始健闘されたが、なぜか勝利の女神は徳島勢には微笑んではくれなかった。

寿組の早川先生が敢闘賞に輝いたのがせめてもの救いであつた。この組優勝者の渡辺潤先生（神奈川）とベスト四をかけた試合は実に見応えがあつた。早川先生は、その昔徳島師範時代に、小手の早川と恐れられた歴戦の兵だけに、攻めの剣道に徹していた。延長戦に入り見事な小手が決まったかに見えたが、判定は渡辺先生の面で勝負が付いた。悔やみて余りある戦いであつた。

観覧席に目を遣ると、身を乗り出してご主人の試合を見守る奥様たちの姿が印象的であり、また「おじいちゃん頑張つて」と叫ぶお孫さんたちの黄色い声援が飛び交う館内は、この大会ならではの光景であつた。

試合が終われば、勝敗にとらわれず、交剣知愛の喜びを分かち合う和やかな絵巻がそこにあつた。老いて尚こうした生き甲斐の

場があることを肌で感じ、喜びと希望が込み上げてきた。

「武道は人生を豊かにしてくれる」と誰かが言ったが、私もそう信じて疑わない一人である。暦年齢はどうしようもないが、その一方で、「精神年齢では、まだまだ若いんだ」という救いの思いがある。八十歳をはるかに越えられた先生方のあの裂け目の気合と、無駄のない剣捌きを拝見するかぎり、私ごときはまだ鼻たれ小僧の域を脱していない。今後は二十五回大会を目標に、更なる心技の練磨に励み、この大会での雪辱を果たしたいものである。

在京中お世話になつた同行の先生方、また、熱い声援を送つて下さつた会員の皆さんに感謝の誠を捧げ大会報告といたします。

## 大会成績

### 【剣道の部】

#### ◆ 寿A (85歳以上)

優勝・風見 敏 (東京)  
 2位・今泉 忠典 (北海道)  
 3位・高垣 良雄 (神奈川)  
 3位・浅井 正治 (三重)  
 敢闘賞・鈴木巳代治 (東京)

#### ◆ 寿B (80歳～84歳)

優勝・渡部 潤 (神奈川)  
 2位・伊藤 哲雄 (岩手)  
 3位・鈴木 章正 (岩手)  
 3位・早水 光雄 (岡山)  
 敢闘賞・早川一也 (徳島)

#### ◆ 特 (75歳～79歳)

優勝・石田 利定 (広島)  
 2位・早川五十一 (愛知)  
 3位・今栄俊一郎 (埼玉)  
 3位・山本 七志 (大分)  
 敢闘賞・中田 勇 (静岡)

#### ◆ A (70歳～74歳)

優勝・藤野 良弘 (滋賀)  
 2位・松実 義明 (埼玉)  
 3位・佐藤 剛 (宮城)  
 3位・小川 未吉 (東京)  
 敢闘賞・中山啓男 (徳島)

#### ◆ B (65歳～69歳)

優勝・富田 稔 (群馬)  
 2位・増尾 利之 (茨城)  
 3位・平根 健夫 (茨城)  
 3位・三上 孔 (神奈川)  
 敢闘賞・亀里仁郎 (群馬)

#### ◆ C (55歳～64歳)

優勝・茅 秋雄 (神奈川)  
 2位・宮本 浅雄 (群馬)  
 3位・佐藤 壽雄 (神奈川)  
 3位・岩尾 征夫 (神奈川)  
 敢闘賞・黒木善健 (神奈川)

# 不老の舞台



第24回

全日本高齢者  
 武道大会

主催：日本武道協会  
 共催：全日本高齢者武道会実行委員会  
 会場：東京都千代田区有明 有明コロシアム

# 第十七回 徳島県

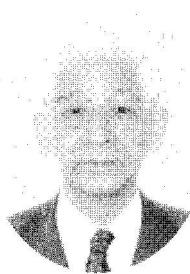
## 高齢者剣道交流大会

徳島県高齢剣友会

南 充 美

日時 平成十四年四月十四日(日)

場所 県立徳島中央武道館



全国老人福祉

助成会より木下

昌己事務局長様

と東京から全日

本高齢剣友会橋

本保治事務局長

ほか四名、(全員六十歳代の精鋭)並びに高  
知から土佐生涯剣友会西内満夫教士七段ほ  
か九名の先生方のご臨席を頂き、盛大に行  
なわれました。

徳島の剣道

開会式は、遠藤一美県剣道連盟会長、木  
下昌己老人福祉助成会事務局長様より励ま  
しのご祝辞を頂き、勝浦 守審判長の説示、  
選手を代表して滝本博文選手の手力強い宣誓  
があり、演武に移りました。

### (1)日本剣道形

打太刀 福井 軍二 教士七段

仕太刀 有賀 秀敏 教士六段

### (2)居合道

抜刀術神伝流 近藤 康次 七段

### (3)試合

団体戦

優勝 阿南支部 B

(福井軍二 有賀秀敏 遠藤一美)

準優勝 阿南支部 A

(西岡 侃 中山啓男 土井 司)

三位 徳島支部 A 徳島支部 B

個人戦

特組 優勝 早川 一也

準優勝 糸谷 文雄

第三位 一村喜佐男

〃 岡島 茂雄

A組 優勝 南 充美

準優勝 遠藤 一美

第三位 中山 啓男

〃 田村 清憲

B組 優勝 川田 武志

準優勝 福井 軍二



第三位 東内 勉

” 張西 政晴

午前中に団体、個人戦が終り、昼食後十三時半から、はるばる来徳の東京、高知両剣士との三者対抗交流親善試合となった。

第一試合 土佐生涯剣友会対徳島高齢剣友会

土佐、四勝二敗引分け土佐の勝ち

第二試合 土佐生涯剣友会対全日本高齢剣

友会、全日本高齢剣友会、四勝三敗

三引分けで勝ち

第三試合 全日本高齢剣友会対徳島高齢剣

友会引分けで終わる

なお、大会終了後、第十五回全国健康福祉祭（福島県）に、出場する代表選手の選考が行われた。

監督選手に高田 豊

先鋒 沢井 勝之

次員 川田 武志

中堅 田村 清憲

副将 中山 啓男

大将 糸谷 文雄

以上六名の者が選出された。



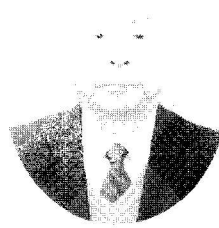
# 第十五回 全国健康

## 福祉祭 福島大会

(うつくしまねりんピック)

### 参加報告

監督 高田 豊



標記大会は平

成十四年十月十

八日から五日間、

福島県下全域で

盛大に挙行され、

剣道は二本松市

城山総合体育館でおこなわれた。

十月十八日徳島県庁において選手結団式

をおこない即ちに出発、空路羽田を経てバ

スに移乗し東北自動車道で福島県の磐梯熱

海温泉に到着。その夜県選手団の壮行会で

大いに盛り上がった。

翌十九日は「あづま総合運動公園」とい

う壮大な施設で常陸宮ご夫婦をお迎えして

の開会式があり、郷土色ゆたかなアトラク

ションもあり楽しい時間をすごした。

そして二十日いよいよ各種スポーツ交流

大会の初日、会場はドーム型の立派な施設

で試合会場は四面とって充分余裕のある状

況であった。さて試合結果であるが第一戦

の島根との戦いは先鋒沢井、次鋒川田両氏

が引き分け、中堅田村氏奮闘するも③②と

連取され、これは③と心配したが副将中山

氏がコテ返しメンとコテ抜きメンで連取し

試合を互格に返して大将戦となった。開始

まもなく糸谷氏の出るところを敵将石田氏

にうまく出小手に押さえられ万事窮すと思っ

ていたところ糸谷氏が捨て身の飛び込みコ

テを極め引き分けとなり、結局島根とは引

き分けに終わった。

第二戦は仙台市と対戦、先鋒次鋒が引き分

け中堅戦となる。第一戦で不覚をとった田村

氏の奮起を期待したところ、なんとこの試合

ではすばらしい闘志を見せ、まず相コテから

面に渡って先取、更に鏝迫り合いから相手が

コテを打って退いたところを追ってのメンと

連取し意気が大いにあがった。そのあと副将

大将が引き分けて勝利となる。

そしてリーグ戦の最終表が発表されて見る



と本県がブロック一位となっており明日の決勝トーナメントの出場が決った。

さて決勝トーナメントとの第一戦の相手は？と見るとなんと地元福島県Aチームではないか。相手にとって不足はない。その夜宿舎では入念なミーティングをおこない明日に備えて早目に就寝。

そして二十一日、第一試合。先鋒沢井氏よく動き、コテ抜きメンを見事に決め副審一人がサツと旗を挙げたがあと二人が挙げず、ついに時間前に飛び込み胴を決められる。次鋒戦は三分を過ぎた頃、相手望月氏の飛び込み面を川田氏が受けたのだが（私の目には竹刀越しと見えた）メンを有効打突とせられてしまった。あとは引き分けで二敗三分で敗れてしまった。今回の交流大会は総合開会式の日を除いて連日の風雨で最悪の天候であったが、競技は内容が濃く、人情もこまやかで大変に気持ちのよいものであった。

ちなみに優勝は予想通り福島Aチームとが大阪チームと競り合い大将戦で勝ち獲得したとのことである。

平成十五年は本県で行われる予定だが、

つつがない挙行と優勝を目指して頑張ろうではありませんか。

## 試 合 結 果

| チーム名 | 仙 台           | 宮 崎           | 島 根           | 徳 島           | 勝敗  | 勝者数 | 総本数 | 順位 |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----|-----|-----|----|
| 仙 台  |               | $\frac{2}{2}$ |               | $\frac{0}{0}$ | 1   | 2   | 3   | 3  |
| 宮 崎  | $\frac{0}{0}$ |               | $\frac{6}{3}$ |               | 1   | 3   | 6   | 2  |
| 島 根  |               | $\frac{2}{1}$ |               | $\frac{3}{1}$ | 0.5 | 2   | 6   | 4  |
| 徳 島  | $\frac{2}{1}$ |               | $\frac{3}{1}$ |               | 1.5 | 2   | 5   | 1  |

※ 本大会では予選リーグは、各チーム2試合しか行わない。

| チーム名 | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 |               |
|------|----|----|----|----|----|---------------|
| 島根   | 田原 | 青木 | 荒木 | 小林 | 石田 | $\frac{3}{1}$ |
|      | X  |    | コメ |    | X  |               |
| 徳島   |    |    |    | メメ | X  |               |
|      | 沢井 | 川田 | 田村 | 中山 | 糸谷 | $\frac{3}{1}$ |

| チーム名 | 先鋒 | 次鋒 | 中堅     | 副将 | 大将 |               |
|------|----|----|--------|----|----|---------------|
| 仙台   | 堀江 | 須田 | 土川     | 内海 | 安倍 | $\frac{0}{0}$ |
|      | X  |    |        | X  |    |               |
| 徳島   |    |    | ⓧ<br>ⓧ |    | X  |               |
|      | 沢井 | 川田 | 田村     | 中山 | 糸谷 | $\frac{2}{1}$ |

| チーム名 | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 |               |
|------|----|----|----|----|----|---------------|
| 福島A  | 白岩 | 望月 | 中山 | 水上 | 木村 | $\frac{2}{2}$ |
|      | Ⓣ  | ⓧ  | X  |    | X  |               |
| 徳島   |    |    | X  |    | X  |               |
|      | 沢井 | 川田 | 田村 | 中山 | 糸谷 | $\frac{0}{0}$ |

# 第九回 徳島県健康

## 福祉祭剣道大会

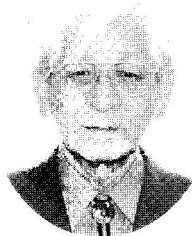
(第十六回全国健康福祉祭徳島大会)

ねりんピック徳島

二〇〇三リハーサル大会

徳島県高齢剣友会

南 充 美



日時 平成十四年十一月十日

場所 阿南市スポーツ総合センター

主催 第十六回全国健康福祉祭徳島大会

阿南市実行委員会

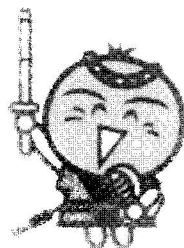
主管 徳島県高齢剣友会

後援 徳島県剣道連盟

第九回徳島県健康福祉祭は来年度平成十

五年に全国健康福祉祭(ねりんピック徳

島二〇〇三)が開催されるので、そのリハー



ねりんピック徳島2003  
マスコット

サルとして剣道会場になる阿南市スポーツ総合センターで開催された。

開会にあたり遠藤一美徳島県剣道連盟会長の挨拶のあと、阿南市長野村靖様より歓迎と激励のお言葉を頂き、審判長の試合上の注意に引き続き選手を代表して中山啓男選手の力強い宣誓で演武に移りました。

### 日本剣道形

打太刀 教士七段 坂下 彦之

仕太刀 教士七段 松村 克隆

### 居合道

無双直伝英信流

範士八段 平尾 勝美

### ◎試合

#### 団体戦

優勝 徳島支部C

(端村 武・松村克隆・糸田川美千男)

準優勝 板野支部A

(三木 毅・川田武志・高田 豊)

第三位 徳島支部B

(高島稔之・東内 勉・南 充美)

#### 個人戦

##### A組

優勝 遠藤 一美

準優勝 土井 司

第三位 糸田川美千男

##### B組

優勝 中山 啓男

準優勝 富士原秀清

第三位 有賀 秀敏

##### C組

優勝 川田 武志

準優勝 福井 軍二

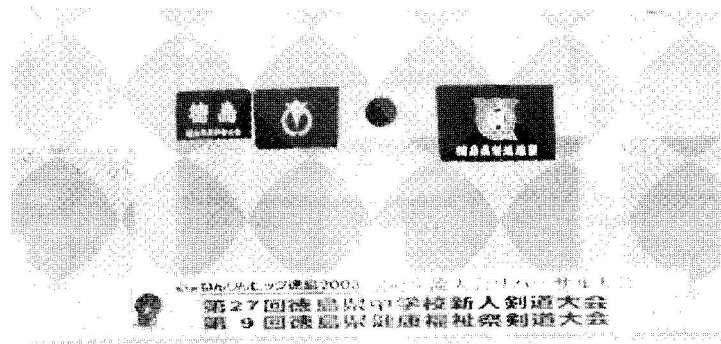
第三位 高島 稔之

この大会は来年全国健康福祉大会が地元本県で開催されるため、今も現職として勤

務されているが大会に出場できる先生のご入会を頂き、徳島剣道連盟の役員、理事による審判で実施された。大会終了後高下正義副会長より、ねんりんピック徳島二〇〇三に出場選手候補予定者の発表があり、強化練習として第一第三土曜日、徳島県警察学校体育館で実施するので参加するよう激励された。

今後いつ本県で開催されるかわからない高齢者の全国大会である。全会員協力して優秀な成績を納めると共に、来県される全国の剣士に徳島大会がたいへん良かったと印象付けるような大会になるよう努力してゆきたい。





第27回徳島県中学校新人剣道大会  
 第9回徳島県健康福祉部剣道大会



# 昇龍旗争奪全国選抜

## 剣道大会三位入賞して

清風館 鈴木達也



平成十五年一

月十一日から三

日間に行ったり、

岡山県で第十回

昇龍旗争奪全国

選抜剣道大会が

行われました。全国から二千人余りの選手が参加していて、徳島からは、五チームでした。ぼくは、徳島清風館道場中学生の部で参加させてもらいました。

そして、予想もしていなかった個人の部で、全国第三位に入賞する事ができました。とても嬉しかったです。

初日に行われた稽古会では、全日本選手権大会優勝の宮崎先生達他、たくさんの方の先生方に、気迫の入った模範稽古を見せてもらい、すごく感動しました。それから、試合前の僕達の稽古では、全国から集まった

人達と一本勝負の練習試合をしましたが、なかなか歯がたたず、ほとんど引き分けに終わっていました。本番は、「悔いの残らない、納得ができる試合をしよう」と思いました。

そして三日目、ぼくのゾーンには今まで勝てた事のない、全国優勝経験者の松井選手がいました。「もし、ぼくが六回戦までいけたら当たるなあ」と話したら、その通りになりました。松井君に勝った事で、気持ちの中で満足感が自信につながったと思います。それに、いつもの自分だったら相手が先に入る。パターンが多かったけど、全国大会の一本勝負では、そういう訳にはいかない。先手必勝だという事が分かった様な気がしました。それが、よい結果になったと思います。後は、スムーズに進みました。

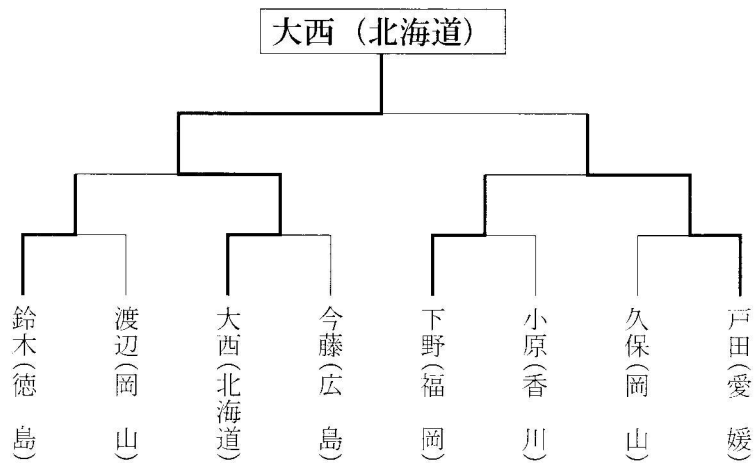
準優勝では、北海道苫小牧真義館の大西君に当たりました。しかし、残念ながら、ひきどりを打った瞬間にメンを載せられてしまった。まさかの一本が入って負けに終わりました。さすがに、相手の動きもよく

見えているし、竹刀の振りも鋭い。やはり、北海道の大西君が優勝しました。今度会う機会があれば、少しでも近づける自分を作っていたと思います。これを経験にもっと稽古を重ね、正しい剣道ができるように、初心にもどって頑張ろうと思います。

これを通して、先生の指導は厳しいけど、それがぼくのためになっている事を実感しました。剣道は大好きです。だから、楽しくやりたい。そのためには、厳しい稽古にも耐える様に努力していきたいです。いろんな壁もあつたけど、くじけそうな時、友達にも支えてもらった事は感謝しています。そして、剣道を通してたくさんの方を学びました。いままで、指導して下さいました先生方ありがとうございます。これからもよろしく願います。

試合結果

中学一年生の部



## 第十九回全国家庭婦人剣道大会

### 阿波女は

### 熱くたくましく

監督 手塚 十三子



高校、大学と数多くの全国大会で活躍、結婚を経て久々の全国大会出場を果たした先鋒金野選手。

じっくりと落ち着いて相手の中心を攻め、ここぞのときは思い切りしかも多彩な技を次々に仕掛ける。緒戦は両者拮抗、惜しくも引き分けとなった。続く第二戦では見事な攻防を繰り広げたが、一瞬の居付きにメンを奪われる。持ち味とするシャープな面技は次年度に期すことになる。

今回で三度目の出場、日本武道館の大舞台に立つも適度な緊張と心地良さの雰囲気  
が漂う次鋒玉田選手。立ち上がりから気力

も充実、身体も前へ前へと主導権を發揮しながらその自在な動きで相手を圧倒する。緒戦は、ややあつて出ゴテに行こうとしたところを逆にメンに乗られてしまったが、爽やかな健闘ぶりには実生活への感謝の念と今後の稽古への強い意気込みが伝わる。本大会の常連ともいえる中堅平野選手。

チームのムードメーカーはもちろん、ポイントゲッターとしての要の存在である。誰にも負けない日頃の稽古の積み重ねの姿勢は、着実な自信をもたらした安定した試合運びだ。緒戦では歯切れの良い面技に飛んだ所をドウに返されたが、すぐに得意の引きメンと引きゴテを決め、さらに勝利を副将へと繋ぐ。集中力とねばり強さはその後も一段と冴える。

中堅からの勝利のバトンを託された本大会のベテランの森本選手。その責を内に秘め颯爽とした風格で相手と立ち向かう。お腹の底から込み上げるような発声とともに、息詰まるような激しい攻防戦に幾度も有効打突に惜しい技が放たれる。ここで一勝を挙げるにより何とか優位な状態で大将

戦へ持ち込もうとする気負いが僅かに見られたものの、堂々とした戦いぶりは見応え十分。

「予選リーグ突破」を目標に一戦一戦を全力で望むがここまで二対一とリードを許し、超ベテランの大将竹内選手に祈りにも似た全員の熱い視線が注がれる。その期待どおり開始早々満点のメンを先取、さらに見事な小手を連取。その結果対佐賀戦においては得本数で本県が勝ちを収めた。本大会から参加の条件は変更され、大将は段位の制限がなくなつたが、中でも迫力充分の竹内選手の剣捌きは一際鮮やかであった。

今大会も来年は成人式を迎える、開会当初、まさに「家庭婦人」の名にふさわしく、ほのぼのとした試合風景があちこちで見られた。その頃初々しく先鋒戦でデビューした選手も現在では貫禄の副将・大将で敏腕を奮っている。近年女子剣道は国体（成年女子）等の競技力の向上と相俟って隆盛の一途であり、どの県どのチームも優勝に向けて稽古に余念がない。だからこそ本物の力量が問われる現在といえる。

徳島の女性剣士の皆さん、来年こそ一丸  
となつて阿波女の底力を發揮いたしましよ  
う。

平成十四年八月六日（火）  
於 日本武道館

先鋒 金野 裕美（阿波支部）  
次鋒 玉田 真理（徳島支部）  
中堅 平野 悦子（鳴門支部）  
副将 森本 敦子（板野西支部）  
大将 竹内佳代子（鳴門支部）  
監督 手塚十三子

予選リーグ 徳島 2(4) | 2(3) 佐賀  
徳島 0(0) | 3(4) 兵庫

|    | 先鋒           | 次鋒       | 中堅     | 副将       | 大将     | 勝者数 | 総本数 |
|----|--------------|----------|--------|----------|--------|-----|-----|
| 佐賀 | 西崎           | 飯盛       | 山中     | 永石       | 黒田     | 2   | 3   |
|    | <del>○</del> | ⊗<br>一本勝 | ⊖      | ⊗<br>一本勝 |        |     |     |
| 徳島 | <del>○</del> |          | ⊖<br>⊗ |          | ⊖<br>⊗ | 2   | 4   |
|    | 金野           | 玉田       | 平野     | 森本       | 竹内     |     |     |

|    | 先鋒           | 次鋒       | 中堅           | 副将       | 大将           | 勝者数 | 総本数 |
|----|--------------|----------|--------------|----------|--------------|-----|-----|
| 徳島 | 金野           | 玉田       | 平野           | 森本       | 竹内           | 0   | 0   |
|    | <del>○</del> |          | <del>○</del> |          | <del>○</del> |     |     |
| 兵庫 | ⊗<br>⊗       | ⊗<br>一本勝 | <del>○</del> | ⊗<br>一本勝 | <del>○</del> | 3   | 4   |
|    | 高本           | 大西       | 植田           | 川原       | 田麿           |     |     |

# 随想

## 老剣士のつづや記

堀江幸夫

明けつつある広い海は穏やかです。水平線上の厚い雲が真紅に染まつていく、雲の穏やかな隙間から差し出る光は槍のようにのびてきます。すごい勢いです。昇る太陽は旭日昇天の言葉そのままです。この海岸に近く終の住家と移り住んで三十余年、来る年も来る年も元朝はここに立って初日の出を迎えてきました。一年の活力をからだ一杯に授かってきました。何もかも忘れて自然の偉大な恵みの中で、人間と生まれた幸せを噛み締める瞬間でもあります。

この間、昭和が終わったと思つたのに、もう平成十五年の元旦です。日の経つのは早い、今年はどうなるのでしょうか。平成十四年は余りにも暗いニュースばかり

で終わりました。経済不況は底無しの泥沼、人の心の荒廃ぶりも又底知れずでした。時代は変わっても世の中のインチキや不正、嘘いつわりはどの時代も横行したものだ。悪代官に悪徳商人の図式は、昔も今も政治家と財界人、人は利のある所に群がるのです。嫌でたまらないがもう腹を立てる気がしない、日常茶飯事ですものネ!

さて、今年の剣道界はどうなりますか。

新しい年、私は歳相応に「老来剣道都忘却 独立閑庭数落梅」の心境にひたりたいと願っていますが、とてもそんな高い境地には至っていません。稽古不足です。論語でしたか「四耐四不」という言葉があります。曰く冷に耐え、苦に耐え、煩に耐え、閑に耐える、激せず、躁がず、競わず、随わずとの人生の道筋、処し方を教えてくれています。剣の修行もまた期するところはここなのですネ。日暮れて道遠しですが元旦は一年の計を心に銘記する日ですから、今更何をと思わず人格の形成、自己完成にしっかりと中段に構えて行じたいと思います。

沢庵和尚も不動智神妙録で「無明住地煩

悩」仏法を通して剣を説き、更に剣に生きる姿勢について、人が人として生きるにはどうすべきか、どうあるべきか説いてくれます。それは「太阿」という二つとない利剣を例えにして、人が総てこの利剣のようになりたいと思えば、その為の工夫と努力を積み重ねるなら、必ずなれる。利剣にならないのは求める心がなく、工夫と努力が足りないだけであるというのが、沢庵和尚の教えなのです。平易で分かり易く説いてくれています。しかも沢庵和尚は仏法を太阿という利剣に例えて、剣は殺人剣でなく、活人剣でなくてはならないのです。人に人間としての尊さを感じとらせず人間として生きる喜びを与えない剣客は、剣の技に秀でてでも人間として秀でない限り、全くなかたわであると真に耳の痛い言葉です。我々剣道人は、襟を正さなければなるまいと深く反省させられます。

今日の剣道人は、楽をして高段位に昇り、その段位の上に、どっかりと安座しているように見えますが、老人の僻目ででしょうか。徳島だけではありません、剣道界全体に蔓

延していると言つても過言ではありません  
一人、人が謙虚に自覚して真摯に生涯修行  
することが如何に大切に目覚めることで  
す。哲学者の森信三先生は道の修行につい  
て、次の三つを教えてください。拝借して、

① 天下第一等の師についてこそ人間も真  
に生き甲斐ありと言うべし。

② 人はすべからず、終生の師を持つべし。  
真に卓越せる師を持つものは、終生道を  
求めて留まることなく、その状あたかも  
北斗星を望んで航行するが如し。いくら  
行つても辿り着く期なければなり。

③ 師説を吸収せんとせば、すべからずま  
ず自らを空しうするを要す。これ即ち敬  
なり故に敬はまた力なり。真の自己否定  
は、所謂お人好しの輩と相去ることまさ  
に千里ならむ。

正月早々言いたい放題、申し訳ありませ  
ん。老人のたわ言とお許しのほど……。



新しい年に乾杯

## 総合武道を目指して

小松島支部

沢井 勝之



随分昔の話で  
ある。教師の一  
言と一本の映画  
が自分の人生を  
大きく変えてし  
まった。

小学校低学年時私の身長はクラスで群を  
抜いて高かったが筋肉が追いつかず痩せて  
ひよろひよろしていた。そんな私へのいじ  
めであったのか、ある教師が授業中にいき  
なり私の後ろにやって来て手に持っていた  
長い竹のサシと私の衣服と背中の中に差し  
込み「お前はコンニャクだ、いつもこうし  
てサシを背中につけとけ」と言った。それ  
以来クラスでの私のあだ名は「コンニャク」  
となった。その言葉は子供心に生涯残るよ  
うな大きな傷をつけ強烈な劣等感を抱かせ  
た。その裏返しとして強くなりたいと思い、  
その頃から格闘技に興味を抱き、武道にの

めり込むようになり、それが今日まで続いている。

私達の少年時代はテレビはまだ各家庭に普及してなく、娯楽の王者は映画であった。

当時の映画館は人で溢れ、映画を見て笑い泣き感動したものであった。映画を見た誰もが、程度の差はあるものの主人公の生きざまに感銘を受け、特にカッコ良いヒーローが活躍する映画においては、そのヒーローのような人間になりたいという願望を持った。特に私は単純な性格のためその傾向が人より強かった。私の人生を決定づけた映画は今から思うと実にくだらない青春映画であった。その内容はアメリカ帰りの英語がペラペラでやたらに喧嘩の強い体育教師が、問題行動生徒が多い超教育困難な高校に赴任し、その生徒達を健全にしていくごくありふれた勸善懲悪のストーリーであった。

私は子供の時に教師から受けた劣等感と屈辱が背景にあり、この映画の主人公のようにかっこよくて喧嘩に強い高校の体育教師になりたいと思った。そのため大学受験も教育学部体育学科に決め、喧嘩に強くな

るために空手・剣道・柔道の全部、二段を取ろうと決心した。実に単純粗雑な人生決定であるばかりか、還暦を越えた今でも子供時代の妄想を引きずっている自分が可笑しくなる。

大学時代は空手ばかりしていた。田舎の国立大学であり活発な部ではなかったが自分としては熱心にやった。朝練習、放課後は大学の練習、夜は町道場での練習と多い時は一日数時間練習していた。当時の空手は現代のようにスポーツ化されておらず、寸止めはほとんど無く急所以外は攻撃できた。だから常に全身傷だらけでよく頭に包帯を巻いて帰省しその姿を見た親が「何のために大学にやったのか」と嘆いていたものであった。

大学卒業後はすぐに高校教員になり前半は柔道をした。部活動の顧問という名目ではあったが生徒以上に毎日ふらふらになるまで練習をした。ある時練習が終わり職員室に帰ったが疲労困憊で足元がふらつきそのまま倒れた。運悪く倒れた下に修学旅行みやげの鉄製の東京タワー模型があり、そ

のタワーの先端が頭に突き刺さったのも今となっては柔道の楽しい思い出である。

教職半ばで外国が見たくなかった。少年時代に見た映画の英語ペラペラ主人公の姿が背景にあった。JOCVのテストを受け東京での訓練の後二年間フィリピン大学の講師として派遣となった。この間小さな子供達を残しての単身赴任であったので妻には随分迷惑をかけた。フィリピン大学では柔道と空手を教えたが、たまたまその国の国技であったアルニス(棒術)に魅せられ、放課後はその練習に没頭した。アルニスは剣や棒をもって闘う武道であるが、攻撃個所は身体全体が可能で、近間では蹴りも投げもあり、鏝せり合いでは剣の柄が顔面に飛んでくる過激なものであり、日本の剣道や棒術とは大きく異なっていたのが魅せられた理由であった。しかし肝心の英語は日常会話や授業には不自由しなくなった程度でほとんど上達はせずに帰国した。

帰国後、赴任校も変わり剣道部の顧問となった。剣道の強い高校であったが、私に關しては剣道・柔道は子供の頃からまね事

でしていたが素人同然であった。放課後は生徒に混じり基本練習、地稽古と生徒と同じ練習を続けた。そこでは全部の生徒を我が師と思ひ頑張った。また機会を見つけてはいろいろな先生にも剣道を教えてもらった。そして皆さんのおかげで、割合早く剣道六段に合格することができ、私のニックネームも「コンニャク」から「高野豆腐」、「鉄人」へと変遷し、この後に長期の絶望的などん底が待っている事も知らずに得意になっていった。

その頃私は、剣道六段、空手五段、柔道四段、棒術（アルニス）四段で合計十九段であった。子供の頃の夢はとっくの昔にかなっていたが、総合武道を目指し武道合計二十段を取ろうという気になった。そして武道二十段目はどうしても剣道で取りたかった。そして数え切れないくらい剣道七段に挑戦したが全て不合格であった。剣道を止めたいと何度も思った。そうこうする内に高校の校長職になり同時に高体連の会長になった。この頃は猛烈に忙しく剣道をする時間は全く無かった。約三年間は剣道の稽

古はゼロのまま教職三十八年間にピリオットをうち定年退職した。

退職後は剣道を初歩からやり直したいと思ったが、三年間も不在をした私のような者でも受け入れてくれるかどうか不安であった。しかし、どこに練習に行っても本当に温かく受け入れてくれた。ありがたい事である。

剣道七段に再挑戦したいが、今まで七段に不合格になる度に反省した事であるが色々な武道をしたために剣道ではそれがマイナス要因として働いている事が分かった。空手では私は左足前で半身に構えていた。柔道では右足前であったが重心を下げ足は外に開いて構えていた。このように私が励んできたそれぞれの武道においては理合、間合、構え、足捌き等大きく異なっている。瞬間的にそれが剣道の妨げになる事がある。例えば竹刀よりも手で打とうとする、足が外に開く、近間になりやすい、重心を低くしようとする、体でよけようとする等である。剣道七段を目指すが単に段を追っかけるのはもう止めた。一から剣道をやり直

すつもりである。まず歩く練習から始めている。両足を平行にして毎日一時間くらいかけて山道を歩いている。素振りも毎日欠かさず行い二キロの特別な竹刀の先が振れるように意識し二百回を日課としている。

剣道の稽古は仕事の関係で毎日とは出来ないが、週二、三回のペースで県警、阿南工、富西等に出かけ稽古をさせてもらっている。稽古で特に留意してる事は「我以外皆師」と思い、稽古で注意していただいた事は必ずチェックし、ただちに直すようにしている。例えば小学生と稽古をしても良いところは自分の技として取り入れようと心掛けている。

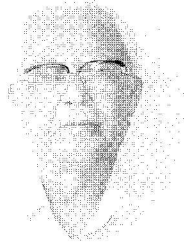
思えば自分なりの総合武道を目指してから随分と長い年月が経過した。今最後の段階にさしかかり大きな壁に突き当たっているが、困難なほどありがたい事だと感謝している。これからは出来るかぎり多くの方から剣道を学び、ゆっくり確実に自分の総合武道を達成したいと願っている。そして英語の勉強もしたいなとちよっぴり思っている。

おわり

# うるわしく健やかに

## 剣の道を歩もう

名西支部 高橋 静 夫



この度、「徳島の剣道」への寄稿の機会を得ることができました。ここに、平素から感じております剣道への思いを記させていただきます。

### 三恩を感謝実行

一、身体髪膚はらみこれ父母に受く。あえて毀傷せざるは、孝の初めなり。身をたて、道を行こない、名を後世に挙げるは、孝の終わりなり。自分を此の世に生んで戴いたのは、ご両親様である。祖父母、兄弟、姉妹のご家族の皆様可愛されて成長し、現在があるのです。しかも、剣道で心身を鍛練しよう

という健康な心身を戴いたことを常に感謝しなければなりません。

文武両道の希望に前進する人は心身ともに健康であり、希望達成ができる人で幸福な人であり、尊敬される人でもあります。

「なせばなる なさねばならぬ何事も ならぬは 己がなさぬなりけり」で、言葉の通り実践することが大切です。如何なる方向を選んでも、実践中には山あり、谷ありで、苦門・難門あり、初心忘れる人はそれまでですが、これ必ず、福門と化してくる有難い道と感謝して、頑張れる人は幸運なのです。仁義礼知信の実行者でもあります。

### 二、恩 師

ご両親様から戴いた心身を教育して下さる有難い恩人です。特に剣の道の修行は、スキンシップの道であつて和合一体、常に恩師と接触して、全身全霊を磨き、鍛練して頂くのであります。有難い恩師に感謝が全身に滲透していくような気持ちで接することが大切です。そうした精神と肉体で道に従つて勝を制するの實力を養つて、少しでも社会に奉仕をし恩返しをすることです。

剣道の稽古時も常に相手を尊重して互いに切磋琢磨して、自主的・自律的に継続し努力することです。今日、米国では、人格教育が尊重され、剣道がさかんに行われているとのこと。剣の道は「礼に始つて礼に終る」礼道刷新、道徳教育の道であり、神仏尊重の道でもあります。また、人格教育の道でもあります。日本は先輩が残された有形無形の財産が沢山ある、世界に誇れる国でもあります。

### 三、社会に対する感謝の念を堅持する

先輩には礼を持って接することが大切です。感謝の念を持つて行う習慣を養う様努力することです。「実る程頭を垂れる稲穂かな」の古言があります。よく考え、実践すべき言葉だと思えます。社会生活ではお金があるから、高い学歴があるから頭を高くする等の考えを持つ人は嫌われます。剣の道も同じです。強くなり、上達したからと思つて、初心者を打ち、初心者を苦しめるようでは剣道の本質から離れています。相手の身になって考え、上達する様に愛情を持って導く任に当たる旨を十分に認識する

ことです。先輩は後輩を親切に導いてこそ価値があり、先達者の信望を得られるのでございます。

今や五十ヶ国近くの人々の剣道愛好者が精進しているのとのことです。私の剣道の外国での思い出といえ、去る十五年前に親善剣道大会に参加したことです。オーストリアに日本全国から剣道の部八十四名、銃剣道の部四十名、居合道の部二十名、薙刀の部七十名の合計二百十四名が飛行機をチャーターして往復しました。四泊五日と記憶しています。その間、ゴールドコーストでは異種試合として、剣道と銃剣道の試合、剣道と薙刀との試合等をしてご披露しました。シドニーでは、世界的な大会場でオーストラリアの選手と試合をしました。その後、稽古をしました。私の所へは二十人の外国の方が稽古に来て頂きました。オーストラリアの剣士は、最後の礼も練習中の礼も立派にされていて感動致しました。日本の道場での稽古時より一層ご立派な礼に驚きました。終わりの礼で八十四名の先生方も何時もの様に一列に並び整列いたし

ました。オーストラリアの方々も立派に整列して互いに礼を行ないました。その後、オーストラリアの夏の連盟会長が帽子を捧げもって、心外にも私の頭に着せて頂き「ナンバーワン」と大声で言いながら帽子を私にプレゼントして頂きました。本当に驚きました。頂いた理由は理解ができませんでしたが、相手を愛し、打突を正しく受けて指導の任に当たった為か、言葉は通じませんが、言葉の壁を越えて通ずるものがあることを体験し、嬉しかった一時でした。至誠神通の言葉の様で、忘れられません。そして、帰国に際してシドニーからブリスベン空港まで二十名の方がわざわざ送ってきて下さいました。また私の所へ寄ってきてくれた時は本当に如何にすればよいかと戸惑いましたが、オーストラリアの剣士の誠心に胸を打たれました。早速、カメラを出して写真を写そうとすればオーストラリアの一人が私の手をとって皆様の中央に連れて来てくれました。妻がシャッターを押して終わった時の嬉しさは、たとえようもなく、生まれて初めての感激を覚えました。身に

沁みて忘れられません。

伝統ある日本の武道は派手ではございませんが、全国に日本の国技・剣道を育ててきたいものと思えます。皆様方のご精進をご期待申し上げます。恩師から「暑い時は暑いことをせよ。寒い時は寒いことをせよ。」と教えられました。厳しい稽古の後には、心技一体の感覚が残ります。頑張ってください。

悠久のこの一抹の生なれど無限に生きる子等を教えん

今日は平素の考えの一端を申し上げます。ご挨拶の筆を擱きます。

なお、高橋静夫先生におかれましては、名西支部での剣道発展への貢献により、徳島県剣道連盟創立五十周年記念感謝状が贈られました。

# ドイツ剣道交流日記

徳島大学 河村 知志



ドイツとの剣道交流は、鳴門市の亀井俊明市長がドイツ訪問の折り、ドイツの新聞に報道さ

れその記事を見た Norbert Marizy(ノーベルト・マリジイ)さんが、その記事に感動されて、剣道でも交流できないだろうかと思いつかれたことから始まりました。昨年は鳴門教育大学の三牧さんと村上さんが行かれました。そして、昨年の交流が素晴らしかったと言うことでも今年も交流継続の依頼がありました。出発前にはヨーロッパで水害があり、不安を抱えながら久保さん(徳大四年)と出発しました。以下日記をまとめました。

九月十一日

ドイツのブラウンシュバイクへ到着、ノー

ベルトファミリーとの対面です。竹刀と防具を持つている私達を見つけて声をかけてくれました。昨年は稽古着姿で...と聞いていた少し期待をしていたのですが、そうではありませんでした。その後、マリータさんの運転で家まで行きました。到着すると食事を用意して下さっていて、少し遅いですが昼食をいただきました。そして、夜はもちろんビールで乾杯！本場ドイツのビールはとてもおいしかったです。

九月十二日

近くの道場で夜八時から形の稽古がありました。ここでは十人弱で稽古をしました。剣道を始めて一年前後の方が多く基本を大切にしています。そして、みんな剣道に取り組む姿勢は真剣でした。

九月十六日

マリアさんの学校で剣道を披露しました。まず剣道形から基本、そして稽古と一通り見せました。みんな、私達の掛け声に驚いていました。また、竹刀や防具に興味を示していました。中でも、木刀を見て「日本刀」という声もあがっていました。

九月十七日

今日は、パイネ市長を表敬訪問しました。パイネ市長舎に行き、独日協会ブラウンシュバイクのバログさんと共に市長室へ行きました。ここでパイネ市のことや日本とのつながりについてお話を頂きました。また、パイネ市のアルバムなどをいただき、貴重な体験をすることができました。

九月十八日

ノーベルト一家は日本の文化に大変興味を持ち、また焼きそばとみそ汁が大好きと言うことで、ランチは私達が作りました。ドイツにも日本食専門店がありそこで材料を買い、みんなにごちそうしました。

夜は、ゴスラーの道場で稽古でした。最初に初心者の方達の稽古がありました。ここで、まだ防具をつけてない人達の指導を任されました。片言の英語と動きで主にすり足や素振りを教えました。その後、一般の稽古がありました。ヨーロッパの女子チャンピオンの方との稽古もでき、充実した一日でした。

九月二十日

昼は、マリアの学校に一日体験入学をさせてもらいました。と言っても授業はドイツ語で行われるので全く理解はできませんでした。唯一、分かったのが体育で陸上競技をしました。夜は、ドイツで最後の稽古でした。素振り、剣道形、基本、地稽古…と時間がたつのがとても早かったです。最後に、ノーベルトさんと三本勝負をし、ドイツでの予定をすべて終えました。

ドイツでは全部で五回稽古をしました。今年は昨年比べて滞在期間が短かったため、日程的にも厳しかったです。しかし、その中でも私達の希望を少しでもかなえようと様々な計画を立てて下さいました。

片言の英語でしたが、様々な話をしました。ドイツには武道具屋がないために、竹刀などは日本などからの取り寄せになるそうです。また、防具が高価なためになかなか人気が集まらないそうです。剣道人口が少ないために、道場が少なく一時間以上もかけて通う人もいました。その分、道場間での交流は多いそうです。最近では子供達の剣道の人気が上がっているみたいでした。

日本でのマンガがきっかけだそうです。ただ、少し憧れというものもあるみたいで実際にやってみるとなかなか剣道を好きになれないという子もいました。最後の稽古でのことですが、そのような女の子が居ましたが、私達の稽古を見て、一家で感動してくれとても好きになってくれたそうです。それを聞いたときはとても嬉しかったです。

短い期間でしたが、このような機会を与えて下さった、鳴門市役所の皆様、日独協会のバロীগ様、ノーベルトファミリーの皆さん、木原先生に深く感謝し、お礼申し上げます。



# 剣道と私

阿南支部 須藤 恭 宏



私が剣道を始めたのは高校に入ってからです。

一緒に入学した友達に誘われて、剣道部に入部したのが始まりです。

顧問の先生には故松本一城先生がおられ、先輩には、現徳島北高校の西谷先生が活躍されていました。松本先生の指導方針なのか、伝統を重んじるとともに、自由闊達なびのびとした部活だったように思います。

高校時代は剣道を少しかじった程度で、本格的に剣道と関わり始めたのは、徳島に帰ってしばらくした、昭和五十四年頃でなかつたかと思えます。今は亡き剣道範士清原栄先生が中心となつて、富岡のセイドー百貨店の裏にあつたセニヤ会館で、阿南少年剣道教室が稽古をしていた頃でした。少

年剣道教室も阿南に現在ほど無く、子供達の稽古が終つた後、一般の人たちも大勢集まつて夜遅くまでよく稽古をしていました。近くにアパートがあり遅くなると竹刀の音などが騒々しいとよく怒鳴られたことが懐かしく思い出されます。

もともと不器用なほうで、仲々剣道も上達せず清原先生をはじめ諸先生方に大変ご心配をお掛けしました。でも、良き師、良き先輩、良き仲間恵まれ楽しく剣道をつづけてこられたことに大変感謝しております。現在は阿南少年剣道教室で有賀先生や北條先生のもと、子供達とともに学んでいます。子供とかかわる事はとてもすばらしいことで、今も大いに剣道を楽しんでいます。

剣道は勝負に勝つことが大きな目標の一つです。しかし、試合に勝つことは大変なことであり、優勝、準優勝、三位と入賞できる人はほんの一握りの人たちだけです。勝負だけにこだわってしまえば、剣道を続けて行くことは大変難しくなります。勝ち負けだけにこだわらず、剣道のいろいろな良さを伝えて行きたいと思っています。そ



れぞれ自分で目標をつくり、その目標に向かって剣道に取り組んでいく子供達が、もっともつと増えてくれたらいいのになとも願っています。そして結果だけを求めず、そこまでたどり着く過程を大切にしたいものです。

阿南少年剣道教室の稽古が終わる九時頃

からは、阿南支部の稽古会が始まります。中学生から一般まで、いろいろな人たちが集まって、それぞれ自分にあった稽古を楽しんでいます。この稽古会は支部内、支部外を問わず誰でも参加自由で、いつも十人前後は稽古をしています。

支部の稽古会の終わりには、有賀先生の提案によりみんなが円座で最後の礼をしています。これは、段や年齢に関係なく、剣道を通じて皆が一つの円で繋がっており、この繋がりを大切にしたいと考えてはいないかと思っています。剣道を中心にしていろいろな人たちとの円（縁）を大切にすることだと思っています。人により目標もいろいろあると思いますが、私は生涯剣道を目指してこのご縁をこれからも大きくつなげて行きたいと考えています。そして、剣道のすばらしさ、楽しさを伝えて行けたらと思っています。

今まで出会った全ての人たちに感謝するとともに、剣道三昧の生活に理解をくれたわが家族にも心から感謝しています。そし

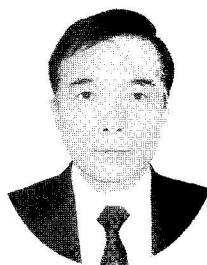
てこれからも、体力・気力の続く限り楽しく剣道にかかわって行きたいと思っています。



剣道連盟阿南支部稽古初め（錬武館道場）平成15年1月12日

## 私の剣道人生回想録

勝浦支部 高田雅隆



「剣の道」との語句からは、かなり柔らかな内容に終始するのですが、私が初めて竹刀を握っ

たのが今から約四十年前の中学二年生の時でしたが、竹刀に興味を持って友人と遊んでいた事がきっかけで剣道部に入部しました。その当時は学校で剣道を教えてくれる先生は居なかつた様に思います。居たのかもしれませんが記憶にはありません。そんな剣道部に夕方になれば近くの剣道有段者の方が二、三人が指導に来てくれて居ました。その練習内容は割合に厳しくて基本も礼儀作法等も同じ事を繰り返し繰り返しやらされるといった内容でしたが、それが私の剣道を通じての大人との初めてのお付き合いでもありました。それでまあやつと基

本を覚えられたと思う頃に中学校を卒業する様になりました。

高校に入ってからはそのような基本を活かせるの練習の中で幸運にも大澤先生の稽古を一週間に二度受ける機会が有りました。さすがに迫力の違いを感じましたが、私自身練習に余り熱心でなく上達もしないまま、高校生活も終わる事となりました。

それから約十五年の年月が流れた或る日、突然に当時小学校四年生の長男が「わい、剣道するけん」といつて来たのです。久しぶりに聞いた「剣道」と云う言葉に当然「ほらええなあ」と返事をしたものでした。我が勝浦剣道教室が町内の剣道有段者有志の方々のご指導で開設されて二年目の春の事でした。練習は水曜日と土曜日の週二回小学校の体育館を借りて行われていたのですが、毎回子供を送りその練習風景を見学して帰るだけのものでしたが、指導されていた先輩、先生方の奨めが有り防具を着けて子供達と一緒に練習をする様になりました。そんな私を見てか、その内に次男も教室の一員となり、親子三人が毎回の練習に向

く事になりました。その様な事がきっかけで毎日の生活の中でも子供達との共通した話題が出来て割合い楽しみでもありました。

当時は少年剣士も男女合わせて三十五名位いてかなりにぎやかなものでした。子供達皆それぞれが練習に対して真剣に取り組まなければ試合に出して貰えないといった様な事も有り、広い体育館の隅々迄大変活気に充ちた練習風景でした。そんな子供達の練習内容を十分に教えられる様に成る為にも自分が知識と実戦を得なければならぬいと昇段試験にも挑戦するようになりました。また、他の先生方と共にあちこちと練習に出掛ける事は勿論、県剣道連盟の数多くの先生方のご指導を受けることとなり、大変勉強になりました。そうした事を重ねて行く内に少しづつ少しづつ剣道というものの奥の深さを実感するようになり、練習の重要さを感じるようになりました。

そんな流れの中で気が付けば私の三男が、そして甥二人姪一人が各々の剣道教室に所属して頑張っていました。しかし、なかなかこの子供達が高段を所有するようになる

ことは難しい様なので、せめて全員の段を合わせて十段を目標にしようかと私一人が決め込み、激励して来ました。まあ結果はどう有れ、今までの剣道の練習で培った精神力とか体力、又礼儀作法とかはいづか必ず社会で役に立つ事を信じて、これからも剣道教室の少年剣士達と一緒に剣道を続けて行きたいものだと思います。



# 高校剣道に携わって

徳島市立高校 教諭

## 本田 敦彦



昭和五十七年  
三月に大学を卒業し、水産高校を皮切りに徳農  
神山分校・富岡  
西高校・徳島市

立高校と教員生活を送ってきました。神山分校時代の四年間以外は、運良く剣道部の顧問として生徒とともに剣道をさせていたことができ、教師として社会人として成長(?)する事ができたと感謝しています。

水産高校時代には、故下村富夫校長先生と福井軍二先生のご指導の元、生徒への指導より自身の剣道を向上させていただけでなくことができました。神山分校時代は高下正義教頭先生にお世話になり、陸上部の顧問として他競技から剣道を見る事ができました。後にこの二校での経験が、熱心に指導する大切さと色々な方面から考えることの

必要性など、剣道の指導に生きてくるのですが、当時は一生懸命で何も考えていませんでした。

富岡西高校時代には、小中学校の先生方のご協力を得、優秀な愛弟子を送っていたが、団体で十二回の全国大会へ出場させていただきました。また、国体では、河田先生のご指導で全国三位に入賞する生徒もできました。しかし、剣道の指導においては、不十分で反省ばかりの十二年間であったと思います。特に、前半七年ほどは、基本と地稽古と懸かり稽古ばかりで、厳しすぎたのか卒業後剣道を続ける生徒が少なかったように思います。生徒の中には今でも鬼のように嫌っている卒業生もいるでしょう。このときは「剣道は厳しいものだ。厳しさの中からはい上がって剣道でも人間的にも強くなつてほしい。」と考えていました。自身の母校で剣道できるうれしさと、母校を強くしたいと思う狭い考えだけで過ごしてきたように思います。

転機が訪れたのは、八年目私の父親が倒れた夏でした。夏休みの間中、集中治療室に入

院したい父親の看病のため、この年赴任してきた小延先生に部の練習をお任せし、この夏、竹刀が大きく振れるようになることだけを目的とし、けが人がでないように一時間の短時間練習をお願いしました。生徒は、短時間であるにもかかわらずどんどん良くなっていきました。この次の年から四年連続でインターハイ、三年連続で全国選抜大会に出場、四国大会でも男子団体優勝・準優勝、女子団体三位、個人でも男女で三位に入賞し、全国大会でも厳しい予選リーグを突破することができるなど、今までは不可能だった結果を出し、卒業生もほとんどが剣道を続けるようになってきました。

以下は、それを受け工夫し、私が現在の徳島市立高校でも気をつけていることです。稚拙な内容ですが、お読みいただければ幸いです。

### 目的をはっきりさせる

基本稽古は、曜日ごとにメニューを変えて、曜日ごとの中目標を定めて稽古をしています。また、切り返しや基本稽古も中目標にそったメニューを数種類用意し、それ

ぞれのメニューに小目標を定めて、それぞれ練習前に目標の確認をしてから始めます。もちろん大目標も設定していて稽古前には、「市立高校剣道部目標」を黙読させます。

無駄に時間を浪費しないようにする事が目的です。また、男女別に大目標・小目標を生徒自ら考え決定し、道場に掲示することによって、やる気を引き出せればと考えています。

### 逆転の発想をする

剣道で、古より考え出された技や練習は、無駄がなくすばらしい内容が多く含まれています。それを尊重しながら、もつと現在の生徒に効果的に修得させることはできないかと考えています。

たとえば、懸かり稽古ですが、竹刀の操作や、足運び、体力、気迫と心身両面に非常に効果的な練習ですが、身体的にきつくマイナスのイメージが先行しがちで、最後まで持たせるためにペースの配分などをして効果が低くなつてはあまり意味がありません。もちろん、そうした目的で生徒に理解させれば効果的でしょう。そこで、全力

ですとを目的とする場合はどうしたらいいだろうかと考えてみました。私が学生時代一番いやだったことは、先輩や先生が厳しいといつ終わるかかわからない、また、何されるかわからないということでした。これでは全力で懸かれないので、懸かる方が自分でやめるようにすればいいと考えてみました。「苦しくなったら後三本打って終わる」というルールで行っていますが、生徒も大変意欲的取り組みようになりました。

また、むかえ突きや打った後竹刀をいなくなるなどは、懸かり稽古のいやな部分です。これも突きを恐れず向かっていく気持ちをつくることや、いなされた後に倒れず我慢することが身体のバランスを保つには大変効果的な内容です。ですから、これだけを取り出し、「むかえ突きの懸かり稽古」や「いなす懸かり稽古」と名前を付けて行っています。これも当然、懸かる方がやめるというルールにしています。

### 運動能力を高める工夫をする

富西時代初期の頃は、優秀な選手が入学してくるので、県内では勝つことができる

が、四国や全国では勝てない時代が続きました。剣道の質を見ても他県の優秀校と引けを取らないとは思うのだが、どんな差があるのか常に探していました。

自分なりの結論は、運動能力の差が大きいということでした。剣道は技術と運動能力の二段になっていると仮定し、技術ばかりでなく運動能力を高めると、剣道全体の力量が高まるとシンプルに考えることにしました。そのためには一般的な筋力の向上を目指すことも重要だが、神経を鍛える(??)事にも重点を置いてトレーニングをすることにしました。

内容は、下肢上肢の筋肉を早くするスピードトレーニング、下肢の筋肉を器用にする

こと、跳躍力、反射神経、視神経の強化で特に動体視力を高めることです。下肢の筋肉は、少しだけ下がっている坂道(きつい坂は倒れてケガをする)と利用し全力で走ることで、通常より足が速く動き、足を動かす神経がそれを記憶し、前より早く走ることが可能になるのを応用しました。また、野球で使っているラダーを使

い、器用に動かせるようにもしました。上肢のスピードトレーニングと跳躍力は、負

荷を与えた後に負荷を取り去ることによってスピードや跳躍力が増すのを利用しました。視神経や反射神経も野球で行われるトレーニングを取り入れました。

まだ、初動負荷理論など新しいトレーニングがあるので、情報を仕入れて取り入れてみたいと考えています。

### 気が弱いとは言わない

他県の状況と比べると、運動能力の他にも精神的に弱い面が見られます。女子は生まれつき気が弱い生徒が多いのですが、男子には気の弱い生徒が女子に比べると多いように感じました。

よく考えてみると、私自身も気の弱い部類にはいるので、直接本人に「君は気が弱い」と言うと、本人はその言葉にとらわれて、自分は気が弱いからだめだと思いきんでしまう節があります。肝心なときにその記憶が呼び起こされると、どんどん自信がなくなっていくでしょう。そこで考えたのが、すべての高校生は気が弱い、それなら

いろいろな経験を積ませて、精神的に強くしていこうと考えるようにしました。

試合の前や試合の後に、こんな時はこのようにしようとか、このように考えようとか教えることで、経験を積ませようとししました。また、イメージトレーニングを取り入れて、試合をイメージすることも非常に効果的でした。ただ、よいイメージばかりでは気持ちの準備はできないので、最悪の状態をイメージすることにし、それをどう打開していくかをイメージさせるようにしました。それが心の準備となり厳しい状況でも、意欲的に取り組んでいく気持ちを作り上げると考えています。

最後まであきらめない気持ちについても、単純に考えるようにしています。気力とは体力が元になると説明しています。いくら頑張ろうと思っても身体が動かなければだめで、その体力を高めるのは練習と栄養と睡眠であると説明しています。このように方法を示すことによって、かなわないとあきらめることが少なくなるのではないかと考えています。

### 生徒をのばす

地力のある生徒をさらに強くするのは、運動能力を高めるトレーニングの項で説明をしましたが、実はあまり地力のない生徒にも非常に効果的であることがわかってきました。また、精神的な部分も気が弱いとは言わないの項の内容が効果的だと思います。

しかし、大きな差があるのは技術的な部分であると思われれます。技術的な部分は、練習量・稽古量を増やしていけば良くなっていくと思いますが、勉強や家庭でのコミュニケーション・学校の終業時間を考えると二時間でも多いぐらいです。また、外部に稽古に行く時間も多くとれません。それを考えると、限られた部活動の時間で効果的に練習・稽古をしていくことが必要になります。

目的をはっきりさせる項でも言いましたが、一つ一つ目標を持って取り組ませることは、時間を有効に使う最適の方法です。それ以外には、試合を想定して細かい部分を取り出して練習することが良いのではない

いかと考えました。具体的には、試合開始や反則の後・一本取った後の「始め」のすぐ後の攻め方、鏝迫り合いでの崩し方や気持の持ち方、追い込むときの崩し方などです。まだまだ工夫していこうと考えています。

もう一つ大事なことは、良いところを伸ばしていこうとすることです。強い選手には小学生の頃から負けているので、自分は才能がないと考えている生徒が多く、マイナスイメージに支配されて伸び悩んでいることがあります。しかし、どんな生徒にも良いところがあり、そこに視点を置くことによって自信を回復していこうと考えています。逆に、ここがいけないから直しなさいと言うと、悪い方に意識が言ってしまう、良いところが伸びないだけでなく、得意技の中には悪いところが生かされて成り立っている技があるのですが、悪いところを直すことで得意技が無くなってしまうことがあります。また、構え方もポイントだけを教え、大きく変えるようにはしていないのですが、良いところを伸ばしていくと自然に構えが良くなっていくのを実感して

います。

### 常に新しいことを取り入れよう と意識する

剣道の技術や礼儀作法に代表される態度の部分では、古より考え出された内容はすばらしいものがほとんどで、踏襲するべきものだと考えています。しかし、練習方法の組み合わせや考え方、準備運動・整理体操・トレーニングなどは常に新しいものを求めていこうと考えています。

そのためには、いろいろな情報を取り入れることが大切になります。市販されている書籍や各校の練習方法を紹介したビデオテープやテレビ番組の中にもヒントが隠されています。

特に、四八国体から始まっている、ピクトリーサミットなどは大変勉強になりました。最新のトレーニング理論や熱中症などの知識、食事と休養と練習の効果的な仕方など、ビデオを通して学習することができました。

また、生徒に話をする場合も、経験談と並んで新しい情報を話してあげることも興

味を持って聞いてくれます。

夏の合宿練習でも、上記のビデオテープを使い、できるだけ科学的に裏付けされた内容を応用しました。稽古の他にはトレーニング理論や栄養学・水分の取り方などをビデオ学習し、スポーツマネージメントに即した内容で、科学的に一日の生活を送り、厳しさよりも目的をきちんと把握させて納得する練習を心がけています。

### 陰の努力

剣道では、古くから一人稽古が大切であると読んだことがあります。部での稽古は、ある程度強制された内容であって、自分ももう少しここを練習したいと思っても、全体の流れからできないこともあります。しかし、練習後に他の道場などで稽古すること、時間的にも難しいので、勉強の合間に素振りをしたり、寝る前に簡単なトレーニングをしたり、イメージトレーニングをすることを勧めています。このように、陰で努力するには、強制ではないので、実際には生徒本人の意欲や目的意識の高揚が前提にないできません。高校生の本分であ

る学習と同じで、ただ授業を受けただけでは、成績が向上しないと似ています。

私としては、ここを一番大切にし、指導者として剣道に興味関心を持たせ、常に学習と剣道の両立を計ってもらいたいと思っています。

### 試合について

試合当日の練習内容は、各曜日のポイントを集約した内容にしています。試合四日ほど前からその練習に切り替えます。もちろん、一つ一つの練習の目的をはっきりし、試合の内容につながるようにしています。

試合については、チームの流れは考えないようにさせています。引き分ければ勝てる試合でも、いつもと同じように積極的に試合をするようにしているので、勝ちを逃すこともあります。それでよいと思っています。なぜなら、引き分けに持つていこうとして失敗したら後悔のみが残り伸びていけないと思うからです。また、試合に負けた原因が自分にあると思うのを避けるためもあります。引き分けにしようとし、日頃の練習や稽古の目的と相反することにな

れば毎日の努力は無駄になるように思うのです。

試合の反省も、毎日の練習に原因を求め、各曜日の練習に試合の反省をフィードバックし工夫するように指導します。このように生徒に言うことによつて、生徒が反省した内容が、どのようにすれば改善するかを具体的に理解することができると考えています。

試合内容は四つの目的を定め、それが達成されていて結果として負ければ、監督の責任として受け止めるようにしています。ですから勝っても負けても、日頃の練習内容が発揮されていたり目的が達成されていれば誉め、できていなければ叱るようになっています。

常に「試合に勝つために努力しなさい。負けても勝っても、それは結果であつて、その試合で、自分が相手より良ければ勝つし、悪ければ負けるのだから。大事な内容は、勝つために努力することによつて、社会人として大切なことを学んでほしい。」と話しています。

## 私が剣道に

### 感じている二律背反

海部支部

富 浦 廣 志



私は今年で剣道を始め二十二年になる。「徳島の剣道」への投稿の機会を得たので、最近、私が剣道に感じるものがらをまとめてみたいと思う。あくまで、私の個人的な感覚に基づくものである。先輩諸氏にさらなるご指導をいただければ幸いです。

#### 一、懸待一致

懸（ゆける）とは、攻めて相手を崩し、あるいは、スキを見だし、そこに自ら打ち込んでいく打突で、待（できる）とは、相手の打突に対してのさばき、応じる打突なのだが、一見、懸と待は二律背反することのように思われる。そこを違いとしない

で、瞬時瞬間に懸と待が同時に息づいて  
いる剣道を目指しているわけだ。

## 二、試合と昇段審査

「試合に勝つ剣道」「昇段審査向きの剣道」  
などとよく評価する方がいる。これも二律  
背反することのように思う。しかし、前記  
した内容と同じく全く別ものではないと  
思っている。

試合には自分の剣道の弱点を相対の中で  
知らしめてくれるし、審査は到達度を示し  
てくれ励みを与えてくれる。どちらも大切  
である。「試合に勝ちたい」という目標を持  
ち夢を語る。素晴らしいことだと思う。ま  
た、難関の段位に何度も挑戦しておられる  
先生方を見て、私も頑張らなければと思う。

この「試合に勝つこと」「昇段審査に合格  
すること」どちらも素晴らしい価値観なの  
である。しかし、どちらかにしぼる必要は  
決していない。折り合いをつけて自分の剣道  
にすればいいのだ。試合でも昇段審査でも  
同じことが通用するようにすればいいと思  
う。試合に勝つことを目指していても、質

的到達度は絶対に問われる時がくるし、本  
質的な強さは、元来基本と言われているも  
の積み上げの中にあるように思う。

正しい剣道といっても「正しい」と言う  
言葉は使う人の剣道観によつて意味合いが  
違う。

私は振り方や構えが美しい剣道だけが正  
しい剣道とは思わない。

まして、試合では「試合の剣道」、昇段審  
査では「昇段審査の剣道」と、本当の自分  
ではない剣道になってしまふことこそナン  
センスだと思っている。あるがままの自分  
の剣道で評価を受け、自分のめざす剣道の  
成長の機会にしていく生き方が大切である  
ように思う。

## 三、剣道の豊かな関係性について

毎年十一月に香川大学で、香川県内の小・  
中・高校生を対象とした「青少年剣道講習  
会」が行われている。私自身、香川大学の  
研修会に出向くようになって早六年が過ぎ  
た。そこには研修会講師として恩師作道正  
夫先生（大阪体育大学教授）がいる。年間

三度、作道先生に掛かることを目標にして  
いるが、この研修会での稽古を軸に回転し  
ている。

「五センチずつでいい、右足左足と入って、  
相手が動いたらポンと打て、裏には逃げる  
な」。長い間その宿題を持ち越し持ち越し今  
日に至っている。これは、技術的にも、精  
神的にもかなりハードで不可能にも思える。

今年の研修会でも、「言われて心がけてい  
ます。先生の動き出しが遅すぎて、先生と  
するときには裏へ逃げてしまふ」との言い  
訳をしますと、「違う。俺だって十年掛かっ  
た」と甘さを叱っていたのだ。

本年は、昨年叱られたこともあり、宿題  
を何とかと、一年越しの成果を試す。事情  
を知っている香川県OBの立川に「今年は  
表だったですね」と冷やかされながら「つ  
まってきた」の評価ににんまりした。

これは、富浦の剣道に対する絶対評価で  
ある。つまり、作道先生よりの課題に対し  
て少しばかり結果が出たということになる。  
しかし、試合に勝るということではない  
し、審査に受かるということでもない。「懸

待一致した剣道」というドブブリとした価値観があつて、そこに評価が及んでいる。試合とも審査とも違う価値観がある。

作道先生との関係性の中で、私の剣道への前向きな心、剣心が生まれ、成長しているように思う。

幸いなことに、私の周りには、この剣心を共有し、ともに稽古する仲間がいる。

#### 四、指導者として

「試合と昇段審査」については前記したが、これは、ひとりの剣道人生の一コマの場面にしすぎない。

中学校・高校の剣道では指導者の試合に対する価値観によって子どもの全人格が評価される場合がある。指導者のこの「試合に勝つこと」にかたよった剣道の指導で剣心を育てられるかと感じた。

「子どもは試合に勝てないと剣道が続けない」これは、長年剣道を指導してきて感じていることなのだが、親も指導者もこの価値観だけであれば、負けた子は続けられない。

同様に、「昇段審査で落ちたから才能がない」とやめていく子どもも多い。

やめた子にとって、剣道はつらくて厳しいものだけなのだろう。

確かに、勝つことが親や子どもの願いであり、勝てれば指導者は感謝され、尊敬される。指導者にとっては一番の幸せだ。

そのことを否定しているのではない。作道先生が私にしてくれているように、場面場面で、解決できる懸待一致の課題を一人ひとりに手渡しすることができたら、先輩や同級生、下級生と励まし合い、楽しめる関係が構築できたらと考えている。

私のように、恵まれ幸せに続けられる剣道と、あきらめと劣等感にさいなまれていく人生と、指導者の試合や審査の考え方で大きな違いが出ているように思う。

#### 五、おわりに

これまで、試合と昇段審査について、二律背反するものを違いとしない考え方に、思いを巡らしたが、逆に価値観が一律だとすると、そこには差別が存在して

る。(勝つことが正しいとすると、負けることが悪い)

そうではなくて、背反する二律の中に身を置きバランスをとることが本当は大切なのではないか、そのバランスが「自分」だと考えられるし、個性でもある。「自分の剣道」となる。

参考：剣道日本二〇〇一年八月号「姿勢の研究」

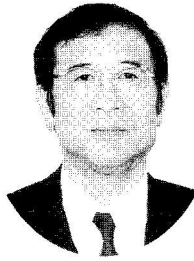


# 称号・段位合格者

## 称号「教士」の

## 試験について

徳島支部  
磯部 洋一



平成十四年四

月二十日に「教士

」を受審し、おかげ

さまで合格する

ことができました

た。その後、何人

かの方より、審査内容、審査の手續きについて問い合わせがありましたので、この場を借りて紹介させていただきます。

まず、審査の手順ですが、全剣連または徳島県剣連が行う講習(四国地区講習会、伝達講習会、春期講習会、秋期講習会など)を受講し、その後、徳島県剣連が行う予備審査(九月の二段以上審査会と同時に Rowe れます)

に合格し、徳島県剣道連盟会長の推薦を受け、本審査を受審することになります。

審査内容は予備審査が実技および日本剣道形、また本審査は筆記試験となっており

ます。  
本審査の会場は過去三回の例を申し上げますと、東京都、兵庫県、福岡県の三会場  
で実施されており、時期は四月、十一月の  
二回です。

本審査の内容ですが、約二ヶ月前に予告  
されます。私が受審したときの予告問題は  
そのまま、また実際に出題されたものは「出  
題！」と明示しました。

一時限目 五〇分(十三時三〇分〜十四  
時二〇分)

### 一、日本剣道形

日本剣道形解説書による、太刀の形七本、  
小太刀の形三本、及び立ち会いについて、  
穴あき式による問題を出題。

出題は太刀七本目、小太刀三本目

### 二、審判法

(1) 剣道試合・審判規則(同細則を含む) 第  
一条(目的)、第十二条有効打突、第一五〇

一七条(禁止行為事項)、第二七条(有効  
打突の取り消し)、及び第二八条(有効打  
突などの錯誤)について単答方式による  
問題を出題。

【出題されたのは第一五〇一七条(禁止行  
為事項)、第二八条(有効打突などの錯誤)】  
(2) 剣道試合・審判規則、同細則について、  
穴明き式による問題を出題。

【出題されたのは、第二条(試合場)】

二時限目 五〇分(一四時三〇分〜一五  
時二〇分)

### 三、指導法

幼少年剣道指導要綱、「第五章 基本動作」  
に関するものについて、単答方式について  
出題

【出題されたのは、(切り返しのねらい)】  
四、剣道に関する一般教養

(1) 称号・段位審査規則、同細則、同実施要  
領における、目的・審査員の責務・教士  
の付与基準・教士を受審しようとする者  
の備えるべき要件について、単答方式に  
よる問題を出題。

【出題されたのは(称号・段位審査規則に

おける目的)】

(2) 剣道の安全ならびに傷害対策の知識について、次の五問中二問を、単答方式による問題を出題。

① 少年剣道で起こりやすい剣道傷害とその対策について述べなさい。

② 高齢者で起こりやすい剣道傷害と、その対策について述べなさい。

③ 暑中稽古における対策について述べなさい。

④ 剣道着、剣道具の衛生管理について述べなさい。

⑤ 竹刀の手入れと安全確認について述べなさい。

【出題されたのは、①と③】

三時限目 六〇分(一五時三〇分〜一六時三〇分)

五、小論文 次の五問中、二問を出題

(一問につき四〇〇字程度)

① 少年指導上、留意すべき要点について述べなさい。

② あなたの剣道に日本剣道形は、どのような意味を持っているのか述べなさい。

③ 称号と段位の性格を明確にした理由について述べなさい。

④ 剣道教士として、期待される人間像について述べなさい。

⑤ 生涯剣道を目指す修行方法について、私見を述べなさい。

【出題されたのは、③と⑤】

以上が予告問題と実際に出題された全問です。

つぎに受審した感想を述べます。

穴あき式の設問については、問題の下欄に記入する単語が列挙されておりますが、よく似た言葉がありますので、間違いのないよう

に選択する必要があります。そのためには参考図書を読む時に、何気なく読むのではなく、

キーワードを意識して、正確に記憶することをおすすめします。単答式については、解答

すべき項目が複数あることが多いので、項目の数だけは書けるようにしておく必要がある

と思います。小論文については、五問中二問が出題されますが時間が短いためその場で作文することは困難です。また、模範解答集な

どの書籍は発行されていないと思っております。

五問すべてについて、あらかじめ自分なりの考え方をまとめておき、試験会場ではそれを思い出しつつ、書いて仕上げることをおすすめします。全体的に言えることは、普段から稽古している剣道の問題だから何とかなると

油断せずに、試験ですからそれなりに事前準備することが、最も重要なことかと思えます。

最後になりましたが、私の拙文が、少しでもお役に立てば幸いです。これから受審される方のご健闘を祈っております。

ご参考までに、受審の際に必要な参考図書をご紹介します。

「称号・段位審査規則 同細則」

「幼少年剣道指導要綱」

「剣道医学Q&A」

「日本剣道形解説書」

「剣道社会体育教本」

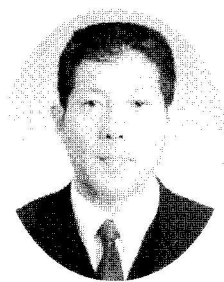
「剣道試合・審判規則 同細則」

(発行者 全日本剣道連盟)

# 剣道七段に合格して

海部支部

美馬和義



平成十四年五

月三日京都市で

行われた剣道七

段審査に合格す

ることが出来ま

した事を、ご報

告すると共に、ご指導いただいた県剣道連

盟の諸先生方また先輩方に心より感謝致し

たく、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

ます。

さて、今回の受験は、私にとりましては、

三回目の受験になります。

一回目は平成十年五月に京都で受験。あ

まりつめて稽古もせず、「申込をしているか

ら受けてみよう」そんなあさはかな考えで

受験、結果は惨めなものでした。今度受験

するまでは、稽古をつめてやろうと思ひ稽

古に専念しました。

二回目は、十三年五月に京都市、「稽古も

やったし今度は」と思い。いざ立会い、こ  
こだと思つて打つていくと後ろにさばかれ、  
打つても、打ち切れない、そんな調子で立  
会いは終わってしまい結果不合格。反省と  
して、稽古をやるだけでなく、何か目標を  
持つてやることにしました。

それからの稽古で目標にしたことは、構  
えを崩さない事、私にとって打ち急いでし  
まうことで打たれてもいいから、このこと  
に心がけ稽古を続けました。又、稽古の中  
で先生方に「打った後は抜けなさい、打ち  
切りなさい」とご指導を頂きその三点を心  
がけて稽古を続けました。

三回目は十四年五月京都市での審査に臨

みました。立会い相手との攻め合いの中で  
瞬時に相手の面に出ていた、面には当たら  
なかつたが、相手の前で止まらず抜けてい  
た、相手は面を防ぐだけで返せなく、自分  
にとつていい打ちが出たと思つた。その後  
も打ち急ぐ気持ちを抑えながら、攻めの気  
持ちで落ち着いた立会いができたと思いま  
す。

今回の審査を終えて、打つまでの過程で  
理合いにあつた攻めの大切さを改めて知り、  
まだまだ自分の稽古は、未熟だと思い知り  
ました。こんな未熟な私ですが、今後ます  
ますのご指導、ご鞭撻お願い申しあげます。



# 剣道七段に合格して

勝浦支那

竹村 英信



平成十四年五月三日、京都市で行われた剣道七段審査に、幸いにも合格する事が出来ました。

この場をお借りしまして、ご指導頂きました諸先生方に、心よりお礼申し上げます。

平成六年十一月に剣道六段に昇段してから、約五年程、剣道の練習から遠ざかっていましたが、練習もしていないのに、剣道七段に早く昇段したいと思う気持ちだけが、先走りしていました。七段に挑戦する前に、私自身の剣道に対する安易な考え方を、切り替える事と、体力の強化&メンタルトレーニングからスタートし、平成十二年七月頃から、剣道七段を日指し、本格的に稽古を始めました。現実是非常に厳しく、体方面、長年の悪い癖、姿勢等、多くの修正箇所、

課題が多く見つかり、私の今の状況では七段を受ける身で無い、それどころか六段の資格も無いと思う位、恥ずかしい稽古内容でした。ただ、落ち込むだけでは進歩が無いと思ひ、私なりに練習計画を立てました。①週に二〜三回確実に連盟稽古会の他、支部稽古会に参加する

②練習できない時は、一人で出来る素振り  
の他、基本技を確認する

③メンタル面では、七段に必ず昇段すると  
言う強い気持ちを持続する

この三点を重きに稽古をしました。徐々に稽古の成果ができたと思ひ、平成十三年五月に京都市、八月に福岡市で行われた、昇段試験に挑戦しましたが、不合格でした。反省する以前に、まだまだ練習不足を再確認すると同時に、七段の壁の厚さを肌で感じました。気持ちを切り替え、十一月の昇段審査を受ける決意をしましたが、不覚にも申し込み期日に遅れ、昇段審査を受けられなくなりました。この時、私は何かひらめく事が有りました、多分神様が、七段を受けるのはまだ早いですよと、無言の言葉

を私に伝えてくれた気がしました。十一月の昇段審査に行けなかった事が、私にとって今まで以上に、七段を昇段したいと思う意欲が強くなり、日常生活においても頭の中から、七段の二文字が消えなくなりました。

平成十四年五月の昇段試験には、過去二回の審査と違い稽古量、稽古内容、共に充実していた為か、何となく落ち着いた気持ちで、審査に臨むことが出来ました。立ち合に向かう前に、自分自身に言い聞かせた事は、「常に前に出る事」と「声を大きく出す事」に、集中して審査に臨みました。内容的には、前回の審査より集中でき、攻めるといふ気持ちは持続出来ましたが、二人目の立ち合いで、待ちきれずに、相手の面を打った瞬間、相手の方に返し胴を打たれた事は、大きな反省点とと思っています。一抹の不安と、かすかな望みを期待しながら、審査結果を待ちました、幸運にも私の審査番号が有り、合格した事が信じられず、何回も確認した事を、今でも覚えています。剣道を始めて三十五年、長年の夢が実現出

来た、嬉しき、歎びは時間が過ぎると共に、

実感として湧いてきました。今までお世話

になった諸先生方をはじめ、多くの方々に、

心から感謝を申し上げます。私が高校時代、

剣道の厳しき、練習の大切さを教えて頂い

た、亡き下村富夫先生、徳島三菱自動車販

売(株)で、仕事に、剣道に、大変お世話になっ

た、亡き井上健二先生のご霊前に、謹んで

ご報告させて頂きます。七段昇段後、非常

に感激した事があります、私が三十年間お

世話になっている徳島三菱自動車販売(株)の

松島欣徳社長から昇段記念として、素晴ら

しいお言葉を頂きましたので、この場をお

借りし、ご披露させていただきます。

### 風林火山

「物事に大処するさいに、時機や情勢に  
応じて、適切な行動を取ることを言ひ」

疾きこと、風の如く

徐かなること、林の如く

侵掠すること、火の如く

動かさること、山の如く

贈 松島 欣徳



## 誠道

徳島支部

近藤 康次

まさに今の自分、今後の自分に必要なお  
言葉だと思ひ、非常に有りがたく、心より  
お礼申し上げます。

最後になりましたが、七段昇段を一つの  
節目と考え、謙虚な気持ちを忘れず、仕事  
に、剣道に、日々精進して行く決意ですの  
で、今後も、ご指導頂きます様、お願い致  
します。

敬具

平成十四年五月三日、京都審査会に於い  
て、剣道七段昇段審査に合格させて頂く事  
が出来ました。ご指導下さった諸先生方、  
又諸先輩方のお陰と有難く思つて居ます。

私は昭和五十七年に国鉄を退職いたしま  
した。勤続四十二年七ヶ月をもつて卒業し、  
何の楽しみもなく、ぶらぶらとしておりま  
したところ、先輩が剣道をしている事を知  
り、上八万宅宮剣道教室(故中川虎雄教士)  
にお世話になることになりました。

又、故山田新六郎先生、故清原栄先生に  
居合道を教わりました。高齢者剣友会にも  
入会させて頂き、毎年六月に全国福祉武道  
大会に参加する事十余年。東京の丸の内ピ  
ル三菱道場、目白の講談社野間道場、小石  
川の西山道場へと稽古に参り、諸先生方か  
らの教えを頂き、誠に有難く思つて居りま  
す。これも勝浦範士、西野四郎教士、先生  
方のご助言、お導きがあったればこそ今ま

で続いたものです。

「昔人訓」

「成せば 成る

成さねば ならぬ何事も

成さぬは人の

成さぬなりけり」

幼い時、学校で学んだ言葉が今になって  
本当の意味がわかった気がします。今年七  
十七歳喜寿の祝いと一緒に剣道七段を頂い  
たと思うと大変嬉しく思います。

老骨ですが、命の続くかぎり剣の理法、  
人間形成の道を歩んでいきたいと思っ  
て居ます。今後ともよろしく御指導の程  
お願いし、報告とさせていただきます。

合掌



平成2年9月24日 高齢者剣道大会  
東京、鈴木先生とともに



野間道場に於いて

# 立派な先生方と

## 剣友に恵まれて

阿南支部 中西敏治



昭和十五年七

月 平岡竹雄先生に勧められ私の剣道が始まった。昼の勤務が終わると往復十

六キロの石ころ道を自転車で富岡警察署の道場へ通った。石丸先生、浅井先生、池田先生、磯部先生が指導して下さいました。平岡先生が初段で、有段者ばかりである。

石丸先生のズシッとこたえる面は忘れられない。私は先生方の打込台であった。右手首も、右脇腹も紫色に腫れあがった。

痛いのは我慢できたが誰にも勝てないのが残念であった。

昭和十六年春、二級合格、秋、一級に合格したが、初段は二度不合格となった。昭和十八年七月、三度目の受験で初段に合格

した。

昭和二十七年剣道の規制が解かれ、故山本忠蔵先生と故浅川馬蔵先生に平岡先生、浜田逸郎先生、故尾崎行男先生と共に浅川道場で教えて頂いた。

昭和三十一年秋、四段に合格。昭和三十一年七月、小延従二校長に勧められ県剣連の暑中稽古に徳農へ通った。暑中稽古終了後に昇段審査があり五段に昇段した。昭和三十六年、錬士号を受審、山田仁先生と対戦、合格した。昭和四十年五月より六段昇試は、三度不合格となった。

昭和四十二年四月海部郡由岐中学校に転勤、翌年四月希望者を募って剣道部を創設した。

六反功校長にお願いして技術室の床を剣道ができるように張り替えて頂いた。防具がないので、毎日基本練習ばかりをした。部員には基本稽古の大切さを説き、興味を持续させ楽しく効果のあがるよう苦心した。私の防具も動員した。部員は皆素直であった。

P T Aが廃品回収をして下さり全収益を

剣道部に下さった。先生方もよく協力して下さいました。校長先生も町役場にお願ひして下さい。下さり部員によく防具が揃った。

夏の郡中学校剣道大会の一週間前だった。松浦君が一年の個人優勝、岩橋君も二年で個人優勝をした。団体戦も全員敢闘した。翌年県中学剣道県南大会を由岐中学で開催した。先生方が大勢来て下さりご指導を頂いた。

平成四年九月中旬頃、浜田逸郎先生にお願いして早朝稽古を始めた。三日間稽古をして、県高齢者剣道大会に出場した。最初に剣豪蝦名久作先生と対戦した。「もうと素早く面を打ちなさい。一挙動で早く振り上げ素早く打ち下ろすように」とのご指導を頂いた。このご指導は一生忘れられない。以後何時も心中にあり心がけて稽古をした。

この日から私の「剣道日誌」が始まった。稽古の後、試合の後、先生方にご指導をお願いした。どの先生方も大変懇切にご指導下さった。日誌には、ご指導頂いた先生、月日、要点、反省等詳細に記入した。「日誌」は数冊となった。羽ノ浦の朝稽古には立派

## 剣道七段に思う

海部支部 影山 美雄

な先生方が多勢来て下さった。浜田逸郎先生、遠藤一美先生、平岡竹雄先生、早川一也先生、中山啓男先生、芝原功一先生、長久保武彦先生、故柏原浩先生、松村克隆先生、来代眞治先生、故株木芳夫先生……

私が先生方からお教え頂いた大切な事項は、健康安全、礼法重視、正しい着装、気力、よい構え（心身剣）相手をよく観る、

攻めての打突、剣先が右によらない、左拳はいつも正中線、無駄打ちをしない、右足を高く上げない。後ろ足を早く引きつける。手の内をしっかりと、打突時前傾しない、平常心、肩の力を抜く、残心、等である。

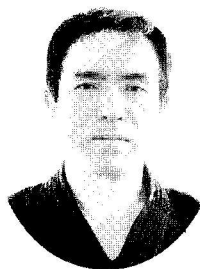
先生方からお教え頂いた事を常に心がけて稽古に励んだ。剣道読本、写真と図解による剣道、剣道攻めの定石等々、読書。NHKスポーツ教室「剣道基本動作」佐藤成明、木原資裕先生指導のビデオを始め「打突の機会、応じ技の基本、実技への応用」、網代忠宏先生の「剣道技の欠点を考える」等々剣道関係のビデオを沢山見た。

平成五年八月の六段審査に不合格となり岩田さんに打込台を作って貰った。西野悟

朗先生の使用上の注意を参考として打込みとイメージトレーニングをした。平成六年五月ようやくやく六段に合格できた。受験前日浜田先生は早朝五時より剣道形を教えて下さった。有賀秀敏先生、平正明先生にも指導して頂いた。中山啓男先生より全剣連の形のビデオをお借りし何回も見た。

私は健康維持の為毎日近くの大谷山（標高一二〇メートル、往復約六キロ）へ二十余年余り登っている。頂上で約二十分体操をし帰宅後、懸垂と打込稽古、イメージトレーニングをしている。

七段昇試は長期間の風邪で前日まで稽古を休み駄目だと思った。審査開始の寸前不思議な気力が体内に充実してきた。落ち着いて対戦でき、幸いにも合格できた。先生方、剣友の皆様方のお陰である。これから段位に恥じないよう更に精進しなければならぬ。どうか諸先生方剣友の皆様方倍旧のご教導ご鞭撻を賜りますよう伏してお願ひして擱筆する。



長い長いトンネルでした。六段のトンネル掘りから考えると、わたしのトンネル掘りの年数、

労働力、経費、距離数たるや相当なものになると思います。

掘り始めたのがいつだったのか、どこから掘り始めたのかも思い出せません。たぶん京都あたりから掘り始めたと思うのですが、その後は福岡、名古屋、東京を行ったり来たり、はたまた新潟あたりまでも掘り続け、出口が見つからずに迷宮入りしていましたが、この度、やっとのことで仙台で開通することができました。思わぬ開通だったので、夢ではないかと思ひました。苦勞の分だけ感動がありました。

開通したのでよかったものの、わたしの

トンネルはこのまま出口が無しで終わってしまうのではないだろうか、と考えたことがしばしばありました。

なんで段位あるものに身を置いたのだから……。弱音をはいたり、弱気になったりもしました。宿願が達成できた今は、剣道をしていて本当によかったとつくづく思っています。

同時に、段位の重責を感じ、段位にふさわしい剣道と人格を備えるために、一層の努力をする決意をしています。

「素振り三段」という言葉を聞いたことがあります。わたしの七段はまさに素振りのお陰だと思えます。毎日欠かさず素振りを実行してきました。中学校に勤務していたころは部活三昧で、毎日稽古ができましたが、小学校勤務や派遣勤務になってからは稽古が少なくなっていました。そこで、素振り用の竹刀を作り、毎日の日課に素振りタイムをセットしました。カラスが鳴かない日があっても素振りをしない日はないくらいでした。毎日稽古をしていたときは、一生懸命に素振りをしたことがなかったのですが、稽古が少なくなっ

てからは素振りをするしかありませんでした。竹刀を握ることで今日も剣道をしたという気分をもつようにしました。筋力を無くさないためにも素振りを続けました。防具をつけた稽古をしたときに手ごたえのある打ちが感じとれ、素振りの効果を確信しました。

今年度、久しぶりに中学校に転勤し、子どもたちと毎日稽古ができるようになったこともよかった。子どもとの稽古は、力むことなく素直な剣道を心掛けました。時折、部の先輩が訪れ稽古相手となりました。上手の人に掛かっただけの稽古は自分の技量の向上に欠かせませんが、打ちやすい相手とすることも効果的であることを実感しました。

審査場に臨んでは、今回は過度の緊張感もなく、散漫な気持ちにもならず集中できました。順番が近付き面をつけ、審査中の受審者の人たちの目を見たとき心が落ち着きました。だれの目も真剣でした。

立ち会いの相手との相性もよかったです。先をとり攻めに出た。攻め返して面にきた。遅れぎみだったがわたしの面がカウンターになり初太刀が見事に当たった。タメができた

のだと思います。次の相手はうまくいきませんでした。心を動かさないように、体をくずさないように辛抱しました。

発表を待っているとき、二人目のことが気掛かりで半々の気持ちでしたが、自分の受験番号を見つけたときは信じられなくて、何回も何回も受審番号を確認しました。剣道形の受審をしているときは夢のような気持ちでした。

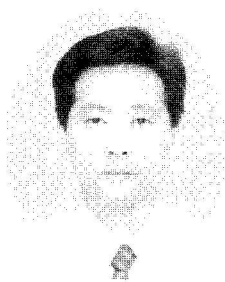
仙台の街のケヤキ通りを歩いて帰りました。なんともさわやかな気分でした。あのときの感動とさわやかさ、ケヤキ通りのセミの鳴き声を生涯忘れないでしょう。

七段は今までのわたしの剣道の総結集であります。いろんな人のお陰で到達できたものと感謝しています。また、七段にまで到達できたのは、教師になって子どもたちと一生懸命に剣道をしてきたたまものと感慨を深くしています。今までにかかわってくれた、たくさんの子どもたちに心から感謝をしています。そして、曲がりくねった、長い長いわたしのあのトンネルは、わたしの誇りであり財産であり、自慢であります。

# 剣道七段に合格して

徳島支部

佐藤 佳宏



平成十四年十一月十日、名古屋市で行われた剣道審査会において七段に合格することができ

ましたことをご報告致します。

受審当初、七段といえども数回受けに行けばそのうち受かるのではというような甘い考えを持っていました。それが、受審回数五回と目標を大きくオーバーしてしまい、つくづくと七段審査の難しさを痛感させられました。

過去の審査での失敗の原因を今振り返ってみますと、一番大きな要因は打ち急ぎだったのではないかと思います。審査になると、どうしても当てなければいけないという意識が強くなり、攻め切れず、打つべき機会でないのに我慢できずに打って出たりとい

うことがかなりあったように思います。

ある審査会で何本も打突が当たり期待をされていたにもかかわらず、不合格ということがありました。そこで、審査会場を出る前に「あと一步で合格」の答えを期待しながら評価の葉書に住所・氏名を記入し提出しました。ところが、家についた葉書を見てみると、最低ランクの「かなりの努力が必要です」というところに○が入っており、大きなショックを受けました。これは、本当にかなりの努力が必要で、剣道をもう一度根本的に見直した稽古をしていく必要があるなど感じました。

それからは、稽古の回数も増やし、当てに行く剣道はやめ、常に昇段審査を意識した稽古をこころがけるようにしました。その中でも特に、打ち急がずにしつかり攻め、機会をとらえる。面を中心に打ち切る。稽古の間一瞬たりとも気を抜かないというようなことに重点を置きました。審査の時に急によそ行きの剣道をしようと思ってもほろが出るもので、普段の稽古の中でこれらのことをしつかり身に付け、審査時には意

識せずとも自然に体が反応するようにとの思いで稽古を重ねました。

審査会では、今までの稽古の成果が充分に発揮できるよう、審査前日は早めに就寝し、当日は早めに起きホテルの周囲をランニング。そして、近くの神社で合格祈願を行いました。会場では、前回の審査会からサブ道場が使えなくなっていたため、徳島から受審に来ていた先生方と共に体育館の玄関横で靴を履き、基本打ち、掛り稽古などで十分に汗を流しました。体もほぐれ、気力も充実。あとは今までのように打ち急がず、攻めながら相手の動きを見ていこうという気持ちで立ち会いに臨みました。その結果、自分でも驚くほど体がスムーズに動き、一人目、二人目共に初太刀に会心の面が決まるなど十分に日頃の稽古の成果が出し切れたように思います。

この度、なんとか七段に合格することができたわけですが、これは決して自分一人の力でなく、毎日の稽古に快く送り出してくれた妻、悩んでいるときに的確なアドバイスを下さった周りの先生方、そして入田



錬成会の父兄や子供達の支援があったからこそ合格できたものと感謝の気持ちで一杯です。

この合格を機に、もう一度初心に戻り、七段位に恥じぬよう剣道の向上と人間形成を目指してがんばっていききたいと思いますので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

## 剣道七段に合格して

機動隊 出葉成一

平成十四年十一月二十六日、東京日本武道館で開催されました剣道七段審査で、はからずも私如き者が合格できましたことは、堀江先生はじめ、多くの諸先生方や剣友諸兄皆様のご懇篤なるご指導のお陰であると深く感謝致しており、本誌面を拝借してお礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

木原先生から「徳島の剣道」への投稿依頼がありましたので、後に続く方に何らかの参考になればと思い、恥を忍んで筆を執らせて頂きました。

今回の受審に臨み、私なりに考えて常日頃実行した事柄を数点申し上げます。

まず第一は、志を立てて信念をもつて実行するということが大事であると思います。何事をするにしても、まず、やる気が大切であり、自分が何をするのかという目標を立てれば、何が何でもやり通すという強



県警察学校体育館にて

い信念を持って計画通りに実行することが大事だと思えます。

私は若い頃、今は亡き三木会長から、「出葉君、暇は自分で作るもの。暇を作って稽古せんかい」とよく言われた言葉が今となっては懐かしく思い出されます。私は、剣道六段に合格してから約二十年間のブランクがありました。幸いにも昨年三月に機動隊勤務となり、このチャンスに絶対に生かし、しっかりと稽古し、正しい剣道で七段合格を目指そうと決心しました。

まず、正しい剣道とは一体何かと考えました。そのことを私なりに考えた結論は、まず礼法になつた剣道をする事と、事理一致の機会に一本になる技で打ち切る事と、つまり捨てることだと考えました。そのため稽古をするときに心掛けたことの一つは、最初と終わりの礼にしっかりと自分の心を込めて相手の目を見て礼をする事とを実践しました。二つ目は、しっかりとした土台作りであります。しっかりとした構えやいい打突をするためには、強い足腰と静かな心が必要だと考え、約三ヶ月間は

毎日、約四十分の早朝ランニングに素振り三百本と、間を見つけては三〜四十分位の座禅をしました。

また、そんな時期に目にしたある本の中に某大先生のお話があり、「段は欲しがるものではない。稽古の跡に必ず付いてくるものだ。審査員の先生方が全員丸を付けてくれるような稽古をしない」といったことが記されており、まさしく、これだと思ひ、自分を信じて一生懸命稽古に打ち込みました。

二点目は、健康管理であります。私も齢五十五歳となり、気持ちは三十代位ですが、体力的には、やはり若いときに比べて自然と低下しており、その上に高血圧だの糖尿病だのと言われ出したので、食生活や睡眠時間にも気を付けました。特に飲酒量については極力控え目にし、二日酔いで稽古ができないというようなことをなくしました。

三点目は、稽古の内容に自分なりの課題を持って取り組むことが必要であると思ひます。

心の持ち方、在りようについては、打突することは十分に気を用いず、まず、相手と対峙したときに、「さあ来い、負けないぞ」という十分な気構えで臨み、自分の気を静めて、相手の動き、特に心の内を読むことに努めました。非常に難しいことではあります。心掛けて実行することにより、気を充実させることができ、これができるようになると、不思議に相手の気持ちが徐々に読めるような感じがしました。

次に打突で心掛けたことは、打ち急いで自爆しないようにということで、初太刀を大切にし、ここというときには思い切つて捨てることを心掛けました。これも大変難しいことであると同時に、そんな好機は稽古中に滅多やたらとある訳でもないことは、ご承知のとおりであります。私は、その好機を掴むための一方法として、九歩の立会いの間における立札の時から勝負は始まっているのだと心掛け、まず相手の目を見てしっかりと礼をし、蹲踞するときも、しっかりと腰を割つて体重を両足踵の中央部に乗せて安定した体勢を作り、立ち上が

るときには、上丹田と下丹田とが垂直になるようにし、顎を引いて正しい姿勢を保ち、立ち上がれば絶対に戻いたり、横に回ったりもせずに、真つ直ぐに半歩でも、また、

その半分でも前に出ることを意識して実践しました。更に間合についても、いきなり無造作に打ち間に入らず、剣先が触れるか触れ合わないか位の処から、気の攻め合いをしなから徐々に間を詰めて打ち間に入っていくように心掛けました。そうすることによって緊張感が保たれ、気の充実した稽古ができたように思います。

四点目は、家族に対する感謝の念を持つことで大切であると思います。自分がこうして剣道ができるのは、家族の理解と協力があったことであり、これら家族に対する感謝の念を忘れないことが大切であると思います。そうすることによって、自分だけの剣道ではない。応援してくれている家族あつてのことだと思えば、いい加減なことでもできないし、少々苦しいことがあつてもくじける訳にはいかない。よし頑張らねばという気が生まれます。諸先生方や剣友

諸兄に対する感謝の念とともに、家族に対する感謝の念も忘れずに、一生懸命に稽古することが、いい剣道につながることに信じております。

最後になりましたが、よい師匠について、正しく良い教えを請い、素直な心で従い、常日頃からいい剣道をするように心掛け、審査では自分の普段着の剣道を審査員の先生方に見て頂くことを夢見て頑張つて頂きたいと思ひます。

私自身もこれからが本当の正念場で、大変だと覚悟するとともに、心の修養に努める所存ですので、諸先生方はじめ、剣友諸兄の皆様、今後とも相変わらずのご指導の程をお願い申し上げ、筆を擱かせて頂きます。

## 六段に合格して

小松島支部

西山 伸 二



二〇〇二年五月。職場での仕事もそれなりに多くなり、ともすると稽古を仕事にかまけてさ

ぼりがちになるのだが、六段の受審資格ができたのでとにかく挑戦することとなった。

初めての挑戦。京都。「まあ、何となくいけるだろう」心の中で甘く考えていた。何せ、宿すらも取つてなく、当日歩き回つて探す羽目になってしまったものだから、本番の立合も準備不足で心が定まらないまま終わってしまった。二度目は福岡。夏休みということもあつて家族旅行を兼ねてみんなで訪れた。前日は劇団四季の「ライオンキング」鑑賞と博多ラーメン食べ尽くし。不摂生もたつたつて手元があがつてしまい手応えなし。三度目は東京。あこがれの日本

武道館でできる喜びだけで終わる。帰り、東京にいる友達と飲みに行けたことが唯一の収穫。この時は、審査後のハガキを申し込んでみた。数日後、家に帰ると妻が、「もう六段を受けなくてよろしい」と言う。差し出されたハガキを見ると、「C判定…努力を要する」。合格というハードルの前に、家族の合意を得て審査を申し込むことが新たに加わった。

堀金先生がご健在の頃、稽古を付けていただくたびに「突っかけるな」と話されていた。そして落ちるたびに、「とにかく稽古だ」とおっしゃっていた。二月。病床で先生が、「六段がんばれよ」と話してくれた。それが先生の私に話してくれた最後の言葉だった。そんなこともあって、どうしても四度目となる京都では合格しなかった。今までと違う気持だった。

四月。思わぬハブニングが起る。左足ふくらはぎの肉離れ。歩くのもままならない。テーピングを巻いて稽古をするのだが、激痛が走り断念。ここで初めて「理合」を考えるようになる。審査ではまず遠間から

飛べないだろう。初太刀に全てをかけるしかない…。審査までの約一ヶ月は素振りで見取り稽古、わずかな面を着けての稽古を行った。

一年ぶりの京都。ふくらはぎをテーピングで固定して、入念にストレッチを行う。「たくさんは打てない。立合にかけよう」そしていよいよ本番。不思議と肩の力が抜け、相手があせっているように見えた。打ったというよりも、相手が勝手に崩れてくれたといった方がいいだろう。運良く合格できた。もし、肉離れというハブニングがなかったら、私は今までと同じくスピードとパワーに任せた自分勝手な剣道をしていたと思う。怪我の巧妙というか、改めて自分の剣道を見つめ直す良い機会ができたのだと思う。

帰ってすぐ、堀金先生の仏前に報告をさせていただいた。「突っかけるな」。今から思うと力任せに相手をたたいてやろうと思ふな、ということも伝えたかったのかもしれない。今回、六段をいただいたことに際し、多くの先生方、そして子どもたちに貴重な時間を割いて稽古を付けていただいた。

そのありがたさを今改めて思う。この気持ちを忘れずに、これからもさらに稽古に励んでいきたい。



# 攻めながら耐え

## 機会を待つ

徳島支部

寒川 博文



平成十四年五月十一日名古屋

の審査で、剣道の六段に合格する事ができました。どうしても初太

刀の一本がほしい。相手も同じ気持ちだと言う事は自分自身分っているつもりでも少し無理な状況にもかかわらず、タメることができず身体が前に出てしまい苦しい打ちとなり、しまったと思ったとき合格は遠いことは言うまでもありません。合格した時は、相手の動きをじっくり見る事ができ相手が自分を見ているより自分の方が相手を打突までの時間長く見えた気がします。互いの剣先が話をしながら我慢比べ、気持ち負けて呼び込まれてしまえば負け、攻め我慢に勝てば面は打てると自分は考えます。

練習では少しでもそんな剣道を出来る様に目指してはおりますが、御指導下さる先生方には、自分の動きはすべて見透かされると感じさせられ気持では負けない様にとは思いますが、通じるものではなく身体は攻めに押され、構える手に知らず知らずの内に力がいり堅くなっている事に気付き、いけないと力を抜く事の多さ。

中学時代の先輩松村明文先輩に、いつも稽古に詰まり教えてもらいに行きいつも気持ちよく指導して頂いていますが、気持を抜くな「繋げ」とよく言われ苦しかった事、そして今度は攻められ我慢ができず出よう出ようとする自分に「辛抱しろそこで」とよく言われました。自分は打たれるという事が先に立ち、その前に必要な事が全然理解できてなかった事に気付きました。それからの自分に少し進歩があったように自分では思いました。先輩にも恵まれ先輩先輩と言ってくれ、ケガで長い年月休んでいて、かなり皆に遅れている自分に、七段になっている後輩が、口は優しいが稽古はキツイ指導をしてくれ、早く六段合格して下さい

と心から思ってくれて居る事を深く思いしました。練習が終わると急に先輩風を吹かし、「剣道は何もかもお前が上じや。しかし、歳は抜けんだろう」と笑いながら言う「ハイ」とニッコリ答えてくれ、先輩としての言葉も受け入れてくれて有り難く思っている次第です。

私の通う徳島錬心館館長、大澤孝彰先生に稽古をお願いしている時も我慢我慢と言われた事が数知れませんが、大澤先生がサツと立ち構えられますと、剣先はやさしく剣が効いていない様に感じされられ、前に出ようとする剣先がすっかり目の前にあり、半歩たりとも前に出してもらえないことができず、ここで我慢と思ってもスーッと先生の前に攻め込まれますと、ウツと思う気持ちとここで辛抱と必死に耐えようと思う気持ちでも気が付くともう後がない。前にはどうする事もできない。先生と言う大きな大きな逃げ場のない壁が押し寄せてくる。すべて見られている。打たれる事は解っているけど我慢我慢と心でもがき、我慢しようという気持ちをしっかり持ち練習を数

## 剣道六段に合格して

板野西支部

板東伸光



平成十四年五月十一日、名古屋枇杷島体育館での六段審査に於いて、幸運にも合格すること

多くお願いしているうちに少しずつではありますが、呼び込まれ一振りで味気無く捌かれていた時間が長くなった様に思います。ここで出たら打たれると解っているのに吸い込まれるようになってしまう。まだまだ自分には全然解ることのできないレベルですが、先生の攻めの長さ、気持ちさが絶対切れない事は無言で教え願った大きい物でした。自分は気持ちの持ち方がまだまだと痛感しました。

剣道を始めてどれ程数多くの先生方にご

ます。私は不器用な方で苦勞しましたが、それをプラスにし、少年剣道では自分の分かる限りの事は指導していきたく思っております。剣道を長く続けることがケガで何回となく何年も休んでしまった。私の目標、個人個人みんな違う事を注意し、その子に合う練習をする様心掛けて行きたく思う次第です。

剣道で学ぶ集中力、判断力は私生活にも大きなプラスになる事は自分にも当てはまります。

少し大きな事を書きましたが、あくまでも私の目標とお許し頂き、今後共に皆様方の温かいご指導の程を頂く事を心よりお願い申し上げます。

教えていただいた事を自分自身の練習にも結びつけ、少年剣道の指導にもできる限り協力をさせて頂き、基本を第一とする剣道を中心とし、打たれる事を最初から恐れる事より、打たれても相手の動きを見ながら対処できる為の稽古をしていき、相手をよく見る剣道を心掛けていき、少し解ってくれば解るほど難しく解らなくなる時があり

が出来ました。これも偏に、諸先生皆様のご指導のおかげと衷心よりお礼申し上げます。特に、上板中学校体育館での週二回の朝稽古でご指導していただきました藤本先生には、基本である切り返し、打込み、地稽古並びに形の稽古まで、熱心に又厳しくご指導していただき深くお礼申し上げます。

私は、昭和六十三年五段取得後十数年の間に、三度の挑戦に失敗して今回四度目の審査で合格致しました。振り返ってみますと、勤務で多忙な毎日の中の稽古は、十分なものではありませんでした。数ヶ月ものブランクもあり、また力量不足のなかで

審査へ挑戦してきたように思います。しかし、今回は何としてもとの一心から、先生の胸をかりて稽古を積んできました。気を抜かないように無我夢中でかかっていきませんが、歯が立たず押し込まれ、気力も尽きる日々でした。面が打てず、悩みながら自主練習として毎晩素振り、切り返し、打込みを自宅での日課としました。「なぜ思うように打突出来ないのか」の疑問の繰り返しで試行錯誤の連続でした。「自分のどこに欠点があるのか」をわかってないことに気がつき、倉庫に鏡をおき自分の姿、打突動作等を写しながら練習を行いました。それを続けるうちに少しずつ自分なりの剣道の形ができてきたように思います。

審査当日は、過去の苦い経験（姿勢、面中心の打突等に意識のし過ぎ、打突の機会等の迷いがあつた）を繰り返し返さないように、何も考えずに気迫で攻めることだけに心がけ、結果として体が自然に動けたように思います。

審査の内容はあまり記憶がなく自信もなかったのですが、防具胴衣を脱ぎ着替えていた

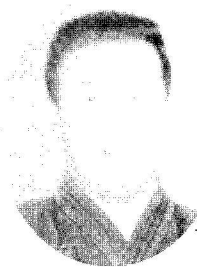
所、私の番号が呼ばれ慌てて胴衣をつけ形の審査に臨み、幸運にも栄冠を手にする事が出来ました。この審査を通じて初めて「攻めとはこういうものか」と体感できたような気がします。

私も五十半ばに近づき体力的にも衰える年代ですが、剣道は心身の錬磨により、心・気・体は維持できるものと信じております。これからも体力の続く限り、自分自身との闘いである剣道を人生の友としてやっていこうと思います。

そして退職後自由な身になった時は、子供たちに剣道の素晴らしさを微力ながら伝えていきたいと思えます。今後ともご指導よろしく願います。

## 六段に合格して

二反田 和 則



晩秋の平成十四年十一月九日  
名古屋市枇杷島  
スポーツセンターにて六段審査会で合格致しました。

私は小学三年で故磯部茂治先生的那賀川少年剣道クラブに入門し早二十六年の歳月が経ち、中学校時代影山、樫本両先生、高専時代湯城先生にお世話になり、多くの剣友・先生方に恵まれ、ここまで続けてきたことに感謝しています。

さて今回は三回目の挑戦で、一回目は緊張のあまり自分自身を見失い、何もできずに終わり六段審査独特の雰囲気を感じることで、まだまだ心の修行が足りない事がわかりました。心技体の一打を目指し……、しかし焦るあまり、相手に心を読まれてしまっ

では駄目なことに痛感しました。自分の事しつかり知らなかったら、相手の心を読めることができないことを、ある先生から教わりそのことに専念しました。稽古の方もしつかり積み、その中でも一番印象的なのは秋季講習会で講師高橋俊明先生の審査会の評価の仕方、講義、稽古、凄く良い勉強になり目から鱗がとれ剣道に対する魅力が益々大きくなりました。

そして、二回目の挑戦経験した事を先生方に見て頂く気持ちで、あくまでも勉強と思い臨んだが、これまた納得できず不合格。二回目ともなれば対戦した相手に色々な事を聞けるようになり、幸い評価を頂く事ができ次への下準備ができました。その時対戦した一人は合格でした。

さらに三回目の挑戦です。今回のテーマは札から立上がりまでいかに、心が揺らぐずしつかりできるかに専念しました。稽古を積みば同様に礼にも重みが出てくると、アドバイス頂いていた事を思い出しながら、緊張はしましたけど心地良く気が引き締まる感じでした。いよいよ出番がと思い準備

したところ、順序を間違えたが大事にいたらず、そして本番ゆっくりした動作で、礼から躊躇へ以前と違った心理状態である事が、いつも初太刀を取らなければ、という気持ちで働き自分から焦りながら事を進めていた。しかし今回は、はっきり言葉では説明できないものがありました。一人目はまず相手の気・剣を殺す気迫で第一声、なかなか中心崩れず、足を使い間合いを徐々に詰め数秒が過ぎた時相手の手元が上ると同時に剣先が外れたので、迷わず捨て身で小手に飛び込みました。「ズシッ」とした感触が手元から伝わり残心へ、三回目にして初めて納得する打ちが出来た事がはつきり記憶に有ります。すると相手の動きも落ち着き見ええました。面が来た瞬間、身体が反応し返し面が決まり終了。息着く間もなく二人目に。一人目で落ちて着いていたので、あくまでもマイペースで、初太刀へやはり厳しい中心線の取り合いです。膠着状態から機会が訪れればな面が決まり終了。後は合格発表を残すだけとなり、手応えとしては半々でしたが評価するのはあくまでも

審査員であったので、時が訪れるのを静かに待った。合格発表放送が有り、目を皿の様にし番号を探した。見つけた瞬間今までやってきたことが、自信に変わりました。子供達の指導にも沢山の事が勉強でき、良い体験ができたと感じます。最後に、ご指導、ご鞭撻頂いた全ての方に感謝すると共に、自分自身に甘えず剣の道を究めていきたいです。

合掌



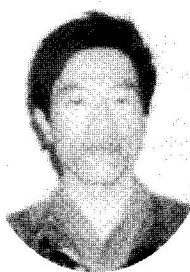
## 合格発表で

### 自分の番号を

### 見つけて感激!

鳴門支部

近藤 敏 晴



平成十四年十一月、名古屋での審査で六段に合格することができました。

何度かくじけ  
そうになる私に、有難いご指導やご意見を頂いた鳴門支部の諸先生方を始め、多くの先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

徳島の剣道  
中学から始めた剣道ですが、間合いや打ち機会など考えずに打ち込み、息が上がれば参りました、今日ではえらかった、終わりのような感じの稽古をずっと続けていました。それはそれで一生懸命にやっていたのですが、相手の都合を考えないわがままな剣道だったと思います。

そんな剣道に対する姿勢が少しずつ変わってきたのは、毎週の基本打ちを始めた頃からです。基本打ちを始めてもう何年になるのか、はつきり覚えていませんが、鳴門支部の元木先生から声をかけていただき、会社の仲間の松本さん、柳本さんと始めました。

最初はゆっくり竹刀を振って手や足の動きを確認しながら打ってみたり、講習会で教わったことをまねてみたり、色々やりました。この練習を続けていくうち、自分の打ちが体を伴っていないことが分かり、まっすぐ、強く打突することが大切だと思いうになり、意識して練習しました。この練習は自分にとって大きなプラスだったと思います。

先生方との稽古では、心構えについて色々指導を頂きました。木原先生、元木先生からは腹に気を溜めてばたばたしないこと、藤本雅史先生からは相手が出てくる機会をとらえることを特に指導頂きました。そして、相手の動きにはっとして出遅れたり、打ちそびれたりするところを極力減らすよ

うに気を付けて稽古しました。

初めての審査の時は、ダメで元々という気があり、あまり緊張せずに臨めたのですが、二人目の人が強くて太刀打ちできませんでした。力不足です。二回目の審査は、練習もできて少し可能性もあるかな、と思いつつ挑みましたが、本番では緊張して、順番が近づくにつれ体が固くなるのが自分でも分かりました。一人目の立ち会いでいきなり面を打たれ、どうにかしなければとあせってしまい、思い切った打ちが出せずに終わってしまいました。この時、本番の緊張を吹き飛ばすことができればダメだと強く思いました。

今回の審査でも、自分の順番が近づくにつれて緊張が高まってきました。一人目の相手は女性でした。前回ほどではなかったけれど集中力は今ひとつで、何本か面は当たったものの地に足が着いていないような感じでした。二人目は自分とよく似た体格の男の人です。蹲踞して立ち上がったとたん、不思議なことに緊張など吹き飛んで、立ち合いに集中することができました。相

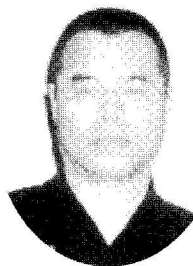
手に恵まれるというのはよく聞く話ですが、私の合格も正にそれだと思えます。

今回運良く合格することができましたが、精神的にも技術的にもこれからと感じています。合格発表で自分の番号を見つけたときの感動を忘れず励みたいと思いますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願います。

## 剣道六段に合格して

鳴門支部

松本 日出夫



平成十四年十一月九日名古屋会場にて六段に合格させて頂きました。これも普段稽古をして

頂いている鳴門支部の先生方、昇段試験に備えて、本番さながらの稽古をして下さった佐藤先生、浅野先生、木原先生、岡本先生には、本当にお世話になりました。特に大麻錬誠館の子供たちの稽古が終わった後で藤本雅史先生には昇段試験審査に備え気の入った稽古をして頂きました。また、会社の体育館での基本打ちの稽古では、元木先生、近藤先生、柳本先生、岡田君にも相手をしていただき大変お世話になり有り難うございました。感謝の念でいっぱいです。

私は、平成十四年五月に京都会場で初めて六段審査に挑戦しました。審査前日に会

場の下見に出かけ、夜は早目に切上げ明日に備えましたが、当日は会場の雰囲気にもまれあがってしまい、一人目の立会いは躊躇したときに、腰がふらつき、これではいけない気合で相手を圧倒しようと思いました。腹から気合が出ず、喉からだけの気合になり不覚にも酸欠状態になってしまい、一瞬クラクラとなり眼の前が真っ白になってしまいました。案の定、気の空回りで相手に出鼻ばかり打たれました。二人目の立会いは、だいぶ落ち着いてできたと思いましたが、何分一人目の立会いが悪すぎました。残念ながら不合格の結果を頂き肩を落として帰って来ました。しばらくして、藤本先生、手塚先生が、昇段審査の反省会の宴席を開いてくださり、両先生の昇段審査での体験談等の話をしていただき大変参考になりました。

京都審査での経験、また両先生の昇段審査での体験談等の話を活かし、名古屋審査では頑張ろうと決意を新たに臨んだ審査でした。審査当日は、不思議と落ち着いて立会いができたと思います。京都審査と名古屋



屋審査での違いを今、冷静に考えて見ますと二つの大きな違いがあったと思います。一つは、京都審査の時は、前日から緊張感の連続でしたが、名古屋審査では、緊張の度合が少なかったと思います。二つめは立会い時の気合です。京都審査の時は、腹から気合が出ず、喉からだけの気合になってしまいました。(たぶん極度の緊張状態だったと思われる)名古屋審査では、腹の底から自然と気合が出て、相手を圧倒できたと思います。その分、立合いも落ち着いてでき、一人目、二人目の立会い共に相手の起こりを捉らえた面、小手を打つことが出来ました。(気と呼吸のバランスを上手に維持できたと思います)また立合いの先生の「止め」が聞こえないほど集中して立合いが出来ました。

立合い後、一緒に審査を受けた近藤先生から、なかなか良い所が打って良かったですよと言って頂きひよっとしたら合格できたかな?という期待を胸に結果発表を待ちました。自分の受験番号を見つけた時は、思わず近藤先生の肩を抱き握手をし何とも

言えない感激に浸りました。(近藤先生も合格でした)帰りの道中では、お互いの立会いでの良かった所、反省すべき所等の話で盛り上がりました。

最後になりましたが、これから、真の

六段に向けての稽古だと思っております。今後とも、多くの先生方に頂いたご恩を、少しでもお返しできればと思っております。有難うございました。



## 剣道六段に合格して

阿波支部 河野 寿仁



この度、平成十四年十一月九日、名古屋で行われました昇段審査会において、六段に昇段することになりましたことをご報告致します。

小学校五年生で剣道を始めて二十一年。これまでご指導いただいた皆様方に心よりお礼申し上げます。

私にとって今回の受験は、二度目の挑戦でありました。五段の合格をいただいた時、恩師から「次は六段やな。後五年しかないぞ、しっかりと稽古せよ」と励ましのお言葉をいただきました。「まだ五年もある。頑張ろう」と思っていました。五年はあっという間でした。その間、学校での生徒との稽古、月曜日の支部の稽古、また、剣道連盟の稽古にも参加し多くの皆様に稽古をつけていただくことができ、自分なりの稽古はできた、と一度

目の福岡での受験に臨みました。しかし、結果は不合格。悪くはなかったと思うが、良いところも出し切れなかったという感が残りま

した。まだまだ修行が足りない。もう一年ぐらい稽古をやり直して再挑戦しようか、とも思いましたが、一度受験し気持ちの熱いうちにと、次の名古屋での受験を目指しました。

ある日の剣道連盟の稽古会で「先(せん)先、前へ前へとばかり考えすぎていないか。その結果、力が入りすぎ、詰めすぎたり、居

着いたり、焦り、打ち急いでしまったりしていいないか。もっと楽な気持ちでいいのでは。機会でなければ間合いを切ることもあってもいいのだから」とアドバイスを頂きました。たしかに一度目の受験の時も、その前後の稽古においても、とにかく「初一本」「先を取って出端を打つ」ということを心掛けて稽古をしてきましたが、審査を意識してそのことに

スをいただいたことで、ふっと気分的に楽になり、名古屋での受験に臨むことができました。

審査当日は多少の緊張はありましたが、特別なことは一切せず、普段の稽古に臨む気持ちで準備をし、立ち会いとなりました。心にゆとりを持つことを心掛け、その中でこれまでやってきた、先をかけて出端を打つということと、打ち切る、縁を切らない、だけを意識しました。相手にも恵まれ、比較的落ち着いて二人それぞれに対することができたように思います。

「囚われすぎ、余裕を無くしていたように思いました。「先・先」という意識が、無理に間合いを詰め、自分自身に余裕を無くし、無理な打突につながっていたところがありました。些細なことかもしれないですが、このアドバイ

今回、六段の合格をいただきましたが、皆様に「おめでとう」との言葉をいただくことに、その重みと、「これからが六段の稽古」と気持ちが引き締まる思いがします。今の気持ちを大切に、さらに努力・精進を重ねたいと考えております。ここまで導いてくださいました全ての皆様に感謝の気持ちを忘れることなく、今後はこれまでのご恩返しができるよう、微力ながら徳島県剣道連盟に少しでも貢献できれば幸いです。今後ともご指導、ご鞭撻いただけますようお願い致します。



平成十五年

一月二十六日

篠原和貴  
西岡勲

【二段】

五月十九日

鶴江範彦  
後藤裕二  
岸野哲也  
近藤雅規  
川村昌史  
石井孝二  
太田宏生  
新野敏史  
寺野和也  
藤井晃也  
大西佑弥  
峰本博彰  
株田薫  
岩佐佑樹  
湯浅貴浩  
新田貴裕  
尾形直哉  
岩見恭輔  
金山雄祐  
坂東祐潤  
吉田光佑  
久保智司  
西太一

久米勘四郎  
阿部高貴  
佐藤一貴  
岡田大資  
村上征史  
藤田昌二  
岩野修治  
豊田修三  
高石龍一  
森裕一  
岸正樹  
伊藤優利  
猪尾晃生  
服部貴則  
藤本次朗  
井東萌  
葉原遥  
賀上晴香  
泉田アユミ  
島田和佳  
井口あすか  
竹部久代  
竹部真知  
近藤真愛  
岡本知子  
山田佳奈

六月二十三日

九月二十九日

河井千佳  
大石公美子  
中山善江  
阿部祐子  
中野善二  
小林朝陽  
小西朝陽  
下村佑介  
瀬部克好  
大西健太  
根来真也  
橋本将大  
藤原秀行  
藤谷伸男  
檜谷恭宣  
岩田孝昌  
市橋孝昌  
富士本学希  
尾華裕貴  
竹原征士郎  
谷内良也  
緒方健一  
宮田一作  
渡部早智子  
清水桃代  
櫻木愛代  
児玉光里  
古住直弘

森友志  
宮貴人  
繁田晋吾  
黒上拓哉  
林勇作  
小西朝陽  
下村佑介  
瀬部克好  
大西健太  
根来真也  
橋本将大  
藤原秀行  
藤谷伸男  
檜谷恭宣  
岩田孝昌  
市橋孝昌  
富士本学希  
尾華裕貴  
竹原征士郎  
谷内良也  
緒方健一  
宮田一作  
渡部早智子  
清水桃代  
櫻木愛代  
児玉光里

十一月二十四日

村友瀨  
國川結香  
前川香  
吉川恵  
武内穂  
昇内志穂  
小西朝陽  
下村佑介  
瀬部克好  
大西健太  
根来真也  
橋本将大  
藤原秀行  
藤谷伸男  
檜谷恭宣  
岩田孝昌  
市橋孝昌  
富士本学希  
尾華裕貴  
竹原征士郎  
谷内良也  
緒方健一  
宮田一作  
渡部早智子  
清水桃代  
櫻木愛代  
児玉光里  
川將己

宮下慎也  
吉田尚太郎  
海老名智一  
古谷勇人  
鎌田健生  
安友惇揮  
三木秀崇  
岡田秀明  
住友莊司  
門田勇輝  
金平実  
山下純子  
樋口真美  
山田真美  
横山佳那  
崎川礼菜  
小笠原亜季  
寺井なつみ  
塩田美雪  
加戸紗智子  
大西知恵  
湯西真美  
明岑有里  
松本真寿美

平  
成  
十  
五  
年  
一  
月  
二  
十  
六  
日  
高  
見  
智  
也  
前  
田  
茂  
浩

【初段】

四  
月  
二  
十  
九

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 玉 | 菱 | 西 | 国 | 泰 | 米 | 櫻 | 吉 | 木 | 磯 | 森 | 加 | 片 | 永 | 高 | 池 | 原 | 長 | 片 | 竹 | 岡 | 湯 | 舛 |
| 田 | 本 | 村 | 見 | 地 | 倉 | 木 | 岡 | 村 | 田 | 重 | 山 | 浦 | 木 | 田 | 田 | 谷 | 田 | 原 | 健 | 泰 | 隆 | 浩 |
| 越 | 慎 | 太 | 武 | 健 | 裕 | 雄 | 大 | 聡 | 一 | 達 | 裕 | 将 | 達 | 雄 | 秀 | 光 | 直 | 裕 | 健 | 一 | 造 | 寛 |
| 大 | 也 | 一 | 弘 | 人 | 作 | 郎 | 希 | 史 | 貴 | 裕 | 之 | 志 | 也 | 郎 | 憲 | 晴 | 輝 | 也 | 郎 | 造 | 寛 | 一 |
| 株 | 神 | 大 | 秋 | 湯 | 森 | 田 | 山 | 安 | 大 | 北 | 東 | 一 | 森 | 森 | 山 | 天 | 澤 | 横 | 須 | 山 | 福 | 上 |
| 田 | 元 | 津 | 川 | 佐 | 崎 | 尾 | 西 | 田 | 隅 | 浜 | 宮 | 本 | 本 | 口 | 羽 | 田 | 大 | 隆 | 康 | 和 | 竜 | 圭 |
| 一 | 育 | 孝 | 元 | 佳 | 勝 | 一 | 優 | 明 | 敬 | 拓 | 優 | 雅 | 龍 | 毅 | 秀 | 崇 | 地 | 介 | 生 | 弥 | 也 | 介 |
| 志 | 巳 | 郎 | 宏 | 典 | 善 | 弘 | 也 | 博 | 太 | 也 | 希 | 登 | 敦 | 毅 | 秀 | 崇 | 地 | 介 | 生 | 弥 | 也 | 介 |
| 高 | 片 | 四 | 柳 | 近 | 岸 | 市 | 中 | 高 | 谷 | 岡 | 西 | 喜 | 石 | 渡 | 大 | 武 | 吉 | 大 | 今 | 奥 | 湯 | 秋 |
| 原 | 山 | 宮 | 瀬 | 藤 | 瀬 | 山 | 井 | 昌 | 俊 | 英 | 澤 | 多 | 山 | 辺 | 磯 | 田 | 和 | 翔 | 聡 | 裕 | 恭 | 月 |
| 拓 | 聖 | 啓 | 貴 | 樹 | 一 | 嘉 | 彦 | 介 | 吾 | 誠 | 夢 | 希 | 元 | 寛 | 也 | 平 | 士 | 隼 | 喬 | 兵 | 哉 | 史 |
| 磨 | 也 | 登 | 亮 | 徹 | 之 | 樹 | 一 | 嘉 | 彦 | 介 | 吾 | 誠 | 夢 | 希 | 元 | 寛 | 也 | 平 | 士 | 隼 | 喬 | 兵 |
| 田 | 大 | 高 | 春 | 山 | 齋 | 佐 | 石 | 小 | 田 | 本 | 新 | 西 | 前 | 浜 | 工 | 峯 | 杉 | 多 | 宇 | 徳 | 工 | 新 |
| 村 | 西 | 島 | 藤 | 田 | 藤 | 古 | 山 | 林 | 岡 | 間 | 居 | 谷 | 田 | 岡 | 藤 | 下 | 本 | 田 | 山 | 永 | 藤 | 谷 |
| 誠 | 紀 | 広 | 康 | 庸 | 一 | 勇 | 太 | 祐 | 明 | 佑 | 泰 | 恭 | 大 | 大 | 大 | 晃 | 昌 | 真 | 昂 | 和 | 也 | 也 |
| 啓 | 久 | 憲 | 宏 | 介 | 真 | 貴 | 郎 | 規 | 紘 | 郎 | 啓 | 範 | 平 | 貴 | 武 | 輝 | 一 | 司 | 人 | 也 | 也 | 也 |
| 吉 | 北 | 山 | 山 | 坂 | 加 | 柳 | 細 | 桑 | 福 | 長 | 笠 | 白 | 黒 | 鶴 | 西 | 河 | 元 | 隅 | 池 | 崎 | 新 | 石 |
| 岡 | 野 | 口 | 崎 | 本 | 藤 | 谷 | 川 | 野 | 永 | 地 | 井 | 木 | 下 | 岡 | 本 | 田 | 木 | 田 | 田 | 川 | 川 | 井 |
| 万 | 瑶 | あ | 奈 | 鮎 | 明 | 美 | 美 | 千 | 悦 | 千 | 由 | 沙 | 由 | 恵 | 綾 | 奈 | 佳 | 静 | や | 早 | 菜 | 敬 |
| 里 | 子 | ず | 々 | 美 | 子 | 沙 | 幸 | 尋 | 子 | 景 | 衣 | 彩 | 理 | 貴 | 子 | 紋 | 美 | 南 | 藍 | 香 | い | 紀 |
| 岩 | 山 | 松 | 宮 | 栞 | 鎌 | 若 | 東 | 白 | 山 | 白 | 古 | 原 | 加 | 福 | 山 | 松 | 茂 | 野 | 近 | 大 | 得 | 皆 |
| 本 | 本 | 尾 | 田 | 木 | 村 | 松 | 川 | 川 | 上 | 木 | 林 | 田 | 島 | 田 | 下 | 下 | 崎 | 口 | 藤 | 黒 | 田 | 谷 |
| 浩 | 義 |   | 君 | 智 | 真 | 真 | 久 | 沙 | 麻 | 晴 | 梨 | 彩 | 由 | 沙 | 亜 | み | 祐 | 香 | 恵 | 未 | 千 | 香 |
| 希 | 征 | 俊 | 代 | 美 | 紀 | 子 | 美 | 由 | 美 | 佳 | 沙 | 子 | 賀 | 也 | 矢 | な | 子 | 奈 | 美 | 来 | 佳 | 織 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

月久齋伊坂田岡伊長加大大福安岡平新船福木山横轟栗梅西申  
 岡保藤月東上田藤谷川藤成川友田川田田井田原下川川野木岡川  
 潮雄義賢辰淳信智周祥陽郡裕一太介詞郎郎太浩浩明太藏功大訓聡命太樹

延塩三葛藤平原山片西清三八月  
 谷田木原原山山岡野木二十五日  
 龍和裕正啓恭佳智壯也  
 之介也真明吾大伸祐之也

マルティネス・ホセ  
 アル・テ・イネス・アレハンドロ  
 マルティネス・ツネコ  
 井上慎平  
 宮本真人  
 五島大輔  
 谷川修平  
 恵美健央  
 三木翔太  
 藤井崇文  
 三木吉博  
 安藤耕嗣  
 佐藤崇景  
 石川量太  
 久保慧史  
 古本哲朗  
 松野孝則  
 新居克哉  
 塩田伯大  
 園尾洋平  
 岩雲大樹  
 中平雄哉  
 荻野裕己  
 内藤隆仁  
 福原直哉

来佐石十月  
 島々倉二十七日  
 正達直幸  
 典志幸  
 マルティネス・ツネコ  
 尾崎友香  
 岡田典子  
 阿部恵里子  
 角部明奈  
 北浦かおり  
 西村知美  
 土岐七恵  
 井上舞子  
 山本聖子  
 長江恵里  
 神原直子  
 松本朋子  
 宮下沙弥  
 小西弥步  
 阿部美希  
 前川亜希子  
 神戸咲枝  
 丹羽有里  
 小寺佑佳

安三西朝森多長中佐佐戎喜小高堀田佐須大小小谷金松北富九  
 宅木村倉上尾江原藤藤多西島友昌大健淳敦竜裕昂原慎知  
 正良康次則智佑亮史和直樹樹伸二郎哉龍しゅう祐朗輔太一士弥亮也一希健  
 範太聡次則智佑亮史和直樹樹伸二郎哉龍しゅう祐朗輔太一士弥亮也一希健

曾我部智春  
 小西陽子  
 大塚啓子  
 土屋純子  
 服部公美子  
 豊島由美  
 長江智恵美  
 鈴木木子  
 井上さゆり  
 崎山静花  
 富永美沙  
 植松由麻央  
 西川真理奈  
 梶木梨乃  
 正木美香  
 田中ひかる  
 上野美樹  
 中坂未奈  
 丸岡祥道  
 山根真史  
 細川純道  
 内田純道

田多柴尾山竹小木切熊鉄上近中高松竹松岩馬多小榊笠  
 口田田方下内西村東野野野藤島本本井本詰田林原井  
 康祐孝卓一克陽大匡治貴雅勇島本正和拓英祐聡原翔  
 祥一二丞也貴徳祐輔人行也俊太陵彦洋貴巳憲矢大陵平  
 平成十五年  
 一月二十六日

元松守寺山高萩西清大永溝福坂榎鎌友山永岸中東阿中  
 木島屋崎寄島尾俣楽城浜杭野本本本田成口瀬野西條部川  
 洋礼美千明沙也美奈子阿真理由早耶香司隆敬啓啓泰佑成祐大景  
 子子幸穂美加子和一子香里昭典浩美功人輔伸紀政也志太

― 居合道 ―

【教士】  
 坂本憲一

【四段】

十一月三日  
 西本忠司

【三段】

五月十九日  
 川原ゆかり  
 十一月三日  
 安友健雄  
 武田修典  
 川人政利  
 浜哲

【二段】

五月十九日  
 鴻野浩一郎  
 日下真宏  
 居門・フィリップス  
 島津新  
 十一月三日  
 日下智博  
 小川智滋

【初段】

五月十九日  
 河野一太郎  
 西岡敬太  
 中西敏治  
 新川静香  
 新居見綾

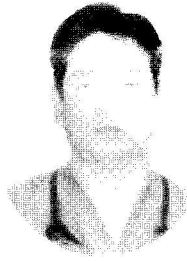
# がんばろう徳島

礼儀正しく・

大きな声で元気良く

相生龍虎館

監督 橋本 幸



平成十五年も  
健やかに明けま  
して、一月三日  
の初稽古から元  
気良く、一年間  
のスタートを切

りました。県道連盟の皆様方はじめ、関係各位の方々には、本年も宜しくご指導の程お願いを致します。相生龍虎館は、一昨年四月、町内四小学校が統合となり、相生小学校として開校すると同時に発足致しました。旧の剣道教室としましては、日野谷

小龍虎館、西納少年県道教室、延野少年剣道教室の三教室です。頼りとしておりました、日野谷小龍虎館の西浦先生が、高齢の為引退されるということで船長のいない船出となりましたが、若い指導者と共に頑張っている最中でありませう。

幸い、初代相生小学校校長の野村幸大先生とは、丹生谷支部にも所属されておられる関係上、日ごろから気安くお付き合いを頂いておりますし、道場としております相生小体育館の使用等につきましても、深いご理解とご協力をを頂いております。

また、隣の中学校には、富田正先生もおられ、何かとご指導を頂き、心強い限りであります。現在、指導者八名、部員は小学生二十二名で活動しております。子供達の通学範囲が広くなり、練習日、練習時間にも苦慮しておりますが、週三日と一日二時間間は確保したいと思っております。

指導方針としましては、伝統ある丹生谷支部の諸先輩方から教わった剣道精神を受け継ぎ、丹生谷剣道を伝えていく事を基本としていきます。教訓として「礼儀正しく・大

きな声で元気良く」という言葉を掲げ、稽古のスローガンとしております。あまり形にとらわれず、技術的なことよりも個人の個性を伸ばすよう心がけ、大きな声で元気良く稽古する中から積極性を養いたいと思っております。

また、朝夕の挨拶から始まり道場内の清掃、履物の整理、防具、竹刀のしまい方まで細かく指導する事により、だんだんと自主性も生まれつつあると思えます。

先日、道場へ稽古に行きますと玄関で一年生の女の子二人が履物の整理をしていたので「結衣ちゃんと百住ちゃんは偉いなあー」二人は必ず剣道強くなるけんあー」と言うと「先生どうして靴をそろえたら剣道強くなるん」と言われて返答に困り「何でも真面目にする事が大事なんだよ」とつい答えにならない事を言っていました。何気なく言った言葉にまだ答えが見つからず、指導者としての難しさや未熟さを反省させられる今日この頃ではあります。答えは子供達が十年後、二十年後に出してくる事を楽しみに頑張っていきたいと思っております。



ります。

終りに徳島県剣道連盟の今後益々のご発  
展をご祈念申し上げます。

## ぼくの剣道

相生龍虎館

六年 福川 敬太



ぼくは、兄が  
剣道をしていた  
ので剣道を始め  
ました。でも六  
年になるまでは  
でたらめな剣道

てから、やっと歩くことができるようにな  
りました。だけど、まだ走ることができな  
いので剣道もまだできません。三ヶ月間リ  
ハビリを続けるとやっと走れるようになり  
ました。家ではすぶりをしていました。剣  
道をやっていたので弱くなっていま  
した。試合にも、出れませんでした。応援  
に行けなかったのでもうやしかったです。早  
く完全な体にしてから中学校に行つて、優  
勝したいです。

をしていました。六年になっていつものよ  
うに練習に行くと、先輩と先生が話をして  
いました。すると、先生が、「福川、キャプ  
テンをしてくれ」と言われました。「ぼくな  
んかが本当にいいのかなあ」と思いました。  
練習をしながら号令をするのがとてもきつ  
かったです。だけど、「今までの先輩はして  
きたけん、ぼくもやらなあかん」と思い  
ながら練習をしました。

いままで、ぼくをおしえてくれた先生あ  
りがとうございました。小学生の時に、習つ  
た基本を忘れないように中学校でもやっ  
ていきたいです。後輩たちには、ぼくたちが  
いなくても、大きな声で剣道の練習をして  
ほしいです。

一番試合の多い十一月に足のけがをして、  
剣道ができませんでした。医者から「どう  
ぶん剣道はできません」と言われた時は、  
ショックでした。家でリハビリを何回かし

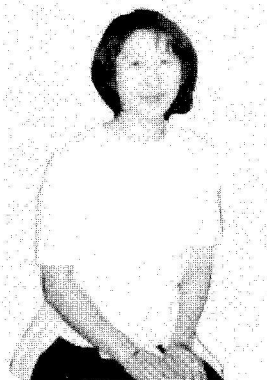
# 広げよう、繋ごう

## 「和」のひろろ

### 那賀川B&G剣道教室

わかあゆ会 後援会々々長

市 瀬 幸



「はい、お願いします」

「おねがいしますっ!」

子どもたちの元気な挨拶とともに今日も那賀川B&G剣道教室わかあゆ会の稽古は始まりました。

私たちわかあゆ会は那賀川町で第三番目の少年剣道教室として平成八年八月に発足しました。皆様もご存知のとおり那賀川町は非常に剣道の盛んなところです。人口は一萬一千人ですが、少年剣道の教室は三つ

あります。

発足した当時は幼稚園児四人、小学生四人の八人でしたが、八年目を迎える現在、山田耕司、谷口文祥両先生の熱心な指導のもと、幼稚園児から小学生まで二十三人の元気な子供たちの声が響くようになりました。

私たちの教室では、「和」の心を精神とします。「和」という言葉の中には「協調的な関係を保つ」「おだやか」「のどか」などの意味があります。また「相手の言い分を認め譲り合う」という意味もあります。わかりやすいえば「仲良くする」ということでしょうか。確かに私たちの教室では低学年から高学年までまるで兄弟のように仲が良く、この教室を卒業した中学生たちも弟や妹たちの稽古相手によく来てくれます。私たち保護者とはといえば、子どもたちの稽古を見ながら楽しくおしゃべりや情報交換、時々先生方からイエローカードを出されることも…。でも、この雰囲気子どもたちの心にゆとりを与え、剣道の楽しさ、仲間同士の友情を育んでいっているのではない

でしょうか。そして、剣道を愛する心を育てることが剣道の精神に触れ、理解することにつながると思います。

そうした教室の指導の結果は、数々の大会での入賞となりました。平成十四年度では日本武道館で行われた全日本少剣道錬成大会で初めての敢闘賞をいただきました。

私たち保護者はこれからも先生方にご指導いただきながら共に子どもたちの成長を見守っていききたいと思えます。「和」の言葉の持つもう一つの意味「二つ以上数を加えた値」、この意味こそ私たち保護者一人ひとりの愛情が合わさって先生方と共に歩み、結果、「値」を生む、ということではないかと思えます。

生まれてまだまだ日の浅い教室ですが、私たち保護者も共に学んでいきたいと思えます。どうぞ、今後とも私たちにご指導、ご教授くださいますようお願い申し上げます。

# 少年強化遠征

## 京都遠征に参加して

清風館道場

五年 鈴 木 智 也

一月に京都で行われた試合に、剣道連盟選抜選手として参加しました。五年生から少年の強化訓練に入って、先輩の強い子には、気迫で負けてしまう時もありました。でも、選抜選手として名前を呼ばれた時は、とってもうれしかったです。

京都大会は、たくさんの方が来ていて、とっても不安な気持ちになりました。何回戦まで行けるか、自信がありませんでした。

それに、他の子達の試合を見ていると、竹刀の振りが早いのでびっくりしました。試合では、思ったようにいき

ませんでした。力の差がありました。でも、参加しているいろいろ勉強になりました。友達もたくさん増えたのでよかったです。お世話をして下さった先生方、ありがとうございました。

## 京都遠征に参加して

徳島少年剣道教室

六年 土 山 康 平



ぼくは、くやし。

一月二十二日からインフルエンザになって、京都に行く前日に熱が下がって、みんなと同じバスで行けなくて後から、自家用車で付いて行きます

した。徳島選抜のメンバーに選ばれたのに、練習も全々出来てなくて、試合の時は、一回戦は勝てたけど二回戦は二回の延長戦になって足が思うように動けなくて、負けてしまった。京都の選手の人達は、身の動きが軽くてかまえてからじっと止まらないで、いつも体が左右に動いている。ぼくは、体調も悪かったけど、試合も負けちゃったけど、いろんな選手を見ると勉強になりました。ぼくの欠けている点を京都の人達は、出来ているので、もっと練習をして少しずつでもこの京都遠征に来たことをバネにして、練習をしていきたいと思った。最後に、みんなと同じバスに乗って話しがしたかったです。

## 京都竹友会剣道

### 大会に参加して

蔵本少年剣道クラブ

五年 吉 田 拓 司

一月二十六日僕は京都府に剣道大会に、行きました。僕は水泳もやっていた剣道の練習があまりできていないけど、この大会は県代表の一人として出ているので、とにかくいいのないううがんばりました。

僕は、京都府に着いたときドキドキしながら外ですぶりをやっていました。そしてアップも終わり僕の試合がすぐに始まりました。僕は体のよぶん力をぬいて相手をよく見てという、ことを頭に入れて試合をしました。

そして一回戦はひきメンとメンかえしドウをきめ勝ちました。僕は、ほつとしました。

二回戦も二分ぎりぎりまでコテをとつ

て勝ちました。そしてすぐに三回戦がきました。この試合ではメンをとられて負けてしまいました。負けた理由は、相手がくるのをまっていたからだと思っています。この試合で感じたことは、全国の大大会に行くとつよい人がいたからこれから僕は練習を今までよりもがんばりたいと思います。

## 念願の京都大会

和田島少年剣道クラブ

六年 松 本 凜太郎

ぼくは、五年生の時から強化訓練に参加している。六年生になってからは、京都大会出場を目標とし、がんばってきました。念願の京都大会出場が決まった時の喜びは、今も忘れない。

一月二十六日、朝、眠いのと、緊張で、変な気持ちでバスに乗ったが、神

戸の夜景がとてもきれいだったのを覚えてる。

会場に着き、開会式から、試合が始まるまでにぼくの緊張は、ピークに達した。トーナメント表をもらっても、さすがに知らない相手ばかりで、少し不安になったが、同じ徳島代表の子の試合を見ているうちに、ぼくもがんばらなくてはと思った。

いよいよぼくの試合が始まった。一回戦目から思ったような動きがとれず、あせった。結局三回戦で負けてしまった。とてもくやしかった。

その後いろんな試合を見ると、勝ち進んでいる子は、気迫が勝っていることに気がついた。もちろん技や足さばき、振りの速さもちがうが、感じたのは、声の大きさだ。会場にひびきわたっていた。

又、もう一つ思ったのは、みんな個人戦で出場していたのに、ぼくは、徳

島代表の子の試合を団体戦のような気持ちで、応援していた。ふだんは、話しもあまりしないし、試合では、敵同士なのに、なぜか応えんしながら不思議だった。

京都大会をふり返ってみると、自分の悪いくせがたくさん出ていた。ふだん先生方が注意して下さっているのに、直せていなかった。

最後に、松村先生はじめ、お世話して下さいました先生方に心から感謝します。すばらしい経験をさせていただき、本当にありがとうございます。これからも一生懸命稽古にはげみます。

## 京都竹友大会に

### さんかして

清風館道場

三年 岡田宣孝



ぼくは、

徳島清風館  
道場から、

京都竹友会

の試合に参

加しました。

小学校三年生の部は、八つのリーグにもわかれてありました。たくさんの方が参加しているのにぼくはびっくりしました。

きよ年は、一回戦で負けてしまったので、今年も一つでも多く上にあがっていきけるようにがんばろうと思いました。「はじめ」

と、言うしんぼんの声でしたしゅん間、体全体に力がわいてきて自然に体がう

ごきました。とくいのコテがきまつたときは、とてもうれしかったです。次々とあがれて気がついたらコート決勝となりました。あいては、昇龍館一福道場の伊賀達也君でした。強そうだなあと、思ったけど、ぜったい負けたくないぞと自分にいいかせました。あいてがメンをうったそのあとのすこしの間にコテをいれることができ、つづいてメンをきめました。

久保先生がいつもそばで見まもってくれていたおちついて試合ができました。先生があいてよりさきにつように心がけなさいと言うことばをぼくに話してくれました。それに気をつけながら、一と二のリーグのたいせんにすすみました。先生がおしえてくれたとおりにしゅううちゅうしました。まほうがかかったようにあいてをせめて体がくずれたそのしゅんかんコテをいれることができました。な

## 京都での試合

光武館

五年 平野将司

一月二十六日ぼくは、京都竹友会少年剣道大会に出場しました。試合は個人戦です。

一回戦の相手は正念剣成会の若林君です。お父さんからいつも一回戦から気を抜くと言われているので、全力で戦いました。面を二本とって勝ちました。

二回戦は、魁剣士会の山川君です。時間内に勝負がつかず、延長戦となりました。何十分も続いたので、ぼくはばててしまいました。相手が胴を打とうとした所を小手をうって勝つことができました。

いよいよ三回戦です。豊里剣道の森永君で大人の人のような剣道をします。延長戦で小手をいこうとして相手の胴

にひっかかったところに面を打たれてしまい、負けてしまいました。ぼくは三回戦で負けてくやしかったけど県外の人と試合をできてよかったです。この試合で学んだ事を次の大会に生かしてもっと上を目指したいと思います。

## 京都大会に出場して

上八万少年剣道クラブ

六年 大塚亮太郎

ぼくは、京都への遠征に選ばれた時とてもうれしかったです。京都へ試合をしに行くのだからとたくさん練習しました。そして当日一月二十六日、ぼくはとても緊張していてバスの中でもすぐドキドキしていました。会場に着くと、ぼくは六年の第六組でした。なかなか順番が来ず緊張している時間

がとても長かったです。とうとう自分の番が来て、みんなは二く三回戦までいていたのでもし自分が一回戦で負けたらというプレッシャーもありました。試合は三回戦までいけました。

この遠征でいっしょに行っていたみんなと友達になれた県外のいろいろな人と試合ができて本当によかったです。最後に貴重な体験をさせていたいただいて先生方にはとても感謝しています。ありがとうございます。

## 京都遠征に参加して

光武館

六年 藤本健登

一月二十六日、日曜日に京都竹友会少年剣道大会に参加しました。

ぼくは、初めこの京都大会に、行きたいなと言う気持ちで強化訓練に参加していました。でも試合が何度も強化訓練に重なってしまいなかなか参加できなかったし試合もあまりよい結果がでなかったので、京都に行くのは無理だと思っていました。名前を言われたときには、とてもうれしかったです。そして大会前日の夜には、期待するときちようでほとんどねむれませんでした。大会当日には、着いたすぐに、大勢の選手の人たちが外で、いっしょうけんめいに練習をしていたので、ぼくはいあつされたような気がしました。

第一回戦目は、田辺剣友会の石丸君とあたり、どうにか面を一本取って勝ったのですが、第二回戦目で宇治向陵剣道教室の奥村君と当たり、奥村君は試合開始の合図とともにフットワークをしはじめて、ぼくが面を合せられたようになつて、一本取られてしまったのです。二本目は思いきって面を取りに行ったら、それを逆手に取られて胴を抜かれてしまいました。奥村君はその後もコート決勝まで行つたので、ぼくより実力が数段上と思いました。ぼくは、京都大会に行けてとても勉強になりました。でも、もっと試合をしたかったです。指導をしてくださった先生方、大変お世話になりました。

## 京都へ行つて

入田錬成会

六年 森出大介

ぼくは、京都の竹友会剣道大会に出て、二つのことが分かりました。一つは、県外で試合をして徳島の人たちより強い人がいたと言うことと、二つ目は、ぼくたちは、練習すればもっと強くなれると思つたことです。県外にいけばいろんな友だちができるし楽しく剣道ができると思います。徳島の人たちとも友だちを作りたいです。京都の人は強い人がたくさんいました。だから、ぼくも練習して、先生が教えてくださったことをよく聞いてなおしていつてもっと強くなりたいです。そして、試合にでて、優勝できるようにしたいです。京都の人たちは、毎日練習しているからあんなに強いんだと思いました。だから、ぼくも、京都の人たちのように強くなれるように、がんばりたい

と思います。ぼくは、もう少しで、中学校に入るので、中学校に入っても剣道ががんばっていききたいです。剣道を、続けていきたいです。

## 京都遠征に参加して

木頭錬心館

六年 福井 一馬

平成十五年一月二十六日京都竹友会剣道大会に参加しました。徳島強化訓練生の中からの出場でした。ぼくは、六年生になって四月から強化訓練に参加してもらっています。最初は不安でいっぱいでした。他の道場の人はみんな上手で強いので強化訓練生の中でけいこをしてもいいの不安でした。ぼくにはかんけいがないと思っていた京都へのえんせい試合にいかないとこの話がありびっくりしました。ぼく

なんかいつてもいいのかと思いました。県内でしか試合をしたことがなかったので県外のことにはなにもわかりませんでした。京都の道場の人たちは強いと聞いて自分がどれだけやれるのかと思、試合当日一回戦は田辺剣友会の堂出君、きんちようして体が動きませんでした。二回戦は山科剣友会の西原君、体が動かなくて自分の剣道をしないままあっさり負けました。けれどいいけいけんが大きい勉強になりいい思い出になりました。強化訓練で指導して下さった先生方、日頃木頭錬心館で指導していただいている先生方本当にありがとうございました。

## 第十四回 京都竹友会

吉野中学 二年

森 本 龍 毅

平成十五年一月二十五日、向日市民体育館で行われた今大会は、福井、岡山、兵庫、大阪、滋賀、徳島、京都から中学二年男子の部は九十八名の選手が参加して行われました。

僕は、第二ブロックで、初戦の相手は一回戦福井養正館道場の選手に勝った大阪清教学園中学の選手でした。僕は初戦、そして県外の大会、選手ということですから緊張して先に面を取られてしまいました。試合時間は二分、僕は初戦では負けたくない気持ちで一息懸命で、終わってみると二本取り返していました。その後は、少し落ち着いた気持ちで試合が出来たと思います。

そして、京都西部剣道、京都一龍館、京都田辺剣友会の選手と試合をし、ブロッ

クで勝ち上がりました。そして準決勝では、第一ブロックで勝ち上がった京都男山剣友会の磯口君に先に面を取ったのですが、面を取り返され、延長でまた面を取られて負けました。

僕は、小学五、六年と強化訓練に参加させてもらい、稽古相手の少ない僕にとって、この県少年強化訓練は県内のいろいろな道場の子と稽古ができるいい機会でした。そして六年生の時、強化訓練の中から選抜メンバーとして初めて県外のこの大会に参加させてもらい、今年中学二年になって、県外の大会で県外の選手と試合をする事の少ない僕にとって、この大会はいろいろな事で本当にいい勉強になり、思い出に残る大会となりました。強化訓練に参加した剣友、そして指導してくださった先生方には本当に感謝しています。ありがとうございます。

### 京都竹友会少年剣道

### 大会に参加して

養武館 六年 庄地 畠 康 太

この大会は、初参加で会場の雰囲気も徳島と全然ちがいで、選手を見ただけでも緊張感や威圧感を感じました。

朝は五時前の出発で、夜は十時過ぎに徳島に着いたので、往復するだけでも疲れてしまいました。

試合内容は、ベスト8に入賞する手前で負けてしまい、とても悔しかったです。今でも頭に残っています。やはり県外に出ると、他の地方のレベルの高さを改めて感じました。その中で、ベスト4に入った森本君や平野さんはすごいとおもいました。

試合に負けた事は、とても悔しかったけど、徳島県の代表選手として県外に行けた事は、とてもうれしかったです。又、このような機会があれば、参加してみたいなと僕は強く思いました。

### 京都竹友会大会に

### 参加して

清風館道場

中学二年 岡、田 泰 造



平成十五年、一月二十六日に京都で行われる京都竹友会少年剣道大

会に中学二年生の部で参加させていただきました。去年も参加し何回戦かで、大枝誠心館の堺君に負けてしまいました。去年は試合をする前から

「強そう、負けそう」という気持ちでしたので、自分に負けたのだとおもいました。それで、今年は試合をする前から気持ちで負けず上を目指しましたが、一回戦目からいきなり延長戦になりました。何分もお互い打ち合いながら、

「負けてたまるか」と思い力をふりしぼって面を打つと審判の旗が二本上がっていました。そして調子よく、二、三回戦も勝って四回戦目に、下仲という子に負けてしまいました。その子に、せっかく、本目に返し胴を入れたのに、気をぬいてしまい、面を二本とられてしまいました。一瞬気を抜いただけで負けてしまいました、とてもやさしいです。その子にもし勝っていたら、去年負けてしまった堺君に、あたっていたのにとでもやさしく思いました。今年こそはと思つて参加させていたのですが、堺君にあたる前に負けてしまいました。

もう終わった事を後からいつまでもくやんでいても仕方がないので次の試合に向けて練習にはげみ工夫していきたいと思ひます。久保先生は、「自分に厳しく人に優しく」とよく教えてくれます。それを守つて強くなり、そして、剣道を教えてくれた先生方そして、見守つてくれ

た保護者のみなさんに感謝していきたいです。

僕も今年で中学三年生となります。市内の大会、一つ一つが最後となりますがこの大会に学んだような後悔をしないため精進したいと思います。

## 京都での準優勝

鳴門第一中学 一年

平野 千尋

私は一月二十六日、京都で行われた京都竹友会少年剣道大会に出場しました。今年で二回目の出場ですが、小学生の時は準決勝で負けてしまったのでそれ以上頑張りたいと思つていました。

一回戦は、慎重に二本勝ちをして幸先のいいスタートを切りました。

二回戦は、去年のこの大会で負けた昇龍館一福の重本さんに偶然にも当た

り、延長戦で小手をとり、今度は勝つことができました。

続く三回戦とコート決勝は、一本勝ち、ベスト四まで上がりました。

いよいよ準決勝。相手は去年の全国大会で準優勝している選手です。試合がはじまると、すぐ場外の反則をとられてしまいました。延長となりもう一回、場外へ出そうと必要以上に押して来ます。私は絶対に決めてやろうと思ひ、あきらめずに一本をねらっていました。そして面が決まった瞬間、何とも言えずうれしかったし、周りの人もとても喜んでくれました。

決勝では、残念ながら私が小手を打つていたところをあわされて小手面を打たれ、負けてしまいました。この六回の試合で、大変勉強になったと思ひます。準優勝ができて大変うれしく思ひます。

一次の三月のスポ少全国大会も頑張りたいです。

# 事務局だより

## 出会いと別れ

事務局 長谷川 陽 子



月日が経つのは早いものです。月並み言葉ですが、只今実感中です。

その時の流れの中で様々な方々に出会い学びます。今年もあつという間に過ぎましたが、その中でたくさんの出会いがありました。そして別れもありました。

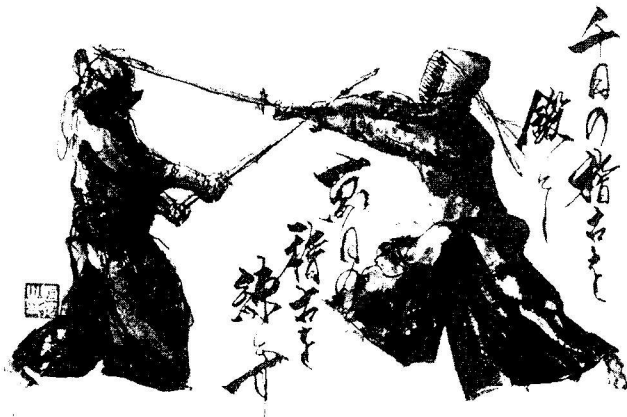
私の恩師であります堀金寛先生との別れもありました。生前お見舞いに伺い声を掛けると言葉はないけれど握った手を握り返してくるのです。今思うとあの手を握り返してこられる間に一度竹刀を握らせてあげればよかった。本当に剣道が好きならだっ

ただけに悔いが残ります。今思うと奥様を亡くしてからは、明るく振舞う事で気を紛らわしていたように思います。今は、あちらの世界で奥様と一緒に仲良く暮らしているのかなあ…なんて思っています。

阿部全司先生もあつという間に逝かれてしまいました。そして最後までダンディだった三木只雄先生も年末に逝かれてしまわれ本当に寂しい限りです。

徳島県剣道連盟創立五十周年という伝統を築いて来られた先生方に敬意を表し、その志を受け継いで行かなければと思います。

今年も頑張れ少年剣士、羽ばたけママ剣士、頑張れ徳島の剣士達！

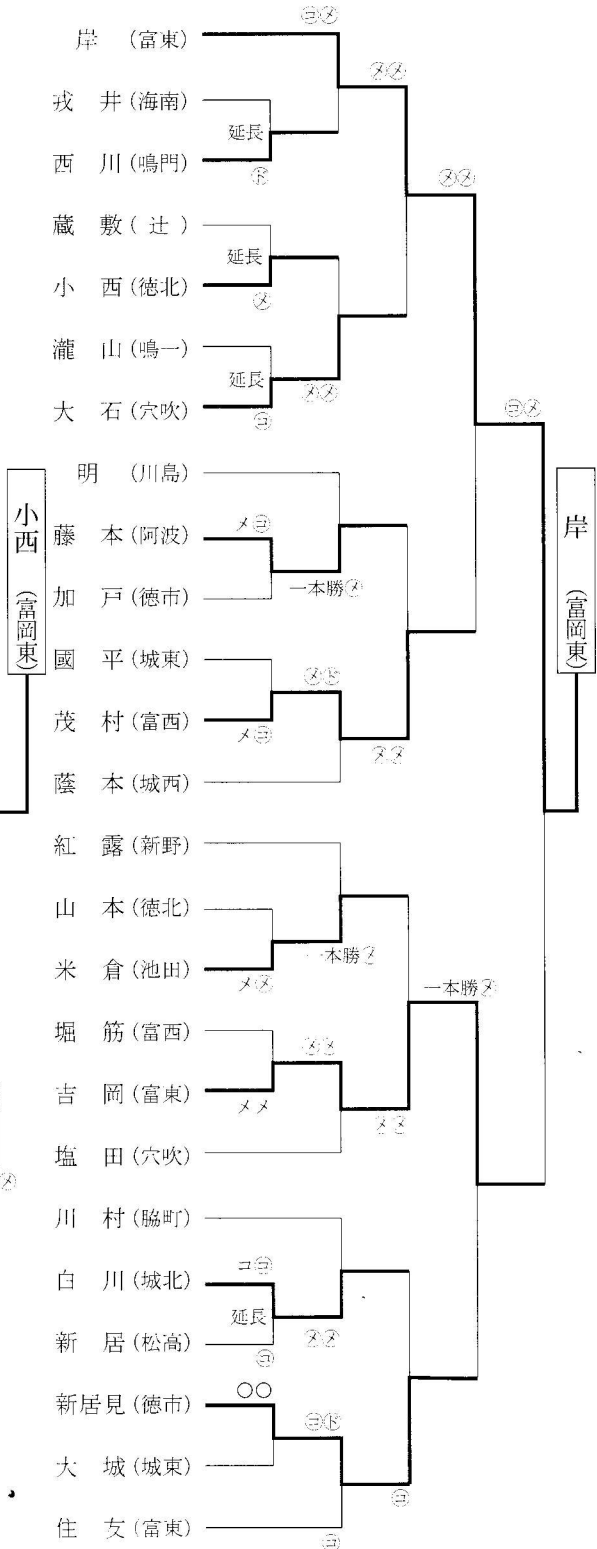




〈女子個人2組〉

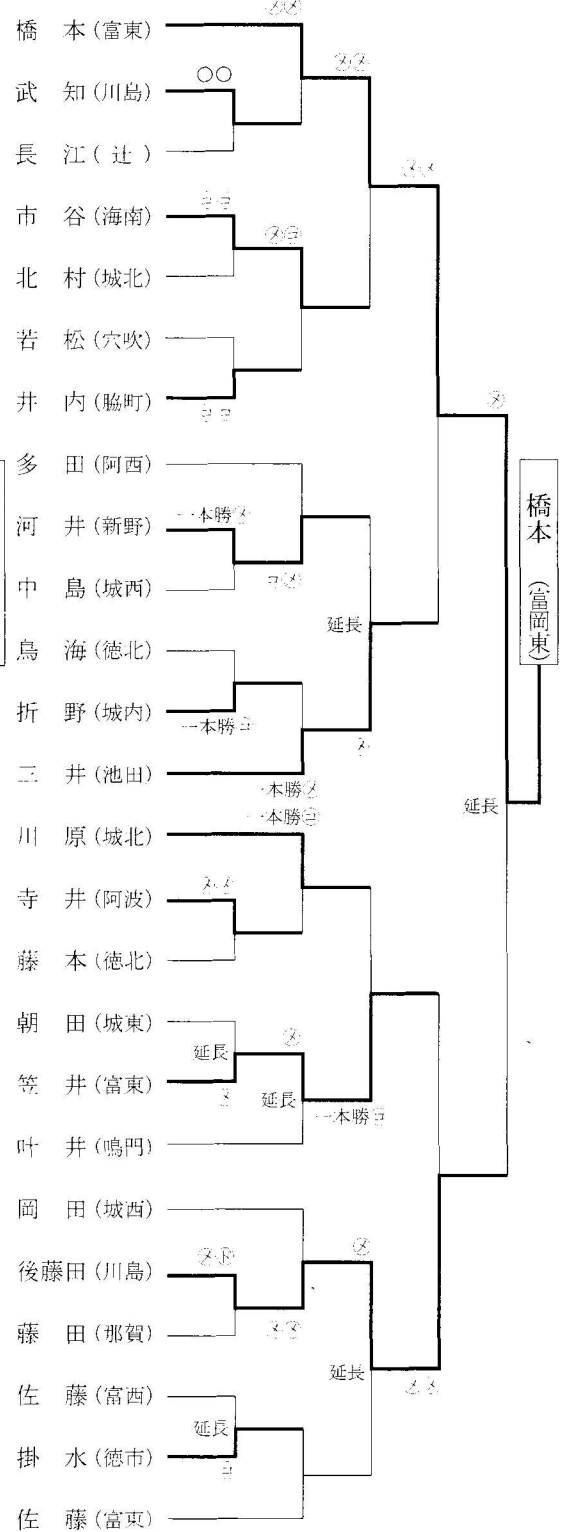


〈女子個人1組〉

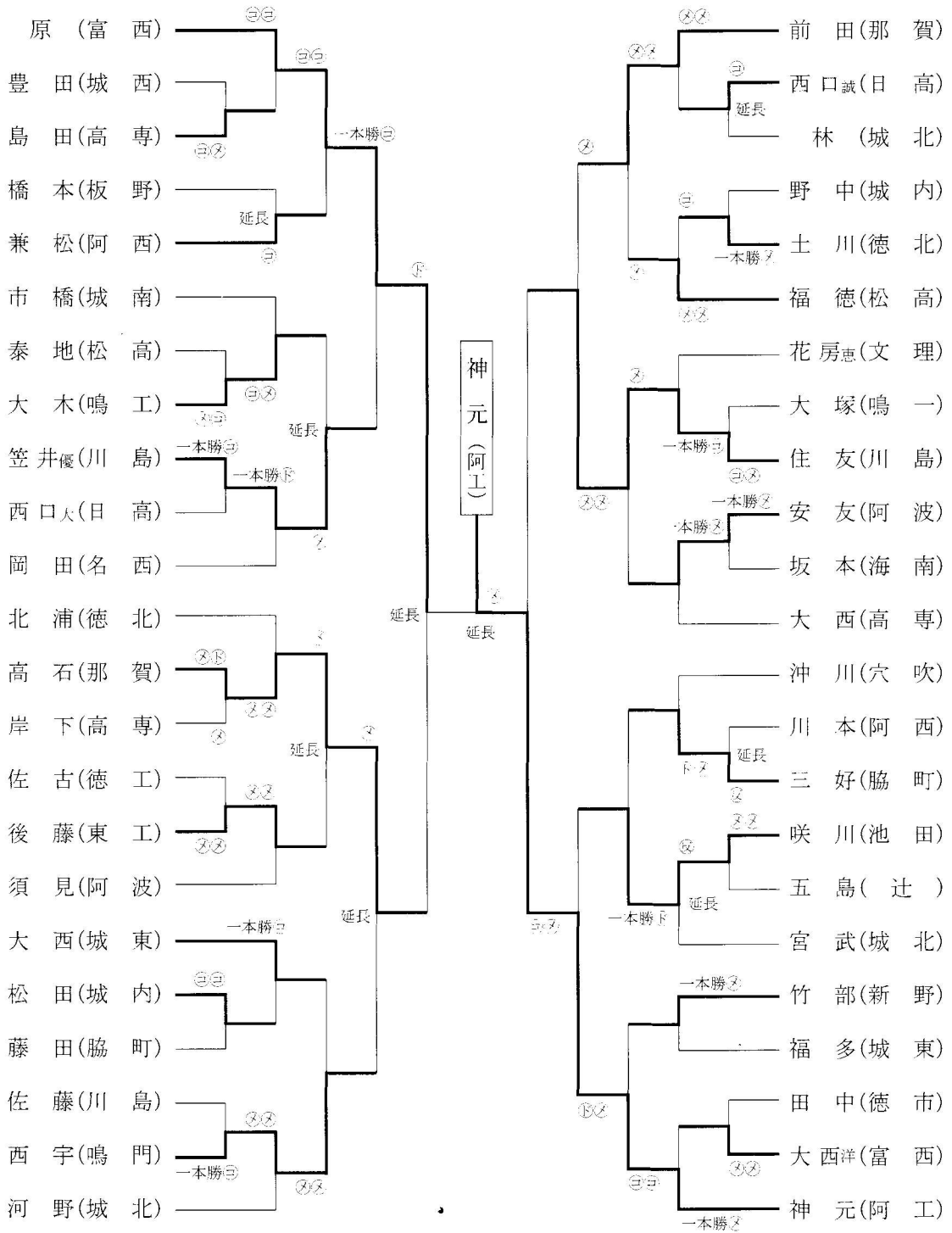


〈女子個人4組〉

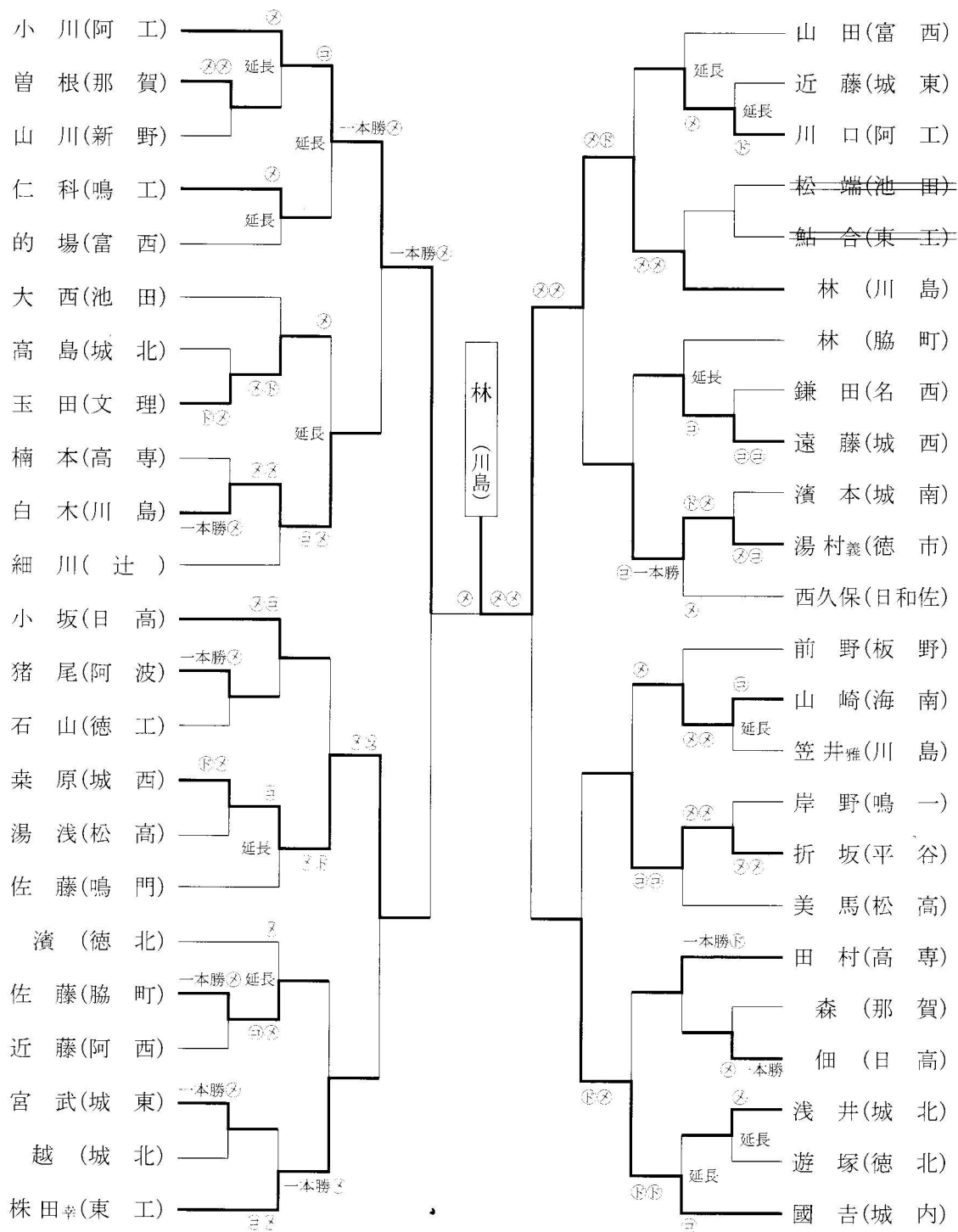
〈女子個人3組〉



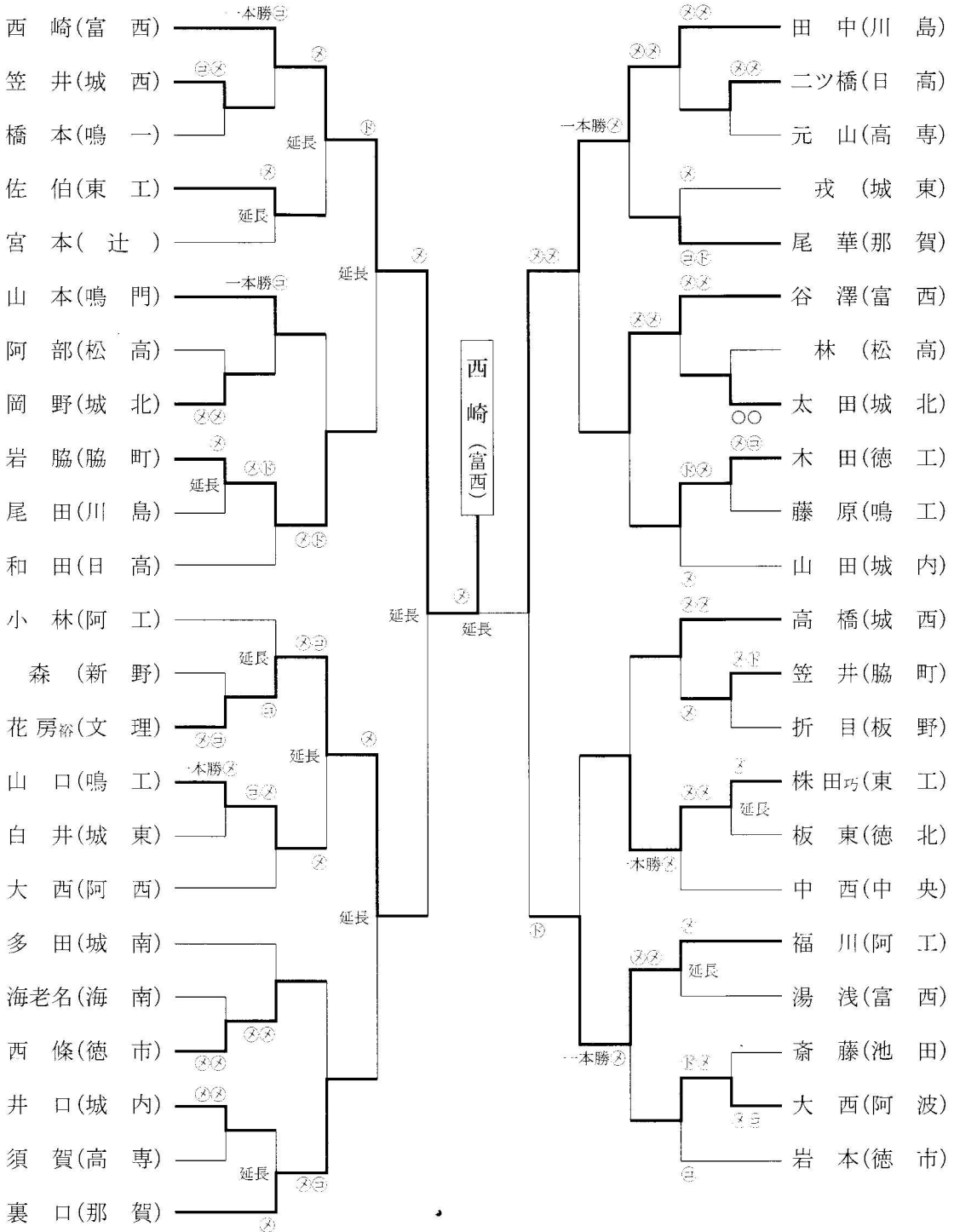
〈男子個人1組〉



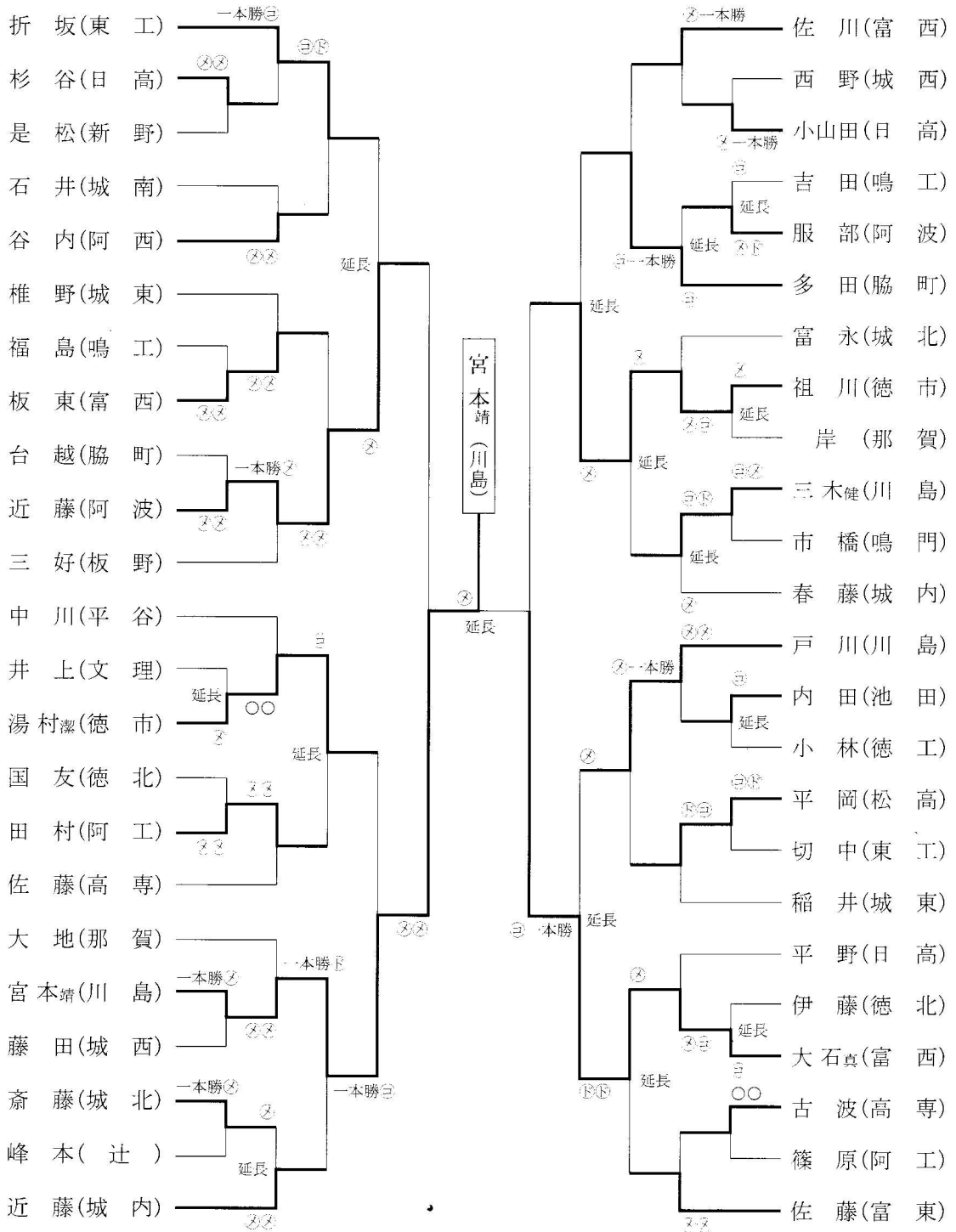
〈男子個人2組〉



〈男子個人3組〉



〈男子個人4組〉



# 決勝リーグ

〈男子の部〉

準決勝

準決勝

| 校名 | 先  | 次  | 中     | 副  | 大  | 勝敗 | 本 | 代 |
|----|----|----|-------|----|----|----|---|---|
| 富岡 | 大石 | 佐川 | 的場    | 西崎 | 原  |    |   |   |
| 西  | ⊗  | ⊗  | ⊗ 一本勝 | ⊗  | ⊗  | 4  | 4 |   |
| 東  |    | 延長 |       | 延長 | 延長 | 0  | 0 |   |
| 工  | 株田 | 佐伯 | 株田巧   | 後藤 | 折坂 |    |   |   |

| 校名 | 先  | 次  | 中   | 副  | 大  | 勝敗 | 本 | 代  |
|----|----|----|-----|----|----|----|---|----|
| 阿南 | 神元 | 川口 | 福川  | 小林 | 小川 |    |   | 神元 |
| 工  | ⊗  | ⊗  | ⊗   | ⊗  | ⊗  | 1  | 1 |    |
| 川  | 延長 | 延長 | 一本勝 | 延長 | 延長 | 1  | 1 | 延長 |
| 島  | 戸川 | 宮本 | 林   | 尾田 | 田中 |    |   | 林  |

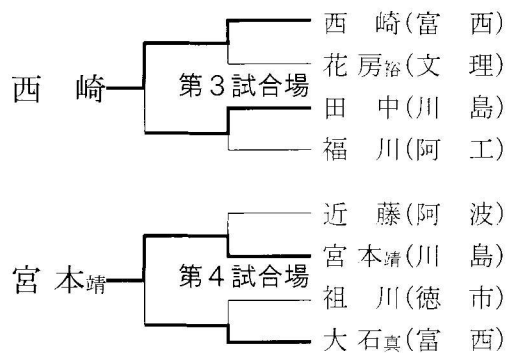
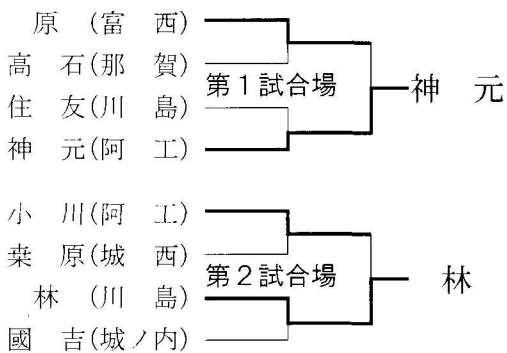
決勝

| 校名 | 先     | 次  | 中  | 副  | 大  | 勝敗 | 本 | 代 |
|----|-------|----|----|----|----|----|---|---|
| 富岡 | 大石    | 佐川 | 的場 | 西崎 | 原  |    |   |   |
| 西  | ⊗ 一本勝 | ⊗  |    | ⊗  | ⊗  | 1  | 2 |   |
| 川  |       | 延長 | ⊗  | 延長 | 延長 | 1  | 3 |   |
| 島  | 戸川    | 宮本 | 林  | 尾田 | 田中 |    |   |   |

3位決定戦

| 校名 | 先  | 次  | 中   | 副     | 大  | 勝敗 | 本 | 代   |
|----|----|----|-----|-------|----|----|---|-----|
| 東  | 株田 | 佐伯 | 株田巧 | 後藤    | 折坂 |    |   | 株田幸 |
| 工  | ⊗  | ⊗  |     | ⊗ 一本勝 | ⊗  | 2  | 3 |     |
| 阿南 | ⊗  |    | ⊗   |       | 延長 | 2  | 3 | 延長  |
| 工  | 神元 | 川口 | 福川  | 小林    | 小川 |    |   | 小川  |

個人戦



## 〈女子の部〉

### 団体戦

| 校名  | 先  | 次  | 中  | 副  | 大  | 勝敗 | 本 | 代 |
|-----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 富岡東 | 瀬口 | 小西 | 橋本 | 佐藤 | 岸  |    |   |   |
|     | 延長 |    | 延長 |    | 延長 |    | 3 | 4 |
| 富岡西 | ▲  | ▲  |    |    |    |    | 0 | 0 |
|     | 森崎 | 尾崎 | 茂村 | 吉村 | 佐藤 |    |   |   |

### 準決勝

| 校名   | 先  | 次  | 中  | 副  | 大   | 勝敗 | 本 | 代 |
|------|----|----|----|----|-----|----|---|---|
| 池田川島 | 山下 | 島尾 | 喜多 | 米倉 | 三井  |    |   |   |
|      | 延長 |    | 延長 |    | 延長  |    | 1 | 2 |
| 川島   | ▲  |    |    |    |     |    | 2 | 3 |
|      | 近藤 | 明  | 奥森 | 林  | 後藤田 |    |   |   |

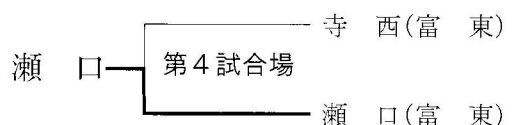
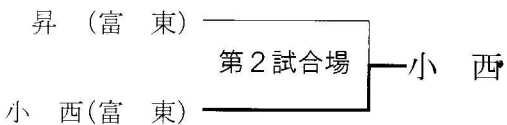
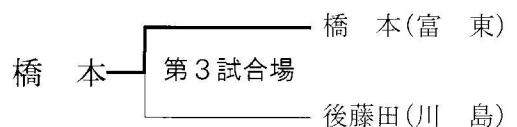
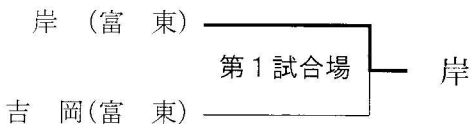
### 決勝

| 校名  | 先  | 次  | 中  | 副  | 大   | 勝敗 | 本 | 代 |
|-----|----|----|----|----|-----|----|---|---|
| 富岡東 | 瀬口 | 小西 | 橋本 | 佐藤 | 岸   |    |   |   |
|     | 延長 |    | 延長 |    | 延長  |    | 4 | 5 |
| 川島  | ▲  |    |    |    |     |    | 0 | 0 |
|     | 近藤 | 明  | 奥森 | 林  | 後藤田 |    |   |   |

### 3位決定戦

| 校名  | 先  | 次  | 中  | 副  | 大  | 勝敗 | 本 | 代 |
|-----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 富岡西 | 森崎 | 尾崎 | 茂村 | 吉村 | 佐藤 |    |   |   |
|     | 延長 |    | 延長 |    | 延長 |    | 2 | 2 |
| 池田  | ▲  |    |    |    |    |    | 1 | 1 |
|     | 山下 | 島尾 | 喜多 | 米倉 | 三井 |    |   |   |

### 個人戦



# 決勝リーグ

〈男子個人〉

|    | 神元 | 林 | 西崎     | 宮本     | 勝数 | 勝本数 | 得失点 | 順位 |
|----|----|---|--------|--------|----|-----|-----|----|
| 神元 |    | △ | ⊗      | ⊗<br>⊗ | 2  | 3   | +2  | 2  |
| 林  | ⊗  |   | ⊗<br>⊗ | ⊖      | 3  | 4   | +4  | 1  |
| 西崎 | △  | △ |        | ⊗      | 1  | 1   | -2  | 3  |
| 宮本 | △  | △ | △      |        | 0  | 0   | -4  | 4  |

|   | 選手名 |        |     | 選手名 |
|---|-----|--------|-----|-----|
| 1 | 西崎  | ⊗      | 延長  | 宮本  |
| 2 | 神元  |        | 延長  | ⊗ 林 |
| 3 | 林   | ⊖      | 延長  | 宮本  |
| 4 | 神元  | ⊗      | 一本勝 | 西崎  |
| 5 | 林   | ⊗<br>⊗ |     | 西崎  |
| 6 | 神元  | ⊗<br>⊗ |     | 宮本  |

|   | 選手名 |   |     | 選手名  |
|---|-----|---|-----|------|
| 1 | 橋本  |   | 延長  | ⊖ 瀬口 |
| 2 | 岸   | ⊗ | 延長  | 小西   |
| 3 | 小西  |   | 一本勝 | ⊗ 瀬口 |
| 4 | 岸   | ⊖ | 延長  | 橋本   |
| 5 | 小西  |   | 延長  | ⊗ 橋本 |
| 6 | 岸   | ⊗ | 一本勝 | 瀬口   |

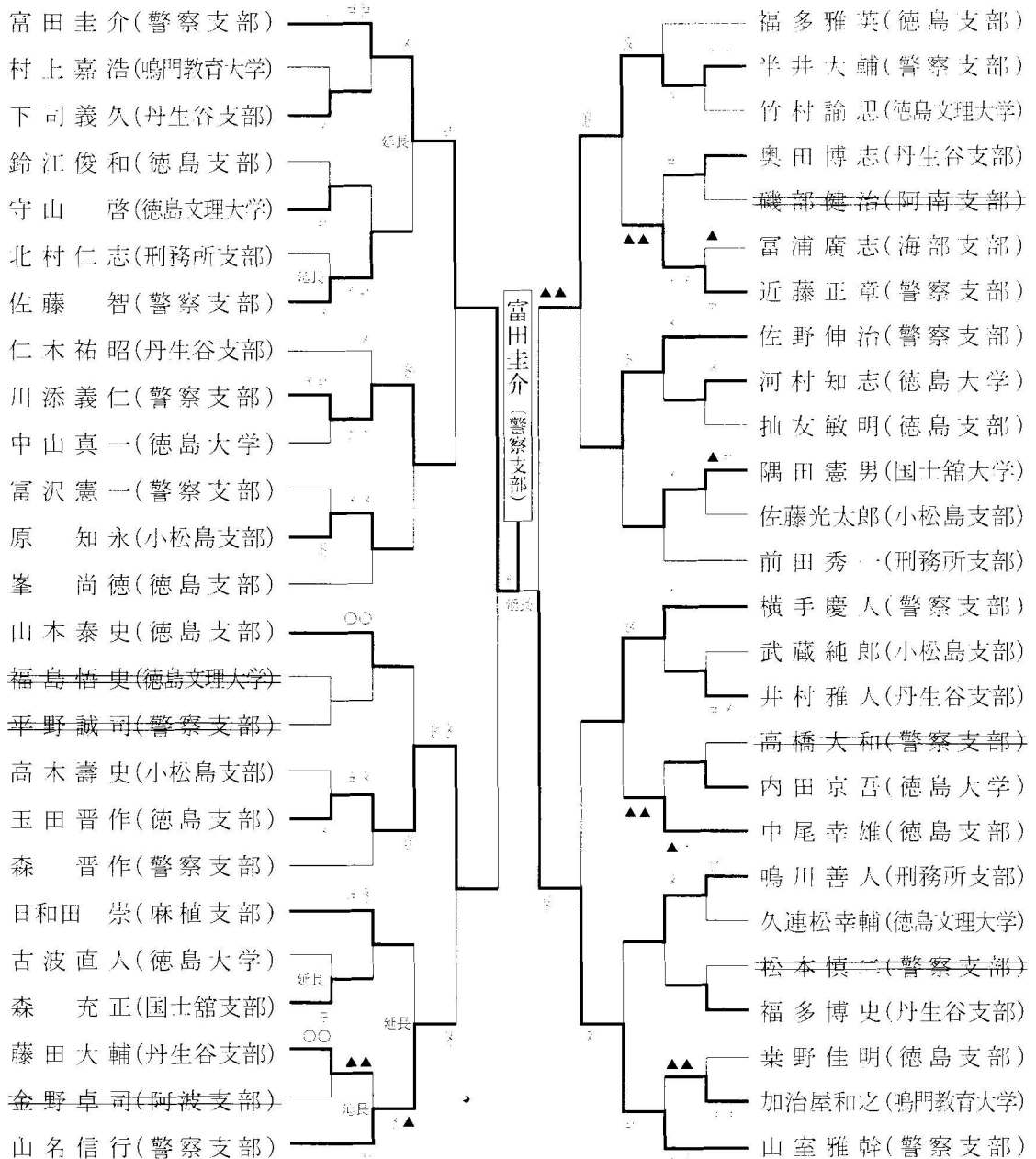
〈女子個人〉

|    | 岸 | 小西 | 橋本 | 瀬口 | 勝数 | 勝本数 | 得失点 | 順位 |
|----|---|----|----|----|----|-----|-----|----|
| 岸  |   | ⊗  | ⊖  | ⊗  | 3  | 3   | +3  | 1  |
| 小西 | △ |    | △  | △  | 0  | 0   | -3  | 4  |
| 橋本 | △ | ⊗  |    | △  | 1  | 1   | -1  | 3  |
| 瀬口 | △ | ⊗  | ⊖  |    | 2  | 2   | +1  | 2  |

# 第14回 徳島県剣道選手権大会兼全日本剣道選手権大会予選会

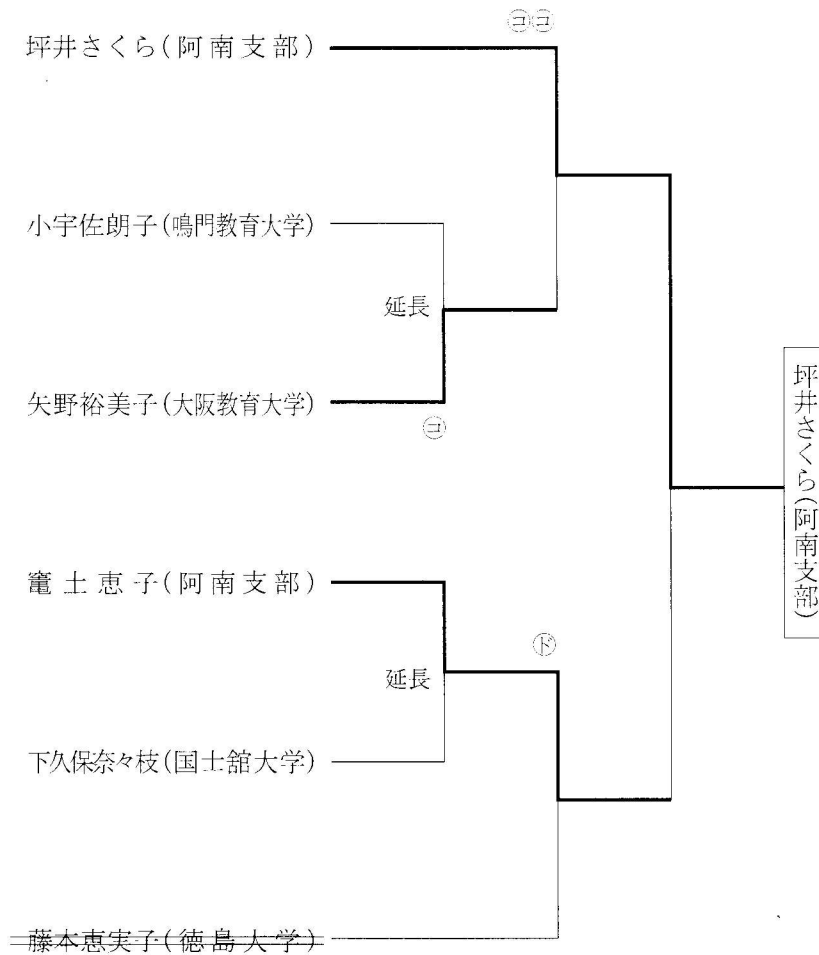
優勝 富田圭介 (警察支部)  
 準優勝 山室雅幹 (警察支部)  
 第三位 玉田晋作 (徳島支部)  
 第三位半 半井大輔 (警察支部)

日時 平成14年7月14日(日)午前9時  
 場所 鳴門武道館



## 第5回 徳島県女子選手権大会

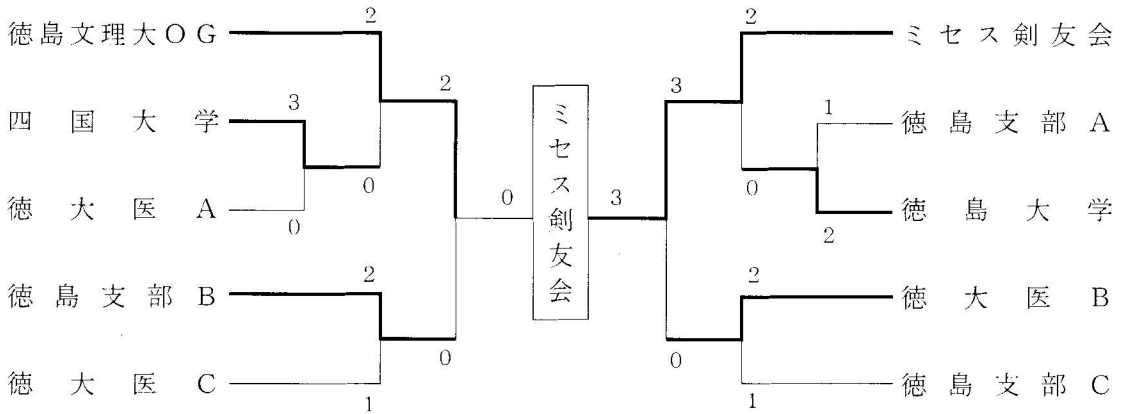
|     |         |          |    |                   |
|-----|---------|----------|----|-------------------|
| 優勝  | 坪井 さくら  | (阿南支部)   | 日時 | 平成14年7月14日(日)午前9時 |
| 準優勝 | 竈土 恵子   | (阿南支部)   | 場所 | 鳴門武道館             |
| 第三位 | 矢野 裕美子  | (大阪教育大学) |    |                   |
| 第三位 | 下久保 奈々枝 | (国士舘大学)  |    |                   |



# 第 23 回 徳島県女子剣道大会

## 〈団体戦〉

日 時 平成 14 年 6 月 30 日(日)午前 9 時  
場 所 徳島県立中央武道館



### 決勝戦

|                | 先鋒            | 中堅            | 大将               |        |
|----------------|---------------|---------------|------------------|--------|
| 徳島文理<br>大学 O G | 豊<br>田        | 西<br>村        | 井<br>若           | 0<br>0 |
|                |               |               | 延<br>長           |        |
| ミセス剣友会         | 一本勝<br>平<br>野 | 一本勝<br>竹<br>内 | 延<br>長<br>森<br>本 | 3<br>3 |
|                |               |               |                  |        |

### 準決勝

|                | 先鋒     | 中堅     | 大将     |        |
|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 徳島文理<br>大学 O G | 豊<br>田 | 西<br>村 | 井<br>若 | 3<br>2 |
|                | 延<br>長 | 延<br>長 | 延<br>長 |        |
| 徳島支部 B         | 坪<br>井 | 岸<br>野 | 岩<br>見 | 0<br>0 |
|                |        |        |        |        |

### 準決勝

|        | 先鋒            | 中堅               | 大将               |        |
|--------|---------------|------------------|------------------|--------|
| 徳大医 B  | 田<br>栗        | 高<br>熊           | 今<br>井           | 0<br>0 |
|        |               |                  |                  |        |
| ミセス剣友会 | 一本勝<br>平<br>野 | 延<br>長<br>竹<br>内 | 延<br>長<br>森<br>本 | 5<br>3 |
|        |               |                  |                  |        |





## 第 56 回 徳島県中学校夏季総合体育大会

日 時 平成 14 年 7 月 21 日(日)午前 9 時  
場 所 鳴 門 武 道 館

### ① 団 体 戦

|       | 男 子           | 女 子           |
|-------|---------------|---------------|
| 優 勝   | 徳 島 文 理 中 学 校 | 阿 南 第 一 中 学 校 |
| 準 優 勝 | 相 生 中 学 校     | 那 賀 川 中 学 校   |
| 第 3 位 | 阿 南 第 一 中 学 校 | 坂 野 中 学 校     |
| 第 3 位 | 阿 南 中 学 校     | 相 生 中 学 校     |

#### [ 男子決勝 ]

| 学 校 名     | 先 鋒 | 次 員 | 中 堅 | 副 将 | 大 将  | 勝 敗 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 徳 島 文 理 中 | 鎌 田 | 片 山 | 西 岡 | 津 川 | 玉 田  | 2   |
|           | ⊗   | 延長  | 延長  | 延長  | ⊗一本勝 |     |
| 相 生 中     |     | 延長  | 延長  | 延長  |      | 0   |
|           | 岩 沙 | 元 木 | 松 本 | 福 永 | 新 田  |     |

#### [ 女子決勝 ]

| 学 校 名     | 先 鋒  | 次 員  | 中 堅 | 副 将 | 大 将  | 勝 敗 |
|-----------|------|------|-----|-----|------|-----|
| 阿 南 第 一 中 | 賀 上  | 坂 本  | 細 川 | 近 藤 | 島 田  | 2   |
|           | ⊗一本勝 | ⊗延長  | 延長  | 延長  | 延長   |     |
| 那 賀 川 中   |      |      | 延長  | 延長  | 延長   | 0   |
|           | 河 田  | 横 山依 | 長 地 | 中 野 | 横 山住 |     |

### ② 個 人 戦

| 順位    | 男 子     | 学 校 名   | 順位    | 女 子     | 学 校 名     |
|-------|---------|---------|-------|---------|-----------|
| 優 勝   | 玉 田 赴 大 | 徳 島 文 理 | 優 勝   | 平 野 千 尋 | 鳴 門 市 第 一 |
| 準 優 勝 | 森 本 龍 毅 | 吉 野     | 準 優 勝 | 近 藤 愛   | 阿 南 第 一   |
| 第 3 位 | 美 馬 憲 太 | 牟 岐     | 第 3 位 | 元 木 綾 子 | 阿 南 第 一   |
| 第 3 位 | 林 義 真   | 三 島     | 第 3 位 | 賀 上 晴 香 | 阿 南 第 一   |



## 第 56 回 徳島県中学校夏季総合体育大会

日 時 平成 14 年 7 月 21 日(日)午前 9 時  
場 所 鳴 門 武 道 館

### ① 団 体 戦

|       | 男 子           | 女 子           |
|-------|---------------|---------------|
| 優 勝   | 徳 島 文 理 中 学 校 | 阿 南 第 一 中 学 校 |
| 準 優 勝 | 相 生 中 学 校     | 那 賀 川 中 学 校   |
| 第 3 位 | 阿 南 第 一 中 学 校 | 坂 野 中 学 校     |
| 第 3 位 | 阿 南 中 学 校     | 相 生 中 学 校     |

#### [ 男子決勝 ]

| 学 校 名     | 先 鋒 | 次 員 | 中 堅 | 副 将 | 大 将  | 勝 敗 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 徳 島 文 理 中 | 鎌 田 | 片 山 | 西 岡 | 津 川 | 玉 田  | 2   |
|           | ⊗   | 延長  | 延長  | 延長  | ⊗一本勝 |     |
| 相 生 中     |     | 延長  | 延長  | 延長  |      | 0   |
|           | 岩 沙 | 元 木 | 松 本 | 福 永 | 新 田  |     |

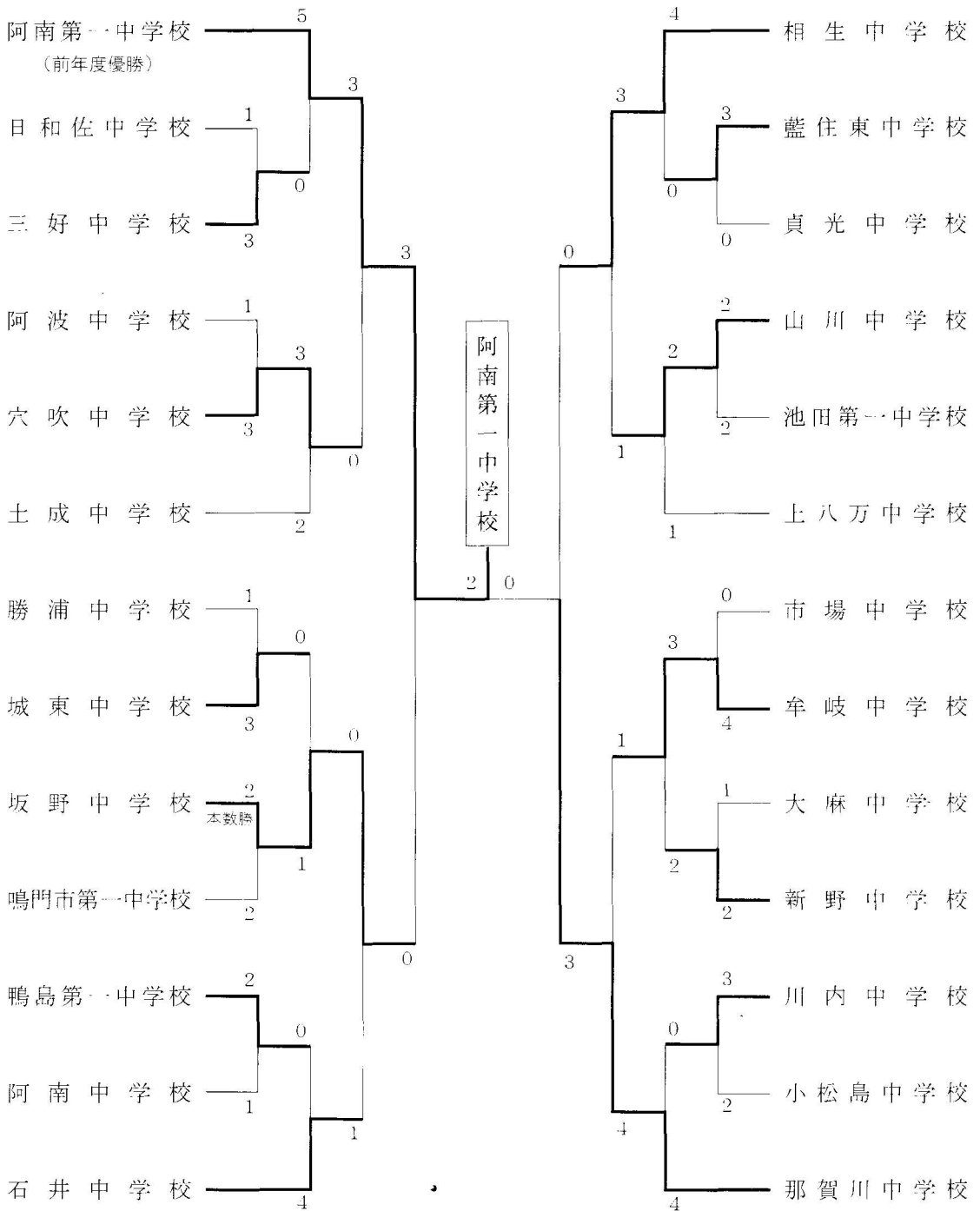
#### [ 女子決勝 ]

| 学 校 名     | 先 鋒  | 次 員  | 中 堅 | 副 将 | 大 将  | 勝 敗 |
|-----------|------|------|-----|-----|------|-----|
| 阿 南 第 一 中 | 賀 上  | 坂 本  | 細 川 | 近 藤 | 島 田  | 2   |
|           | ⊗一本勝 | ⊗延長  | 延長  | 延長  | 延長   |     |
| 那 賀 川 中   |      |      | 延長  | 延長  | 延長   | 0   |
|           | 河 田  | 横 山依 | 長 地 | 中 野 | 横 山住 |     |

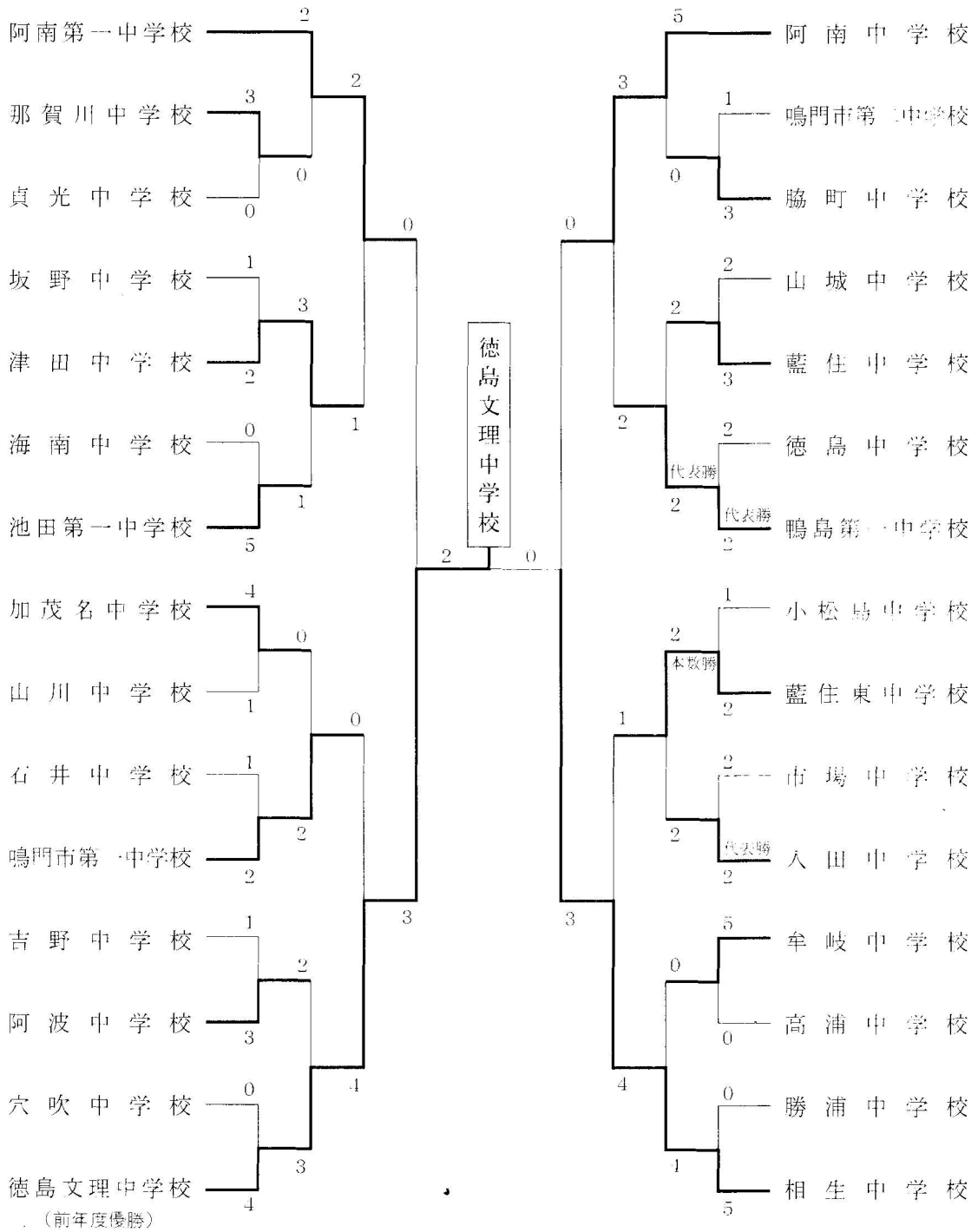
### ② 個 人 戦

| 順位    | 男 子     | 学 校 名   | 順位    | 女 子     | 学 校 名     |
|-------|---------|---------|-------|---------|-----------|
| 優 勝   | 玉 田 赴 大 | 徳 島 文 理 | 優 勝   | 平 野 千 尋 | 鳴 門 市 第 一 |
| 準 優 勝 | 森 本 龍 毅 | 吉 野     | 準 優 勝 | 近 藤 愛   | 阿 南 第 一   |
| 第 3 位 | 美 馬 憲 太 | 牟 岐     | 第 3 位 | 元 木 綾 子 | 阿 南 第 一   |
| 第 3 位 | 林 義 真   | 三 島     | 第 3 位 | 賀 上 晴 香 | 阿 南 第 一   |

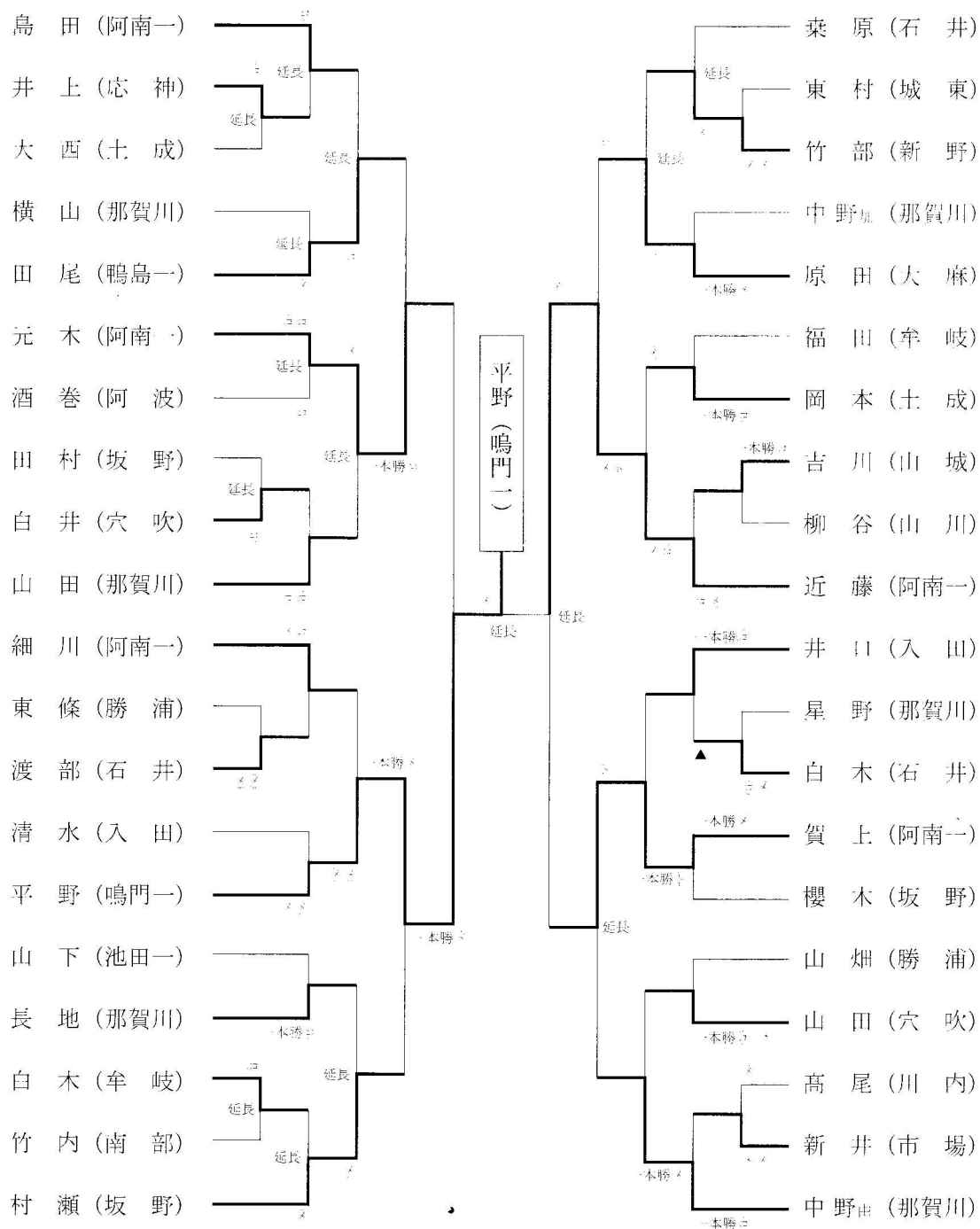
『女子組み合せ』



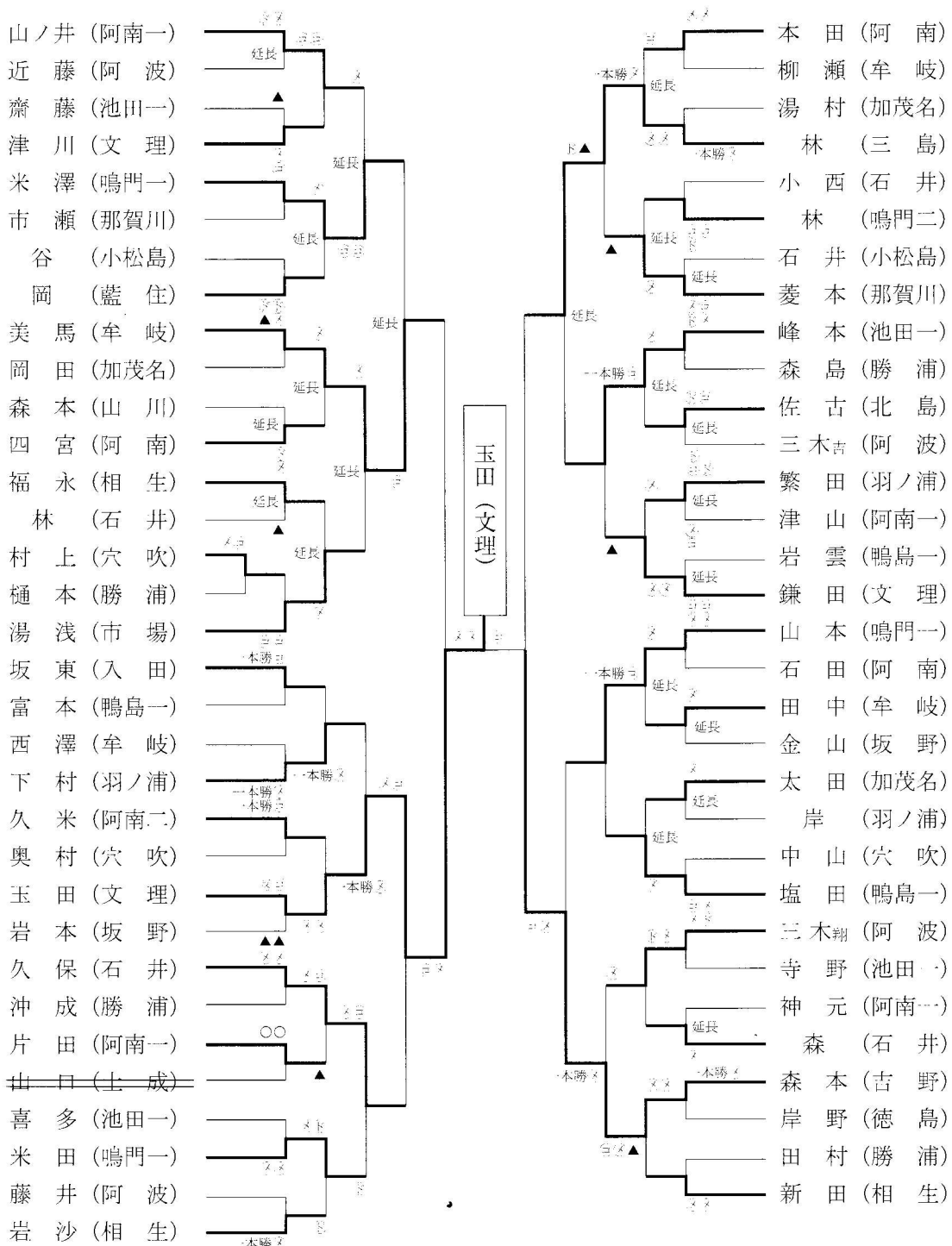
『男子組み合せ』



『女子個人組み合わせ』



『男子個人組み合せ』



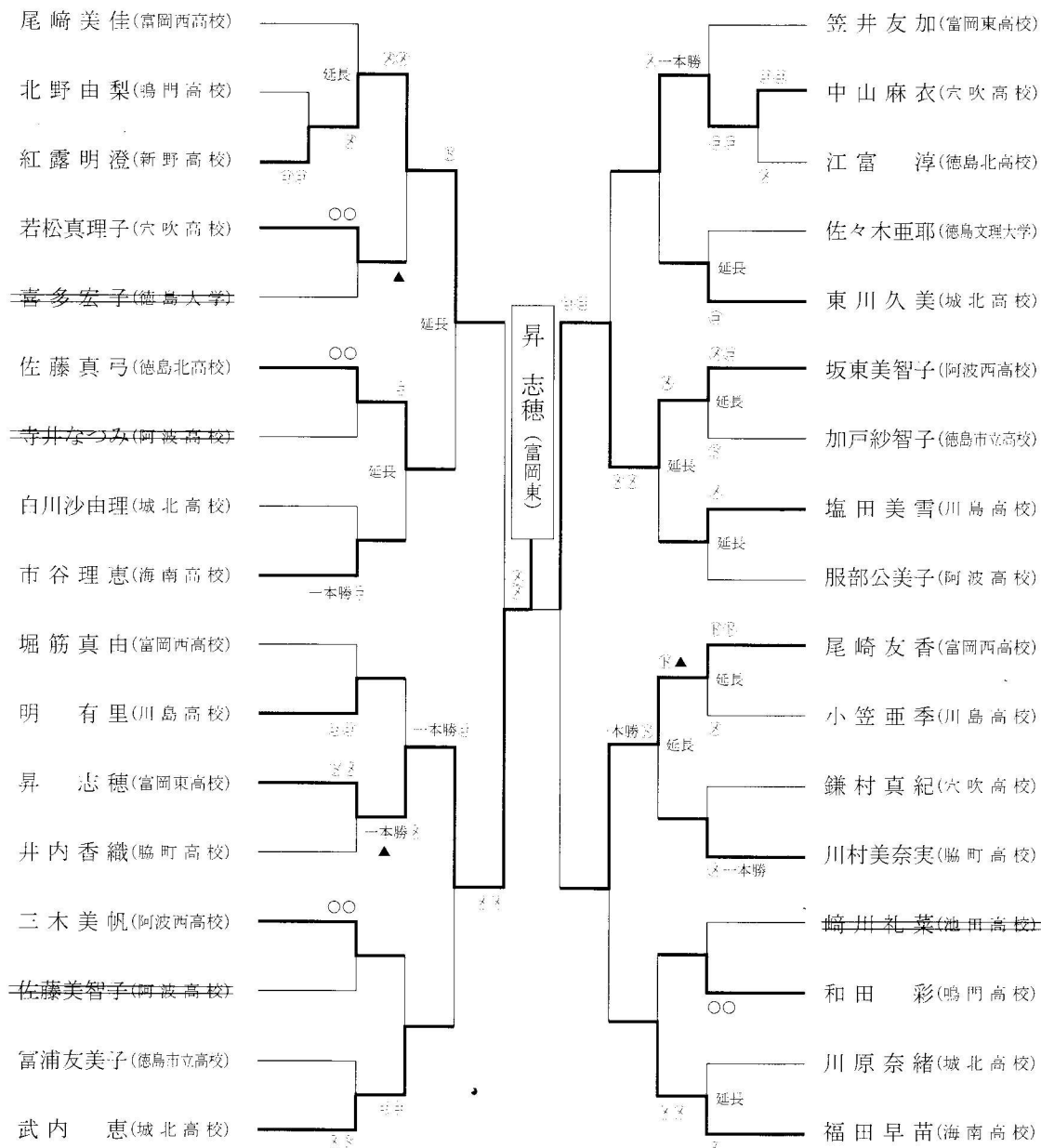
# 第 26 回 徳島県剣道段別選手権大会

日 時 平成 14 年 9 月 1 日(日)午前 9 時  
場 所 鳴 門 武 道 館

## 初段の部 (女子)

優 勝 昇 志 穂 (富岡東高)

準優勝 坂東美智子 (阿波西高)

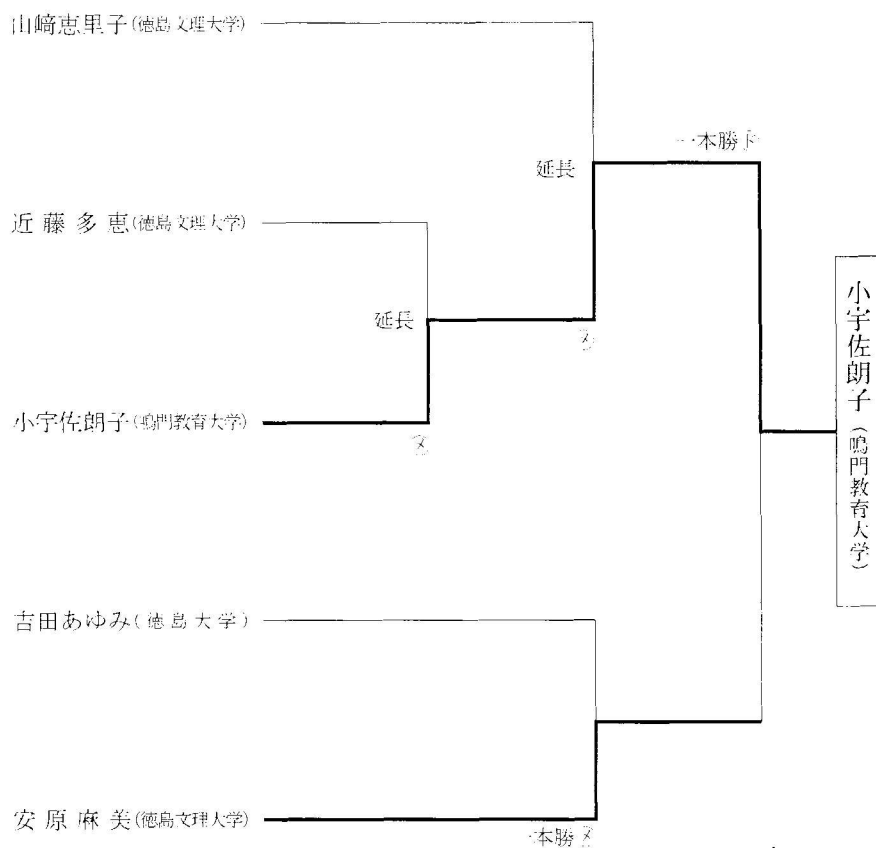




### 三段の部（女子）

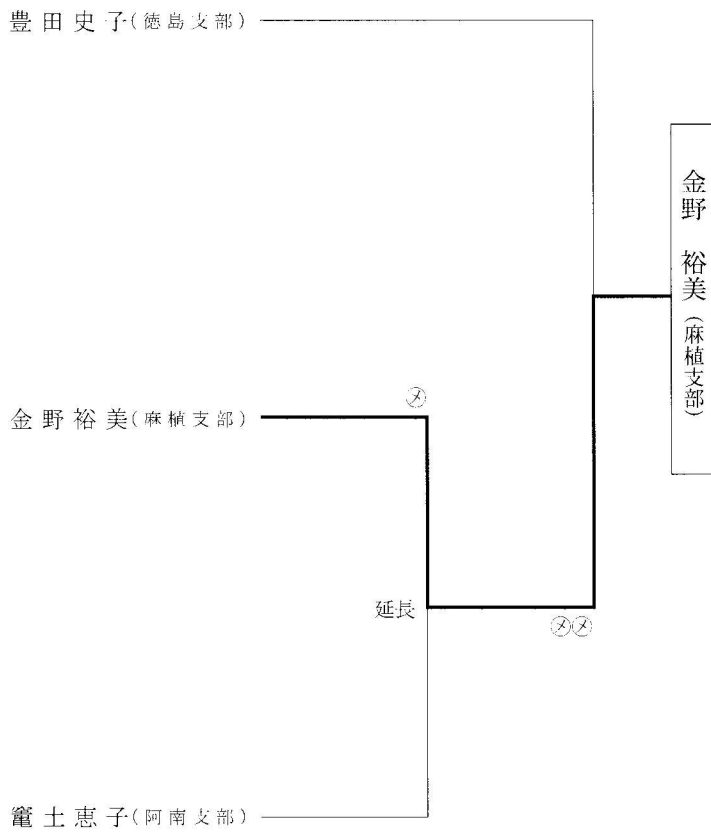
優 勝 小宇佐朗子（鳴門教育大学）

準優勝 安原麻美（徳島文理大学）



### 四段の部（女子）

優勝 金野裕美（麻植支部）

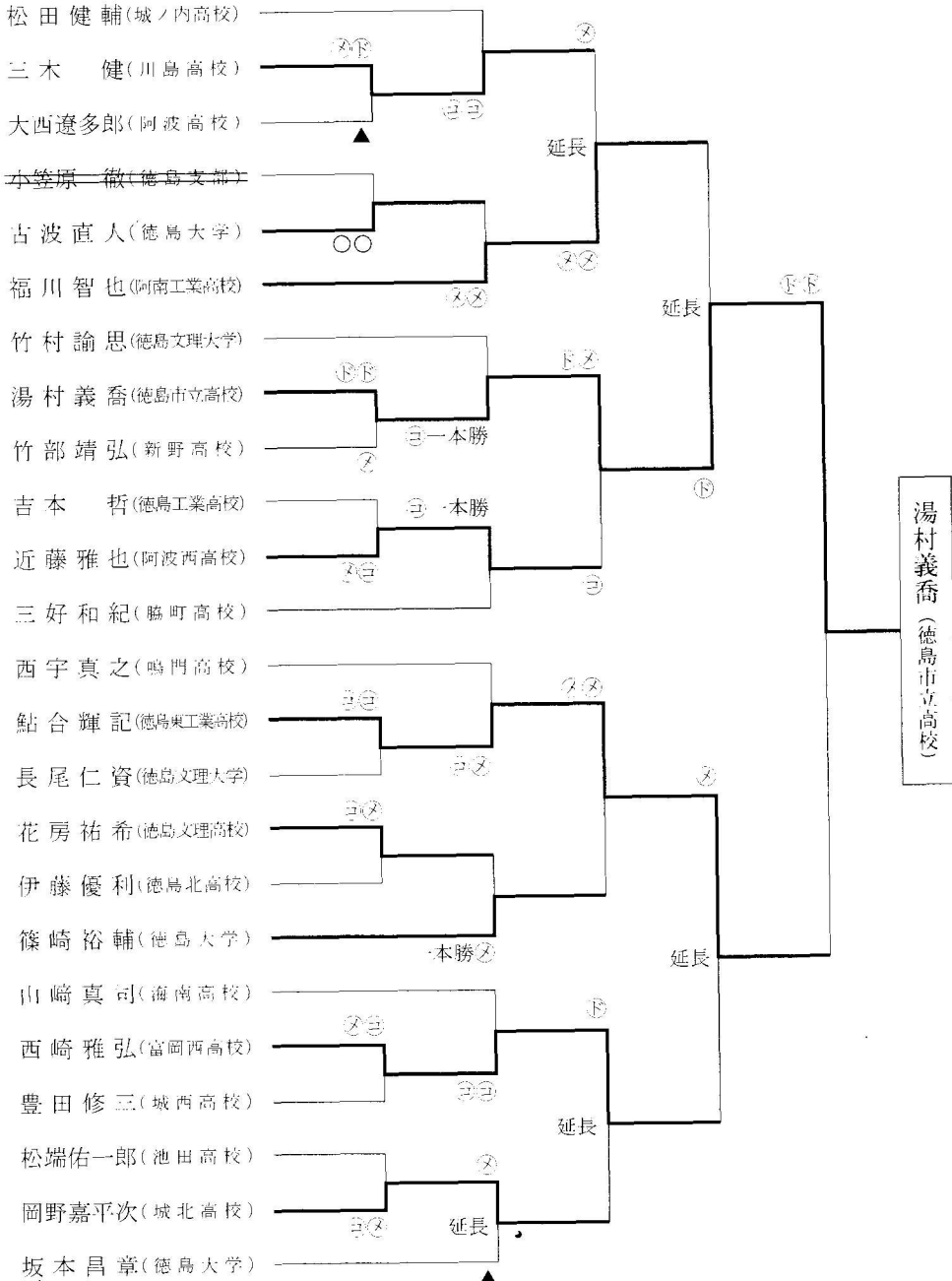




### 二段の部（男子）

優勝 湯村義喬 (徳島市立高校)

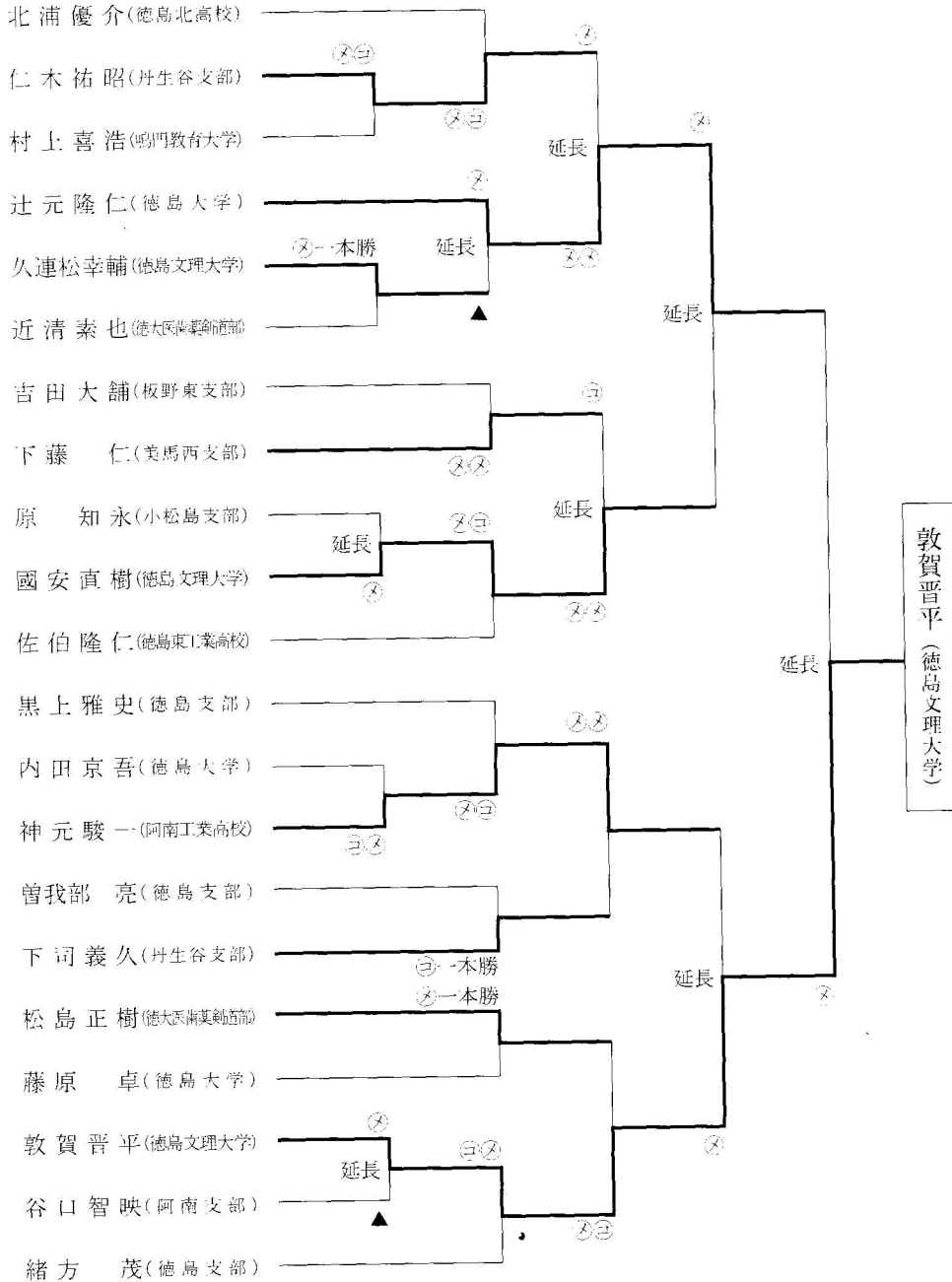
準優勝 鮎合輝記 (徳島東工業高校)



### 三段の部（男子）

優勝 敦賀晋平 (徳島文理大学)

準優勝 辻元隆仁 (徳島大学)

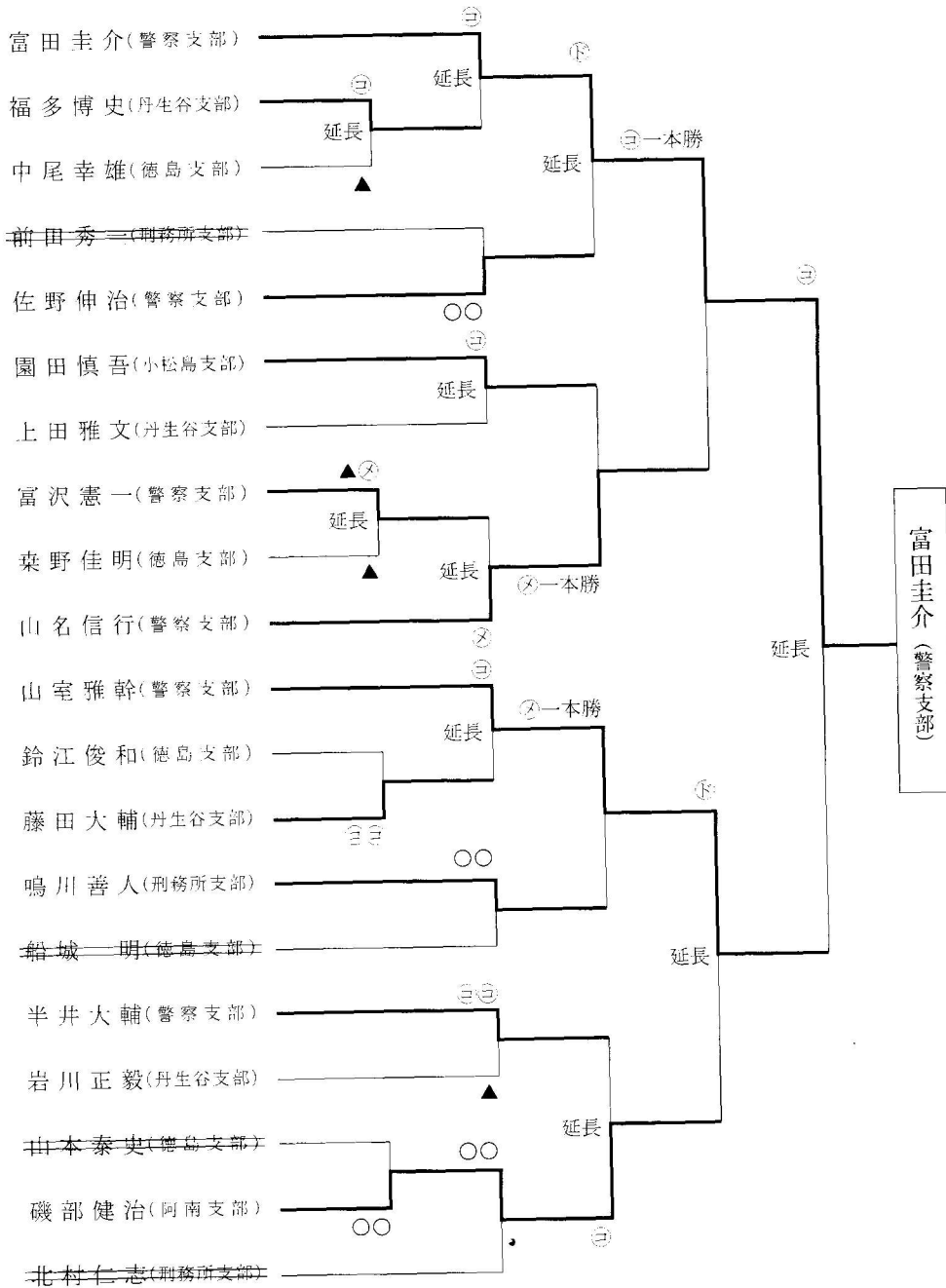




## 五段の部（男子）

優勝 富田圭介（警察支部）

準優勝 山室雅幹（警察支部）



## 第 31 回 徳島県社会人剣道大会

日 時 平成 14 年 10 月 20 日(日)午前 9 時  
場 所 鳴 門 武 道 館

| A       | 徳島刑務所 A | 鳴月会 | 蔵本剣道クラブ | 上那賀竹友館 | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|---------|---------|-----|---------|--------|-----|-----|-----|----|
| 徳島刑務所 A | △       | ⑩/⑤ | ④/③     | ⑦/④    | 3   | 12  | 21  | 1  |
| 鳴月会     | △/①     | △   | ④/③     | ②/②    | 1   | 5   | 8   | 3  |
| 蔵本剣道クラブ | △/①     | △/② | △       | ⑤/③    | 1   | 5   | 8   | 3  |
| 上那賀竹友館  | △/①     | ②/② | ③/②     | △      | 1   | 5   | 11  | 2  |

| C       | 丹生谷支部 | 美馬東支部 A | 徳島至誠館 B | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|---------|-------|---------|---------|-----|-----|-----|----|
| 丹生谷支部   | △     | ⑤/③     | ①/①     | 1   | 4   | 6   | 3  |
| 美馬東支部 A | △/②   | △       | ⑤/②     | 1   | 4   | 9   | 2  |
| 徳島至誠館 B | ⑤/③   | ③/②     | △       | 1   | 5   | 8   | 1  |

| E       | 麻植支部 | 阿南支部加茂谷 | 板野西支部 | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|---------|------|---------|-------|-----|-----|-----|----|
| 麻植支部    | △    | △       | ①/①   |     |     |     |    |
| 阿南支部加茂谷 | △    | △       | ⑤/③   |     |     |     |    |
| 板野西支部   | ⑤/④  | ③/②     | △     |     |     |     |    |

| G       | 阿波支部 A | 美馬東支部 B | 振武館 B | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|---------|--------|---------|-------|-----|-----|-----|----|
| 阿波支部 A  | △      | ⑤/③     | ④/③   | 2   | 6   | 9   | 1  |
| 美馬東支部 B | △/②    | △       | ①/①   | 0   | 2   | 2   | 3  |
| 振武館 B   | △/①    | ④/③     | △     | 1   | 3   | 4   | 2  |

| B        | 徳島錬心館 | 小松島支部(梅) | 海部支部 C | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|----------|-------|----------|--------|-----|-----|-----|----|
| 徳島錬心館    | △     | ⑨/④      | ⑥/③    | 2   | 7   | 15  | 1  |
| 小松島支部(梅) | △/①   | △        | ①/①    | 0   | 1   | 3   | 3  |
| 海部支部 C   | △/①   | ⑩/⑤      | △      | 1   | 6   | 12  | 2  |

| D      | 美馬剣友会 | 徳島支部 A | 海部支部 B | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|--------|-------|--------|--------|-----|-----|-----|----|
| 美馬剣友会  | △     | △      | ①/①    | 0   | 1   | 3   | 3  |
| 徳島支部 A | ⑧/⑤   | △      | ⑨/⑤    | 2   | 10  | 17  | 1  |
| 海部支部 B | ⑦/④   | ③/①    | △      | 1   | 4   | 8   | 2  |

| F      | 阿南支部 A | 岫雲館 | 小松島航空隊 | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|--------|--------|-----|--------|-----|-----|-----|----|
| 阿南支部 A | △      | ⑧/④ | ②/②    | 1   | 6   | 10  | 2  |
| 岫雲館    | △/①    | △   | ①/①    | 0   | 1   | 4   | 3  |
| 小松島航空隊 | ⑤/②    | ⑤/② | △      | 2   | 4   | 8   | 1  |

| H      | 養武館 | 海部支部 D | 阿南支部大野 | 勝者数 | 勝本数 | 勝位数 | 順位 |
|--------|-----|--------|--------|-----|-----|-----|----|
| 養武館    | △   | ⑦/④    | ①/③    | 2   | 7   | 11  | 1  |
| 海部支部 D | △/① | △      | ①/①    | 0   | 0   | 1   | 3  |
| 阿南支部大野 | △/① | ⑦/①    | △      | 1   | 6   | 9   | 2  |

予選リーグ

予選リーグ

| I      | 徳島至誠館A         | 美馬西支部                       | 高松実チーム                      | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|--------|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 徳島至誠館A | △ <sub>1</sub> | ○ <sub>3</sub> <sub>1</sub> | ○ <sub>8</sub> <sub>1</sub> | 2   | 5   | 11  | 1  |
| 美馬西支部  | △ <sub>1</sub> | △ <sub>1</sub>              | △ <sub>1</sub>              | 0   | 2   | 3   | 3  |
| 高松実チーム | △ <sub>1</sub> | ○ <sub>2</sub> <sub>1</sub> | △ <sub>1</sub>              | 1   | 1   | 2   | 2  |

| K     | 振武館A           | 徳島支部B                       | 阿波支部C                       | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|-------|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 振武館A  | △ <sub>0</sub> | ○ <sub>9</sub> <sub>5</sub> | ○ <sub>2</sub> <sub>1</sub> | 2   | 6   | 11  | 1  |
| 徳島支部B | △ <sub>0</sub> | △ <sub>0</sub>              | △ <sub>0</sub>              | 0   | 0   | 0   | 3  |
| 阿波支部C | △ <sub>0</sub> | ○ <sub>6</sub> <sub>1</sub> | △ <sub>0</sub>              | 1   | 4   | 6   | 2  |

| M        | 小松島支部(松)                    | 阿南支部B                       | 加茂名剣道教室                     | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|----------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 小松島支部(松) | △ <sub>3</sub> <sub>1</sub> | ○ <sub>7</sub> <sub>3</sub> | ○ <sub>5</sub> <sub>3</sub> | 2   | 6   | 12  | 1  |
| 阿南支部B    | △ <sub>3</sub> <sub>1</sub> | △ <sub>0</sub>              | ○ <sub>5</sub> <sub>1</sub> | 1   | 5   | 8   | 2  |
| 加茂名剣道教室  | △ <sub>0</sub>              | △ <sub>0</sub>              | △ <sub>0</sub>              | 0   | 0   | 1   | 3  |

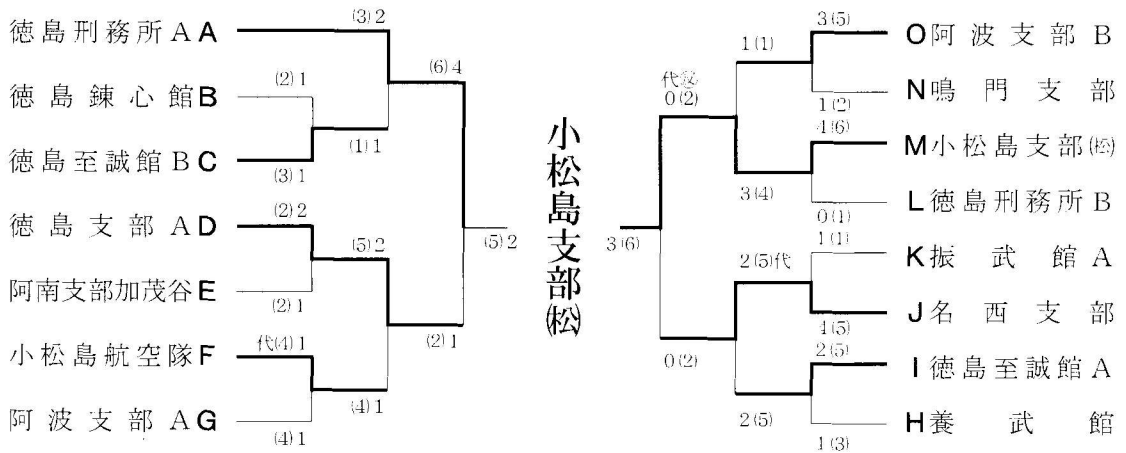
| O       | 阿波支部B                       | 阿南支部那賀川                     | 上八万剣道部                      | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|---------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 阿波支部B   | △ <sub>2</sub> <sub>0</sub> | ○ <sub>6</sub> <sub>2</sub> | ○ <sub>5</sub> <sub>3</sub> | 2   | 5   | 11  | 1  |
| 阿南支部那賀川 | △ <sub>2</sub> <sub>0</sub> | △ <sub>0</sub>              | ○ <sub>8</sub> <sub>5</sub> | 1   | 5   | 10  | 2  |
| 上八万剣道部  | △ <sub>0</sub>              | △ <sub>0</sub>              | △ <sub>0</sub>              | 0   | 0   | 1   | 3  |

| J        | 名西支部                        | 板野東支部                       | 小松島支部(竹)                    | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|----------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 名西支部     | △ <sub>2</sub>              | ○ <sub>4</sub> <sub>3</sub> | ○ <sub>4</sub> <sub>3</sub> | 1   | 5   | 8   | 1  |
| 板野東支部    | ○ <sub>5</sub> <sub>2</sub> | △ <sub>1</sub>              | △ <sub>1</sub>              | 1   | 3   | 8   | 2  |
| 小松島支部(竹) | △ <sub>1</sub>              | ○ <sub>5</sub> <sub>2</sub> | △ <sub>1</sub>              | 1   | 3   | 8   | 2  |

| L      | 海部支部A                       | 三好(風)                       | 徳島刑務所B         | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|--------|-----------------------------|-----------------------------|----------------|-----|-----|-----|----|
| 海部支部A  | △ <sub>2</sub>              | △ <sub>1</sub>              | △ <sub>1</sub> | 0   | 3   | 5   | 3  |
| 三好(風)  | ○ <sub>3</sub> <sub>2</sub> | △ <sub>1</sub>              | △ <sub>1</sub> | 1   | 3   | 4   | 2  |
| 徳島刑務所B | ○ <sub>2</sub> <sub>1</sub> | ○ <sub>6</sub> <sub>3</sub> | △ <sub>1</sub> | 2   | 4   | 8   | 1  |

| N          | 鳴門支部           | 木頭錬心館                       | 徳大医学部剣道部OB                  | 勝者数 | 勝者数 | 勝本数 | 順位 |
|------------|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 鳴門支部       | △ <sub>2</sub> | ○ <sub>5</sub> <sub>2</sub> | ○ <sub>3</sub> <sub>2</sub> | 2   | 4   | 8   | 1  |
| 木頭錬心館      | △ <sub>2</sub> | △ <sub>0</sub>              | ○ <sub>8</sub> <sub>3</sub> | 1   | 5   | 13  | 2  |
| 徳大医学部剣道部OB | △ <sub>1</sub> | △ <sub>1</sub>              | △ <sub>0</sub>              | 0   | 2   | 6   | 3  |

## 決勝トーナメント



## 準決勝戦

| チーム名    | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 | 得点 |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| 徳島刑務所 A | 前田 | 鳴川 | 北村 | 鈴木 | 中村 | 4  |
| 徳島支部 A  | 岡崎 | 井村 | 生田 | 佐藤 | 忠津 | 1  |

| チーム名     | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 | 得点 |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| 名西支部     | 鑄形 | 白木 | 小川 | 高野 | 大西 | 0  |
| 小松島支部(松) | 笹尾 | 佐藤 | 高木 | 青木 | 藤川 | 0代 |

## 決勝戦

優勝 小松島支部(松)  
 準優勝 徳島刑務所 A  
 第3位 徳島支部 A  
 第3位 名西支部

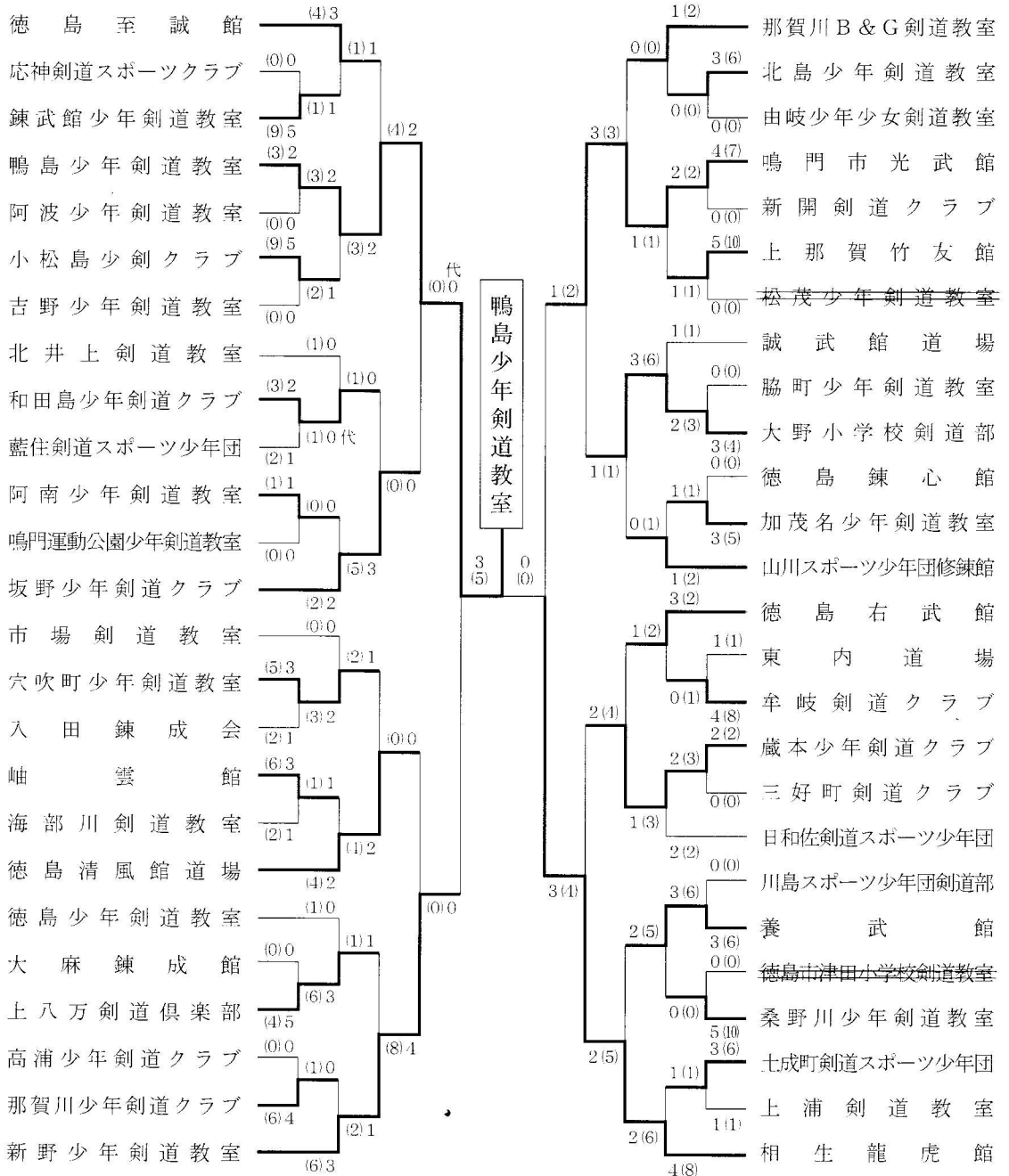
| チーム名     | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 | 得点 |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| 徳島刑務所 A  | 前田 | 鳴川 | 北村 | 鈴木 | 中村 | 2  |
| 小松島支部(松) | 笹尾 | 佐藤 | 高木 | 青木 | 藤川 | 3  |

# 第13回 徳島県小・中学校剣道強化練成大会

少年の部 (51 チーム)

日時 平成15年1月25日(土)午前9時  
場所 鳴門県民体育館

優勝 鴨島少年剣道教室  
準優勝 相生龍虎館  
第3位 新野少年剣道教室  
第3位 鳴門市光武館







### 準決勝戦（少年の部）

| チーム名     | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将 | 大将 | 代表 |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| 鴨島少年剣道教室 | 河村 | 片山 | 山口 | 鳩成 | 岩雲 | 岩雲 |
| 新野少年剣道教室 | 木村 | 西川 | 川又 | 木馬 | 森崎 | 木村 |
|          | △  | ▲  | △  | △  | △  | ⊗  |

| チーム名   | 先鋒 | 次鋒       | 中堅       | 副将       | 大将       |          |
|--------|----|----------|----------|----------|----------|----------|
| 相生龍虎館  | 前川 | 藤本       | 福永       | 前川       | 西田       |          |
| 鳴門市光武館 | 平野 | 小倉       | 川邊       | 樽井       | 藤本       |          |
|        | △  | ⊗<br>一本勝 | ⊗<br>一本勝 | ⊗<br>一本勝 | ⊗<br>一本勝 | ⊗<br>4/3 |
|        |    |          | ⊗        | ⊗<br>一本勝 | △<br>2/1 |          |

### 準決勝戦（中学女子）

| チーム名   | 先鋒 | 次鋒 | 中堅 | 副将       | 大将 |          |
|--------|----|----|----|----------|----|----------|
| 那賀川中学校 | 河田 | 横山 | 中野 | 星野       | 長池 |          |
| 坂野中学校  | 田村 | 松本 | 山崎 | 岩本       | 鶴岡 |          |
|        | △  | △  | △  | ⊗<br>一本勝 | △  | ⊗<br>1/1 |
|        |    |    |    |          |    | △<br>0/0 |

| チーム名    | 先鋒     | 次鋒     | 中堅     | 副将       | 大将 |          |
|---------|--------|--------|--------|----------|----|----------|
| 石井中学校   | 新居     | 神戸     | 白木     | 中坂       | 隅田 |          |
| 阿南第一中学校 | 河井     | 三木     | 笠井     | 平石       | 曾根 |          |
|         | ⊗<br>⊗ | ⊗<br>⊗ | ⊗<br>⊗ | ⊗<br>一本勝 | △  | ⊗<br>7/4 |
|         |        |        |        |          |    | △<br>0/0 |

### 準決勝戦（中学男子）

| チーム名    | 先鋒     | 次鋒 | 中堅       | 副将       | 大将 |          |
|---------|--------|----|----------|----------|----|----------|
| 徳島文理中学校 | 澤田     | 松本 | 西岡       | 片山       | 玉田 |          |
| 那賀川中学校  | 菱本     | 今川 | 谷口       | 大磯       | 市瀬 |          |
|         | ⊗<br>⊗ | △  | ⊗<br>一本勝 | ⊗<br>一本勝 | ▲  | ⊗<br>2/2 |
|         |        |    |          |          |    | △<br>2/1 |

| チーム名  | 先鋒 | 次鋒     | 中堅 | 副将     | 大将 |          |
|-------|----|--------|----|--------|----|----------|
| 阿南中学校 | 横手 | 泰地     | 四宮 | 大津     | 永浦 |          |
| 相生中学校 | 元木 | 岸      | 福永 | 西村     | 松本 |          |
|       | ⊗  | ⊗<br>⊗ | ⊗  | ⊗<br>⊗ | △  | △<br>3/1 |
|       |    |        | ⊗  | ⊗<br>⊗ |    | ⊗<br>4/2 |

## 決勝戦（少年の部）

| チーム名         | 先鋒 | 次鋒     | 中堅       | 副将 | 大将     |             |
|--------------|----|--------|----------|----|--------|-------------|
| 鴨島少年<br>剣道教室 | 河村 | 片山     | 山口       | 鳩成 | 岩雲     |             |
|              | X  | ②<br>③ | ②<br>一本勝 | X  | ③<br>④ | ⑤<br>③      |
| 相生龍虎館        | X  |        |          | X  |        | △<br>0<br>0 |
|              | 前川 | 藤本     | 福永       | 前川 | 西田     |             |

## 決勝戦（中学女子）

| チーム名   | 先鋒 | 次鋒 | 中堅     | 副将     | 大将       |             |
|--------|----|----|--------|--------|----------|-------------|
| 石井中学校  | 新居 | 神戸 | 白木     | 中坂     | 隅田       |             |
|        | X  | X  |        |        | ②<br>一本勝 | △<br>1<br>1 |
| 那賀川中学校 | X  | X  | ③<br>④ | ③<br>④ |          | ④<br>2      |
|        | 河田 | 横山 | 中野     | 中野加    | 長地       |             |

## 決勝戦（中学男子）

| チーム名        | 先鋒     | 次鋒 | 中堅       | 副将       | 大将      |             |
|-------------|--------|----|----------|----------|---------|-------------|
| 徳島文理<br>中学校 | 土屋     | 松本 | 西岡       | 片山       | 玉田      |             |
|             | X      | X  | ②<br>一本勝 |          |         | △<br>1<br>1 |
| 相生中学校       | ②<br>③ | X  |          | ①<br>一本勝 | ③<br>④▲ | ⑤<br>3      |
|             | 元木     | 岸  | 福永       | 西村       | 松本      |             |

徳島新聞に見る戦いの跡

徳島至誠館制す

5・6年の部は鎌田君



熱戦を展開する選手たち＝徳門県民体育館

3月6日

◆第4回四国選抜寄西杯  
杯少年剣道大会(12月24日・徳門県民体育館)  
四国4県から小学生782人が出場。小学校

【個人】小学校1・2

【団体】小学校在徳島  
至誠館(2)河本(1)少  
年団(香川)③徳門市光  
武館(八)鶴島少年剣道  
会(至誠館)②三毛光司  
(香川)③山本敬太(光

徳島至誠館が頂点

6年生の部 岡田君(坂野)制覇



◆大野(学校剣道部)立30周年記念第26回大野剣道大会(2月17日・大野小学校体育館)

15道場から小学生が59人が参加。学年ごとに争われた個人戦と団体戦が行われ、団体戦では徳島至誠館が優勝、大野小学校剣道部が準優勝に輝

【個人】1年生(香川)岡(香川)②湯浅彰義(至誠館)③福岡博平(香川)④野上剣道教室(徳門)⑤岡田君(坂野)⑥岡田君(坂野)⑦岡田君(坂野)⑧岡田君(坂野)⑨岡田君(坂野)⑩岡田君(坂野)

加茂名少年A制す

低学年 徳島清風館道場

◆第7回徳島県選手権(個人)小学校1・2年生(山本)②徳島清風館道場(香川)③加茂名少年(香川)④加茂名少年(香川)⑤加茂名少年(香川)⑥加茂名少年(香川)⑦加茂名少年(香川)⑧加茂名少年(香川)⑨加茂名少年(香川)⑩加茂名少年(香川)

3月13日





# 思い出の一枚

富岡東高校の剣道部を率いて四年目の夏。今思えば、あの年がその後の快進撃の始まりだった。

徳島県教委 体育  
保健課指導 主事

河田 清良さん (47)

那賀川町上福井



一九八七  
（昭和六十  
二）年、私  
が監督をし  
ていた富岡東高の女子剣道  
部は、徳島県勢として十八  
年ぶりに四国高校選手権で  
優勝。八月の北海道インタ  
ーハイで全国ベスト8に進  
出した。この写真はインタ

## 強豪破り全国8強入り

「ハイの試合後に会場の外で撮影した一枚。」

私にとっても大いに自信になった試合だった。八強入りがかかった決勝トーナメント一回戦で、強豪の埼玉栄高校と対戦した。相手の応援が圧倒的に多い中で、私はとてももかなわないという気持ちでいた。選手たちが人語絶し、3-1で埼玉栄高を破ったときにはびっくりした。

あのころの私は、まだ若かった。全国出場をかけた県高校総体の試合前日の宿舎では、負ける夢を見て夜中に飛び起きることもあった。選手とともに苦勞もした。県外遠征で強豪校に練習試合を頼みに行ったりと、道に迷ってしまい、炎天下に選手たちと防具を抱えて相手校を探し回ったこともあった。

そんな私とともに選手たちにはよく頑張ってくれた。富岡東高での十八年間の監督生活で、女子は七八年か



北海道インターハイで8強入りした富岡東高校女子剣道部。中央が監督の河田さん＝1987年8月、北海道砂川市総合体育館前

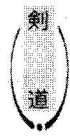
ら四国高校選手権で十二年連続して決勝に進出し、うち十回優勝した。十六度出場したインターハイでは三位入賞三度、八強入り五度とする情熱は変わらない。こころから機会をつくり、眼の選手とともに汗を流し、賞三度、八強入り一度。あていきたいと思っている。

5月22日

中学校

# 女子是那賀川制覇

## 男子 相生、決勝で文理下す



◆第27回山家旗争奪  
下道大会(4月28日、  
森牧町B&C体育センター)

【中学校女子】1回戦  
鳴門3-0阿南、上八  
与4-0日和佐・海康、  
2回戦 阿南4-0大  
松風、鳴門1-0代表  
勝ち、1市場、坂野2-  
1余岐、石井4-1鳴島  
1、相生5-0勝浦、阿  
波1(本数勝ち)1新  
野、城東3-0加茂名、  
那賀川3-0上八▽3  
回戦 阿南4-0鳴門  
1、石井1-0本数勝  
ち、1阿波、那賀川2-  
1阿南▽3位決勝戦 阿  
南1(本数勝ち)1相  
生▽決勝 那賀川1-0  
相生

# 相生龍虎館がV(団体戦)

## 91人参加、日ごろの技競う

◆第40回相生谷地方防  
犯少年剣道大会(1日、  
相生龍虎館)  
個人戦で技を競った。団体戦で技を競った。相生龍虎館が優勝した。

【中学校男子】1回戦  
相生4-0鳴門、城  
東3-1海陽、鷲敷4-  
0勝浦、市場2-0本数勝  
ち、2小松島、阿波2-  
1徳島、坂野1-0加茂



5月29日

【高校】男子決勝ト1  
ナメント1回戦 富岡西  
A4-0鳴門1、那賀川2  
A1-徳島市立A、阿南上  
学5-4相生西村元司  
A5-1川島B▽準決勝  
富岡西A4-0那賀川  
島A4-0阿南上A▽3  
位決定戦 阿南上A4-1  
2那賀川A 川島A4-  
12富岡西A  
▽女子決勝ト1ク①富  
岡東A②川島③城東  
④個人賞(5人以上勝  
ち技者)5人坂野市三  
木良平、富岡東1谷藤  
野、相生龍虎館、那賀川  
、川島中、徳島西  
人、相生龍、那賀川太  
▽中学生の部優勝相生  
中▽男子優勝、西村元  
一、森田、死田浩、  
新田浩

【団体】小学生の部優  
勝相生龍虎館、那賀川  
、相生中、徳島西  
人、相生龍、那賀川太  
▽中学生の部優勝相生  
中▽男子優勝、西村元  
一、森田、死田浩、  
新田浩

個人・団体戦で技を競  
った。相生谷地方防犯少  
年剣道大会1日、相生龍  
虎館。

# 富東、貫録の11連覇

## 男子14年ぶりに川島

### 剣道

【男子】団体準決勝  
富西4-0東1  
川島1-代表勝る1回生  
▽3位決定戦  
東1-2代表勝る2回生  
▽決勝  
川島1-1富西  
【本教勝者】  
富西 大石○  
東1 ヌメ 佐田  
林 ヌメ 的場  
尾田 西崎  
田中 原



富東の男子団体で川島が14年ぶりに優勝。喜びを手にする選手たち。

### OB監督の目に涙

富東の男子団体で川島が14年ぶりに優勝。喜びを手にする選手たち。

6月4日

0富西 川島2-1徳田  
▽3位決定戦 富西2-1徳田  
▽決勝 富東4-0川島  
○小西 ヌメ 奥森  
○橋本 ヌメ 奥森  
○佐藤 ヌメ 林  
▽個人決勝リーグ準優勝(富東) 3勝2敗小西  
▽個人決勝リーグ準優勝(富東) 2勝1敗  
▽個人決勝リーグ準優勝(富東) 1勝2敗小西  
▽個人決勝リーグ準優勝(富東) 3敗

富東の選手たち。監督が涙をこぼしていた。「全員が自分の仕事をきっちり果たしてくれた。インターハイ出場は、自分たちにとり来」。8連覇を狙う富西との決勝で、大きかったのが中堅・林主将(写真)の2本勝ち。「みんなの家持が後押ししてくれた」と全員勝利を強調していた。全国ベスト4目指す。

富東の選手たち。監督が涙をこぼしていた。「全員が自分の仕事をきっちり果たしてくれた。インターハイ出場は、自分たちにとり来」。8連覇を狙う富西との決勝で、大きかったのが中堅・林主将(写真)の2本勝ち。「みんなの家持が後押ししてくれた」と全員勝利を強調していた。全国ベスト4目指す。



富東の選手たち。監督が涙をこぼしていた。「全員が自分の仕事をきっちり果たしてくれた。インターハイ出場は、自分たちにとり来」。8連覇を狙う富西との決勝で、大きかったのが中堅・林主将(写真)の2本勝ち。「みんなの家持が後押ししてくれた」と全員勝利を強調していた。全国ベスト4目指す。

富東の選手たち。監督が涙をこぼしていた。「全員が自分の仕事をきっちり果たしてくれた。インターハイ出場は、自分たちにとり来」。8連覇を狙う富西との決勝で、大きかったのが中堅・林主将(写真)の2本勝ち。「みんなの家持が後押ししてくれた」と全員勝利を強調していた。全国ベスト4目指す。

剣道

# 牟岐剣道夕、団体優勝

個人小6 申川さん（海南）頂点

防犯由岐大会

◆平成14年度海部郡防犯少年剣道錬成由岐大会（5月19日・由岐町B&G海洋センター）小学生48人が出場し、団体と個人で競った。団

体は牟岐剣道クラブが優勝。個人小学6年生の部は申川綾那さん（海南小）が頂点に立った。

【個人】小学2年以下  
①多田英斗（由岐）②中山綾太（同）③小畠裕司（同）▽同3年①宮本一生（海南）②杉谷雪（日和佐）③篠原誠（同）▽同4年①皆谷翔太（牟岐）②遊亀聖悟（日和佐）③富浦育（同）▽同5年①津田利明（牟岐）②柳瀬美希（同）③福田あい子（同）▽同6年①申川綾那（海南）②杉谷玄矢（日和佐）③向原神悟（同）  
【団体】①牟岐剣道クラブ②海部川剣道教室③日和佐剣道スポーツ少年



激しく打ち合う少年剣士たち＝由岐町B&G海洋センター

6月5日





# 鴨島教室、初の優勝

## 剣道

◆第2回堀金旗争奪少年剣道大会  
 小松島市立体育館

6月26日

県内の21チームから309人が参加。個人・団体両部門ともトーナメント方式で熱戦を繰り広げた。団体の部では鴨島剣道教室が初優勝した。個人



少年剣士309人が個人・団体戦で熱戦を繰り広げた小松島少年剣道クラブ創立28周年記念・第2回堀金旗争奪少年剣道大会小松島市立体育館

するなど、地元勢の健闘が光った。

【団体】①鴨島剣道教室②鴨門市光武館③徳島至誠館、十八弓剣道倶楽部

【個人】2年の部①芦田佳郁(那賀川)②菱本聖也(那賀川)③松尾歩実(小松島)、山本悠(阿南)▽3年の部①岡内拓末(小松島)②費上陽介(錬武館)③谷口奨真(B&G)、西柚衣(鴨島)▽4年の部①岩佐将希(錬武館)②安部晃太郎(大野)③松本好史(至誠館)、松田春樹(阿南)▽5年の部①曾我部航(上八万)②小倉歩(鴨島)③河村俊平(鴨島)、櫻木舞(坂野)▽6年の部①櫻木鉄也(坂野)②平井悠基(坂野)③原田学人(上八万)、西川啓介(新野)

# 尾花君が優勝(小学生)

## 中学生の部は須見君

### 剣道

◆第15回市場警察署管内防犯剣道錬成会。6月11日・林小学校体育館は

た。成績優秀者7人(小学生4人、中学生3人)は、7月26日に鳴門市ある徳島県防犯少年柔道大会に市場警察署代表子1チームとして参加する。

小学生の部にも、6年生22人、中学生の部に1、2年生9人が参加。小学生の部は尾花英雄君(阿波剣道教室)、中学生の部は須見泰生君(成中)がそれぞれ優勝

【小学生の部】①尾花英雄(阿波剣道教室) ②酒巻潤那(同) ③酒巻依帆(同) ④竹澤涼(同) 【中学生の部】①須見泰生(成中) ②登井由



好試合が続いた市場警察署管内防犯剣道錬成会(市場町武道館)

管内成錬場防犯署 衣(市場中) 小西克徳(阿波中) ◆上八万剣道倶楽部創立20周年記念剣道大会 5月12日・上八万小学校体育館

小学1・2年の部①新原航平(鳴島少年剣道教室) ②久保孝緒(徳島少年剣道教室) ③久保公緒(同) ④福井周平(鳴門市光武館) ⑤同3年の部①岡内拓未(小松島少年剣道クラブ) ②森康二(徳島少年剣道教室) ③長谷川愛美(小松島少年剣道クラブ) ④秋田卓哉(徳島少年剣道教室) ⑤

同4年の部①木下裕貴(入田錬成会) ②大久保有真(養武館) ③東川宏樹(徳島少年剣道教室) ④板東武志(入田錬成会) ⑤同5年の部①鈴木智也(徳島清風館) ②曾我部航(上八万剣道倶楽部) ③藤井公(徳島少年剣道教室) ④太田桃子(上八万剣道倶楽部) ⑤同6年の部①庄田昌康(養武館) ②高橋大介(同) ③坂東遼(上八万剣道倶楽部) ④大塚亮太(同) ⑤中学男子の部①行井孝二(小松島少年剣道クラブ) ②坂東潤(入田錬成会) ③吉藤雅規(同) ④山本哲也(蔵木少年剣道クラブ) ⑤同女子の部①藤野千尋(山川スポーツ少年団) ②清水桃代(入田錬成会) ③松本朝美(上八万剣道倶楽部) ④米倉奈美(養武館)

7月10日

# 小学6年生で 黒川さん1位

中学生団体 男子は池田第一A

◆第4回川崎少年剣道大会(6月30日・池田町川崎小学校体育館)  
三好郡内の小学生49人、中学生70人が参加。小学生は各学年ごとに個人リーグ戦、中学生はトナメント方式で個人、団体戦を行った。また小学5、6年生と中学1、2年生の上位入賞者で県防犯少年柔道、剣道大会(7月26日・鳴門武道館)の代表決定戦を行い、小学生は上位3人が池田署管内代表チームとして出場する。

【小学生】▽2年①井添竜志(三好)②田岡佐



小中学生119人が熱戦を繰り広げた川崎少年剣道大会—川崎小学校

智世(剣正童)③酒井柊人(同)④黒下千賀子(佐馬地)▽3年①安宅凌太(三好)②田岡壽明(剣童)②木藤洋介(三好)

③山川賢(山城)松下茜(剣正童)▽5年①萩原稔司(三好)②喜多あゆみ(川崎)③藤本雅代(同)藤岡奈津美(三好)▽6年①黒川ひとみ(川崎)②横川由佳(三好)③山下夢(佐馬地)田岡勢一朗(剣正童)

【中学生】個人▽男子1年①峰本直季(池田第一)②山川宰(山城)③加藤秀章(池田第一)山部俊英(同)▽同2年①喜多一哉(同)②富岡丈周(山城)③平山大(同)米倉裕作(池田第一)▽女子1、2年①脇並里沙(山城)②崎川麗池田第一)③黒下沙由里(同)井

澤隼(池田)▽男子団体①池田第一A②山城A▽女子団体①池田第一②池田第一③池田第一

【池田署管内代表】▽小学生 黒川ひとみ、山下夢、横川由佳、田岡勢一朗▽中学生 喜多一哉、富岡丈周、米倉裕作

## 小学生の部

### 柳谷君制す

中学生の部は塩田君

◆第14回麻植郡防犯少年剣道大会(6月22日・山川中学校武道館)

部内の中学生22人と小学5、6年生15人がトナメント方式で個人戦を行った。小学生の部は柳谷俊樹選手(山瀬6年)が優勝。中学生の部はトナメントで勝ち上がった選手3人でリーグ戦を行い、塩田伯大選手(鴨島2年)が優勝した。3位までの入賞者は、7月26日に鳴門武道館で開催される第15回徳高県防犯少年柔道剣道大会に郡代表で出場する。

【小学生の部】①柳谷俊樹②小倉歩(飯尾敷地5年)③阿部慎平(牛島5年) 河村俊平(鴨島5年)

【中学生の部】①塩田伯大②原田光晴(山川1年)③岩雲大樹(鴨島2年)

7月17日

# 阿南

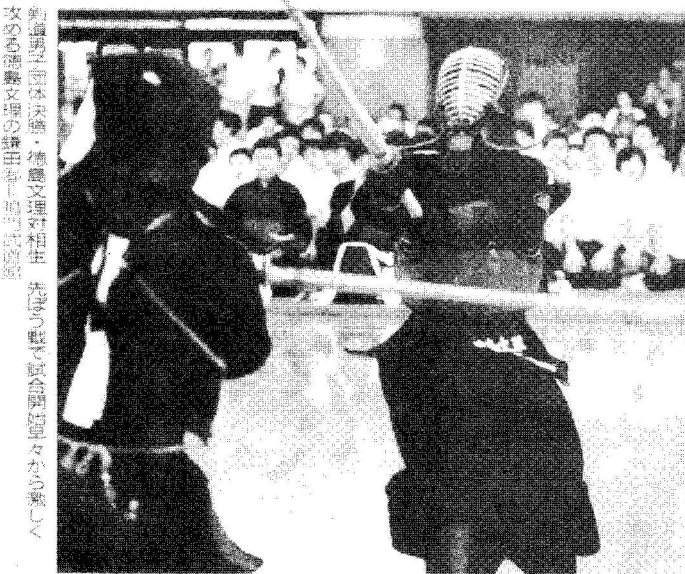
## 女子3年連続

# 優勝

# 徳島文理

## 男子2年連続

**剣道 阿南**  
 阿南地区の剣道大会で、徳島文理が優勝した。女子部は3年連続、男子部は2年連続の優勝を挙げた。大会は、阿南地区の各中学校、高等学校、徳島文理大学が参加した。徳島文理は、男子部で2年連続、女子部で3年連続の優勝を挙げた。大会は、阿南地区の各中学校、高等学校、徳島文理大学が参加した。徳島文理は、男子部で2年連続、女子部で3年連続の優勝を挙げた。



徳島文理が優勝、徳島文理と相生、先づの戦いで試合開始から激しく交わる徳島文理の選手と相生の選手。

阿南地区の剣道大会で、徳島文理が優勝した。女子部は3年連続、男子部は2年連続の優勝を挙げた。大会は、阿南地区の各中学校、高等学校、徳島文理大学が参加した。徳島文理は、男子部で2年連続、女子部で3年連続の優勝を挙げた。



阿南が優勝した。

阿南地区の剣道大会で、徳島文理が優勝した。女子部は3年連続、男子部は2年連続の優勝を挙げた。大会は、阿南地区の各中学校、高等学校、徳島文理大学が参加した。徳島文理は、男子部で2年連続、女子部で3年連続の優勝を挙げた。

## 7月22日

# 全種別で 出場権

国体国体フロンテース選抜大会で、徳島文理が優勝した。女子部は3年連続、男子部は2年連続の優勝を挙げた。大会は、阿南地区の各中学校、高等学校、徳島文理大学が参加した。徳島文理は、男子部で2年連続、女子部で3年連続の優勝を挙げた。









第37回全日本少年武道練成大会で優秀賞を獲得した鴨島少年剣道教室の選手ら＝日本武道館

# 鴨島少年が優秀賞

## 全国大会2度目の快挙

ブロック別

剣道

◆第37回全日本少年武道練成大会（7月27日・日本武道館）

全国の少年剣道クラブ449チームが8ブロックに分かれ、ブロックごとの優勝（優秀賞）を競った。このうち第一ブロック（57チーム）に鴨島少年剣道教室（中山健人、片山由貴、山口拓也、鳩成亮介、岩雲祥吾、桑原大樹）が出場。熱戦を繰り広げた結果、同ブロックのトーナメントを制した。同教室の優秀賞は2年ぶり2回

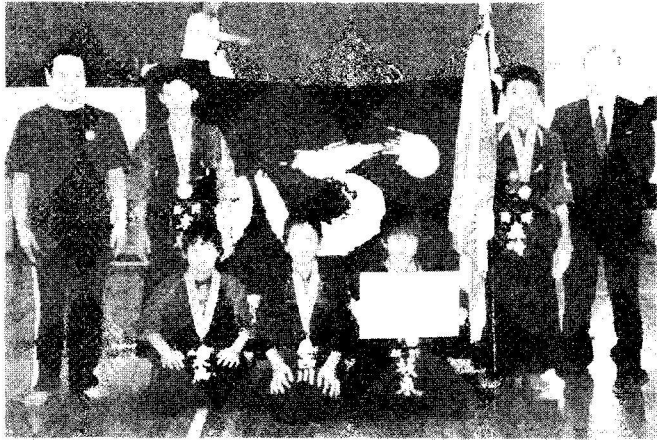
目。  
試合は、小学生5、6年生の5人1組による団体戦。1、2回戦は基本判定（切り返し・打ち込みけいこ）と1本勝負の合計審判数、3回戦以降は3本勝負で競った。鴨島少年剣道教室は、昨年も同大会で優秀賞に次ぐ優良賞を獲得している。

8月21日

# 新野少年 念願の頂点

## 決勝で上八万を下す

◆第33回徳島県少年剣道練習大会（7月28日、鳴門武道館）  
 団体戦に臨内から初参戦が参加。阿南市の新野少年剣道教室が決勝で徳島市の上八万剣道倶楽部を破り、初優勝した。二位は本松少年剣道クラブと入団錬成会だ。



初優勝を飾った新野少年剣道教室の選手たち（鳴門武道館）

新野少年剣道教室は、今年が創立20周年。念願の優勝に馬見和秀監督は「選手全員が切実に練習してきたことが勝因だ」と話している。新野の出場選手は次の皆さん。  
 監督・本村直哉、副監督・坂東洋樹、中堅・本馬正祐、副将・西田晋介、大将・森崎勝人。

8月21日

# よさこい国体

## 秋季大会

### 剣道

【少年男子】一回戦  
徳島 3-1 富山  
神前 3-1 笠原  
吹上 2-1 板倉  
林 2-1 萩野  
小川 2-1 瀬川  
田中 1-1 中島

【少年女子】一回戦  
神全川 4-1 徳島  
西 3-1 瀬川  
杉浦 3-1 小西  
山 3-1 橋本  
稲葉 2-1 佐藤  
奥村 2-1 中野

【男子】一回戦  
茨城 4-1 徳島  
栃木 2-1 神前  
岩手 3-1 萩原  
山梨 3-1 板倉  
長野 3-1 萩野  
新潟 2-1 瀬川  
群馬 2-1 中島

### 剣道

【成年女子】一回戦  
東 2-0 徳島  
群馬 3-1 坪井  
松本 2-1 長瀬  
滝沢 2-1 竹内

【成年男子】一回戦  
高知 4-1 徳島  
高知は初優勝

【少年男子】決勝  
高知 3-2 福山  
高知は初優勝  
【成年男子】決勝  
高知 4-1 徳島  
高知は初優勝

高知がアベックV  
高知は初優勝  
高知は初優勝  
高知は初優勝  
高知は初優勝

### 剣道

【成年男子】一回戦  
岩手 3-1 徳島  
山梨 2-1 敦賀  
富山 2-1 富田  
佐藤 2-1 平野  
菊池 2-1 西谷  
小島 2-1 中尾

【成年女子】一回戦  
高知 2-1 熊本  
高知は初優勝

### 剣道

【成年男子】決勝  
千葉 3-2 大阪  
千葉は初優勝

【成年女子】一回戦  
千葉 2-0 徳島  
千葉は初優勝

9月11日

剣道

◆第12回美馬東部防犯少年剣道大会(7月7日)

・穴吹中学校体育館

【小学4年の部】

①村上遙香(穴吹町少年剣道教室) ②岡崎楓(同)

【同5・6年の部】

①大垣俊喜(脇町少年剣道教室) ②峯田博生(穴吹町少年剣道教室) ③宮本巧(脇町少年剣道教室) ④大森駿斗(同)

【中学1・2年男子の部】

①林義真(三島) ②奥村隼(穴吹) ③内藤隆仁(三島) ④中山圭一(穴吹)

【同女子の部】

①芝生麻由(穴吹) ②宮本梓(脇町少年剣道教室)

徳島県と高知県の小学校から計38チーム298人が出場し、団体と個人戦をトーナメント戦で腕を競った。中学校の団体戦は相生中が優勝。個人戦の小学校6年生の部は平井悠基くん(坂野少年剣道クラブ)がトップになった。

剣道

中学団体は相生が制す

◆第30回阿土少年剣道錬成大会(8月17日・木頭村民体育館)

徳島県と高知県の小学校から計38チーム298人が出場し、団体と個人戦をトーナメント戦で腕を競った。中学校の団体戦は相生中が優勝。個人戦の小学校6年生の部は平井悠基くん(坂野少年剣道クラブ)がトップになった。

【団体】小学生の部①高知至誠館②高知修心館③木頭錬心館、大柘明親館▽中学生の部①相生中②阿南第一中③阿南中、鷺敷中

【個人】小学1、2年の部①八松史晃(高知修心館)②宮本英司(坂野少年剣道クラブ)③濱口愛土(高知修心館)、山本悠(阿南少年剣道教室)▽同3年の部①澤田菜摘(那賀川B&G剣道教室)②谷口奨真(同)

③小松鎮昌(野市少年剣道クラブ)、松村拓矢(坂野少年剣道クラブ)▽同4年の部①土井翔吾(錬武館少年剣道教室)②森田隆(高知至誠館)③上田勇輝(坂野少年剣道クラブ)、岩原紗也香(徳島至誠館)▽同5年の部①櫻木舞(坂野少年剣道クラブ)②近藤陽香(大野小学校剣道部)③宮崎健裕(野市少年剣道クラブ)、藤本稜(相生龍虎館)▽同6年の部①平井悠基(坂野少年剣道クラブ)②櫻木鉄也(同)③北川智大(山田少年剣道教室)、井上貴仁(那賀川B&G剣道教室)▽中学1年生の部①西田義玄(相生中)②久田有輔(新野中)③藤倉純(阿南中)、島田晃郎(阿南第一中)▽同2年の部①福永悦子(相生中)②西村太一(同)③岡野飛斗史(徳島錬心館)、泰地健人(阿南中)

10月2日

剣道通じ独親善に一役



鳴門市との親善関係が縁で、ドイツで剣道交流をした徳島大学四年の河村知志さん(三島市徳島市徳島町三、写真中央)と久保いつかささん(同市末広一、同左)北部のエデミツセン市副

合わせをした四段の河村さんは「きれいなフォームでしっかり打っていた。でも勝たせてもらった」とにっこり。現地では日本のアニメの影響で剣道を始める小中学生が多く、各道場に十人前後が通っている。その中の一人で、剣道が嫌いになりかけていた少女が二人のけいこを見て「剣道が好きになった」と言ってくれたことに感激したという。人は鳴門市と交流

刃の道場ではいかに参加して子供から大人まで剣道への情熱を感じた一と話す。交流のホストを務めたノーベルト・マリツイトさん(写真中央)は、同会には剣道歴二十年で、義足ながら三段の腕前。手

があるバイエ市の市長に井井校長市長の親善を手渡すなど、親善大使の役目も果たした。久保さんは、来年予定されている鳴門市の第九里帰りの公演を知り、「ぜひ参加したい」と目を輝かせた。

10月12日





団体戦

低学年  
高学年  
鳴島少年V

中学校 鳴門市光武館制す

剣道

◆鴨島少年剣道教室創立30周年記念杯争奪県内少年鴨島大会。鴨島県民体育館。

団体、個人で、日ごろの練習の成果を競い合った。団体の低学年と高学年の部で鴨島少年剣道教室が優勝、中学校の部は鳴門市光武館が制した。個人は6年の部で二本堂二選手（市場剣道教室）が優勝した。

【団体戦】低学年の部  
①鴨島少年剣道教室②小松島少剣クラブ③加茂名少年剣道教室、高学年

①鴨島少年剣道教室②鳴門剣道教室③富田初門市光武館④松島少剣⑤徳島春風館道場⑥長夕ラフ▽中学校 ①鳴門②谷川愛美③小松島少剣④市光武館⑤八万剣道倶楽部▽4年の部①笠井衆部②石井中学校

【個人戦】1年の部①福居剛平（鳴門市光武館）②栗野安香（小松島少剣クラブ）③妹尾健（山川スポーツ少年団）④香川敏幸（穴吹町）⑤2年の部①少年剣道教室②2年の部②酒巻余暉（阿波少年剣道教室）③櫻井秀武館④長尾夏子（山川スポーツ少年団）

修錬館⑤藤本量太（徳島春風館道場）▽3年の部①岡田寛孝（徳島清風館）②上藤洋平（阿波少年剣道教室）③ナミヤリ



団体高学年の部で優勝した鴨島少年剣道教室

①二本堂二選手（市場剣道教室）②阿波少年剣道教室③和田綾成館

◆第9回徳島県泉スボ、貞里会（川崎少剣ク）②大岩千紘（川崎少剣ク）③大西直樹（三好淳志）

【小学校】1年①前川館②2年①井添麻吉②池田正童③前川大和（川崎少剣ク）▽3年①池田正童②池田大和③前川大和（川崎少剣ク）▽3年①池田正童②池田大和③前川大和（川崎少剣ク）▽3年①池田正童②池田大和③前川大和（川崎少剣ク）

【中学校】男子①好淳志館②池田正童③好淳志館④池田正童⑤池田正童⑥池田正童⑦池田正童⑧池田正童⑨池田正童⑩池田正童⑪池田正童⑫池田正童⑬池田正童⑭池田正童⑮池田正童⑯池田正童⑰池田正童⑱池田正童⑲池田正童⑳池田正童㉑池田正童㉒池田正童㉓池田正童㉔池田正童㉕池田正童㉖池田正童㉗池田正童㉘池田正童㉙池田正童㉚池田正童㉛池田正童㉜池田正童㉝池田正童㉞池田正童㉟池田正童㊱池田正童㊲池田正童㊳池田正童㊴池田正童㊵池田正童㊶池田正童㊷池田正童㊸池田正童㊹池田正童㊺池田正童㊻池田正童㊼池田正童㊽池田正童㊾池田正童㊿池田正童

【高校】男子①松尾館②池田正童③池田正童④池田正童⑤池田正童⑥池田正童⑦池田正童⑧池田正童⑨池田正童⑩池田正童⑪池田正童⑫池田正童⑬池田正童⑭池田正童⑮池田正童⑯池田正童⑰池田正童⑱池田正童⑲池田正童⑳池田正童㉑池田正童㉒池田正童㉓池田正童㉔池田正童㉕池田正童㉖池田正童㉗池田正童㉘池田正童㉙池田正童㉚池田正童㉛池田正童㉜池田正童㉝池田正童㉞池田正童㉟池田正童㊱池田正童㊲池田正童㊳池田正童㊴池田正童㊵池田正童㊶池田正童㊷池田正童㊸池田正童㊹池田正童㊺池田正童㊻池田正童㊼池田正童㊽池田正童㊾池田正童㊿池田正童

11月27日

# 富岡東11連覇

## 女子

### 男子は3年連続で富岡西

県高校新人剣道大会の第17回富岡地区予選大会が2月9日、富岡市立中央体育館で開かれ、富岡東が男子3年連続で富岡西、女子11年連続で富岡東の優勝を挙げた。

男子は富岡西が、富岡東と富岡北の対戦で、富岡東が3年連続で富岡西の優勝を挙げた。女子は富岡東が、富岡東と富岡北の対戦で、富岡東が11年連続で富岡東の優勝を挙げた。

富岡東は、富岡東と富岡北の対戦で、富岡東が11年連続で富岡東の優勝を挙げた。



女子決勝・富岡東対山陽 副将戦で山陽・佐田を破り優勝を決めた富岡東・寺西(城西体育会部)

全員でつかんだ栄冠  
3年連続で富岡西  
富岡東は、富岡東と富岡北の対戦で、富岡東が11年連続で富岡東の優勝を挙げた。

1月13日

富岡東は、富岡東と富岡北の対戦で、富岡東が11年連続で富岡東の優勝を挙げた。

# 徳島県剣道連盟事務分掌表

平成十五年四月一日現在

徳島の剣道



## 編集後記

今回も全剣連の岡村忠典先生はじめ、数多くの先生方より玉稿をお寄せいただき、充実した内容となりました。

今年十九号を昨年よりも早く発刊できるようにと思いつつも、編集者の事情により、その思いを実現できぬ発刊となり、誠に申し訳ありません。来年度は、編集担当の任を賭けて、取り組む決意であります。……ここまで書きながら、このような思いを私は毎年しているのではないかと気づきました。

仏教の故事に「雪山の寒苦鳥」というのがあるそうです。雪山は夜になるとものすごい寒さになり、寒苦鳥はその寒さに震えながら、明日には、寒さをしのげる巣作りをしようと思決意します。しかし、次の日の朝の暖かい日の日差しを受けながら、気持ち良くしていると、巣作りはそんなにあせらなくともという気になり、巣作りをしないまま、夜を迎えることになりました。そして、夜の寒さに震え、次の日には、絶対に巣作りをするぞと思うのですが、その次の日も暖かい日差しの中で、巣作りをしないまま過ごし、また、夜の寒さに震えるといったことを繰り返すということです。

この「雪山の寒苦鳥」の故事は、習慣の悪癖を仏教の利剣で断ち切れと教えています。「雪山の寒苦鳥」にならぬよう習慣の悪癖を克服できるようがんばりたいものです。

## 『徳島の剣道』第十九号

### 編集委員会

編集顧問

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 堀 | 木 | 中 | 福 | 高 | 美 | 武 |
| 江 | 原 | 村 | 多 | 尾 | 馬 | 岡 |
| 幸 | 資 | 稔 | 雅 |   | 和 | 美 |
| 夫 | 裕 | 裕 | 英 | 茂 | 義 | 智 |

## 『徳島の剣道』第十九号

平成15年6月1日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 遠藤 一美

☎ 772-0853 徳島市中徳島町2丁目96

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360